

# 2023 年度入試状況分析



## 私立大分析<最終> (志願者数 519 大学・合格者数 508 大学集計)

※本文中の( )内の数値は、志願者数の前年度対比指数を表します。

### Point of Data

#### ①志願状況全体概況

- 延べ志願者数は前年度よりやや減少
- 一般方式は5%のやや減少、共通テスト利用方式は微減

#### ②系統別志願状況・合格状況

- 志願者数は18系統中12系統が減少、特に生活科学、保健衛生、教員養成・教育は10%以上減少
- 合格者数は18系統中13系統で減少だが、全体では競争緩和

#### ③地区別志願状況・合格状況

- 志願者数は全地区で減少、特に四国で大幅減少
- 合格者数は首都圏を除き減少

#### ④模試合格判定ライングループ別志願状況・合格状況

- 志願者数は文理ともEグループの減少率が最大、一般選抜離れの傾向
- 合格者数は全体では文系がやや減少、理系は前年度並

#### ⑤模試合格判定ライングループ別実質倍率

- 文系は、A・Bグループは前年度と同倍率、Cグループ以下はダウン
- 理系は、Aグループは3年間同倍率、Bグループ以下はダウン

#### ⑥志願者の多い大学

- 志願者数5万人以上の大学は13大学で前年度と同じ

#### ⑦増減が目立った大学

- 反動による増減が多いが、入試方式の新設による増加が目立った

#### ⑧主要22大学志願状況概況

- 志願者数が増加したのは12大学で増減大学数はほぼ拮抗
- 合格者数が増加したのは13大学で志願者数増加大学数を上回る

#### ⑨大学別志願状況

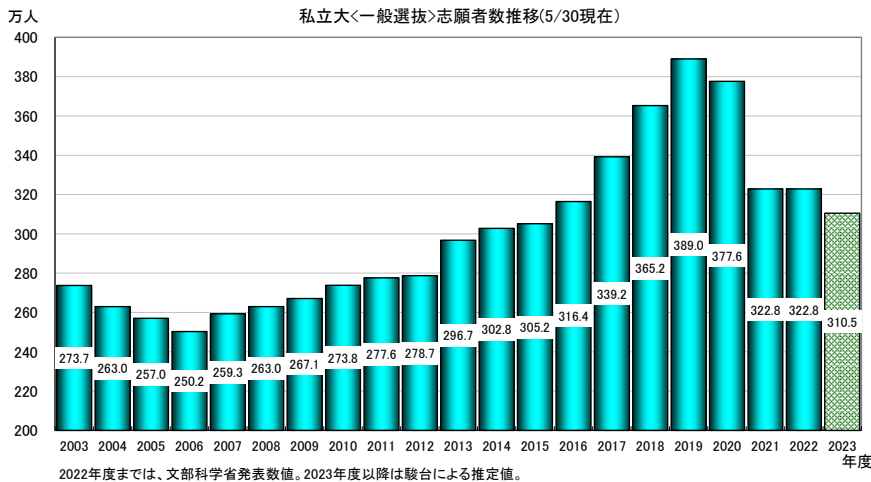
#### ⑩医学部医学科志願状況

- やや増加で5年ぶりに増加

## ①志願状況全体概況

### □延べ志願者数は前年度よりやや減少

〔私立大志願者数推移〕



左のグラフは、私立大一般選抜の延べ志願者数の推移を表したものです。2022年度までは文部科学省の発表数値、2023年度は駿台で志願者数が確定した募集単位を集計した私立大519大学の一般選抜(学校推薦型選抜・総合型選抜等の特別選抜入試を除く)の延べ志願者数をもとに推定した志願者数です。2023年度の一般選抜の延べ志願者数は、約

307万人(96)で前年度より約4%のやや減少となりました。この数値から推定される最終的な全私立大の延べ志願者数は、前年度の322.8万人と比較して、約4%減少の310万人余りになると予想されます。

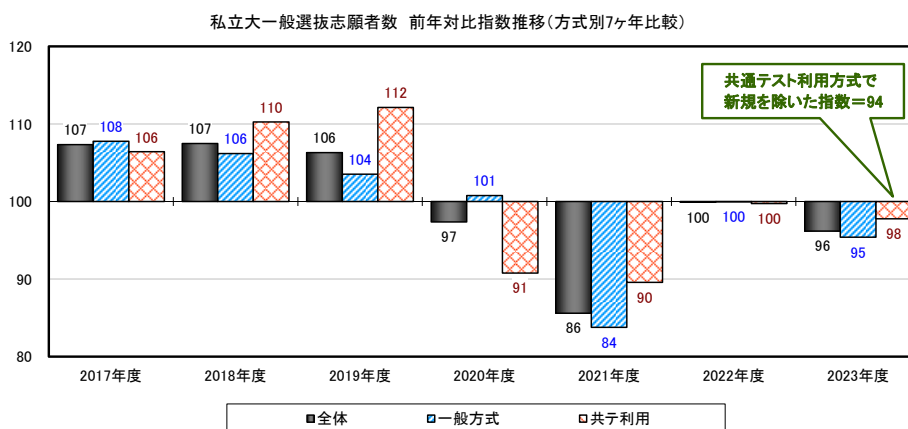
このような、一般選抜志願者数が「やや減少」である背景には、下記の4点が考えられます。

- ① 18歳人口の減少および浪人発生数減少に伴う受験人口全体の縮小。
- ② 中堅大学における年内入試(学校推薦型選抜、総合型選抜)へのシフト。
- ③ 私立大一般選抜全体の競争緩和による1人あたりの併願校数減少。
- ④ 地方の厳しい経済状況を反映した地元国公立志向の高まり。

また、コロナ禍の影響は大学入試時点ではかなり緩和されたものの、2023年度入試を受験した高3生は高校入学時に学校一斉休校を経験しており、地方在住者は地元から離れた都市部の大学の情報を得る機会が制限されました。これが、積極的な志望への逆風となり、有力大学が都市部に位置する私立大志願者数減少に影響しています。

### □一般方式は5%のやや減少、共通テスト利用方式は微減

〔私立大一般選抜 方式別志願者数 前年度対比指数〕



左のグラフは、私立大一般選抜の入試方式別の延べ志願者数の前年度対比指数の推移を表したものです。

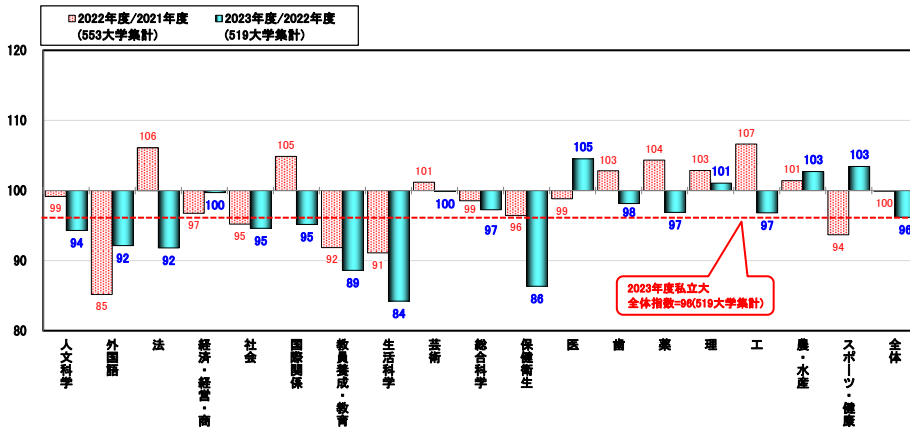
2023年度では、一般方式(95)はやや減少、共通テスト利用方式(98)は微減となっています。ただし、共通テスト利用方式

は、グラフにはありませんが新規導入の募集単位を除くと(94)のやや減少となっています。共通テスト利用方式は、早稲田大・教育のC方式、D方式や上智大の共通テスト利用方式(3教科型)など、有力大学での新方式導入により前年度並の志願者数を維持しています。

## ②系統別志願状況・合格状況

□志願者数は18系統中12系統が減少、特に生活科学、保健衛生、教員養成・教育は10%以上減少

〔私立大一般選抜 系統別志願状況〕



左のグラフは、私立大一般選抜の系統別の延べ志願者数の前年度対比指数の過去2ヶ年を表したものです。

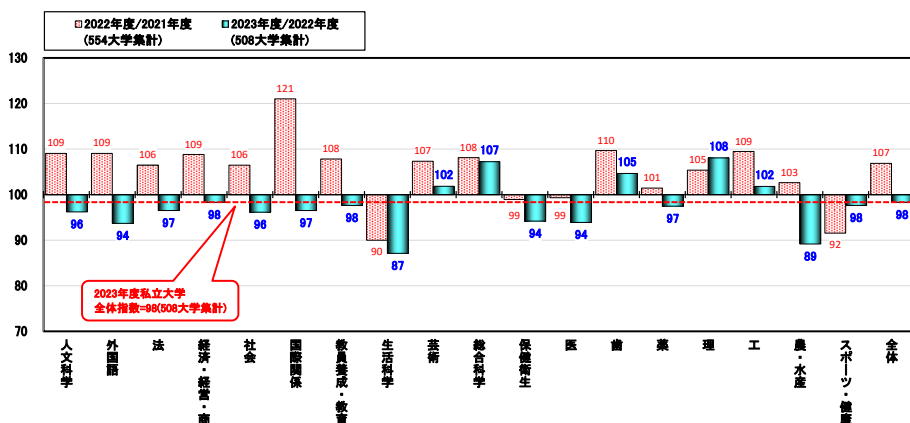
駿台が集計した私立大519大学の志願者数(96)はやや減少でした。系統別では、医(105)、農・水産(103)、スポーツ・健康(103)がやや増加、理(101)が微増、芸術(100)、経済・経営・商(100)は前

年度並でした。一方で、生活科学(84)は大幅減少、保健衛生(86)、教員養成・教育(89)、外国語(92)、法(92)は減少、人文科学(94)、社会(95)、国際関係(95)、総合科学(97)、薬(97)、工(97)がやや減少、歯(98)が微減で、18系統中12系統が減少と減少が目立っています。ただし、全体指数96との比較では上回った系統が10系統、下回った系統が8系統と均衡しています。なお、上回った系統で文系は経済・経営・商の1系統のみで、一般選抜では「理高文低」の傾向は明らかです。

それぞれの要因は、医はコロナ禍の影響が小さくなったことによる併願数の増加、スポーツ・健康は前年度の反動、農・水産は世界的な食糧問題への関心の高さなどから系統への人気の高まりなどが影響しました。一方で、生活科学はこの系統の学部・学科を持つ女子大の志願者数減少、保健衛生は順天堂大や愛知学院大の改組や畿央大の反動減とともに資格取得を重視する系統であることから確実な進学を意図した「年内入試」へのシフトなどが影響しました。

□合格者数は18系統中13系統で減少だが、全体では競争緩和

〔私立大一般選抜 系統別合格状況〕



左のグラフは、私立大一般選抜の系統別の延べ合格者数の前年度対比指数の過去2ヶ年を表したものです。

駿台が集計した私立大508大学の合格者数(98)は微減でした。系統別では、理(108)は増加、総合科学(107)、歯(105)はやや増加、芸術(102)、工(102)は微増でした。

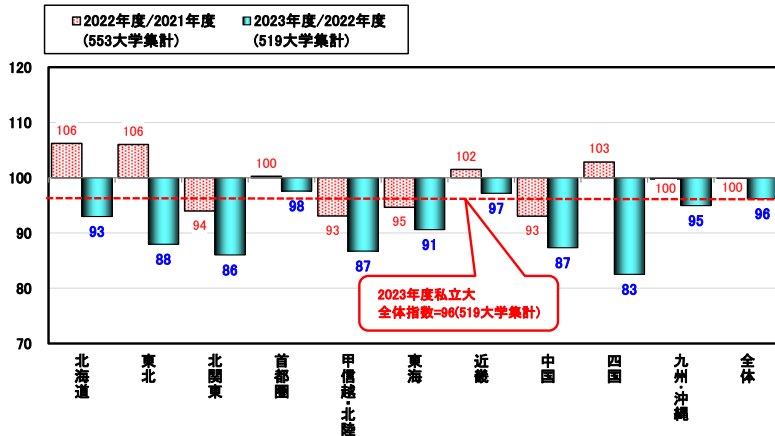
一方で、生活科学(87)、農・水産(89)は減少、外国語(94)、保健衛生(94)、医(94)、社会(96)、人文科学(96)、法(97)、国際関係(97)、薬(97)はやや減少、経済・経営・商(98)、教員養成・教育(98)、スポーツ・健康(98)は微減でした。

次に、「合格者指数-志願者指数」の値を見ると、18系統中14系統がプラスで合格者指数が志願者指数を上回り、競争緩和の系統が多くなっています。特に、総合科学〔+10〕、教員養成・教育〔+9〕の競争緩和が目立っています。一方で、農・水産〔-14〕、医〔-11〕は系統への人気も高いことから競争激化です。

### ③地区別志願状況・合格状況

#### □志願者数は全地区で減少、特に四国で大幅減少

〔私立大一般選抜 地区別志願状況〕



大学の所在地別の志願状況では、全地区で減少し、私立大全体指数(96)を上回ったのは志願者数の多い首都圏(98)、近畿(97)の2地区でした。

四国(83)は大幅減少、北関東(86)、甲信越・北陸(87)、中国(87)、東北(88)、東海(91)は減少、北海道(93)、九州・沖縄(95)はやや減少でした。

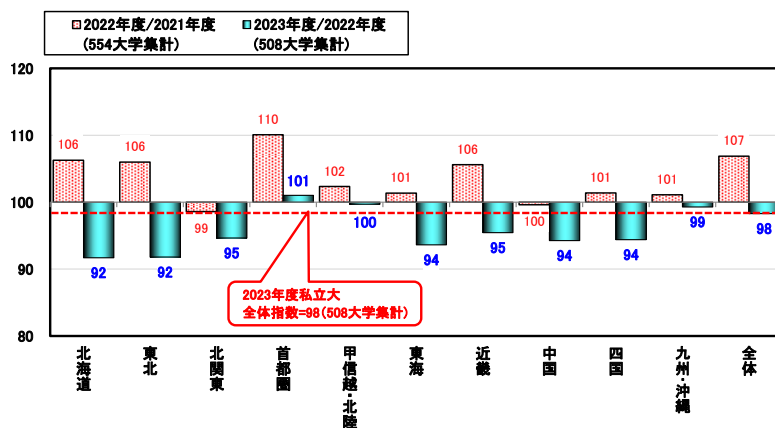
募集人員の多い大規模な総合大学が所在する3大都市圏の動向について見てい

きます。首都圏(98)、近畿(97)はいずれもわずかですが私立大全体指数を上回っていますが、東海(91)は連続減少でした。現時点で志願者数が確定した募集単位での集計では常葉大、中京大、愛知大、南山大、名城大といった大規模総合大学での減少が目立っており、これが地区全体の減少に繋がっています。コロナ禍の影響の緩和により、首都圏や関西圏への交通の利便が良い地区だけに、成績上位層のこれらの地区への流出がコロナ禍以前の状況に戻りつつあることがうかがえます。

前年度は、北海道、東北、四国といった地方ではコロナ禍の影響による遠距離移動回避による地元志向が高まりましたが、コロナ禍の影響緩和により首都圏や近畿圏への受験生の流れが戻りつつあることがわかります。さらに、地方では入学生確保のために「年内入試」へのシフトがより顕著なために、次年度以降も一般選抜の志願者数が前年度を上回ることにはほぼないと思われます。

#### □合格者数は首都圏を除き減少

〔私立大一般選抜 地区別合格状況〕



左のグラフは、私立大一般選抜の地区別の延べ合格者数の前年度対比指数の過去2ヶ年を表したものです。

地区別の合格状況では、首都圏(101)は前年度をわずかながら上回り、甲信越・北陸(100)は前年度並、九州・沖縄(99)は全体指数をわずかに上回りました。その他の地区では全体指数を下回り、特に、3大都市圏以外の北関東(95)、四国(94)、中国(94)、東北(92)、北海道(92)では志

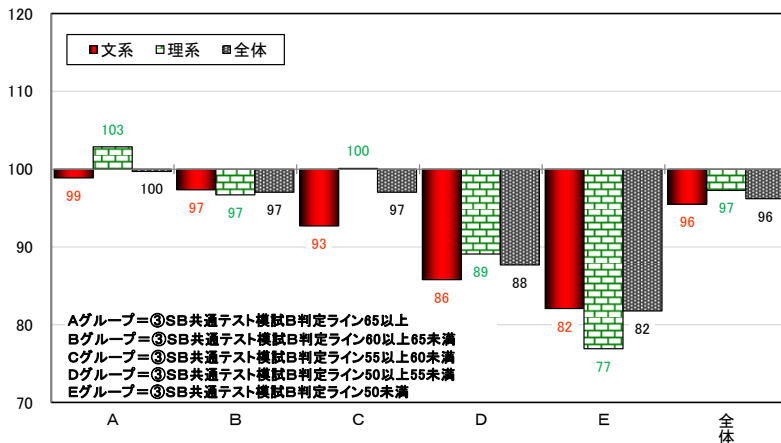
願者減少も大きく一般選抜での合格者数確保に苦労している様子が見えます。

系統別と同じように、「合格者指数－志願者指数」の値を見ると、10地区中8地区で競争緩和しており、特に甲信越・北陸〔+13〕、四国〔+12〕で大きく競争緩和しています。一方で、近畿〔-2〕、北海道〔-1〕はいずれもわずかですが競争激化が見られます。



## ④ 模試合格判定ライングループ別志願状況・合格状況

### □ 志願者数は文理とも E グループの減少率が最大、一般選抜離れの傾向



左のグラフは、私立大519大学の一般選抜の志願者数集計において、2022年度第3回駿台・ベネッセ共通テスト模試の合格判定ライン(B判定ライン)を基にして、学部単位(医学科は別集計)で5つのグループ(上位Aグループ~下位Eグループ)に分類し、各グループの志願者数合計の前年度対比指数を示したものです。

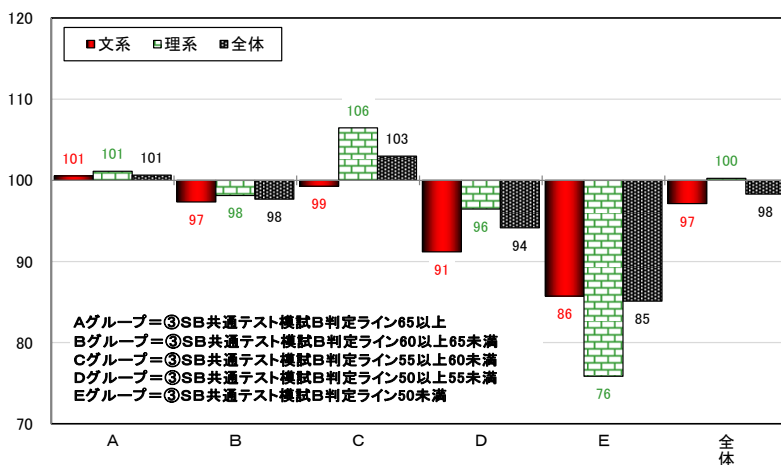
文理別では、文系(96)、理系(97)はいずれもやや減少で、文理共にB判定ライン

が低いDグループの減少、Eグループの大幅減少が目立ちました。

グループ別では、文系では全グループが減少で、Aグループ(99)は微減、Bグループ(97)、Cグループ(93)はやや減少、Dグループ(86)は減少、Eグループ(82)は大幅減少とB判定ラインが低いグループほど減少率が大きくなっています。これは、B判定ラインが低くなるにつれて、一般選抜の入試全体に占める割合が小さくなっていることを示しています。ところで、学校推薦型選抜や総合型選抜は11月から12月に選抜が行われることから、「年内入試」という言い方が広まっていますが、文系のDグループ・Eグループの大学ではまさしく「年内入試」が主流で、その流れがCグループの大学にも波及しつつあると言えます。

一方で、理系ではAグループ(103)、Bグループ(97)、Cグループ(100)はいずれも増減率が小さく、一般選抜の志願者数が維持されています。理系は文系に比べると入学定員も少なく、数学や理科などについて専門教育に必要な知識や技能が身に付いているかを確認する必要があることから、一般選抜が機能していることがわかります。しかしながら、Dグループ(89)では文理の差が小さく、文系同様に「年内入試」主体の選抜となっていることがわかります。また、Eグループ(77)は大幅減少していますが、このグループに分類される理系の募集単位が少ないことも影響しており、参考としてご覧ください。

### □ 合格者数は全体では文系がやや減少、理系は前年度並



左のグラフは、私立大508大学の一般選抜の合格者数集計において、2022年度第3回駿台・ベネッセ共通テスト模試の合格判定ライン(B判定ライン)を基にして、学部単位(医学科は別集計)で5つのグループ(上位Aグループ~下位Eグループ)に分類し、各グループの合格者数合計の前年度対比指数を示したものです。

文系は、Aグループ(101)は微増、Bグループ(97)はやや減少、Cグループ

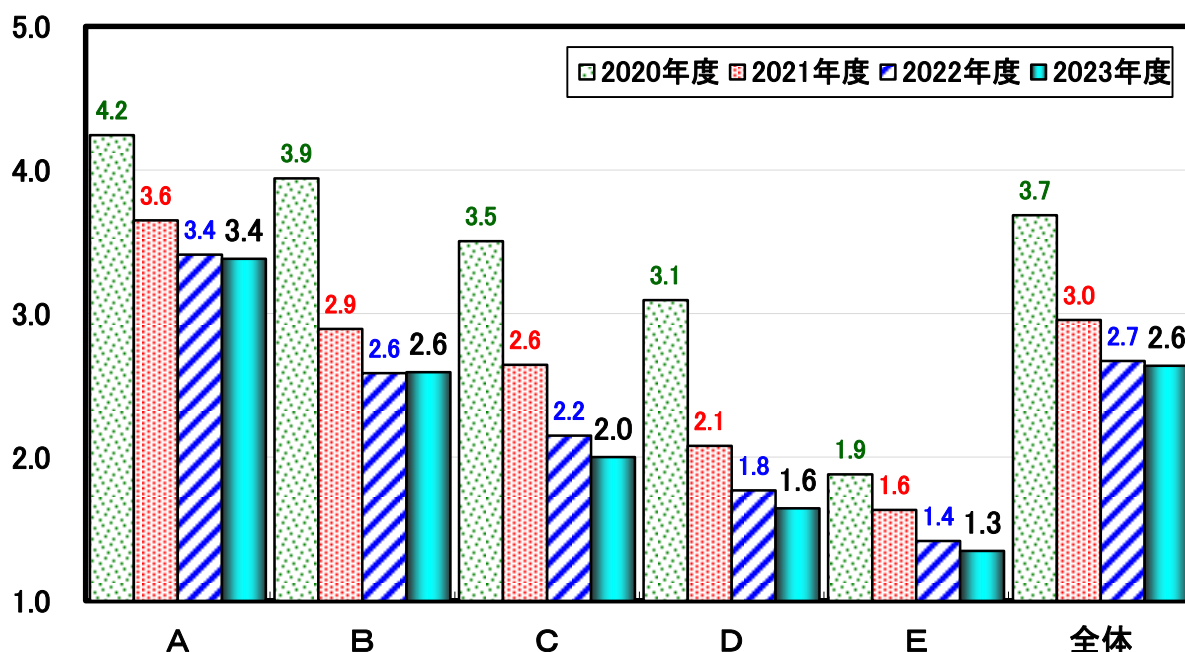
(99)は微減、Dグループ(91)は減少、Eグループ(86)では15%近い減少で減少率が目立ちました。「合格者指数-志願者指数」の値を見ると、Bグループ〔±0〕を除いた4グループはプラスで、競争緩和です。

理系は、Aグループ(101)は微増、Bグループ(98)は微減、Cグループ(106)はやや増加、Dグループ(96)は

やや減少でした。Cグループの増加は、国公立大併願者を含めてより難易度の高い大学志願者からの併願校として狙われたことに加えて、2023年度入試において私立大で最も志願者数を増加させた千葉工業大の多くの募集単位が含まれていることが影響しました。なお、Eグループ(76)は大幅減少していますが、このグループに分類される理系の募集単位が少ないことも影響しており、参考としてご覧ください。「合格者指数－志願者指数」の値を見ると、Aグループ〔-2〕、Eグループ〔-1〕を除いてプラスで競争緩和となり、特にCグループ〔+6〕・Dグループ〔+7〕で顕著です。また、A・Bグループは、前年度の共通テスト難化の影響から不安を持つ国公立大志願者からの併願増加がうかがえます。

## ⑤模試合格判定ライングループ別実質倍率

□文系は、A・Bグループは前年度と同倍率、Cグループ以下はダウン



※2023年度基準で2023年度・2022年度を分類  
2021年度は2022年度基準、2020年度は2021年度基準

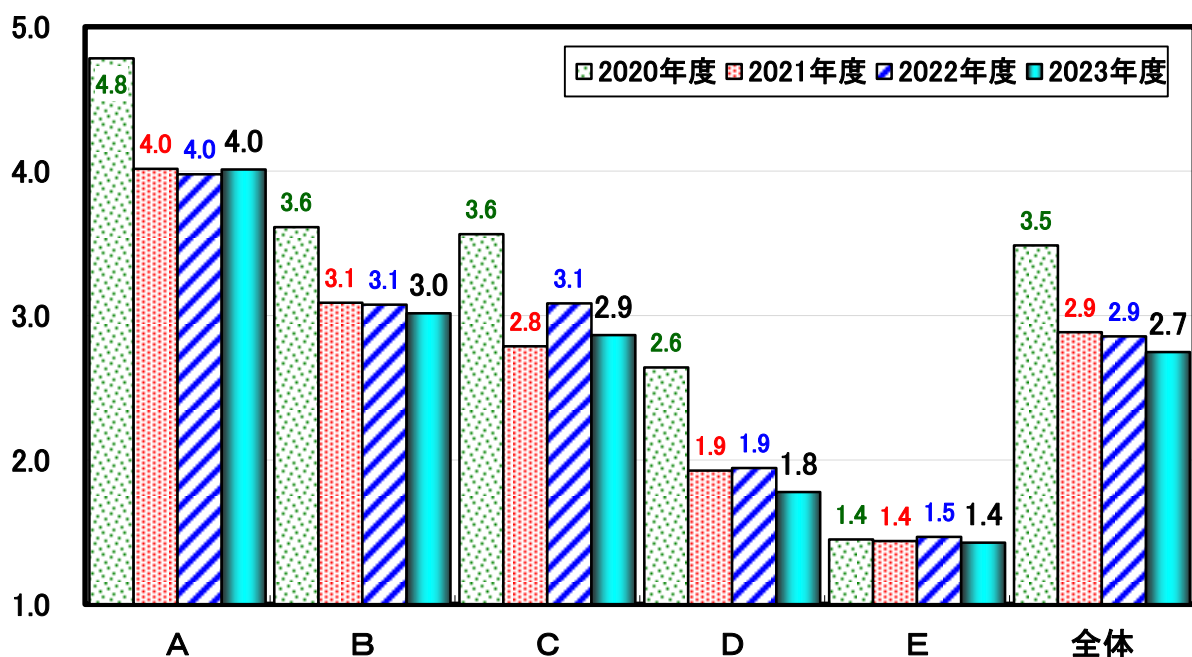
Aグループ＝③SBマーク判定Bライン65以上  
Bグループ＝③SBマーク判定Bライン60以上65未満  
Cグループ＝③SBマーク判定Bライン55以上60未満  
Dグループ＝②SBマーク判定Bライン50以上55未満  
Eグループ＝②SBマーク判定Bライン50未満

受験者数、合格者数のいずれも判明している募集区分について、学部単位(一般方式と共通テスト利用方式は分ける)で算出した実質倍率を、第3回駿台・ベネッセ共通テスト模試の合格判定ライン(B判定ライン)を基にして、学部単位で5つのグループ(上位Aグループ～下位Eグループ)に分類して4か年分を示したのが上のグラフです。

文系は、全体では2.7倍から2.6倍と0.1ポイントダウンしており、競争の緩和が続いています。グループ別では、A・Bグループは前年度と同倍率、C～Eグループは0.1～0.2ポイントダウンしておりCグループ以下で競争が緩和しています。特に中間層のCグループは、3年間で3.5倍から2.0倍と1.5ポイントダウンしており、文系で最も競争が緩和しているのがわかります。一方で、Eグループは1.9倍から1.3倍と0.6ポイントダウンに留まっていますが、Dグループ・Eグループとも2.0倍を下回りました。

2020年度入試からコロナ禍もあり実質倍率が下がってきましたが、2023年度入試では難関大では前年度の難易度を維持し、Cグループ以下では更なる競争の緩和がうかがえます。

## □理系は、Aグループは3年間同倍率、Bグループ以下はダウン



※2023年度基準で2023年度・2022年度を分類  
2021年度は2022年度基準、2020年度は2021年度基準

Aグループ=③SBマーク判定Bライン65以上  
Bグループ=③SBマーク判定Bライン60以上65未満  
Cグループ=③SBマーク判定Bライン55以上60未満  
Dグループ=②SBマーク判定Bライン50以上55未満  
Eグループ=②SBマーク判定Bライン50未満

理系は、全体では2.9倍から2.7倍と0.2ポイントダウンと、文系よりややダウン幅は大きく、競争は緩和しました。

グループ別では、Aグループは3年間同倍率を維持。B～Eグループは0.1～0.2ポイントダウンとなっています。一方で、Eグループは1.4倍という低い数値で、実質的には競争がほぼ無い「全入状態」だったことがわかります。

なお、Aグループは、医で補欠合格者数を発表していない大学があり、今後状況が変わる可能性があります。

## ⑥志願者数が多い大学

## □志願者数5万人以上の大学は13大学で前年度と同じ

順位	大学	志願者数		増減数	志願者指数
		2023年度	2022年度		
1	近畿大	152,191	157,194	-5,003	97
2	千葉工業大	145,128	139,074	+6,054	104
3	明治大	108,042	102,426	+5,616	105
4	法政大	99,051	108,343	-9,292	91
5	日本大	98,506	93,770	+4,736	105
6	立命館大	91,382	88,335	+3,047	103
7	早稲田大	90,879	93,843	-2,964	97
8	東洋大	87,094	98,276	-11,182	89
9	関西大	77,699	79,184	-1,485	98
10	中央大	67,786	64,795	+2,991	105
11	龍谷大	61,083	55,880	+5,203	109
12	立教大	58,208	62,646	-4,438	93
13	東京理科大	50,698	53,752	-3,054	94
14	同志社大	49,972	45,854	+4,118	109
15	専修大	44,918	46,547	-1,629	97
16	青山学院大	43,948	47,839	-3,891	92
17	関西学院大	43,737	38,737	+5,000	113
18	福岡大	41,785	44,719	-2,934	93

(5月30日現在)

左表は、私立大519大学の2023年度一般選抜の志願者数が確定した大学のうち、大学全体の志願者数が4万人以上の大学をまとめたものです。

この中で2023年度の志願者数が5万人以上の大学は13大学で、全て前年度と同じ大学です。13大学中6大学が増加、そのうち2022年度から2年連続志願者数が増加したのは千葉工業大、明治大、立命館大の3大学のみでした。

志願者数10万人以上の大学は3大学で、前年度の4大学から1大学減少しました。

志願者数が最も多かった近畿大(97)は、前年度は情報学部新設などにより大幅増加した反動でやや減少しましたが、大学全体の志願者数は前年度に引き続き15万人を上回り、10年連続全国最多でした。

第2位の千葉工業大(104)は、理・工系への高い人気に加えて、2021年度入試で導入した、コロナ禍による厳しい経済環境への対策としての共通テスト利用方式の検定料減免を継続、さらに新規実施

の<一般・SB日程>の志願者数が約6千人に達したことで、大学全体の志願者数は6年連続増加、3年連続増加数全国最多、4年連続10万人を上回り、過去最多の14万人台になりました。

第3位の明治大(105)はやや増加に留まりましたが2年連続増加で、大学全体の志願者数も2年連続で10万人を上回りました。第4位の法政大(91)は前年度の共通テスト平均点大幅ダウンによる一般方式への駆け込み的な出願で大幅増加した反動から減少しました。第5位の日本大(105)は、大学を取り巻く厳しい環境が薄れたことに加えて、2年連続減少の反動で、志願者数はやや増加しましたが、10万人にはわずかに達しませんでした。

第6位の立命館大(103)はやや増加ですが2年連続増加です。第7位の早稲田大(97)はやや減少で、大学全体の志願者数は3年連続で10万人を下回りました。第8位の東洋大(89)は、前年度増加の反動で減少し、志願者数減少数は全国最多です。第9位の関西大(98)は微減ですが4年連続減少しました。第10位の中央大(105)は法の都心へのキャンパス移転効果もあってやや増加で4年ぶりに増加しました。

第11位以下で増加が目立った大学に触れます。第11位の龍谷大(109)は1日の試験での併願数を拡大したことで増加し、志願者数は6万人を上回りました。第14位の同志社大(109)は共通テストの難易変化への不安から難関国立大志願者から併願先として狙われ2年連続増加しました。第17位の関西学院大(113)は共通テスト利用方式の必須科目見直しの効果などもあって、3年連続増加で5年ぶりに志願者数は4万人を上回りました。



## ⑦増減が目立った大学

### □反動による増減が多いが、入試方式の新設による増加が目立った

私立大 519 大学の一般選抜の志願者数集計において、志願者数の増加数、減少数がそれぞれ 3,000 人以上の大学について見ていきます。

増加した大学では、増加数が最も多かったのは千葉工業大の 6,054 人(104)、次いで明治大の 5,616 人(105)、龍谷大の 5,203 人(109)、関西学院大が 5,000 人(113)で、5,000 人以上の増加は 4 大学です。3,000 人以上の増加まで含めると 11 大学で、前年度最終の 13 大学から 2 大学減少しました。

千葉工業大は理・工系への高い人気加えて、2021 年度入試で導入したコロナ禍による厳しい経済環境への対策としての共通テスト利用方式の検定料減免を継続、さらに新規実施の<一般・S B 日程>の志願者数が約 6 千人に達したことで、大学全体の志願者数は 6 年連続増加、3 年連続増加数全国最多、4 年連続 10 万人を上回り、過去最多の 14 万人台になりました。明治大は前年度に引き続きやや増加で、志願者数は 2 年連続 10 万人を上回りました。龍谷大は全学部対象に 1 日の最大併願数が 4 併願から 6 併願まで可能になったことで増加し、志願者数は 6 万人を上回りました。関西学院大は前年度に一般方式の日程拡大や共通テスト利用方式で新規方式を実施するなど受験生目線で受験機会を増やし大幅増加しましたが、今年度は共通テスト利用方式の必須科目見直しの効果などもあって、さらに増加して志願者数は 5 年ぶりに 4 万人を上回りました。拓殖大(160)は共通テスト利用方式で、出願数に関わらず入学検定料を一律 10,000 円にしたことで、共通テスト利用方式が 5,419 人(350)の激増となったことが影響しました。東京電機大(117)は、後期で英語外部試験利用を新規実施したことで一般方式が 5,159 人(126)の大幅増加でした。上智大(118)は新規実施した<共テ利用(3 教科型)>の科目負担が軽いことで人気を集めた結果、志願者数は 5,000 人を上回り、この方式を含む共通テスト利用方式が 4,257 人(124)の大幅増加となりました。同志社大(109)は共通テストの難易変化への不安から難関国立大志願者から併願先として狙われ、2 年連続増加しました。立命館大(103)は 2 年連続増加しました。日本大(105)は大学を取り巻く厳しい環境が薄れたことに加えて、2 年連続減少の反動でやや増加しました。明治学院大(118)は前年度減少の反動が見られました。

減少した大学では、減少数が最も多かったのは東洋大の 11,182 人(89)、次いで法政大の 9,292 人(91)、東海大の 6,465 人(86)で、3,000 人以上の減少まで含めると 12 大学となり前年度最終の 11 大学から 1 大学増加しました。東洋大は前年度共通テスト利用方式で英語外部試験利用方式を導入し 30%以上大幅増加した反動で減少しました。法政大は前年度の共通テスト平均点大幅ダウンによる一般方式への駆け込み的な出願で大幅増加した反動から減少しました。立教大(93)は一般方式の文を除く学部で大学独自の英語出題がなく、民間の英語 4 技能資格・検定試験または共通テストの英語の受験が必須のため、私立大専願層を中心にこれを負担とを感じる層が敬遠したことも影響し、一般方式が 5,504 人(86)の減少となりました。近畿大(97)、青山学院大(92)は前年度大幅増加の反動が見られました。東海大(86)、常葉大(73)は中堅レベルの受験生の年内入試シフトと共通テストの独特の出題形式への敬遠傾向により一般選抜の志願者数が減少しました。

なお、近年は入試日程や方式の追加、併願時の入学検定料の割引などで受験生の利便を図ることによって志願者数を増加させている大学がある一方で、逆に歩留まり率を正確に把握するために併願パターンの制限や入学検定料の割引の見直しを行う大学もあることから、単純に志願者数の延べ人数だけで、大学の人気を測れないことにも十分に留意してほしいと思います。

## 〔3,000 人以上増加した大学〕

大学	志願者数増減		志願者数		コメント
	増減数	指数	2023 年度	2022 年度	
千葉工業大	+6,054	104	145,128	139,074	大学全体では、6,054 人(104)のやや増加で 6 年連続増加となり、志願者数は初めて 14 万人を超えた。方式別では、一般方式は<SB 日程>の新規実施もあり 3,940 人(107)のやや増加。共通テスト利用方式は、6 年連続増加で 2,114 人(103)のやや増加。
明治大	+5,616	105	108,042	102,426	一般方式(105)、共通テスト利用方式(106)のいずれもやや増加。志願者数は 2 年連続 10 万人を上回った。学部別では、10 学部中 8 学部が増加で、特に経営(122)は大幅増加。共通テストの難易変化への不安から難関国公立大からの併願先として狙われたことも影響。
龍谷大	+5,203	109	61,083	55,880	1 日の最大併願数が 4 併願から 6 併願まで可能になったことも影響して大学全体(109)で増加、志願者数は 6 万人を上回った。一般方式(116)は大幅増加、共通テスト利用方式(98)は新規方式を実施したものの微減。
関西学院大	+5,000	113	43,737	38,737	大学全体(113)では増加で 3 年連続増加。志願者数は 5 年ぶりに 4 万人を上回った。一般方式(111)は増加、共通テスト利用方式(116)は必須科目見直しで大幅増加。いずれも 3 年連続増加。学部別では、14 学部中 11 学部で増加。
拓殖大	+4,954	160	13,145	8,191	共通テスト利用方式で、出願数に関わらず受験料を一律 1 万円にしたことで、共通テスト利用方式(350)は 3.5 倍増。一方で、一般方式(92)は減少で 5 年連続減少。
日本大	+4,736	105	98,506	93,770	大学全体(105)では大学を取り巻く厳しい環境が薄れたことに加えて、2 年連続減少の反動でやや増加。学部別では 17 学部中 11 学部で増加。理工(121)、国際関係(120)、芸術(119)は大幅増加。学科改組の生物資源科学(106)はやや増加。
東京電機大	+4,729	117	33,124	28,395	大学全体(117)では大幅増加で志願者数は 3 万人を上回った。一般方式(126)は、<後期・英語外部試験利用>を新規実施したことで大幅増加。共通テスト利用方式(95)はやや減少で 2 年連続減少。
同志社大	+4,118	109	49,972	45,854	大学全体(109)では増加で 2 年連続増加。学部別では、14 学部中 11 学部で増加。特に、文化情報(157)は 50%以上の大幅増加。共通テストの難易変化への不安から難関国公立大からの併願先として狙われたことも影響。
上智大	+4,049	118	26,552	22,503	一般方式(96)はやや減少で 5 年連続減少。新規実施の<共テ利用(3 教科型)>は科目負担が軽く人気を集めた結果、志願者数は 5,000 人を上回り、共通テスト利用方式(124)は大幅増加。
明治学院大	+3,574	118	23,203	19,629	一般方式(106)はやや増加、共通テスト利用方式(153)は 50%以上の大幅増加で 5 年ぶりの増加。学部別では、6 学部全ての学部で増加。特に、社会(155)、経済(126)は大幅増加。
立命館大	+3,047	103	91,382	88,335	大学全体(103)ではやや増加だが、志願者数は 3 年連続 10 万人を下回った。一般方式(101)は微増、共通テスト利用方式(107)はやや増加。学部別では、15 学部中 10 学部が増加。

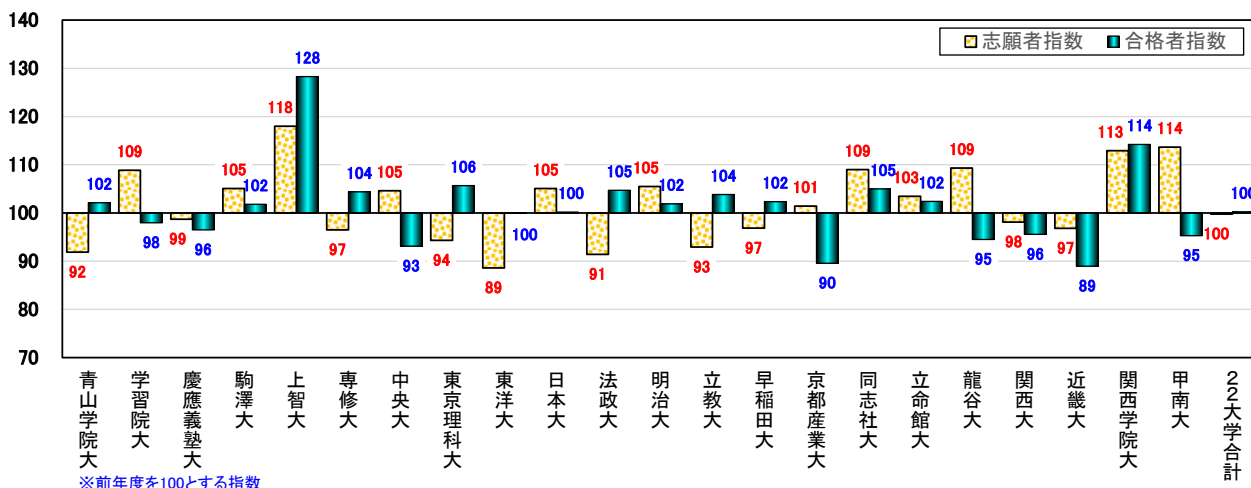
## 〔3,000 人以上減少した大学〕

大学	志願者数増減		志願者数		コメント
	増減数	指数	2023 年度	2022 年度	
東洋大	-11,182	89	87,094	98,276	大学全体(89)では減少。一般方式(94)はやや減少、共通テスト利用方式(82)は前年度英語外部試験利用方式の導入で 30% 以上大幅増加の反動で大幅減少。
法政大	-9,292	91	99,051	108,343	前年度の共通テスト平均点大幅ダウンによる一般方式への駆け込み的な出願で大幅増加した反動から、大学全体(91)では減少。15 学部中、増加は社会(110)と文(102)の微増のみ。
東海大	-6,465	86	39,361	45,826	大学全体(86)では減少で、志願者数は 4 万人を下回った。一般方式(86)は減少で、医(141)、政治経済(105)、農(105)、文(102)以外の 19 学部は減少。共通テスト利用方式(85)は大幅減少で 4 年連続減少。
近畿大	-5,003	97	152,191	157,194	大学全体(97)ではやや減少だが、志願者数は 152,191 人で 10 年連続全国最多。文理別では、文系 6 学部合計(102)は微増、前年度情報の新設で大幅増加した反動で理系 9 学部合計(91)は減少。
立教大	-4,438	93	58,208	62,646	一般方式(86)は減少で、文を除き民間の英語 4 技能資格・検定試験または共通テストの英語の受験が必須のため、私立大専願層を中心にこれを負担増と感じた層の敬遠の影響もあった。共通テスト利用方式(105)はやや増加。
常葉大	-4,055	73	11,156	15,211	大学全体(73)では大幅減少で、3 年連続減少。一般方式(79)は大幅減少で、志願者数は 8 年ぶりに 1 万人を下回った。共通テスト利用方式(60)も大幅減少で、志願者数は 2,500 人を下回った。学部別では、10 学部全てが大幅減少。
青山学院大	-3,891	92	43,948	47,839	大学全体(92)では減少で、前年度大幅増加の反動。一般方式(89)は減少、共通テスト利用方式(95)は一部の学部で新規方式を実施したがやや減少。学部別では、11 学部中 8 学部が減少。
摂南大	-3,814	81	16,261	20,075	現代社会が新設されたが、大学全体(81)では大幅減少で 4 年連続減少。入試方式を整理したことが影響。その結果、一般方式(74)は大幅減少、共通テスト利用方式(100)は 4 人の微減。
中京大	-3,279	89	26,479	29,758	大学全体(89)では減少で、3 年連続減少。学部別では、10 学部中 6 学部が減少でそのうち 5 学部は大幅減少。特に、工(64)は 36% の大幅減少。
佛教大	-3,149	64	5,559	8,708	大学全体(64)では大幅減少で、7 学部中 6 学部が大幅減少。志願者数は 6 千人を下回り、1 万 3 千人を超えていた 2013 年度と比較するとほぼ 6 割減。
神戸学院大	-3,058	81	13,301	16,359	大学全体(81)では大幅減少で、4 年連続減少。学部別では、11 学部全ての学部が減少でそのうち 7 学部は大幅減少。専攻を新設した経営(91)も減少。
東京理科大	-3,054	94	50,698	53,752	大学全体(94)はやや減少。特に、学部名称変更の創域理工(79)は周知が進まず大幅減少。方式別では、一般方式(97)はやや減少だが、<グローバル方式>は大幅増加で 2 年連続増加。共通テスト利用方式(88)は減少。

## ⑧主要私立22大学 志願状況概況

大学	2023年度		2022年度		増減数		志願者指数		合格者指数	
	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	2023年度 /2022年	2022年度 /2021年	2023年度 /2022年	2022年度 /2021年
青山学院大	43,948	11,017	47,839	10,787	-3,891	+230	92	119	102	109
学習院大	18,094	4,811	16,621	4,911	+1,473	-100	109	97	98	130
慶應義塾大	37,411	9,625	37,894	9,975	-483	-350	99	103	96	107
駒澤大	30,684	10,525	29,201	10,339	+1,483	+186	105	98	102	113
上智大	26,552	9,176	22,503	7,153	+4,049	+2,023	118	86	128	106
専修大	44,918	15,779	46,547	15,119	-1,629	+660	97	98	104	111
中央大	67,786	17,305	64,795	18,585	+2,991	-1,280	105	83	93	94
東京理科大	50,698	17,952	53,752	16,990	-3,054	+962	94	109	106	102
東洋大	87,094	30,332	98,276	30,341	-11,182	-9	89	109	100	109
日本大	98,506	36,720	93,770	36,648	+4,736	+72	105	96	100	103
法政大	99,051	24,066	108,343	22,986	-9,292	+1,080	91	119	105	115
明治大	108,042	27,196	102,426	26,688	+5,616	+508	105	103	102	108
立教大	58,208	16,092	62,646	15,501	-4,438	+591	93	96	104	106
早稲田大	90,879	15,374	93,843	15,021	-2,964	+353	97	102	102	103
京都産業大	38,275	10,954	37,735	12,227	+540	-1,273	101	92	90	108
同志社大	49,972	17,227	45,854	16,412	+4,118	+815	109	103	105	104
立命館大	91,382	33,404	88,335	32,627	+3,047	+777	103	106	102	102
龍谷大	61,083	18,482	55,880	19,553	+5,203	-1,071	109	99	95	110
関西大	77,699	19,286	79,184	20,182	-1,485	-896	98	100	96	107
近畿大	152,191	35,114	157,194	39,464	-5,003	-4,350	97	116	89	105
関西学院大	43,737	18,081	38,737	15,829	+5,000	+2,252	113	115	114	127
甲南大	16,667	5,443	14,662	5,711	+2,005	-268	114	99	95	111
22大学合計	1,392,877	403,961	1,396,037	403,049	-3,160	+912	100	103	100	107

◇指数は、いずれも前年度を100とする数値を表す。



上のグラフと表は、2023年度入試における主要私立22大学の大学別入試結果をまとめたものです。2022年度の志願者数についても、前年度最終集計から一部の大学で修正がありましたので、それを反映させた数値です。

## □志願者数が増加したのは12大学で増減大学数はほぼ拮抗

志願者数が、前年度より増加したのは、上智大(118)が大幅増加、甲南大(114)、関西学院大(113)、学習院大(109)、同志社大(109)、龍谷大(109)が増加、駒澤大(105)、中央大(105)、日本大(105)、明治大(105)、立命館大(103)がやや増加でした。

一方で、東洋大(89)、法政大(91)、青山学院大(92)が減少、立教大(93)、東京理科大(94)、専修大(97)、早稲田大(97)、近畿大(97)がやや減少でした。



上智大(118)は共通テスト利用方式で科目負担の軽い3教科型の新設により大幅増加しました。なお、この方式を除いた既存の方式のみでは(92)の減少です。甲南大(114)は一般方式中期や一般方式外部英語試験活用型の新設により4年ぶりに増加しました。

一方で、東洋大(89)は前年度に共通テスト利用方式前期に英語外部試験の利用を可能にしたことで大幅増加した反動から減少しました。法政大(91)は前年度共通テスト平均点大幅ダウンによる不安から、国公立大志願者が私立大併願校を増やす動きの中で狙われて大幅増加しましたが、今年度はこの反動と前年度のような共通テスト後の駆け込み的な併願者が減少したことが要因でした。近畿大(97)は前年度大幅増加の反動でやや減少しましたが、志願者数は15万人を上回り、10年連続で志願者数全国最多となりました。なお、主要私立22大学で志願者数が10万人を上回ったのは、近畿大、明治大の2大学でした。

方式別では、共通テスト利用方式(102)の微増に対して、一般方式(99)は前年度並となりました。共通テスト利用方式は微増ですが、大学別では上智大(124)、学習院大(123)、同志社大(121)、日本大(117)、関西学院大(116)、駒澤大(115)の大幅増加が目立ち、共通テスト利用方式を実施していない慶應義塾大を除く21大学中14大学で増加しました。共通テスト利用方式に新方式を導入した大学があったことに加えて、難関大では国公立大との併願者も多く、この層が共通テスト利用方式を積極的に利用したことも要因です。

### □合格者数が増加したのは13大学で志願者数増加大学数を上回る

合格者数が、前年度より増加したのは、微増の日本大(100)を含めて13大学で志願者数増加大学数を上回りました。増加したのは、上智大(128)は大幅増加、関西学院大(114)は増加、東京理科大(106)、法政大(105)、同志社大(105)、専修大(104)、立教大(104)はやや増加でした。

一方で、近畿大(89)、京都産業大(90)は減少、中央大(93)、龍谷大(95)、甲南大(95)、慶應義塾大(96)、関西大(96)はやや減少でした。

次に、「合格者指数-志願者指数」の値を見ると、プラスだったのは、法政大〔+13〕、東京理科大〔+11〕、東洋大〔+11〕、立教大〔+11〕、青山学院大〔+10〕、上智大〔+10〕などで、競争が緩和されました。一方で、マイナスだったのは、甲南大〔-18〕、龍谷大〔-15〕、中央大〔-12〕、京都産業大〔-12〕、学習院大〔-11〕などで、競争が厳しくなりました。

## ⑨大学別志願状況

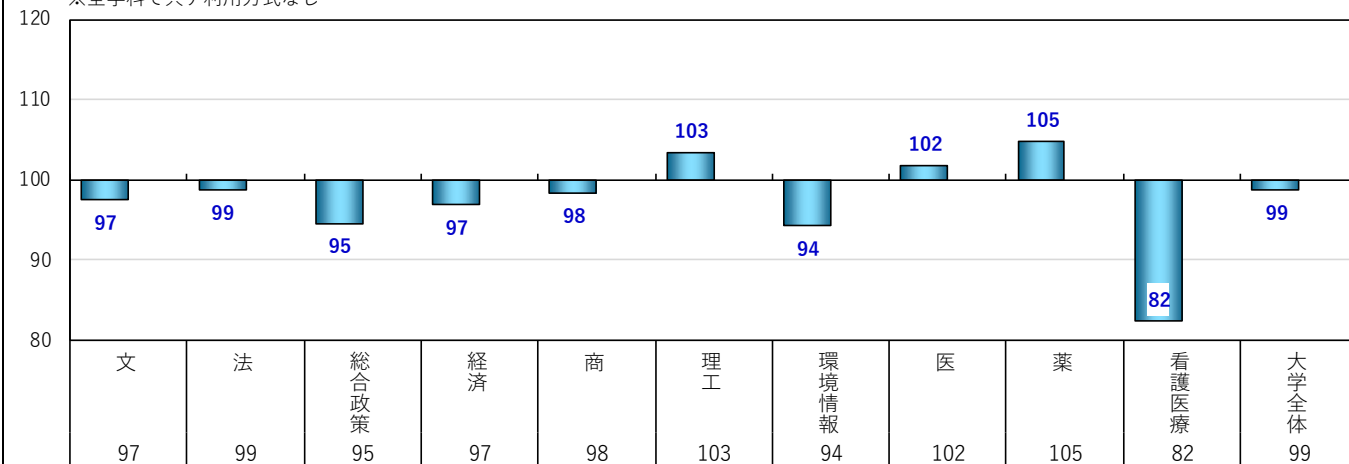
※入試変更点があった学部・学科、増減が目立った学部・学科を中心に分析しています。

※各大学名の一番右にある人数は、一般方式、共通テスト利用方式の各合計での志願者増減数を表しています。

※< >内は入試方式を表しています。<共テ>と表記されている方式は共通テスト利用方式を表しています。

**慶應義塾大：大学全体では微減、増加は理工、医、薬の3学部のみ** 一般：-483人

※前年度の志願者数を100とする指数  
 ※学部名の下の数値は学部全体の指数  
 ※全学科で共テ利用方式なし



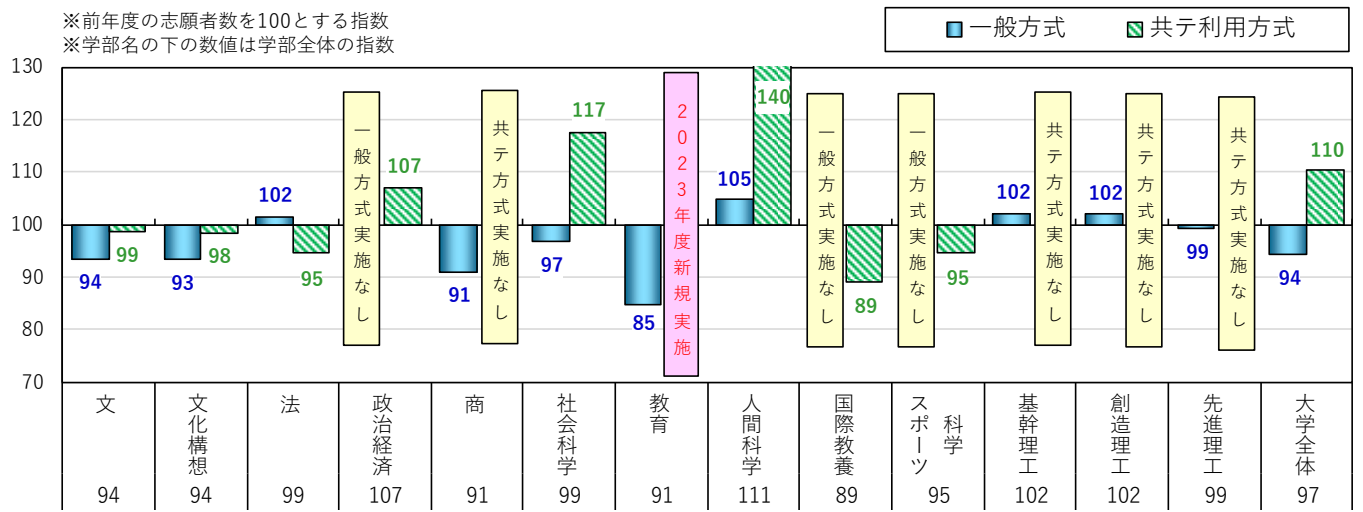
**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、483人(99)の微減。学部別では理工、医、薬の3学部のみが増加。

<一般方式>

- 文(97)は、やや減少で6年連続減少。
- 法(99)は、前年度やや増加の反動は小さく微減。学科別では、(法律)(93)は2年連続増加の反動でやや減少、(政治)(106)は2年連続減少の反動でやや増加と対照的。
- 総合政策(95)は、やや減少で6年連続減少。
- 経済(97)は、やや減少。方式別では、<A方式><B方式>の2方式での違いはなく、いずれも(97)のやや減少。
- 商(98)は、2年連続増加の反動は小さく微減。方式別では、<A方式>(104)はやや増加だが2年連続増加、一方で<B方式>(90)は2年連続増加の反動で減少。
- 理工(103)は、2年連続やや増加。学門別では、学門B(97)を除く4学門が増加、特に学門C(110)の増加が目立った。学門A(103)、学門D(103)はやや増加。学門E(102)は微増。
- 環境情報(94)は、やや減少で4年連続減少。
- 医(102)は、前年度増加の反動はなく微増。志願者数は4年ぶりに1,400人を上回った。
- 薬(105)は、系統への高い人気からやや増加で2年連続増加。学科別では、6年制の(薬)(102)は前年度の大増の反動はなく微増。4年制の(薬科学)(109)は2年連続増加、8年ぶりに志願倍率が17倍を上回った。
- 看護医療(82)は、2年連続増加の反動で大幅減少。志願倍率は7.7倍と8倍を下回った。

早稲田大：大学全体では 3 年連続で志願者数 10 万人未満 一般：-4,502 人 共テ：+1,538 人



**主な入試変更点**

選抜方法：教育<共テ併用(C方式)>…新規実施  
 (理/生物学)<共テ併用(D方式)>…新規実施  
 (理/生物学)<一般・理科系(B方式)>…廃止  
 (理/地球科学)<一般・理科系(B方式)地学募集枠>…廃止  
 (教育/初等教育学)<一般・理科系(B方式)>…廃止

入試科目：教育(英語英文、国語国文、社会科、複合文化、教育)<一般・文科系(A方式)>…歴公の選択から政経除外  
 (理、数、複合文化、教育/初等教育学)<一般・理科系(B方式)>…理科の選択から生、地学除外

募集人員：教育(英語英文)…<一般・文科系(A方式)>80人→<一般・文科系(A方式)>80人、<共テ併用(C方式)>15人  
 (国語国文)…<一般・文科系(A方式)>80人→<一般・文科系(A方式)>80人、<共テ併用(C方式)>15人  
 (社会科)…<一般・文科系(A方式)>145人→<一般・文科系(A方式)>140人、<共テ併用(C方式)>25人  
 (理/生物学)…理全体で50人 ※理/地球科学の地学選択者募集枠「若干名」を含む  
 →<共テ併用(C方式)>15人、<共テ併用(D方式)>10人  
 (理/地球科学)…理全体で50人 ※理/地球科学の地学選択者募集枠「若干名」を含む  
 →<一般・理科系(B方式)>20人、<共テ併用(C方式)>5人  
 (数)…<一般・理科系(B方式)>45人→<一般・理科系(B方式)>45人、<共テ併用(C方式)>10人  
 (複合文化)…{<一般・文科系(A方式)>+<一般・理科系(B方式)>}40人  
 →{<一般・文科系(A方式)>+<一般・理科系(B方式)>}40人、<共テ併用(C方式)>10人  
 (教育/教育学)…<一般・文科系(A方式)>100人→<一般・文科系(A方式)>95人、<共テ併用(C方式)>20人  
 (教育/初等教育学)…<一般・文科系(A方式)>20人→<一般・文科系(A方式)>20人、<共テ併用(C方式)>5人

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、2,964人(97)のやや減少で、志願者数は3年連続で10万人を下回った。方式別では、一般方式は4,502人(94)のやや減少。共通テスト利用方式は1,538人(110)の増加。いずれも前年度の反動と教育での共通テスト併用方式の新規導入の影響。教育を除いた12学部合計では、一般方式(96)、共通テスト利用方式(104)と増減率は大学全体より小さかった。

**<一般方式>**

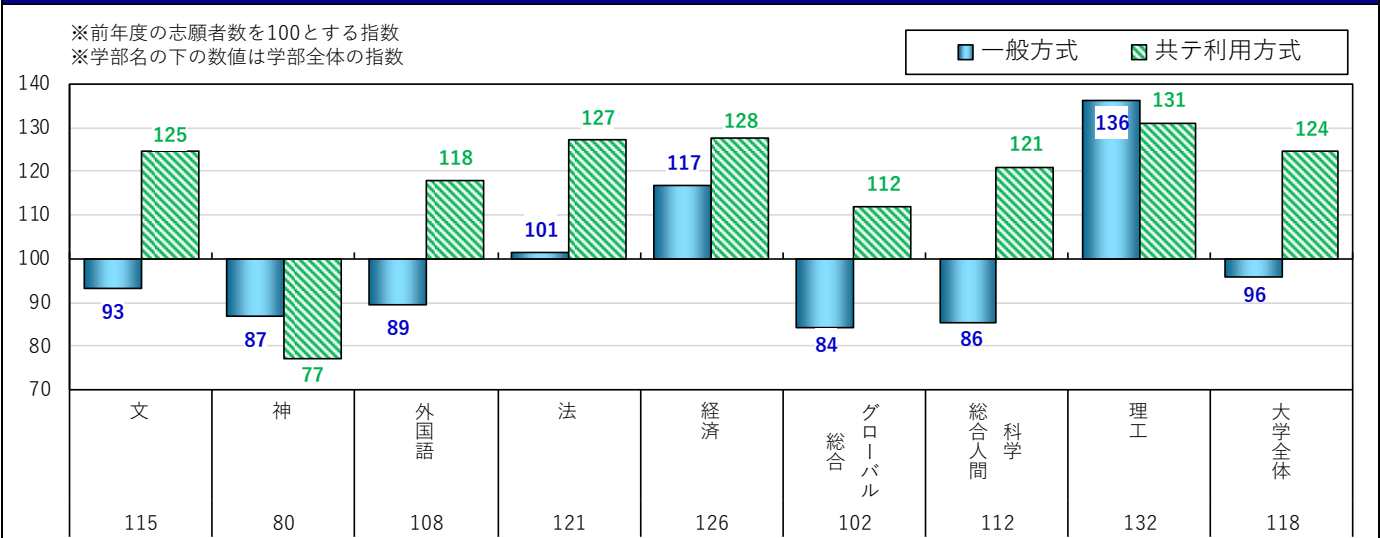
- 文(94)は、3年連続増加の反動は小さく、やや減少。方式別では、<英語4技能>(92)が2017年度の導入以降で初めて減少。
- 文化構想(93)は、2年連続増加の反動は小さく、やや減少。方式別では、<英語4技能>(90)が2017年度の導入以降で初めて減少。
- 法(102)は、3年連続で前年度並。志願者数は4年連続4,700人台。
- 商(91)は、2年ぶりに減少で、志願者数は11,000人を下回った。
- 社会科学(97)は、前年度やや増加の反動でやや減少、志願者数は9,000を下回った。
- 教育(85)は、前年度増加の反動と廃止された募集単位があったことで大幅減少。学科・専攻・専修別では、増加は(教育/初等教育学)(142)、(教育/教育心理学)(104)の2つのみ。一方で、(教育/生涯教育学)(53)はほぼ半減、(英語英文)(81)、(社会科学/公共市民学)(84)、(複合文化)(85)は大幅減少。
- 人間科学(105)は、2年連続でやや増加。学科別では、(人間環境科学)(107)、(健康福祉科学)(106)はやや増加、(人間情報科学)(102)は前年度並。
- 基幹理工(102)は、前年度やや増加の反動はなく前年度並。学系別では、(学系III)(112)は3年連続増加、(学系I)(83)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。(学系II)(103)はやや増加で、3年ぶりに志願者数3,000人を上回った。
- 創造理工(102)は、微減だが2年連続増加。学科別では、(環境資源工)(117)は3年連続減少の反動で大幅増加。(社会環境工)(109)は2年連続増加。(総合機械工)(102)、(建築)(101)は前年度並。一方で、(経営システム工)(92)は3年連続減少。
- 先進理工(99)は、前年度の微増だが7年ぶりの増加から再び微減。学科別では、(応用物理)(120)が2年連続大幅増加。(生命医科学)(106)は2年連続大幅減少の反動は小さくやや増加。一方で、(化学・生命化)(87)は前年度増加の反動で減少。

**<共通テスト利用方式>**

- 文(99)は、微減だが3年連続減少。2021年度に<共テのみ>を廃止、現行の<+一般>(99)のみの比較では2年連続減少。
- 文化構想(98)は、微減だが5年連続減少。2021年度に<共テのみ>を廃止、現行の<+一般>(98)のみの比較では2年連続減

- 少。
- 法(95)は、やや減少で2年連続減少。
  - 政治経済(107)は、全ての募集単位を共通テスト利用方式に変更して3年目だが、前年度減少の反動でやや増加。方式別では、<共テのみ>(119)は3年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、(政治)(121)、経済(120)がいずれも大幅増加。導入3年目の<共テ併用>(99)は微減だが2年連続減少。学科別では、(国際政治経済)(107)は2年連続やや増加。一方で、(政治)(91)は減少。
  - 社会科学(117)は、前年度大幅減少の反動により大幅増加。前年度の増減による反動が継続。
  - 教育は、新規に全学科・専攻・専修の<共テ併用(C方式)>、(理/生物学)に<共テ併用(D方式)>を導入。学部全体の志願者数は921人で、志願倍率は7.1倍だった。
  - 人間科学(140)は、2年連続大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、(健康福祉科学)(184)は激増、(人間環境科学)(127)、(人間情報科学)(122)も大幅増加。
  - 国際教養(89)は、系統への低い人気から2年連続減少。
  - スポーツ科学(95)は、前年度増加の反動は小さくやや減少。方式別では、<競技歴>(82)は大幅減少、<共テのみ>(96)はやや減少で4年連続減少、<+小論文>(98)は前年度並。

上智大：新設の共テ利用3教科型が5,000人以上の志願者数 一般：-208人 共テ：+4,257人



主な入試変更点	選抜方法：共通テスト利用方式(3教科型)新設
	文(英文)…国+歴公+外、募集人員：3人 (国文)…国+歴公+外、募集人員：2人 (史)…国+歴+外、募集人員：2人 (新聞)…国+歴公+外、募集人員：2人 (哲)…国+外+(歴公 or 数①)、募集人員：2人 (ドイツ文)…国+歴公+外、募集人員：2人 (フランス文)…国+歴公+外、募集人員：2人 神…<1次>国+歴公+外、<2次>面、募集人員：2人 外国語(イスパニア語)…国+外+(歴公 or 数①)、募集人員：2人 (英語)…国+外+(歴公 or 数①)、募集人員：2人 (ドイツ語)…国+外+(歴公 or 数①)、募集人員：2人 (フランス語)…国+外+(歴公 or 数①)、募集人員：3人 (ポルトガル語)…国+外+(歴公 or 数①)、募集人員：2人 (ロシア語)…国+外+(歴公 or 数①)、募集人員：2人 法(国際関係法)…国+外+(歴公 or 数①)、募集人員：2人 (法律)…国+外+(歴公 or 数①)、募集人員：2人 (地球環境法)…国+外+(歴公 or 数①)、募集人員：2人 経済(経営)…国+外+(歴公 or 数① or 数②)、募集人員：5人 (経済)…国+数2+外、募集人員：2人 総合グローバル…国+外+(歴公 or 数①)、募集人員：3人 総合人間科学(教育)…国+外+(歴公 or 数①)、募集人員：3人 (心理)…<1次>国+数①+外、<2次>面、募集人員：2人 (社会)…国+数①+外、募集人員：2人 (社会福祉)…国+外+(歴公 or 数①)、募集人員：3人 (看護)…<1次>国+外+(数2 or 理(化 or 生)・理基2(化基+生基)、<2次>面、募集人員：2人 理工(機能創造理工)…数2+理2+外、募集人員：2人 (物質生命理工)…数2+理2+外、募集人員：3人 (情報理工)…数2+理2+外、募集人員：3人 募集人員：上記の共通テスト利用方式(3教科型)新設に伴い、既存の募集単位の募集人員を変更 入試科目：経済(経営)<共テ併用(英語選択)>…共通テストの選択に数②追加 <共テ>国+外+(歴公 or 数①) <個>外→<共テ>国+外+(歴公 or 数① or 数②) <個>外

COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、4,049人(118)の大幅増加。一般方式を2021年度から<TEAP>のみに変更したが、<TEAP>は208人(96)のやや減少で3年連続減少。コロナ禍の中で英語外部試験の受験環境が整わなかったことも影響。実施3年目の共通テスト利用方式は4,257人(124)の大幅増加、方式別では、<共テ併用>は前年度大幅減少に引き続き1,117人(91)の減少、<共テ利用(4教科型)>も前年度大幅減少に引き続き413人(91)の減少。一方で、新設の<共テ利用(3教科型)>は科目負担が軽いことから人気を集めた結果、志願者数は5,787人と5,000人を上回った。この<共テ利用(3教科型)>の志願者数が<TEAP><共テ併用><共テ利用(4教科型)>の減少合計1,738人を大きく上回ったことが、大学全体の大幅増加に繋がった。



<一般方式> ※2021 年度から<TEAP>のみとなったので、2020 年度以前も<TEAP>のみとの比較による分析。

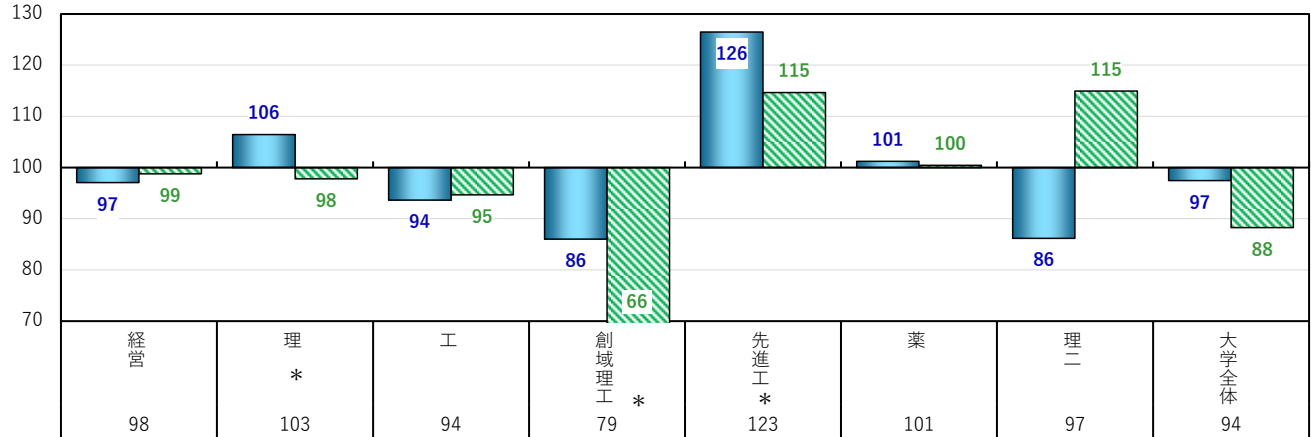
- 文(93)**は、やや減少だが3年連続減少。学科別では、(ドイツ文)(120)、(国文)(115)が大幅増加、(フランス文)(77)、英文(83)が大幅減少。
- 神(87)**は、4年連続減少。志願者数は7年ぶりに30人を下回った。
- 外国語(89)**は、2年連続20%以上の大幅増加の反動で減少。学科別では、(英語)(111)のみ増加で、他の5学科は減少。特に、(ポルトガル語)(71)、(スペイン語)(74)が20%を超える大幅減少。
- 法(101)**は、3年連続減少の反動はなく、前年度並。学科別では、(国際関係法)(109)は3年ぶりに増加。一方で、(地球環境法)(90)が4年連続減少。
- 経済(117)**は、前年度大幅減少の反動に加えて、系統への高い人気もあって大幅増加。募集単位別では、全て増加で、特に(経済)<TEAP 文系>(148)が前年度大幅減少の反動で5割近い大幅増加。
- 総合グローバル(84)**は、系統への低い人気も影響して、大幅減少で2年連続減少。
- 総合人間科学(86)**は、前年度大幅減少に引き続き減少。学科別では、(社会福祉)(115)は前年度20%以上の大幅減少で4年連続減少だった反動で大幅増加。これを除く4学科はいずれも減少。特に、(教育)(76)、(社会)(76)は20%以上の大幅減少でいずれも2年連続大幅減少。
- 理工(136)**は、2年連続大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、3学科全てが大幅増加。特に、(機能創造理工)(166)は7割近い激増。

#### <共通テスト利用方式>

- 文(125)**は、大幅増加だが、新設の<共テ利用(3教科型)>の志願者数1,006人を除くと、(84)の大幅減少。既存の方式別では、<共テ利用(4教科型)>(84)、<共テ併用>(84)といずれも大幅減少。学科別では、学部の全体指数を上回ったのは、(ドイツ文)(174)、フランス文(162)、(新聞)(135)、哲(133)の4学科。
- 神(77)**は、大幅減少。新設の<共テ利用(3教科型)>の志願者数も29人に留まった。既存の方式別では、<共テ利用(4教科型)>(27)はほぼ4分の1、<共テ併用>(55)はほぼ半減。
- 外国語(118)**は、大幅増加だが、新設の<共テ利用(3教科型)>の志願者数1,018人を除くと、(78)の大幅減少。既存の方式別では、<共テ利用(4教科型)>(57)、<共テ併用>(84)といずれも大幅減少。学科別では、学部の全体指数を上回ったのは、(ロシア語)(164)、フランス語(150)の2学科。ポルトガル語(66)は大幅減少で、新設の<共テ利用(3教科型)>の志願者数も88人に留まった。
- 法(127)**は、大幅増加だが、新設の<共テ利用(3教科型)>の志願者数666人を除くと、(94)のやや減少。既存の方式別では、<共テ利用(4教科型)>(101)は前年度並、<共テ併用>(92)は減少。学科別では、学部の全体指数を上回ったのは、(国際関係法)(147)、法律(132)の2学科。(地球環境法)(91)は減少で、新設の<共テ利用(3教科型)>の志願者数も161人に留まった。
- 経済(128)**は、大幅増加だが、新設の<共テ利用(3教科型)>の志願者数942人を除くと、(102)の前年度並。既存の方式別では、<共テ利用(4教科型)>(117)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、<共テ併用>(97)は前年度大幅減少に引き続きやや減少。学科別では、(経済)(129)、(経営)(127)といずれも学部の全体指数とほぼ同じ指数。
- 総合グローバル(112)**は、増加だが、新設の<共テ利用(3教科型)>の志願者数368人を除くと、(81)の大幅減少。既存の方式別では、<共テ利用(4教科型)>(89)、<共テ併用>(79)はいずれも大幅減少。
- 総合人間科学(121)**は、大幅増加だが、新設の<共テ利用(3教科型)>の志願者数705人を除くと、(83)の大幅減少。既存の方式別では、<共テ利用(4教科型)>(100)は前年度並、<共テ併用>(78)は2年連続大幅減少。学科別では、学部の全体指数を上回ったのは、(社会福祉)(237)、(看護)(156)の2学科。(社会)(91)は減少で、新設の<共テ利用(3教科型)>の志願者数も111人に留まった。
- 理工(131)**は、大幅増加だが、新設の<共テ利用(3教科型)>の志願者数1,053人を除くと、(102)の前年度並。既存の方式別では、<共テ利用(4教科型)>(85)は2年連続大幅減少、<共テ併用>(110)は増加。学科別では、学部の全体指数を上回ったのは、(機能創造理工)(147)のみだった。

東京理科大：大学全体ではやや減少 グローバル方式は大幅増加 一般：-902人 共テ：-2,152人

※前年度の志願者数を100とする指数  
 ※学部名の下の数値は学部全体の指数



\* 理は2022年度の(応用物理)を除いた志願者数との比較、創域理工は2022年度の理工との比較、先進工は2022年度の理(応用物理)と先進工(マテリアル創成工)、(生命システム工)、(電子システム工)の合計との比較

**主な入試変更点**

- 学科新設：先進工(機能デザイン工)
- 学部改組：理(応用物理)→先進工(物理工)
- 学部名称変更：理工→創域理工
- 選抜方法：理<B方式>…試験日程を全学科同一日へ統合  
 (応用化)・(応用数)・(応用物理)で1日、(化)・(数)・(物理)で1日の合計2日間で実施  
 →全学科合わせて1日間で実施  
 創域理工(数理科学)、(電気電子情報工)…<一般・S方式>新規実施
- 募集人員：創域理工(数理科学)…120人→90人  
 (先端物理)…120人→100人

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では3,054人(94)のやや減少。一般方式は902人(97)のやや減少。方式別では、英語4技能資格・検定試験利用の<グローバル方式>は456人(122)の大幅増加で2年連続増加、<B方式>は1,872人(94)のやや減少。共通テスト利用方式は2,152人(88)の減少。方式別では共テ併用の<C方式>は1,407人(69)の大幅減少、共テ利用の<A方式>は745人(95)のやや減少。

**<一般方式>**

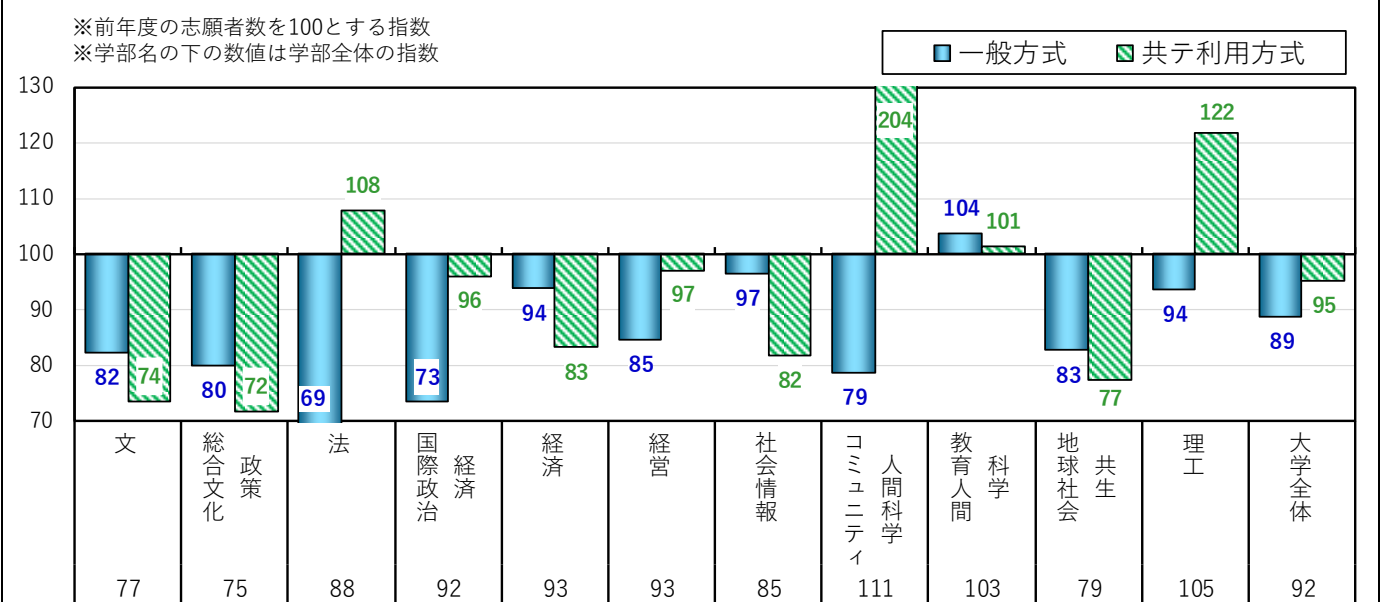
- 経営(97)**は、やや減少で4年連続減少。学科別では、2023年度より1年次が長万部キャンパスでの授業となった(国際デザイン経営)(127)は、前年度半減の反動もあり大幅増加、(ビジネスエコノミクス)(106)はやや増加で4年連続増加。一方で、(経営)(83)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 理(106)**は、学部改組となった旧(応用物理)を除いた比較ではやや増加。学科別では、前年度大幅増加の(応用数学)(98)のみ微減だが、その他の4学科はいずれも増加。特に、(物理)(119)の大幅増加が目立った。
- 工(94)**は、やや減少。学科別では、(工業化)(100)のみ微増、その他の4学科はいずれも減少。特に、(電気工)(84)の大幅減少が目立った。
- 創域理工(86)**は、学部名称変更前の理工との比較で減少。募集人員も6%減少だが、志願者数の減少率が上回り志願倍率は21.5倍→19.6倍へダウン。学科別では、10学科中増加は2学科のみで、(生命生物科学)(124)は2年連続減少の反動で大幅増加、(経営システム工)(103)はやや増加だが、志願者数は3年連続1,000人を下回った。減少の8学科のうち6学科は大幅減少。特に、(情報計算科学)(67)は大幅減少で、前年度の反動による増減が継続。新設の<S方式>の志願倍率は(数理科学)が12.8倍、(電気電子情報工)が12.9倍で、いずれも学部全体の志願倍率19.6倍よりも低倍率だった。
- 先進工(126)**は、大幅増加。新設の(機能デザイン工)を除くと(102)の前年度並。学科別では、(電子システム工)(123)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、改組の(物理工)(118)は旧理(応用物理)との比較で大幅増加。一方で、(マテリアル創成工)(84)は2年連続大幅減少、(生命システム工)(91)も2年連続減少。新設の(機能デザイン工)は、募集人員51人に対し志願者数は1,011人で、志願倍率は19.8倍。
- 薬(101)**は、系統への高い人気が続く、微増だが2年連続増加。学科別では、(生命創薬科学)(110)は2年連続減少の反動で増加。(薬)(96)はやや減少で、前年度4年ぶりの増加から再び減少。

**<共通テスト利用方式>**

- 経営(99)**は、前年度大幅増加の反動はなく前年度並。学科別では、2023年度より1年次が長万部キャンパスでの授業となった(国際デザイン経営)(181)は前年度大幅減少の反動が大きく激増、(経営)(112)は前年度大幅増加の反動はなく引続き増加。一方で、(ビジネスエコノミクス)(64)は前年度50%近い大幅増加の反動で大幅減少。
- 理(98)**は、学部改組の旧(応用物理)を除いた比較では前年度並。学科別では、(数学)(116)、(物理)(115)は大幅増加で、いずれも2年連続増加。(応用数学)(73)は前年度60%近い大幅増加の反動で大幅減少。(化学)(80)も大幅減少で2年連続減少。
- 工(95)**は、やや減少。学科別では、(建築)(118)は2年連続大幅増加、(情報工)(109)はやや増加で前年度の反動による増減が継続。他の3学科はいずれも前年度の反動で大幅減少。特に、(電気工)(65)の大幅減少で、志願者数は300人を下回った。

- 創域理工(66)**は、学部名称変更前の理工との比較では減少。募集人員も11%減少だが、志願者数の減少率が上回り志願倍率は21.2倍→15.8倍へダウン。学科別では、10学科中唯一増加の(経営システム工)(104)は、2年連続減少の反動は小さくやや増加に留まり、志願者数は3年連続300人台。減少の9学科は、いずれも前年度の反動。特に、(数理科学)(37)は激減、(建築)(47)は半減以下の大幅減少、(電気電子情報工)(51)はほぼ半減が目立った。
- 先進工(115)**は、大幅増加だが、新設の(機能デザイン工)を除くと(96)のやや減少。学科別では、(電子システム工)(145)は前年度半減の反動で大幅増加。一方で、(マテリアル創成工)(71)は改組前の基礎工(材料工)から3年連続大幅減少、改組の(物理工)(87)は旧理(応用物理)との比較で減少、(生命システム工)(95)はやや減少で2年連続減少。新設の(機能デザイン工)は、募集人員28人に対し志願者数は342人で、志願倍率は12.2倍。
- 薬(100)**は、前年度並。学科別では、(生命創薬科学)(123)は大幅増加で前年度の反動による増減が継続。(薬)(90)は系統への人気はあるが、前年度大幅増加の反動で減少。

**青山学院大：入試改革3年目、前年度の反動で減少** 一般：-2,764人 共テ：-1,127人



**主な入試変更点**

選抜方法：共テ利用方式(6科目型)新設  
共テ利用方式(5科目型)新設

文(史)…国+歴公+外+理・理基2+(数①or数②) ※歴公は2科目選択  
総合文化政策…国+歴公+理・理基2+外+(数①or数②)  
法(法、ヒューマンライツ)…国+数①+外+(歴公or数②or理・理基2)→2  
社会情報…国+歴公+理+外+(数①or数②)  
コミュニティ人間科学…国+外+{歴公or理・理基2or(数①or数②)}→3  
※歴公：世B、日B、地理B、現から2科目の組合せ不可。倫、政、倫政から2科目の組合せ不可

共テ利用方式(4科目型)新設  
総合文化政策…国+歴公+外+(数①or数②)  
コミュニティ人間科学…国+外+{歴公or理・理基2or(数①or数②)}→2  
※歴公：世B、日B、地理B、現から2科目の組合せ不可。倫、政、倫政から2科目の組合せ不可

共テ利用方式(4科目A型)新設 社会情報…国+外+(歴公or数①or数②)→2  
共テ利用方式(4科目B型)新設 社会情報…数2+理+外

入試科目：法<共テ・3科目型>…国+外+(歴公or数①or数②or理)  
※歴公：世Aor世Bor日Aor日Bor地理Aor地理Bor現or倫or政経or倫政  
→国+外+(歴公or数①or数②or理・理基2)  
※歴公：世Bor日Bor地理Bor現or倫or政経or倫政

地球社会共生<共テ併用>…<共テ>国+外+(歴公or数①or数②)→<共テ>外+(国or歴公or数①or数②)  
理工(化学・生命科学、物理科学除く)<共テ併用・個別B>…<共テ>数2+理+外 ※理：物or化→<共テ>外  
(化学・生命科学)<共テ併用・個別B>…<共テ>数2+理+外 ※理：化→<共テ>外  
(物理科学)<共テ併用・個別B>…<共テ>数2+理+外 ※理：物→<共テ>外

配点変更：文(英米文)<一般・個別B>…外<200>+総合問題<200>=総点<400>→外<200>+総合問題<100>=総点<300>  
地球社会共生<共テ併用>…<個別>論述<100>→論述<120>  
理工(化学・生命科学、物理科学除く)<共テ併用・個別B>…<個別>数<140>+理<140> ※理：物or化  
→<個別>数<200>+理<200> ※理：物or化  
(化学・生命科学)<共テ併用・個別B>…<個別>数<140>+理<140> ※理：化  
→<個別>数<200>+理<200> ※理：化  
(物理科学)<共テ併用・個別B>…<個別>数<140>+理<140> ※理：物  
→<個別>数<200>+理<200> ※理：物

## COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、3,891 人(92)の減少。2021 年度からそれまでの一般方式・個別学部日程を経済と理工<個別 A>を除いて、共通テスト併用方式に変更したが、その周知が前年度は進んだことで大幅増加だった反動が見られた。学部別では、コミュニティ人間科学(111)は増加、理工(105)、教育人間科学(103)はやや増加だったが、これらを除く 8 学部は減少。特に、総合文化政策(75)、文(77)、社会情報(85)は大幅減少。方式別では、一般方式が 2,764 人(89)の減少、共通テスト利用方式が 1,127 人(95)のやや減少。共通テスト利用方式では、以前から実施されてきた<共テ>が 878 人(92)の減少、実施 3 年目の<共テ併用>が 249 人(98)の微減だった。

## &lt;一般方式&gt;

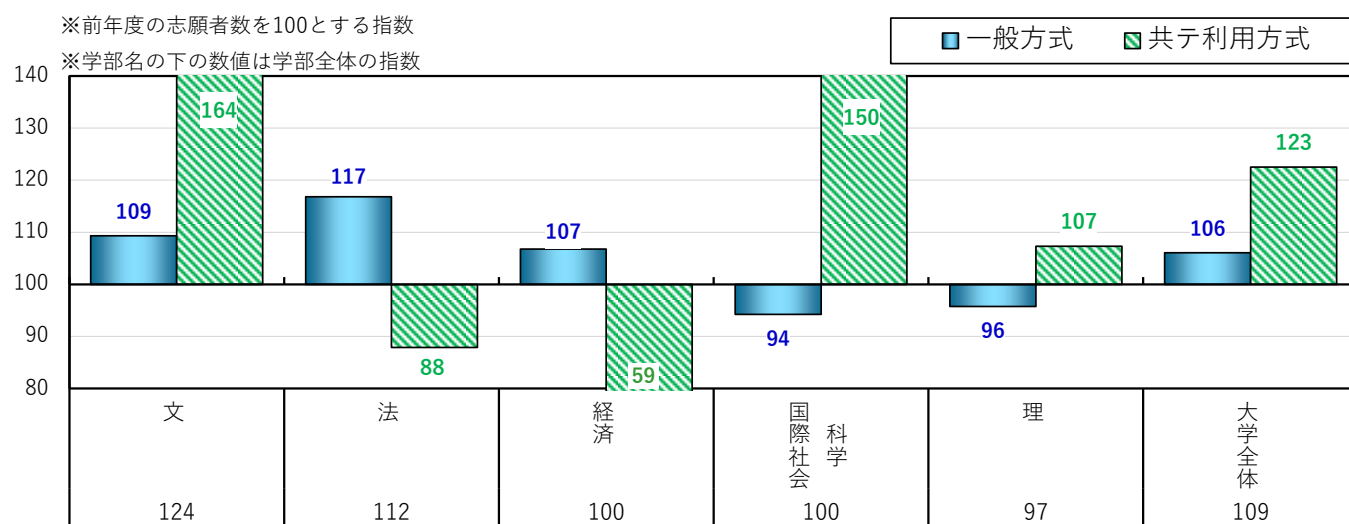
- 文(82)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願者数は再び 2,000 人を下回った。学科別では、(比較芸術)(145)、(史)(134)、(日本文)(133)の 3 学科はいずれも大幅増加で 2 年連続増加。一方で、(フランス文)(40)は前年度約 2.8 倍の激増の反動で激減。(英米文)(77)も前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 総合文化政策(80)**は、<全学部>のみの募集だが、大幅減少で 2 年連続減少。<全学部>の志願者数は 5 年ぶりの 700 人台。
- 法(69)**は、<全学部>のみの募集だが、前年度約 2.4 倍の激増の反動で大幅減少。学科別では、(法)(83)は前年度激増の反動で大幅減少。新設 2 年目の(ヒューマンライツ)(39)は前年度志願倍率 29.7 倍の高倍率だった反動で激減。
- 国際政治経済(73)**は、<全学部>のみの募集だが、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、3 学科いずれも 25%以上の大幅減少。
- 経済(94)**は、2 年連続増加の反動でやや減少。学科別では、(経済)(99)は前年度やや減少の反動はなく前年度並。(現代経済デザイン)(76)は 3 年連続増加の反動で大幅減少。
- 経営(85)**は、<全学部>のみの募集だが、前年度倍増近かった反動で大幅減少。<全学部>は 2019 年度以降、前年度の反動による増減が継続。学科別では、(経営)(71)は前年度倍増の反動で大幅減少。一方で、(マーケティング)(112)は前年度激増に引き続き増加。
- 社会情報(97)**は、<全学部>のみの募集だが、前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。方式別では、文系型の<全学部 A>(114)は前年度の大幅増加に引き続き増加。一方で、理系型の<全学部 B>(71)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- コミュニティ人間科学(79)**は、<全学部>のみの募集だが、前年度倍増以上だった反動で大幅減少。<全学部>は新設 2 年目の 2020 年度以降、初めて減少。
- 教育人間科学(104)**は、<全学部>のみの募集だが、前年度減少の反動は小さくやや増加。学科別では、(教育)(113)は前年度大幅減少の反動で増加。一方で、(心理)(90)は 2 年連続増加の反動で減少。
- 地球社会共生(83)**は、<全学部>のみの募集だが、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 理工(94)**は、<個別 A>と<全学部>での募集だが、前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。方式別では、<全学部>(86)は前年度大幅増加の反動で減少、<個別 A>(95)は前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。学科別では、増加が 3 学科、減少が 4 学科。特に、(機械創造工)(130)、(数理サイエンス)(116)が大幅増加。一方で、(物理科学)(62)、(電気電子工)(78)、(経営システム工)(84)が大幅減少。

## &lt;共通テスト利用方式&gt;

- 文(74)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。方式別では、実施 3 年目の<共テ併用>(88)は前年度やや増加の反動で減少、<共テ>(57)は前年度激増の反動で大幅減少、新設の<共テ 6 科目型>を除くと(53)でほぼ半減。学科別では、(比較芸術)(95)を除く 4 学科は大幅減少で、特に(フランス文)(50)は半減。
- 総合文化政策(72)**は、大幅減少。方式別では、実施 3 年目の<共テ併用>(71)は大幅減少、<共テ>(71)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、さらに新設の<共テ 5 科目型><共テ 4 科目型>を除くと(62)の 40%近い減少。
- 法(108)**は、増加。方式別では、実施 3 年目の<共テ併用>(82)は大幅減少。<共テ>(143)は大幅増加、新設の<共テ 5 科目型>を除いても(113)の増加。学科別では、(法)(131)は大幅増加、(ヒューマンライツ)(56)は大幅減少と対照的。
- 国際政治経済(96)**は、前年度増加の反動は小さくやや減少。方式別では、実施 3 年目の<共テ併用>(94)は前年度大幅増加の反動は小さくやや減少、<共テ>(98)は微減だが 4 年連続減少。学科別では、(国際経済)(120)は大幅増加、(国際コミュニケーション)(73)は大幅減少、(国際政治)(98)は前年度並。
- 経済(83)**は、<共テ>のみを実施だが、大幅減少。学科別では、(現代経済デザイン)(32)は前年度激増の反動で激減。(経済)(96)はやや減少だが 4 年連続減少。
- 経営(97)**は、前年度増加の反動は小さくやや減少。方式別では、実施 3 年目の<共テ併用>(108)は 2 年連続増加、<共テ>(79)は 2 年連続大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、(マーケティング)(124)は大幅増加で 2 年連続増加、(経営)(87)は減少。
- 社会情報(82)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。方式別では、実施 3 年目の<共テ併用>(92)は前年度増加の反動で減少、<共テ>(58)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、さらに新設の<共テ 5 科目型><共テ 4 科目 A 型><共テ 4 科目 B 型>を除くと(35)の激減。
- コミュニティ人間科学(204)**は、前年度大幅減少の反動で倍増以上。方式別では、<共テ併用>(149)は大幅増加、<共テ>(283)はほぼ 3 倍増、新設の<共テ 5 科目型><共テ 4 科目型>を除いても(194)のほぼ倍増。
- 教育人間科学(101)**は、2 年連続で前年度並。方式別では、実施 3 年目の<共テ併用>(82)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、<共テ>(119)は大幅増加で前年度の反動による大幅な増減が継続。学科別では、(教育)(102)、(心理)(100)の 2 学科はいずれも前年度並。
- 地球社会共生(77)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。方式別では、実施 3 年目の<共テ併用>(99)は前年度激増の反動はなく前年度並、<共テ>(59)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 理工(122)**は、系統への高い人気もあって、2 年連続大幅増加。方式別では、実施 3 年目の<共テ併用>(148)は大幅増加で 2 年連続増加、<共テ>(109)は前年度大幅増加に引き続き増加。学科別では、(物理科学)(61)が前年度倍増以上の反動で大幅減少だった以外の 6 学科は増加。特に、(機械創造工)(233)は倍増以上、(化学・生命科学)(168)は激増、(経営システム工)(127)、(情報テクノロジー)(116)は大幅増加。



学習院大：大学全体では4年ぶりに志願者数 18,000 人台 一般：+837 人 共テ：+636 人



主な入試変更点 選抜方法：法(政治)、(法)…<一般・プラス>2020 年度以来3年ぶりに実施復活

COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、1,473 人(109)の増加で、4 年ぶりに志願者数は 18,000 人台。方式別では、一般方式は 837 人(106)のやや増加で2年連続増加、復活の法<プラス>を除いても(104)のやや増加。共通テスト利用方式は実施3年目だが、636 人(123)の大幅増加で、志願者数は 2021 年度の導入以降で最多。

#### <一般方式>

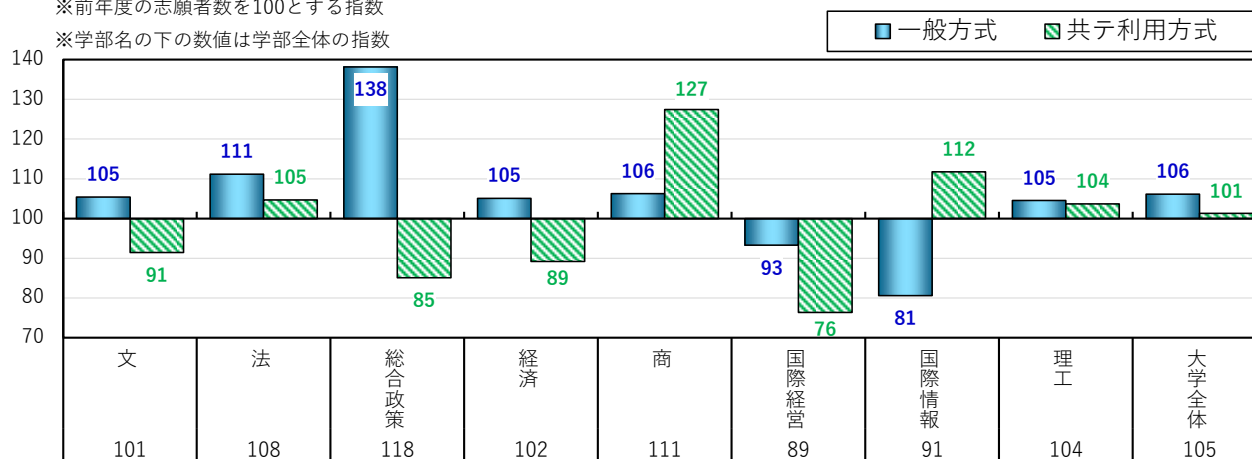
- 文(109)**は、2年連続減少の反動により増加だが、志願者数は4,000人に届かなかった。学科別では、前年度唯一大幅増加した(日本語日本文学)(90)は反動で減少。これを除く7学科はいずれも増加。特に、(ドイツ語圏文化)(150)、(フランス語圏文化)(119)、(心理)(118)、(史)(115)はいずれも2年連続減少の反動で大幅増加。(英語英米文化)(112)は3年連続減少の反動で増加。(哲)(106)、(教育)(104)はいずれもやや増加。
- 法(117)**は、4年連続減少の反動と<プラス>の復活で大幅増加。ただし、<プラス>を除くと(104)のやや増加に留まった。学科別では、(政治)(153)は50%以上の大幅増加、(法)(102)は微増の前年度並。方式別では、既存の<コア>は、(政治)<コア>(136)は4年連続減少の反動で大幅増加。(法)<コア>(91)は減少で5年連続減少、復活の<プラス>は最後の募集だった2020年度と比較すると、(政治)<プラス>(68)の大幅減少、(法)<プラス>(89)の減少と復活への周知不足の影響が見られた。
- 経済(107)**は、2年連続やや増加。学科・方式別では、(経営)<コア>(121)は前年度減少の反動で大幅増加、志願者数は4年ぶりに2,000人台。(経済)<コア>(103)は前年度増加に引き続きやや増加。一方で、(経営)<プラス>(64)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。(経済)<プラス>(97)は前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。
- 国際社会科学(94)**は、前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。方式別では、<プラス>(117)は大幅増加。志願者数は440人を上回り、コロナ禍対策で募集中止だった2021年度を除き、方式を実施した2018年度以降では最多。一方で、<コア>(88)は前年度大幅増加の反動で減少。
- 理(96)**は、やや減少で2年ぶりに減少。学科・方式別では、7募集単位中はっきりと増加したのは(物理)<プラス>(130)の大幅増加のみ。一方で、(数学)<コア>(82)は大幅減少で3年連続減少、物理<コア>(89)は2年ぶりに減少。いずれも、志願者数は<コア><プラス>での募集となった2018年度以降では最少。(生命科学)<プラス>(91)は2年連続減少。以上を除く、(化学)<コア>(102)、(生命科学)<コア>(100)、(数学)<プラス>(99)の3募集単位はいずれも前年度並。

#### <共通テスト利用方式>

- 文(164)**は、前年度大幅減少の反動で60%以上の激増、志願者数は2,000人を上回り、導入3年目で過去最多。学科別では、6学科中4学科が大幅増加。(ドイツ語圏文化)(409)は前年度大幅減少の反動でほぼ4倍以上、(史)(216)は前年度大幅減少の反動で倍以上、(英語英米文化)(191)は前年度大幅減少の反動で激増、(教育)(157)は前年度増加に引き続き大幅増加。一方で、(フランス語圏文化)(47)は前年度大幅増加の反動で半減以下、志願者数は100人を下回った。(哲)(90)は前年度大幅減少に引き続き減少。
- 法(88)**は、前年度60%近い大幅減少の反動はなく引き続き減少。学科別でも、(法)(101)は前年度大幅減少の反動はなく前年度並、(政治)(68)は2年連続大幅減少。
- 経済(59)**は、(経済)のみの募集。前年度大幅増加の反動で40%以上の大幅減少。
- 国際社会科学(150)**は、50%の増加で2年連続大幅増加。
- 理(107)**は、(化学)のみの募集。前年度大幅増加に引き続きやや増加。

## 中央大：大学全体ではやや増加で4年ぶりに増加、法に都心移転効果あり 一般：+2,735人 共テ：+256人

※前年度の志願者数を100とする指数  
 ※学部名の下の数値は学部全体の指数



主な入試変更点 キャンパス移転…法：多摩キャンパス(八王子市)→茗荷谷キャンパス(文京区)

COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、2,991人(105)のやや増加で4年ぶりに増加。方式別では、一般方式2,735人(106)は3年連続減少の反動でやや増加。共通テスト利用方式256人(101)は前年度「入学検定料の特別措置」を廃止したことで40%の大幅減少で3年連続減少となったが、反動はなく微増で前年度並。

#### <一般方式>

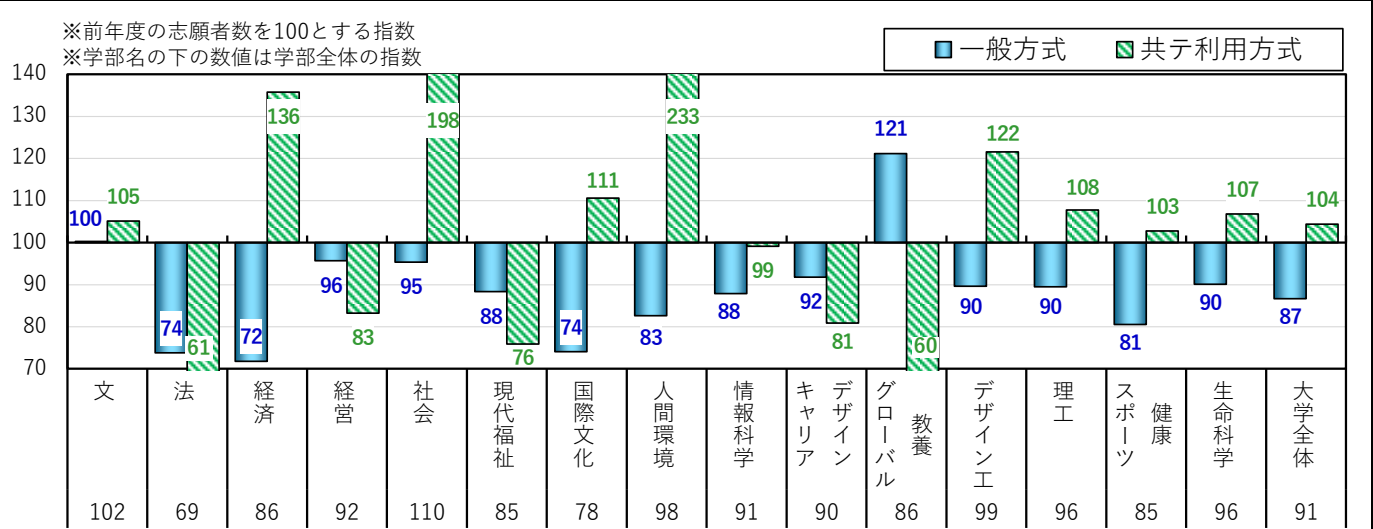
- 文(105)は、2年連続やや増加。専攻別では、14専攻中増減が7専攻ずつと分かれた。(人文社会/フランス語文学文化)(191)は前年度の激増に引き続きほぼ倍増、志願者数は800人を上回った。(人文社会/社会学)(147)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加。(人文社会/中国言語文化)(126)は2年連続大幅増加。一方で、実施3年目の(人文社会/学びのパスポートプログラム)(71)は30%近い大幅減少、(人文社会/哲学)(74)は大幅減少で4年連続減少、(人文社会/社会情報学)(78)は前年度増加の反動で大幅減少、(人文社会/東洋史学)(79)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 法(111)は、郊外から都心へのキャンパス移転効果もあって、3年ぶりに増加に転じた。学科別では、(政治)(121)は2年連続減少の反動で大幅増加、(国際企業関係法)(114)は4年連続減少の反動で増加、(法律)(108)は2年連続減少の反動で増加。
- 総合政策(138)は、前年度増加に引き続き大幅増加。学科別では、(政策科学)(151)は50%以上の大幅増加で2年連続増加、志願倍率は21.7倍と5年ぶりに20倍を上回った。(国際政策文化)(128)も2年連続大幅増加で志願倍率も20倍を上回った。
- 経済(105)は、やや増加で3年ぶりに増加に転じた。学科別では、(公共・環境経済)(111)は前年度大幅増加に引き続き増加、志願者数は1,600人を上回った、(経済)(108)は2年連続減少の反動で増加。一方で、前年度3年ぶりに増加した(経済情報システム)(76)は大幅減少で再び減少に転じた。
- 商(106)は、前年度減少の反動でやや増加。学科・コース別では、(経営/フレックス)(143)、(金融/フレックス Plus1)(120)はいずれも前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(金融/フレックス)(76)、(会計/フレックス Plus1)(81)はいずれも大幅減少で2年連続減少。9学科・コース中、6学科・コースが増加、3学科・コースが減少。
- 国際経営(93)は、新設2年目の2020年度以降4年連続減少。方式別では、<英語外部試験利用>(87)、<一般>(91)はいずれも2年連続減少。
- 国際情報(81)は、前年度減少に引き続き大幅減少。方式別では、<英語外部試験利用>(58)、<一般>(85)はいずれも大幅減少で2年連続減少。
- 理工(105)は、2年連続やや増加。学科別では、10学科中6学科が増加、4学科が減少。(都市環境)(132)、(情報工)(124)はいずれも2年連続減少の反動で大幅増加。一方で、(人間総合理工)(70)は前年度ほぼ2.5倍の反動で大幅減少。

#### <共通テスト利用方式>

- 文(91)は、減少で5年連続減少。専攻別では、14専攻中6専攻は増加、8専攻は減少。特に、(人文社会/東洋史学)(412)は2年連続大幅減少の反動で4倍以上、(人文社会/社会学)(182)は2年連続減少の反動で激増。一方で、(人文社会/社会情報学)(41)、実施3年目の(人文社会/学びのパスポートプログラム)(45)はいずれも前年度大幅増加の反動で半減以下。
- 法(105)は、2年連続減少の反動は小さくやや増加に留まった。学科別では、(政治)(110)は2年連続減少の反動で増加、(法律)(108)も5年ぶりに増加に転じた。一方で、(国際企業関係法)(80)は2年連続大幅減少で5年連続減少。
- 総合政策(85)は、4年連続大幅減少。学科別では、(国際政策文化)(80)は大幅減少で5年連続減少、(政策科学)(93)はやや減少で4年連続減少。
- 経済(89)は、前年度激減に引き続き減少で4年連続減少。学科別では、(経済)(102)は前年度激減の反動はなく前年度並。(公共・環境経済)(55)は4年連続大幅減少、(国際経済)(64)は3年連続大幅減少で4年連続減少。
- 商(127)は、前年度半減以下の反動で大幅増加。学科・コース別では、(経営/フレックス)(148)は前年度半減の反動で大幅増加、(会計/フレックス)(135)は5年連続減少の反動で大幅増加、(フリーメジャー・コース)(117)は前年度激減の反動で大幅増加。(国際マーケティング/フレックス)(114)は増加。一方で、(金融/フレックス)(73)は2年連続大幅減少。
- 国際経営(76)は、新設2年目の2020年度から4年連続大幅減少。方式別では、<共テ・併用>(163)は前年度80%以上の激減の反動で激増、<共テ単独・後期4教科>(125)は2年連続大幅増加。一方で、<共テ単独・後期3教科>(62)は大幅減少、<共テ単独・前期3教科>(68)は大幅減少で4年連続減少、<共テ単独・前期4教科>(73)は4年連続大幅減少。
- 国際情報(112)は、前年度激減の反動で増加。方式別では、<共テ単独・前期3教科>(200)は前年度激減の反動で倍増。一方で、<共テ単独・後期>(62)は大幅減少、<共テ・併用>(69)は2年連続大幅減少で4年連続減少。

○理工(104)は、3年連続減少の反動は小さくやや増加に留まった。学科別では、10 学科中増加が6 学科、減少が4 学科。特に、(数学)(140)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(都市環境)(139)は3年連続減少の反動で大幅増加。(物理)(126)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(電気電子情報通信工)(79)は2年連続大幅減少、(人間総合理工)(82)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。

法政大：大学全体で減少し、志願者数は10万人を下回る 一般：-10,575人 共テ：+1,283人



**主な入試変更点** 選抜方法：経営<英語外部試験利用>新規実施…募集人員：(経営)8人、(経営戦略)5人、(市場経営)5人  
利用方法：出願要件  
スポーツ健康<共テ・C方式>新規実施…募集人員：5人、国+歴公+数2+理・理基2+外

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、9,292人(91)の減少で、志願者数は99,051人で10万人を下回った。前年度は共通テスト平均点大幅ダウンによる不安から、国公立大志願者が私立大併願校を増やす動きの中で狙われたことで大幅増加。今年度はこの反動と共通テスト平均点アップで私立大併願校数が減少したことが要因。方式別では、一般方式は10,575人(87)の減少、共通テスト利用方式は1,283人(104)のやや増加。一般方式の<英語外部試験利用>(97)はやや減少だが、新規実施の経営を除くと(74)の大幅減少。学部別では、15学部中増加は社会(110)の増加と文(102)の微増のみ。残り13学部は減少。特に、法(69)、国際文化(78)、現代福祉(85)、スポーツ健康(85)は大幅減少。

<一般方式>

- 文(100)は、前年度並。学科別では、(英文)(137)は大幅増加、(地理)(110)は増加。一方で、(史)(87)、(心理)(87)はいずれも減少、(哲)(94)、(日本文)(94)はいずれもやや減少。
- 法(74)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、3学科とも大幅減少で、(法律)(72)、国際政治(76)はいずれも2年連続増加の反動で大幅減少。方式別でも、3方式とも大幅減少。
- 経済(72)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、3学科とも大幅減少で、(現代ビジネス)(51)はほぼ半減、(国際経済)(68)、(経済)(79)はいずれも大幅減少。
- 経営(96)は、やや減少で2019年度以降前年度の反動による増減が継続。学科別では、(経営)(111)は増加。一方で、(経営戦略)(76)は大幅減少、(市場経営)(88)は減少。方式別では、新規導入の<英語外部試験利用>を除いた、既存の2方式でも<T日程>(79)は大幅減少、<A方式>(86)は減少。
- 社会(95)は、やや減少で2019年度以降前年度の反動による増減が継続。学科別では、(社会)(116)は大幅増加で2年連続増加。一方で、(メディア社会)(68)は大幅減少、(社会政策)(93)はやや減少で2019年度以降前年度の反動による大幅増減が継続。
- 現代福祉(88)は、減少で2年連続減少。学科別では、(臨床心理)(76)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(福祉コミュニティ)(99)は微減。
- 国際文化(74)は、系統への低い人気に加えて前年度大幅増加の反動で大幅減少。方式別では、3方式とも減少で、<英語外部試験利用>(68)、<A方式>(69)はいずれも大幅減少、<T日程>(93)はやや減少。
- 人間環境(83)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。方式別では、3方式とも減少で、<英語外部試験利用>(64)、<T日程>(81)はいずれも大幅減少、<A方式>(90)は減少。
- 情報科学(88)は、2年連続増加の反動で減少。学科別では、2学科とも減少で、(コンピュータ科学)(82)は3年連続増加の反動で大幅減少、(デジタルメディア)(95)はやや減少。
- キャリアデザイン(92)は、2年連続減少。方式別では、<T日程>(100)は前年度並だが、<英語外部試験利用>(75)は大幅減少、<A方式>(93)はやや減少。
- グローバル教養(121)は、4年連続減少の反動で大幅増加。募集人員が7%減少により、志願倍率は23.0倍→8.2倍→10.8倍と10倍台に戻った。方式別では、2方式とも増加で、<A方式>(125)は大幅増加、<英語外部試験利用>(113)は増加。
- デザイン工(90)は、前年度大幅増加の反動で減少。学科別では、3学科とも減少で、(都市環境デザイン工)(82)は大幅減少で2019年度以降前年度の反動による増減が継続、(建築)(92)は減少、(システムデザイン)(94)はやや減少。
- 理工(90)は、減少。学科・専攻別では、5学科・専攻中4学科・専攻が減少。特に、(創生科学)(77)、(機械工/機械工学)(80)



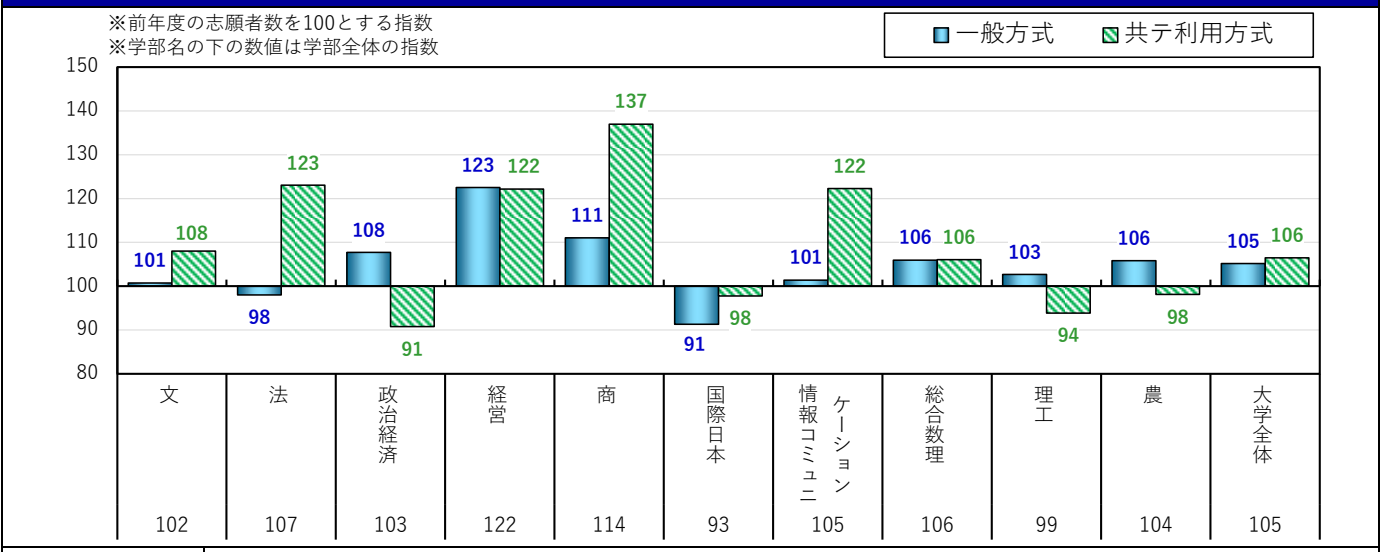
はいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少。一方で、(応用情報工)(101)は前年度のやや増加に引き続き、唯一の微増。

- スポーツ健康(81)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 生命科学(90)**は、前年度大幅増加の反動で減少。学科別では、3 学科がいずれも減少で、特に(環境応用化)(83)は大幅減少、(応用植物科学)(87)は減少。

<共通テスト利用方式>

- 文(105)**は、やや増加で4年ぶりに増加。学科別では、6 学科中5 学科が増加。特に、(英文)(123)、(史)(117)は大幅増加。一方で、(哲)(81)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 法(61)**は、前年度激増の反動で大幅減少。学科別では、3 学科とも大幅減少で、(政治)(29)は志願者数 1,000 人減少の激減。
- 経済(136)**は、大幅増加で2年連続増加。学科別では、(国際経済)(286)は前年度大幅減少の反動で2.8 倍以上の激増で、2019 年度以降前年度の反動による大幅増減が継続。(経済)(170)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(現代ビジネス)(28)は前年度 4.7 倍以上の激増の反動から激減で、2019 年度以降前年度の反動による大幅増減が継続。
- 経営(83)**は、大幅減少で、2019 年度以降前年度の反動による大幅増減が継続。学科別では、(経営)(187)は大幅増加。一方で、(経営戦略)(23)は前年度 5.6 倍以上の激増の反動で激減、(市場経営)(60)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 社会(198)**は、2年連続大幅減少の反動で激増。学科別では、3 学科とも大幅増加で、(社会政策)(403)は2年連続大幅減少の反動で4 倍以上の激増。(メディア社会)(140)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(社会)(138)は3年連続大幅減少の反動で大幅増加。
- 現代福祉(76)**は、大幅減少で3年ぶりに減少。学科別では、2 学科とも大幅減少で、(福祉コミュニティ)(74)は大幅減少で3年ぶりに減少、(臨床心理)(78)は大幅減少。
- 人間環境(233)**は、3年連続大幅減少の反動で2.3 倍以上の激増。志願者数は3年ぶりに1,000 人を上回った。
- キャリアデザイン(81)**は、2年連続大幅減少。
- グローバル教養(60)**は、前年度激増の反動で大幅減少。
- 理工(108)**は、2年連続増加。学科・専修別では、6 学科・専攻中4 学科・専攻が増加で、(経営システム工)(134)は3年連続大幅減少の反動で大幅増加、(電気電子工)(125)は2年連続減少の反動で大幅増加、(応用情報工)(122)は3年連続減少の反動で大幅増加、(機械工/機械工学)(106)はやや増加で2年連続増加。一方で、(創生科学)(66)は前年度激増の反動で大幅減少。
- スポーツ健康(103)**は、やや増加で2年連続増加。
- 生命科学(107)**は、やや増加で2年連続増加。学科別では、(応用植物科学)(159)は大幅増加で2年連続増加、(生命機能)(120)は2年連続減少の反動で大幅増加。一方で、(環境応用化)(72)は前年度激増の反動で大幅減少。

**明治大：大学全体では2年連続やや増加、志願者数も2年連続10万人超え 一般：+3,930人 共テ：+1,686人**



**主な入試変更点** 募集人員：情報コミュニケーション<一般・学部別>392人→372人  
農(農芸化)<一般・学部別>：90人→84人

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、5,616人(105)の2年連続やや増加。志願者数は108,042人で2年連続10万人を上回った。学部別では、経営(122)は大幅増加、商(114)は増加。法(107)、総合数理(106)、情報コミュニケーション(105)、農(104)はやや増加。一方で、国際日本(93)はやや減少。方式別では、一般方式は3,930人(105)の2年連続やや増加で、志願者数は4年ぶりに8万人を上回った。共通テスト利用方式は、1,686人(106)のやや増加。

<一般方式>

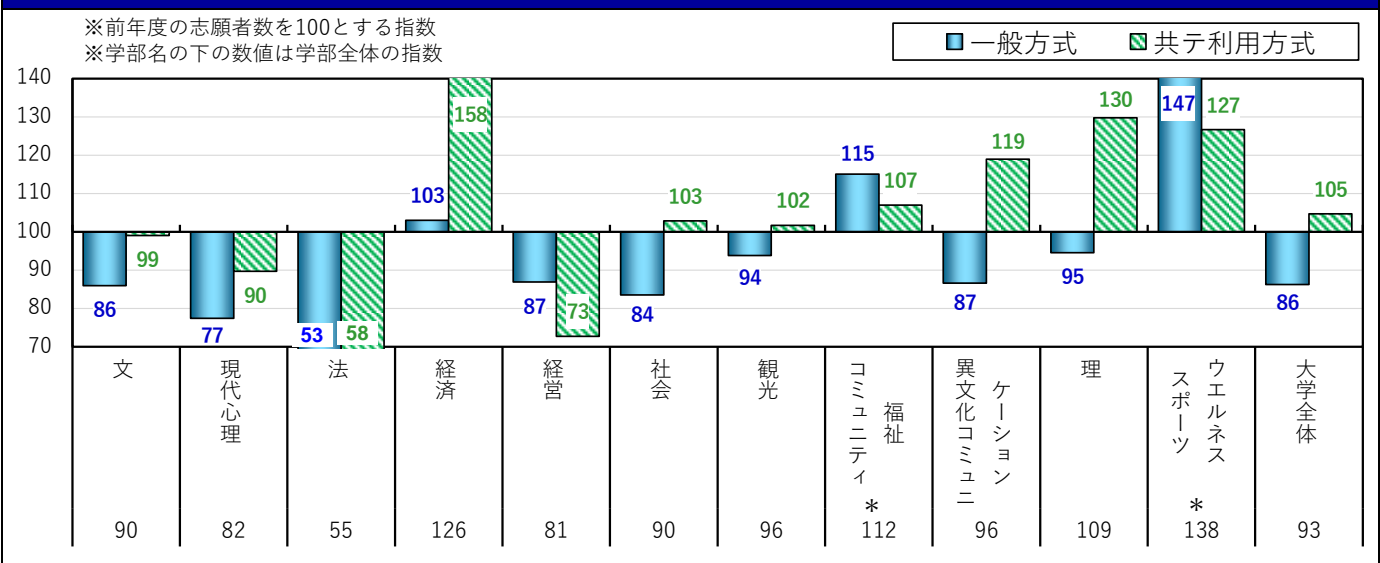
- 文(101)**は、微増で4年ぶりに志願者数は1万人を上回った。学科・専攻別では、14 専攻中8 専攻が増加。(文/英米文学)(126)は前年度減少の反動で大幅増加、(文/文芸メディア)(108)、(心理社会/哲学)(108)はいずれも2年連続増加、(史学地理/西洋史学)(108)は増加。一方で、(史学地理/地理学)(75)、(文/フランス文学)(82)はいずれも前年度激増の反動で大幅減少、(史学地理/考古学)(86)、(文/ドイツ文学)(88)はいずれも前年度大幅増加の反動で減少、(史学地理/日本史学)(91)は減少。
- 法(98)**は、2年連続増加の反動は小さく微減に留まった。方式別では、<全学部統一>(112)は2年連続増加。一方で、<学部別>(91)は減少。
- 政治経済(108)**は、2年連続増加。学科別では、(政治)(117)は2年連続減少の反動で大幅増加、(経済)(112)は2年連続増加。



- 一方で、(地域行政)(72)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 経営(123)**は、大幅増加で2年連続増加。方式別では、<全学部統一3科目>(167)、<全学部統一英語4技能>(130)、<学部別3科目>(118)はいずれも大幅増加。一方で、<学部別英語4技能>(95)は2年連続減少。
- 商(111)**は、3年連続減少の反動で増加。方式別では、全ての方式で増加し、<学部別>(112)は増加、<全学部統一>(110)は2年連続増加、<学部別英語4技能>(103)はやや増加。
- 国際日本(91)**は、2年連続増加の反動で減少。方式別では、全ての方式で減少し、<学部別英語4技能>(81)は2年連続大幅増加の反動で大幅減少、<全学部統一英語4技能>(87)、<全学部統一3科目>(91)はいずれも減少、<学部別3科目>(100)は微減で前年度並。
- 情報コミュニケーション(101)**は、微増で3年連続増加。方式別では、<全学部統一>(108)は2年連続増加。一方で、<学部別>(100)は前年度並だが募集人員が5%減少で、志願倍率は12.5倍→13.1倍にアップ。
- 総合数理(106)**は、2年連続やや増加。学科別では、3学科とも増加で、(先端メディアサイエンス)(112)は2年連続減少の反動で増加、(現象数理)(102)、(ネットワークデザイン)(102)はいずれも微増。
- 理工(103)**は、2年連続やや増加。学科・専攻別では、9学科・専攻中6学科・専攻が増加。(数学)(123)は4年連続減少の反動で大幅増加、(機械情報工)(120)は大幅増加で2年連続増加、(電気電子生命/生命理工学)(120)は大幅増加、(情報科学)(111)は系統への高い人気もあり増加、(応用化)(109)、(物理)(108)はいずれも2年連続増加。一方で、(電気電子生命/電気電子工学)(76)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(建築)(92)は減少。
- 農(106)**は、系統への高い人気を反映して、前年度の大幅増加に引き続きやや増加。学科別では、(生命科学)(123)は3年連続減少の反動で大幅増加。(農芸化)(102)は微増、特に<学部別>(109)は募集人員が7%減少にもかかわらず増加で志願倍率は9.5倍→11.1倍にアップ。(農)(101)は微増だが3年連続増加。一方で、(食料環境政策)(96)は前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。

- <共通テスト利用方式>**
- 文(108)**は、前年度の微増に引き続き増加。学科・専攻別では、14学科中10学科が増加。(史学地理/アジア史)(185)は6年連続減少の反動で激増、(文/英米文学)(153)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(文/ドイツ文学)(143)は2年連続大幅増加、(心理社会/現代社会学)(138)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(史学地理/西洋史学)(133)は3年連続減少の反動で大幅増加、(心理社会/哲学)(120)は大幅増加で2年連続増加、(心理社会/臨床心理学)(116)は2年連続大幅増加。一方で、(史学地理/考古学)(55)は前年度激増の反動で大幅減少、(史学地理/地理学)(60)は前年度倍増以上の反動で大幅減少。
  - 法(123)**は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。
  - 政治経済(91)**は、減少。学科別では、3学科とも減少で、(地域行政)(65)は前年度大幅増加の反動で大幅減少し、2020年度以降前年度の反動による極端な増減が継続。(政治)(90)は減少で3年連続減少、(経済)(93)はやや減少。
  - 経営(122)**は、系統への人気回復もあって大幅増加。
  - 商(137)**は、3年連続大幅減少の反動で大幅増加。
  - 国際日本(98)**は、前年度大幅増加の反動はなく微減。
  - 情報コミュニケーション(122)**は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。前年度の反動による増減が継続。
  - 総合数理(106)**は、やや増加。学科別では、(先端メディアサイエンス)(119)は大幅増加で2年連続増加、(現象数理)(108)は2年連続増加。一方で、(ネットワークデザイン)(83)は2年連続大幅減少。
  - 理工(94)**は、やや減少。学科・専攻別では、9学科・専攻中5学科・専攻が増加。(機械情報工)(107)は2年連続減少の反動は小さくやや増加、(物理)(105)はやや増加で2年連続増加。一方で、(電気電子生命/電気電子工学)(66)は前年度大幅増加の反動で大幅減少し、2019年度以降前年度の反動による極端な増減が継続。
  - 農(98)**は、微減だが5年連続減少。志願者数は2,000人を下回った。学科別では、(生命科学)(123)は4年連続減少の反動で大幅増加。一方で、(食料環境政策)(68)は2年連続増加の反動で大幅減少し、志願者数は400人を下回った。

**立教大：大学全体でやや減少、特に一般が2年連続減少 一般：-5,504人 共テ：+1,066人**



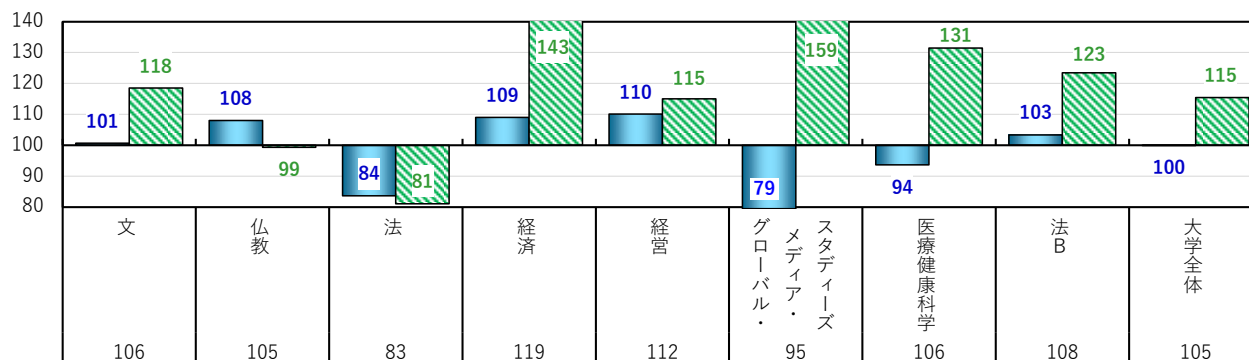
\*コミュニティ福祉は2022年度の(スポーツウエルネス)を除いた志願者数との比較、スポーツウエルネスは2022年度のコミュニティ福祉(スポーツウエルネス)の志願者数との比較

<b>主な入試変更点</b>	学部改組：コミュニティ福祉(福祉、コミュニティ政策、スポーツウエルネス) →コミュニティ福祉(福祉、コミュニティ政策)、スポーツウエルネス 選抜方法：<共テ・英語外部試験活用>…スコア変更 募集人員：コミュニティ福祉(福祉)…<一般>86人→76人、<共テ>20人→17人 (コミュニティ政策)…<一般>91人→134人、<共テ>20人→30人 スポーツウエルネス…<一般>49人→90人、<共テ>15人→30人
<b>COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数</b>	
<p>大学全体では、4,438人(93)の2年連続やや減少。方式別では、一般方式は5,504人(86)の減少で2年連続減少。共通テスト利用方式は1,068人(105)の2年連続やや増加。一般方式は、文を除き大学独自の英語の出題がなく、民間の英語4技能資格・検定試験または共通テスト英語の受験が必須であることから、私立大専願層を中心にこれを負担増と感じる層が敬遠した影響があった。学部別では、新設のスポーツウエルネスは2022年度のコミュニティ福祉(スポーツウエルネス)との比較で(138)の大幅増加、経済(126)は大幅増加、学部改組のコミュニティ福祉は2022年度の(スポーツウエルネス)を除いた比較で(112)の増加、理(109)は増加。一方で、法(55)、経営(81)、現代心理(82)は大幅減少、文(90)、社会(90)は減少、観光(96)、異文化コミュニケーション(96)はやや減少で11学部中7学部が減少。</p>	
<p>&lt;一般方式&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○<b>文(86)</b>は、2年連続減少。学科・専修別では、(文/フランス文学)(116)、(文/ドイツ文学)(115)はいずれも大幅増加。一方で、(キリスト教)(43)、(文/文芸・思想)(74)、(史)(77)はいずれも大幅減少、(文/英米文学)(86)、(教育)(87)は減少。</li> <li>○<b>現代心理(77)</b>は、大幅減少で2年連続減少。学科別では、(映像身体)(70)は大幅減少、(心理)(88)は減少で4年連続減少となり、志願者数も1,000人を下回った。</li> <li>○<b>法(53)</b>は、ほぼ半減、3年ぶりの減少で志願者数は3,000人を下回った。学科別では3学科とも大幅減少で、(国際ビジネス法)(33)は募集人員が13%減少もあり前年度比3分の1、(政治)(59)は大幅減少で2年連続減少、(法)(60)も大幅減少で2年連続減少。</li> <li>○<b>経済(103)</b>は、3年連続減少の反動は小さくやや増加。学科別では、(経済)(119)は大幅増加で6年ぶりに増加。一方で、(経済政策)(81)は3年連続大幅減少、(会計ファイナンス)(83)も大幅減少。</li> <li>○<b>経営(87)</b>は、5年連続減少、志願者数は2,500人を下回った。学科別では、(国際経営)(83)は大幅減少で4年ぶりに減少、(経営)(89)は5年連続減少。</li> <li>○<b>社会(84)</b>は、大幅減少。学科別では、3学科とも減少し、(現代文化)(75)、(メディア社会)(85)は大幅減少、(社会)(89)は減少で、いずれも2年連続減少。</li> <li>○<b>観光(94)</b>は、やや減少で5年連続減少。学科別では、(観光)(112)は前年度大幅減少の反動で増加。一方で、(交流文化)(75)は大幅減少で前年度の反動による増減が継続。</li> <li>○学部改組の<b>コミュニティ福祉(115)</b>は、前年度の(スポーツウエルネス)を除いた比較では大幅増加。学科別では、(コミュニティ政策)(156)は募集人員が47%増加に加えて、前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(福祉)(76)は募集人員が12%減少もあり、大幅減少。</li> <li>○<b>異文化コミュニケーション(87)</b>は、系統への低い人気もあって減少で2年連続減少。</li> <li>○<b>理(95)</b>は、やや減少。学科別では、4学科中で増加は(物理)の1学科のみ。他の3学科は減少で、(数)(74)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(化)(92)は減少、(生命理)(97)はやや減少。</li> <li>○新設の<b>スポーツウエルネス(147)</b>は、前年度のコミュニティ福祉(スポーツウエルネス)との比較では、募集人員が84%増加もあり大幅増加。志願者数は1,088人と5年ぶりに1,000人を上回ったが、募集人員増加により、志願倍率は15.1倍→12.1倍にダウン。</li> </ul>	
<p>&lt;共通テスト利用方式&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○<b>文(99)</b>は、2年連続で前年度並。学科・専修別では、(文/ドイツ文学)(291)は2年連続大幅減少の反動で3倍近い激増、(文/日本文学)(119)は4年連続減少の反動で大幅増加、(文/フランス文学)(108)は増加で2年連続増加。一方で、(キリスト教)(54)は大幅減少で3年連続減少となり志願者数は60人を下回った。(史)(74)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(文/文芸・思想)(79)は2年連続増加の反動で大幅減少、(文/英米文学)(84)は大幅減少で2年連続減少。</li> <li>○<b>現代心理(90)</b>は、2年連続減少。学科別では、(映像身体)(86)は3年連続減少、(心理)(93)はやや減少で2年連続減少。</li> <li>○<b>法(58)</b>は、2年連続増加の反動で大幅減少。学科別では3学科とも大幅減少で、(国際ビジネス法)(23)は前年度6倍以上の激増の反動で激減、前年度の反動による増減も継続。法(80)、(政治)(85)はいずれも2年連続増加の反動で大幅減少。</li> <li>○<b>経済(158)</b>は、大幅増加で3年連続増加。学科別では、(経済)(198)はほぼ倍増、(会計ファイナンス)(131)は3年連続減少の反動で大幅増加。一方で、(経済政策)(98)は2年連続大幅増加の反動は小さく微減。</li> <li>○<b>社会(103)</b>は、やや増加で3年連続増加。学科別では、(現代文化)(127)、(メディア社会)(117)はいずれも大幅増加。一方で、(社会)(77)は2年連続増加の反動で大幅減少。</li> <li>○<b>観光(102)</b>は、前年度大幅増加の反動はなく前年度並。学科別では、(観光)(180)は前年度大幅減少の反動で激増、2021年度以降は反動による大幅な増減が継続。一方で、(交流文化)(50)は前年度2倍以上の激増の反動で半減、2018年度以降は反動による大幅な増減が継続。</li> <li>○学部改組の<b>コミュニティ福祉(107)</b>は2022年度の(スポーツウエルネス)を除いた比較ではやや増加。学科別では、(コミュニティ政策)(134)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、2021年度以降は反動による大幅な増減が継続。一方で、(福祉)(81)は大幅減少で2年連続減少。</li> <li>○<b>理(130)</b>は、2年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、(生命理)(169)は前年度大幅減少の反動で激増、(物理)(154)は2年連続減少の反動で大幅増加。一方で、(化)(95)はやや減少で3年連続減少。(数)(98)は2年連続増加の反動は小さく微減。</li> <li>○新設の<b>スポーツウエルネス(127)</b>は、2022年度のコミュニティ福祉(スポーツウエルネス)との比較では、募集人員の倍増もあり大幅増加。志願者数は721人と4年ぶりに700人を上回ったが、募集人員増加により、志願倍率は37.9倍→24.0倍にダウン。</li> </ul>	

駒澤大：一般方式は前年度並、共テ利用は大幅増加

一般：-8人 共テ：+1,491人

※前年度の志願者数を100とする指数  
 ※学部名の下の数値は学部全体の指数



主な入試変更点 選抜方法：医療健康科学(診療放射線技術科学)…<一般・T方式(3月)>廃止

COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、1,483人(105)のやや増加で、志願者数は4年ぶりに30,000人を上回った。方式別では、一般方式は8人(100)の微減で前年度並。共通テスト利用方式は1,491人(115)の大幅増加で、志願者数は2年ぶりに11,000人を上回った。

#### <一般方式>

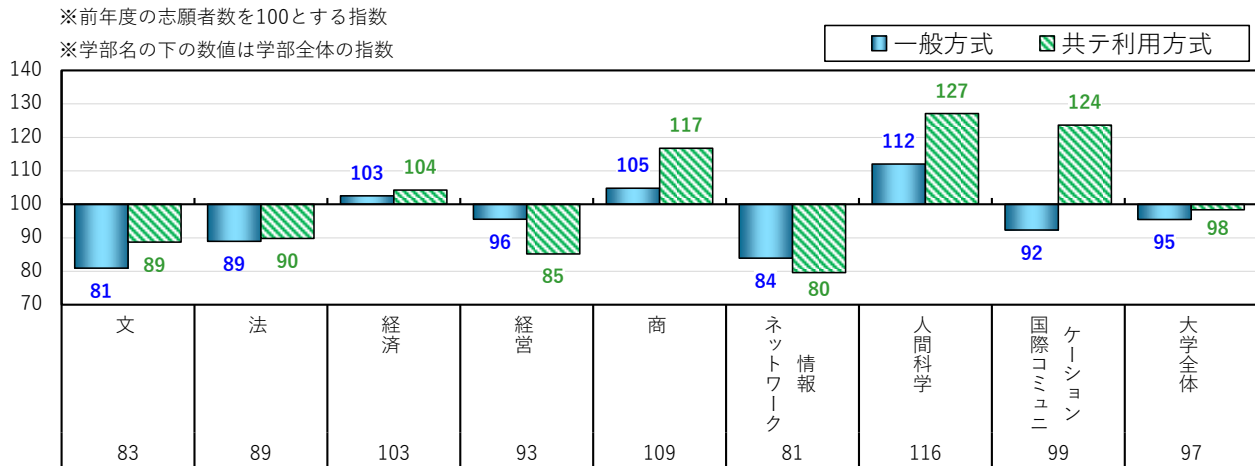
- 文(101)**は、微増だが2年連続増加。しかし、志願者数は3年連続で7,000人を下回った。学科・専攻別では、特に、(歴史/考古学)(136)は3年連続減少の反動で大幅増加。一方で、(社会/社会福祉学)(72)は大幅減少、前年度の反動による大幅増減が継続。
- 法(84)**は、2年連続増加の反動で大幅減少。志願者数は2,500人を下回った。学科別では、(法律/フレックスA)(81)は2年連続増加の反動で大幅減少、志願者数は1,600人台に減少。(政治)(89)は前年度大幅増加の反動で減少。
- 経済(109)**は、増加。学科別では、(現代応用経済)(146)は大幅増加、2016年度以降、前年度の反動による大幅増減が継続。(経済)(116)は大幅増加で2年連続増加。一方で、(商)(89)は、前年度3年連続減少の反動で増加したが、再び減少に転じた。
- 経営(110)**は、増加。志願者数は2年ぶりに3,000人を上回った。学科別では、(市場戦略)(122)は3年連続減少の反動で大幅増加、志願者数は4年ぶりに1,000人を上回った。(経営)(105)はやや増加で2年ぶりに増加に転じた。
- グローバル・メディア・スタディーズ(79)**は、2年連続増加の反動で大幅減少。方式別では、募集人員が若干名の<T方式(3月)>(111)は増加で4年ぶりの増加だが、志願者数は2年連続で50人を下回った。一方で、<S方式>(61)は2年連続大幅増加の反動で40%近い大幅減少、志願者数は400人を下回った。<T方式(2月)>(90)は前年度大幅増加の反動で減少。
- 医療健康科学(94)**は、やや減少で3年連続減少。方式別では、<T方式(3月)>が廃止となり、<T方式(2月)>と<S方式>のみの募集。廃止された<T方式(3月)>を除くと(102)の微増。<T方式(2月)>(127)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、<S方式>(73)は前年度倍増以上の反動で大幅減少と対照的。

#### <共通テスト利用方式>

- 文(118)**は、大幅増加で3年連続増加。学部・専攻別では、10学部・専攻中、(社会/社会福祉学)(39)が前年度大幅増加の反動で激減だが、他の9学部・専攻はいずれも増加。特に、(歴史/考古学)(185)の激増、(英米文)(156)の大幅増加が目立った。
- 法(81)**は、2年連続増加の反動で大幅減少。学科別では、(法律/フレックスA)(76)は大幅減少で2年連続減少、志願者数は3年ぶりに1,000人を下回った。政治(88)は2年連続大幅増加の反動で減少。
- 経済(143)**は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、3学科全てが増加。(商)(163)は前年度半減の反動で激増だが、志願者数は2年連続1,000人未満。(経済)(142)は前年度減少の反動で大幅増加。(現代応用経済)(110)は3年連続増加。
- 経営(115)**は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、(経営)(122)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。(市場戦略)(101)は前年度減少の反動はなく前年度並。
- グローバル・メディア・スタディーズ(159)**は、前年度半減以下の反動で60%近い大幅増加。反動による大幅増減が継続。
- 医療健康科学(131)**は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。



専修大：大学全体では 4 年連続減少、8 学部中 5 学部が減少 一般：-1,371 人 共テ：-258 人



**主な入試変更点** 選抜方法：経済(現代経済、生活環境経済)、商  
 …<一般前期・学部個別・選択科目重視(B方式)>新規実施  
 <一般前期・学部個別・選択科目重視(B方式)(英語外部試験利用)>新規実施  
 利用方法：得点換算 対象試験：ケンブリッジ英検、英検、GTEC、IELTS、TEAP、  
 TEAP CBT、TOEFL iBT、TOEIC LR&S  
 商…<一般前期・学部個別・英語重視(C方式)>、<一般前期・学部個別・国語重視(D方式)>新規実施  
 <一般前期・学部個別・得意科目重視(B方式)>廃止

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、1,629 人(97)のやや減少で 4 年連続減少。学部別では、(人間科学)(116)は大幅増加、(商)(109)は増加、(経済)(103)はやや増加。これらを除く 5 学部はいずれも減少、特に(ネットワーク情報)(81)、(文)(83)は大幅減少。方式別では、一般方式は 1,371 人(95)のやや減少で志願者数は 2 年ぶりに 3 万人を下回った。共通テスト利用方式は 258 人(98)の微減だが 2 年連続減少。

**<一般方式>**

- 文(81)**は、前年度増加の反動で大幅減少、志願者数は 8 年ぶりに 5 千人を下回った。学科別では、6 学科中、(哲)(103)のみやや増加。一方で、他の 5 学科はいずれも減少。(環境地理)(61)、(ジャーナリズム)(71)、(歴史)(73)はいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少、(英語英米文)(79)は前年度減少に引き続き大幅減少、(日本文学文化)(98)は微減。
- 法(89)**は、2 年連続増加の反動で減少。学科別では、(法律)(85)は 2 年連続増加の反動で大幅減少、志願者数は 3 年ぶりに 3,000 人を下回った。(政治)(100)は 2 年連続増加の反動はなく 4 人の微減で前年度並。
- 経済(103)**は、やや増加だが、新規実施の<一般前期 B 方式>を除くと(92)の減少。学科別では、(生活環境経済)(121)は大幅増加だが、新規実施の<一般前期 B 方式>を除くと(104)のやや増加で、前年度減少の反動は小さかった。一方で、(現代経済)(92)は減少だが、新規実施の<一般前期 B 方式>を除くと(78)の大幅減少、志願者数は 2020 年度の学科改組後初めて 2,000 人を下回った。(国際経済)(98)は微減だが、前年度やや減少に引き続き 2 年連続減少。
- 経営(96)**は、3 年連続やや減少。学科別では、(ビジネスデザイン)(103)はやや増加だが、2 年連続減少の反動は小さかった。一方で、(経営)(92)は減少で、2020 年度以降前年度の反動による増減が継続。
- 商(105)**は、やや増加で 4 年ぶりの増加。ただし、新規・廃止の方式を除いた既存方式のみでは(93)のやや減少。学科別では、(マーケティング)(110)は 2 年連続減少の反動で増加。一方で、(会計)(94)はやや減少で志願者数は 5 年ぶりに 1,500 人を下回った。方式別では、新規実施方式の志願者数は<一般前期 B 方式>514 人、<一般前期 C 方式>133 人、<一般前期 D 方式>454 人で合計 1,101 人だった。一方で、<一般後期>(68)は 2 年連続大幅減少。
- ネットワーク情報(84)**は、前年度 50%以上の大幅増加の反動で大幅減少。方式別では、<一般前期 F 方式>(77)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少、<スカラシップ>(89)は減少、<全国>(94)はやや減少。
- 人間科学(112)**は、3 年連続減少の反動で増加。学科別では、心理(134)は 3 年連続減少の反動で大幅増加。一方で、(社会)(97)はやや減少、増加したのは過去 5 年間で 2021 年度のみ。
- 国際コミュニケーション(92)**は、2020 年度学部新設以降 2 年目から増減の繰り返しが継続。コロナ禍の影響による系統への低い人気の影響もあって志願者数は 2,000 人余りに留まった。学科別では、(日本語)(79)は大幅減少で 2020 年度新設以降 2 年目から連続減少、(異文化コミュニケーション)(95)はやや減少で 2020 年度新設以降 2 年目から増減が継続。

**<共通テスト利用方式>**

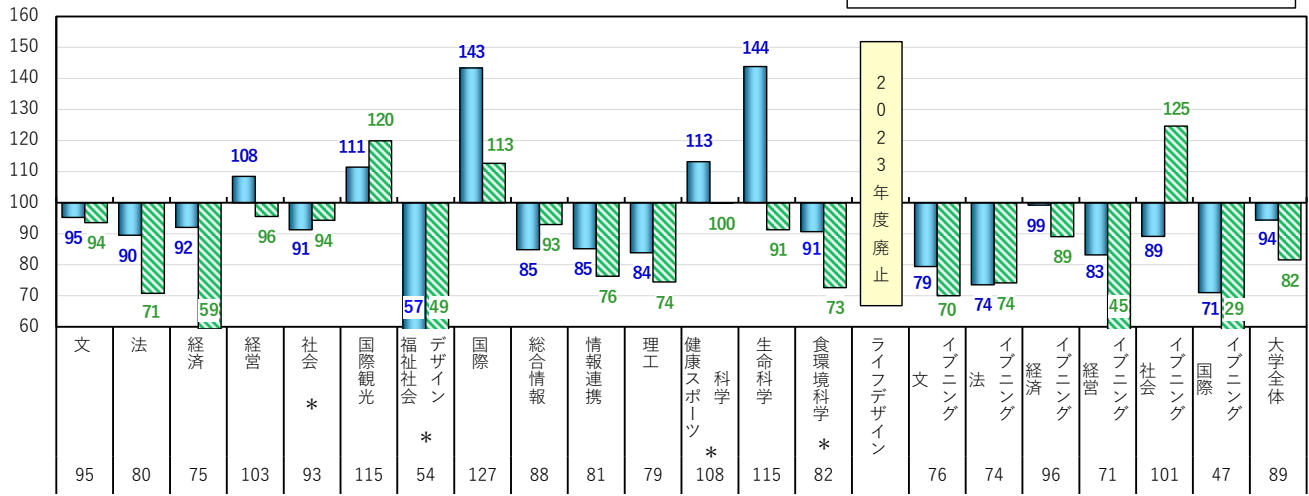
- 文(89)**は、4 年連続減少。学科別では、(環境地理)(109)は増加だが前年度大幅減少の反動は小さかった。一方で、これを除く 5 学科はいずれも減少。特に、(歴史)(72)は前年度やや増加だったが、再び 2021 年度、2020 年度と同じく大幅減少。(ジャーナリズム)(81)は 2 年連続大幅減少、(日本文学文化)(91)は前年度 4 年ぶりに増加したが再び減少、(英語英米文)(93)はやや減少で前年度 3 年ぶりに増加したが再び減少。
- 法(90)**は、2 年連続やや増加の反動で減少。学科別では、(政治)(107)はやや増加、2018 年度以降前年度の反動による増減が継続。一方で、(法律)(84)は 2 年連続増加の反動で大幅減少。志願者数は 8 年ぶりに 1,600 人を下回った。
- 経済(104)**は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加に留まった。学科別では、(生活環境経済)(145)は前年度半減以下の反動で大幅増加、2020 年度改組後は大幅な増減が継続。一方で、(国際経済)(80)は 2 年連続大幅減少、志願者数は 5 年ぶりに 900 人を下回った。(現代経済)(99)は 2020 年度の改組後 3 年連続減少。



- 経営(85)**は、大幅減少で2年連続減少。学科別では、(ビジネスデザイン)(69)は、大幅減少で2年連続減少、志願者数は2019年度の学科新設後最少。(経営)(96)やや減少で4年連続減少。
- 商(117)**は、2年連続大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、(会計)(129)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加。(マーケティング)(111)も2年連続減少の反動で増加。
- ネットワーク情報(80)**は、2年連続増加の反動で大幅減少。方式別では、特に<共テ利用前期・数学基準型>(45)は前年度大幅難化した共通テスト数学I・Aの得点を基準点としてのみ利用、総合点に加算しないことから2.6倍以上に激増した。その反動と共通テスト数学I・Aの大幅易化で半減以下。一方で、<共テ利用後期>(238)は必須の共通テスト数学I・Aが前年度大幅難化したことで半減以下だったが、一転して大幅易化により約2.4倍増。
- 人間科学(127)**は、4年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、(社会)(145)は2年連続減少の反動で45%の大幅増加。(心理)(109)は前年度減少の反動で増加。
- 国際コミュニケーション(124)**は、大幅増加で2020年度学部新設以降初めて増加。学科別では、(異文化コミュニケーション)(127)大幅増加。(日本語)(108)は増加。いずれも2年連続大幅減少の反動で、2020年度新設以降初めての増加。

**東洋大：一般は4年連続減少、共テは大幅減少** **一般：-3,029人 共テ：-8,153人**

※前年度の志願者数を100とする指数  
 ※学部名の下の数値は学部全体の指数  
 ※2022年度の追試験者(15人)を除く



\*社会は2022年度の(社会福祉)を除いた志願者数との比較、福祉社会デザインは2022年度の社会(社会福祉)、ライフデザイン(人間環境デザイン)、(生活支援)の合計との比較、健康スポーツ科学は2022年度の食環境科学(食環境科学/スポーツ・食品機能)、ライフデザイン(健康スポーツ)の合計との比較、食環境科学は2022年度の(食環境科学/スポーツ・食品機能)を除いた志願者数との比較

**主な入試変更点**

学部改組：社会(社会福祉)、ライフデザイン(人間環境デザイン、生活支援/生活支援学、子ども支援学) →福祉社会デザイン(社会福祉、子ども支援、人間環境デザイン)  
 ※社会福祉学科は白山キャンパスから赤羽台キャンパスへ移転  
 食環境科学(食環境科学/スポーツ・食品機能)、ライフデザイン(健康スポーツ) →健康スポーツ科学(健康スポーツ科学、栄養科学)

選抜方法：文(英米文)…<一般・前期4教科>新規実施  
 経済(総合政策)…<共テ・前期4科目数学重視>新規実施  
 福祉社会デザイン(社会福祉)…<共テ・後期3教科>新規実施  
 (子ども支援)…<一般・多面的評価前期3科目>、<一般・前期4教科>新規実施  
 <一般・前期3教科ベスト2>廃止  
 (人間環境デザイン)…<一般・前期4教科>新規実施  
 <一般・前期3教科ベスト2>廃止  
 国際(グローバル・イノベーション)…<一般・前期3教科英語重視>、<共テ・前期3教科英語重視>新規実施  
 情報連携(情報連携)…<一般・後期2教科(数・情報)+面接>新規実施  
 <一般・後期2教科(文系)>、<一般・後期2教科(英・情報)+面接>廃止  
 理工(機械工)…<共テ・前期5教科>新規実施  
 (電気電子情報工)…<共テ・前期3教科数学重視>新規実施  
 健康スポーツ(栄養科学)…<共テ・前期5教科>新規実施  
 <共テ・前期3教科ベスト2>廃止  
 生命科学(生命科学)…<一般・中期3教科ベスト2>新規実施  
 <共テ併用・中期3教科ベスト2>、<共テ併用・後期2教科>廃止  
 食環境科学(健康栄養)…<一般・前期3教科ベスト2>、<共テ・前期3教科ベスト2>、<共テ・中期2教科>廃止

入試科目：情報連携(情報連携)<一般・後期2教科(英・数)+面接>、<一般・後期3教科>  
 …数、外の出題範囲変更 ※いずれもマークシート方式ではない

数：数Ⅰ・Ⅱ・A・B→数：情報連携のための数学(情報連携学部での学習を進めるために必要な数Ⅰ・Ⅱ・A・B)、  
外：コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、英語表現Ⅰ・Ⅱ  
→外：情報連携のための英語(情報をテーマにした英文読解やコミュニケーションのために必要な基礎的な英語力を問う問題)

**COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数**

大学全体では、11,180人(89)の減少で志願者数は2年ぶりに9万人を下回った。方式別では、一般方式は3,027人(94)のやや減少で4年連続減少。共通テスト利用方式は8,153人(82)の大幅減少で前年度大幅増加の反動。学部別では、イブニングコースを除いた14学部中9学部で減少。特に、学部改組の福祉社会デザイン(54)は旧社会(社会福祉)、旧ライフデザイン(人間環境デザイン)、(生活支援/生活支援学、子ども支援学)との比較で40%以上の大幅減少。

**<一般方式>**

- 文(95)**は、やや減少で4年連続減少。学科・専攻別では、(教育/人間発達)(136)は大幅増加で2年連続増加だが、その他の7学科・専攻は減少。
- 法(90)**は、減少。志願者数が4,000人を下回るのは2016年度入試以来7年ぶり。学科別では、(企業法)(101)は微増で2年連続増加。一方で、(法律)(83)は大幅減少で2年連続減少。
- 経済(92)**は、減少で5年連続減少。学科別では、(総合政策)(83)は大幅減少で3年連続減少、(国際経済)(88)は前年度大幅増加の反動で減少、(経済)(99)は微減だが2年連続減少。
- 経営(108)**は、2年連続減少の反動で増加。学科別では、(経営)(140)は2年連続減少の反動で大幅増加、志願者数は3年ぶりに5,000人を上回った。一方で、(会計ファイナンス)(76)、(マーケティング)(85)はいずれも大幅減少。
- 社会(91)**は、改組前の旧(社会福祉)を除いた比較で減少。学科別では、4学科全てが減少。(国際社会)(87)は2021年度の改組後2022年度から2年連続減少、(社会)(88)は減少、(メディアコミュニケーション)(93)はやや減少。
- 国際観光(111)**は、コロナ禍の影響による系統への低い人気は継続中だが、3年連続減少の反動で増加。
- 福祉社会デザイン(57)**は学部改組されたが、前年度の社会(社会福祉)とライフデザイン(人間環境デザイン)、(生活支援/生活支援学、子ども支援学)との比較では大幅減少。学科別では、改組前と比較可能な2学科について見ると(人間環境デザイン)(63)は2年連続大幅減少、(社会福祉)(91)は前年度大幅減少に引き続き減少。
- 国際(143)**は、コロナ禍の影響による系統への低い人気は継続だが、3年連続大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、(国際地域)(144)は3年連続大幅減少の反動で大幅増加、(グローバル・イノベーション)(142)も大幅増加で、新規実施の<前期3教科英語重視>を除いても(113)の増加。
- 総合情報(85)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 情報連携(85)**は、大幅減少。募集単位別では、特に<後期2教科(英・数)+面接>(17)の激減が目立ったが、数と外の出題方式の記述式への変更による負担増が影響。
- 理工(84)**は、大幅減少。志願者数は6年ぶりに5,000人を下回った。学科別では、全ての学科で減少し6学科中4学科は大幅減少。特に、(電気電子情報工)(77)は大幅減少で3年連続減少、志願者数は5年ぶりに1,000人を下回った。
- 健康スポーツ科学(113)**は学部改組されたが、改組前の食環境科学(食環境科学/スポーツ・食品機能)とライフデザイン(健康スポーツ)との比較で増加。学科別では、(栄養科学)(129)は2年連続大幅増加だが、募集人員が23人→45人のほぼ倍増で志願倍率は10.1倍→6.7倍へダウン。(健康スポーツ)(111)は増加で2年連続増加。
- 生命科学(144)**は、大幅増加で2年連続増加。学科別では、(生命科学)(161)は激増、(応用生物科学)(125)は大幅増加。
- 食環境科学(91)**は、改組前の旧(食環境科学/スポーツ・食品機能)を除いた比較では減少。学科・専攻別では、(食環境科学/フードサイエンス)(90)、(健康栄養)(91)がいずれも減少。

**<共通テスト利用方式>**

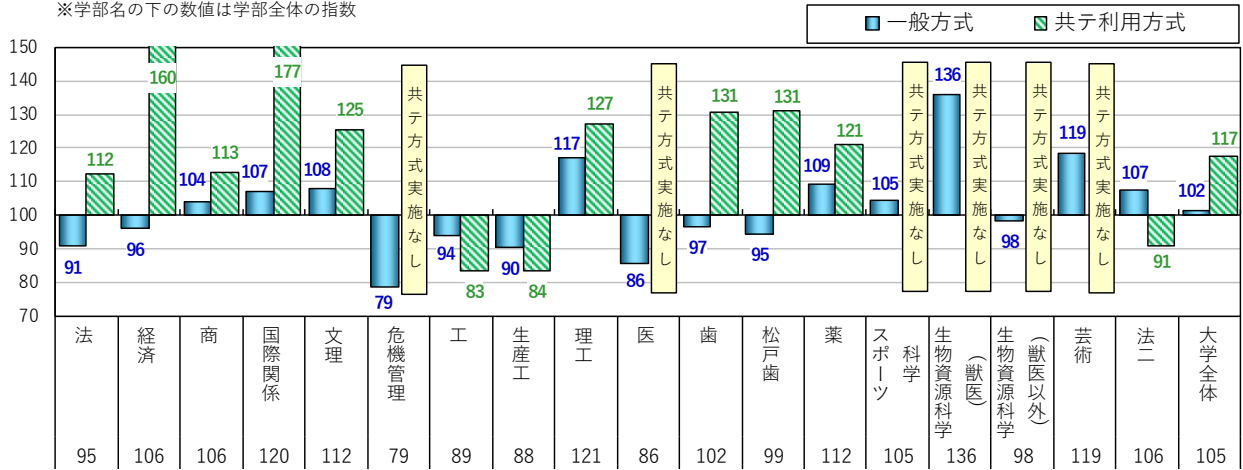
- 文(94)**は、やや減少。学科・専攻別では、(教育/人間発達)(122)は大幅増加で2年連続増加、(日本文学文化)(103)はやや増加で3年連続増加。その他の6学科・専攻は減少、特に(英文文)(75)、(教育/初等教育)(83)は大幅減少でいずれも前年度大幅増加の反動。
- 法(71)**は、前年度60%近い大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、2学科がいずれも大幅減少。特に、(企業法)(58)は前年度激増の反動で大幅減少。
- 経済(59)**は、前年度激増の反動で40%以上の大幅減少。学科別では、(国際経済)(26)は前年度3.8倍増以上の反動で激減、(総合政策)(41)も前年度激増の反動で半減以下。(経済)(96)は前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。
- 経営(96)**は、やや減少。学科別では、(会計ファイナンス)(147)は大幅増加で3年連続増加、志願者数は4年ぶりに1,300人を上回った。(マーケティング)(76)は大幅減少、(経営)(91)は減少でいずれも前年度大幅増加の反動。
- 社会(94)**は、改組前の旧(社会福祉)を除いた比較ではやや減少。学科別では、(メディアコミュニケーション)(105)はやや増加で3年連続増加。その他の3学科はいずれも減少で、特に(国際社会)(84)は大幅減少。
- 国際観光(120)**は、コロナ禍の影響による系統への低い人気は継続だが、大幅増加で2年連続増加。
- 福祉社会デザイン(49)**は学部改組されたが、前年度の社会(社会福祉)とライフデザイン(人間環境デザイン)、(生活支援/生活支援学、子ども支援学)との比較では半減以下。学科別では、改組前と比較可能な2学科について見ると(社会福祉)(54)は2年連続大幅増加の反動で大幅減少、(人間環境デザイン)(73)も大幅減少で4年連続減少。
- 国際(113)**は、コロナ禍の影響による系統への低い人気は継続だが、増加で2年連続増加。学科別では、(グローバル・イノベーション)(159)は大幅増加だが、新規実施の<共テ・前期3教科英語重視>を除くと(92)の減少。(国際地域)(97)はやや減少。
- 総合情報(93)**は、前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。
- 情報連携(76)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 理工(74)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、全ての学科で減少し6学科中5学科は大幅減少。特に(建築)(64)、(生体医工)(66)、(電気電子情報工)(70)が30%以上の大幅減少が目立った。
- 健康スポーツ科学(100)**は学部改組されたが、改組前の食環境科学(食環境科学/スポーツ・食品機能)とライフデザイン(健康スポーツ)との比較で前年度並。学科別では、(栄養科学)(111)は前年度倍増以上に引き続き増加だが、募集人員が10人→20人に増加で志願倍率は19.3倍→10.8倍へダウン。(健康スポーツ)(79)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。

- 生命科学(91)は、減少だが廃止となった併用方式を除くと(93)のやや減少。学科別では、(応用生物科学)(110)は前年度の大幅増加に引き続き増加、(生命科学)(79)は前年度激増の反動で大幅減少。
- 食環境科学(73)は、改組前の旧(食環境科学/スポーツ・食品機能)を除いた比較では大幅減少。学科・専攻別では、(健康栄養)(54)は前年度激増の反動で大幅減少。(食環境科学/フードサイエンス)(93)は、やや減少。

日本大：大学全体では3年ぶりに増加

一般：+1,119人 共テ：+3,617人

※前年度の志願者数を100とする指数  
 ※学部名の下の数値は学部全体の指数



主な入試変更点

学科改組：生物資源科学(生命農、獣医、動物資源科学、森林資源科学、海洋生物資源科学、生物環境工、応用生物科学、生命化、食品ビジネス、国際地域開発、食品生命、くらしの生物)→(バイオサイエンス、獣医、動物、海洋生物、森林、環境、アグリサイエンス、食品ビジネス、食品開発、国際共生、獣医保健看護)

選抜方法：国際関係…<一般・A個別方式第3期>新規実施  
 工、理工、薬、生物資源科学(獣医)、芸術…<一般・N全学統一方式第2期>新規実施  
 芸術(音楽/声楽、ピアノ)…<一般・N全学統一方式第1期>新規実施  
 (演劇/演技、舞台美術、舞踊)…<一般・N個別方式第1期>新規実施  
 文理(中国語中国文化)…<共テ利用・C方式第2期>廃止  
 理工…<共テ併用・CA方式>廃止  
 芸術…<一般・A個別方式第2期>廃止

COMMENT

※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、大学を取り巻く厳しい環境の緩和と2年連続減少の反動で4,736人(105)のやや増加だが、志願者数は10万人にわずかに達しなかった。方式別では、一般方式(102)は微増、共通テスト利用方式(117)は大幅増加。学部別では、17学部中11学部が増加、6学部が減少。特に、理工(121)、国際関係(120)、(芸術)(119)が大幅増加。一方で、(危機管理)(79)が大幅減少。

<一般方式>

- 法(91)は、前年度やや増加の反動で減少。学科別では、5学科中4学科が減少。公共政策(102)は微増だが2年連続増加。一方で、(経営法)(74)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(新聞)(87)は3年連続減少、(法律)(93)は前年度増加の反動でやや減少、(政治経済)(94)はやや減少で3年連続減少。
- 経済(96)は、やや減少で2019年度以降前年度の反動による増減が継続。学科別では、3学科全て減少。(産業経営)(86)は減少で2019年度以降前年度の反動による増減が継続。(金融公共経済)(95)はやや減少で5年連続減少、(経済)(99)は微減だが2019年度以降前年度の反動による増減が継続。
- 商(104)は、3年連続やや減少の反動は小さくやや増加。学科別では、(会計)(110)、(経営)(108)はいずれも2年連続増加。一方で、(商業)(99)は微減だが2年連続減少。
- 国際関係(107)は、2年連続減少の反動と<一般A3期>の新規実施でやや増加、既存の方式のみでは(99)の微減。学科別では、(国際総合政策)(113)は2年連続減少の反動で増加。(国際教養)(100)は2年連続減少の反動はなく、前年度並。
- 文理(108)は、3年ぶりに増加。学科別では、18学科中11学科が増加、7学科が減少。特に、(ドイツ文)(201)は2年連続大幅減少の反動で倍以上、志願者数は500人を上回った。(哲)(128)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(社会福祉)(122)は前年度減少の反動で大幅増加、(英文)(117)、(国文)(115)はいずれも2年連続減少の反動で大幅増加。一方で、(中国語中国文化)(82)は4年連続増加の反動で大幅減少、(物理)(84)は大幅減少で2年連続減少。
- 危機管理(79)は、大幅減少。2016年度の学部新設以降、前年度の反動による増減が継続。方式別では、<全学N2期>(74)は大幅減少で4年連続減少、<一般A方式>(78)、<全学N1期>(80)はいずれも大幅減少。
- 工(94)は、やや減少で3年連続減少。学科別では、6学科中減少が4学科、増加が1学科、前年度と同数が1学科。特に(電気電子工)(65)は6年連続増加の反動で大幅減少。一方で、(土木工)(131)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加。
- 生産工(90)は、減少で2019年度以降前年度の反動による増減が継続。学科別では、9学科中8学科が減少。特に(環境安全工)(75)は大幅減少で3年連続減少、(電気電子工)(76)、(創生デザイン)(80)はいずれも前年度やや増加の反動で大幅減少。



一方で、(建築工)(111)は2年連続減少の反動で唯一の増加。

- 理工(117)**は、2年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、14学科中13学科が増加で、その中の9学科が大幅増加。特に25%以上の増加は、(交通システム工)(149)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(電気工)(144)、(まちづくり工)(129)、(航空宇宙工)(127)はいずれも2年連続減少の反動で大幅増加。一方で(数)(85)は3年連続増加の反動で大幅減少。
- 医(86)**は、5年連続減少。方式別では、新設2年目の<全学N2期>(76)は大幅減少、前年度から<一般A方式>の廃止に伴い、募集人員90人となった<全学N1期>(91)は減少で、志願倍率は22.8倍→20.7ダウン。
- 歯(97)**は、前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。方式別では、<一般A方式>(95)はやや減少で4年連続減少。新設2年目の<全学N2期>(97)はやや減少、<全学N1期>(98)も前年度激増の反動はなく微減。
- 松戸歯(95)**は、前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。方式別では、<一般A2期>(63)は4年連続大幅減少、新設2年目の<全学N2期>(98)は1人の微減、<全学N1期>(99)は前年度激増した反動はなく前年度並。
- 薬(109)**は、増加で5年ぶりに増加に転じた。方式別では、新設の<全学N2期>は募集人員2人、志願者数105人で志願倍率は52.5倍の高倍率だった。既存の<全学N1期>(98)は前年度大幅増加の反動はなく微減、<一般A方式>(99)は微減だが5年連続減少。
- スポーツ科学(105)**は、2年連続やや増加。方式別では、3方式の全てが増加。<一般A方式>(109)は2年連続減少の反動で増加、<全学N2期>(104)はやや増加で2年連続増加、<一般N1期>(101)は前年度大幅増加の反動はなく微増。
- 生物資源科学(106)**は、学科改組により募集人員が34人(5%)減少したが、やや増加で2年連続増加。前年度との比較可能な2学科について見ると、(獣医)(136)は大幅増加、(食品ビジネス)(80)は大幅減少。

#### <共通テスト利用方式>

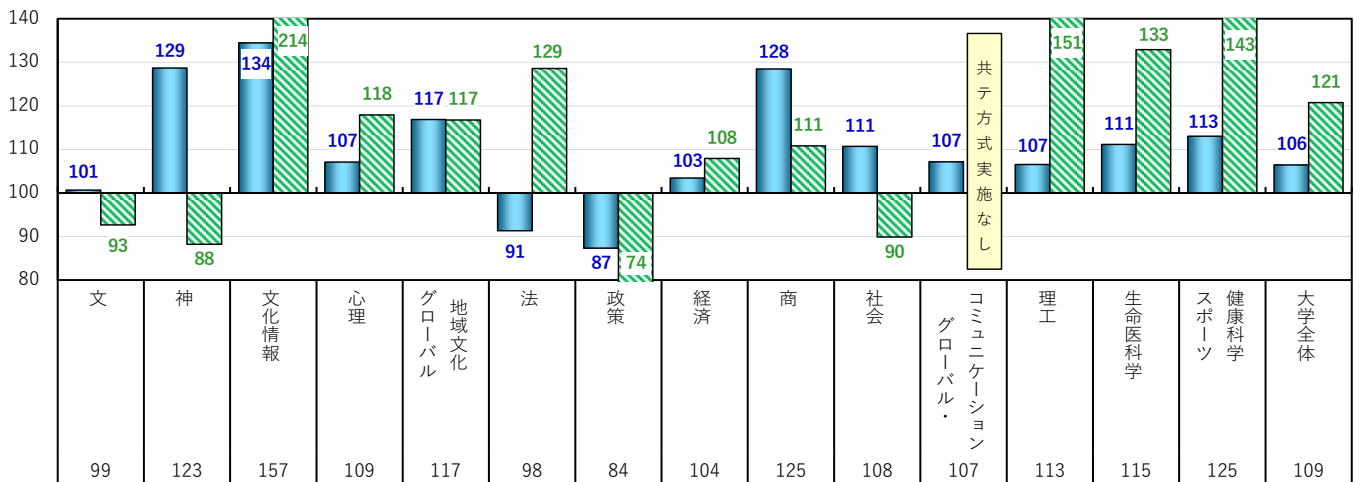
- 法(112)**は、2年連続減少の反動で増加。学科別では、(政治経済)(159)は2年連続大幅減少の反動でほぼ60%の大幅増加、(法律)(123)も大幅増加で2年連続増加、(公共政策)(113)は2年連続減少の反動で増加。一方で、(新聞)(49)は半減以下、前年度の反動による増減が継続、志願者数は200人を下回った。
- 経済(160)**は、2年連続大幅減少の反動で激増。学科別では、(経済)(215)は、2年連続減少の反動で倍以上。一方で、(金融公共経済)(66)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、志願者数は200人を下回った。(産業経営)(86)は前年度大幅増加の反動で減少。2019年度以降は前年度の反動による増減が継続。
- 商(113)**は、2年連続増加、志願者数は4年ぶりに2,000人を上回った。学科別では、(商業)(179)は前年度大幅減少の反動で80%近い激増、2018年度以降は前年度の反動による増減が継続。一方で、(会計)(64)は前年度50%以上の大幅増加の反動で大幅減少、(経営)(84)も前年度大幅増加の反動で大幅減少、2017年度以降7年間で6年が減少。
- 国際関係(177)**は、2年連続大幅減少の反動で激増だが、コロナ禍による系統への低い人気からコロナ禍以前の2020年度対比では(72)の大幅減少。学科別では、(国際総合政策)(218)は2年連続大幅減少の反動で倍以上、(国際教養)(142)は4年連続減少の反動で大幅増加。しかしながら、2020年度対比では(国際総合政策)は(66)、(国際教養)(82)といずれも大幅減少で、コロナ禍以前の志願者数への回復は見られない。
- 文理(125)**は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、18学科中15学科が増加。特に、(地球科学)(182)、(英文)(166)はいずれも前年度大幅減少の反動で激増、(心理)(152)は2年連続大幅減少の反動で50%以上の大幅増加。一方で、(中国語中国文化)(32)は2年連続大幅増加の反動で激減。
- 工(83)**は、大幅減少で3年連続減少。学科別では、6学科中(土木工)(108)のみ増加で、これを除く5学科はいずれも減少。特に、(電気電子工)(64)、(生命応用化)(68)の2学科は大幅減少。
- 生産工(84)**は、大幅減少で3年連続減少。学科別では、9学科中2学科のみが増加。(建築工)(123)、(数理情報工)(118)はいずれも2年連続大幅減少の反動で大幅増加。一方で減少した7学科では、(環境安全工)(35)は前年度大幅増加の反動でほぼ3分の1の激減、(電気電子工)(64)、(応用分子化)(73)、(マネジメント工)(79)、(機械工)(81)の5学科は大幅減少。
- 理工(127)**は、2年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、14学科中11学科が増加、その中の7学科が大幅増加。特に、(電気工)(190)、(建築)(171)、(航空宇宙工)(169)の3学科は激増で、いずれも前年度大幅減少の反動。一方で、減少した3学科の減少率は低く、最も高い(海洋建築工)(90)でも10%の減少。
- 歯(131)**は、3年連続減少の反動で大幅増加、志願倍率は3年ぶりに15倍を上回った。方式別では、共通テスト実施後が出願締切日の<共テ利用C2期>(174)は共通テストの平均点アップの影響を大きく受けて大幅増加。
- 松戸歯(131)**は、2年連続大幅増加。共通テスト実施後が出願締切日の<共テ利用C2期>(218)は共通テストの平均点アップの影響を大きく受けて大幅増加、<共テ利用C1期>(112)は前年度大幅増加に引き続き増加。
- 薬(121)**は、大幅増加で2年連続増加したが、志願者数は4年連続で400人を下回ったが、募集人員が2人減少で志願倍率は4年ぶりの40倍台。



同志社大：大学全体で2年連続増加、14 学部中 11 学部で増加 一般：+2,431 人 共テ：+1,687 人

※前年度の志願者数を100とする指数  
 ※学部名の下の数値は学部全体の指数

■ 一般方式 ■ 共テ利用方式



主な入試変更点	学費改定：(1年次入学金含む、諸会費除く)
	文、神、グローバル地域文化、法、政策、経済、商、社会 1年次：1,219,000 円、2年次以降4年次まで：3,195,000円、4年間総額：4,414,000 円 →1年次：1,115,000 円、2年次以降4年次まで：3,345,000円、4年間総額：4,460,000 円 文化情報 1年次：1,315,000 円、2年次以降4年次まで：3,541,000円、4年間総額：4,856,000 円 →1年次：1,237,000 円、2年次以降4年次まで：3,711,000 円、4年間総額：4,948,000 円 心理 1年次：1,366,000 円、2年次以降4年次まで：3,760,000 円、4年間総額：5,126,000 円 →1年次：1,295,000 円、2年次以降4年次まで：3,885,000 円、4年間総額：5,180,000 円 グローバル・コミュニケーション 1年次：1,341,000 円、2年次以降4年次まで：3,585,000 円、4年間総額：4,926,000 円 →1年次：1,245,000 円、2年次以降4年次まで：3,735,000 円4年間総額：4,980,000 円 理工(数理システム) 1年次：1,676,000 円、2年次以降4年次まで：4,730,000 円、4年間総額：6,406,000 円 →1年次：1,618,000 円、2年次以降4年次まで：4,854,000 円、4年間総額：6,472,000 円 理工(数理システム除く)、生命医科学 1年次：1,734,000 円、2年次以降4年次まで：4,979,000 円、4年間総額：6,713,000 円 →1年次：1,695,000 円、2年次以降4年次まで：5,085,000 円、4年間総額：6,780,000 円 スポーツ健康科学 1年次：1,335,000 円、2年次以降4年次まで：3,691,000 円、4年間総額：5,026,000 円 →1年次：1,270,000 円、2年次以降4年次まで：3,810,000 円、4年間総額：5,080,000 円

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、共通テストの難易変化への不安もあって難関国立大志願者から併願先として狙われた結果、4,118 人(109)の増加で2年連続増加。学費改定(4年間総額では値上げ)の影響はなかった。方式別では、一般方式(106)は2年連続やや増加、共通テスト利用方式(121)は大幅増加だが志願者数1万人には届かなかった。学部別では、14 学部中 11 学部で増加。特に、文化情報(157)、商(125)、スポーツ健康科学(125)、神(123)、グローバル地域文化(117)、生命医科学(115)はいずれも大幅増加、理工(113)、心理(109)、社会(108)は増加。一方で、政策(84)は大幅減少。

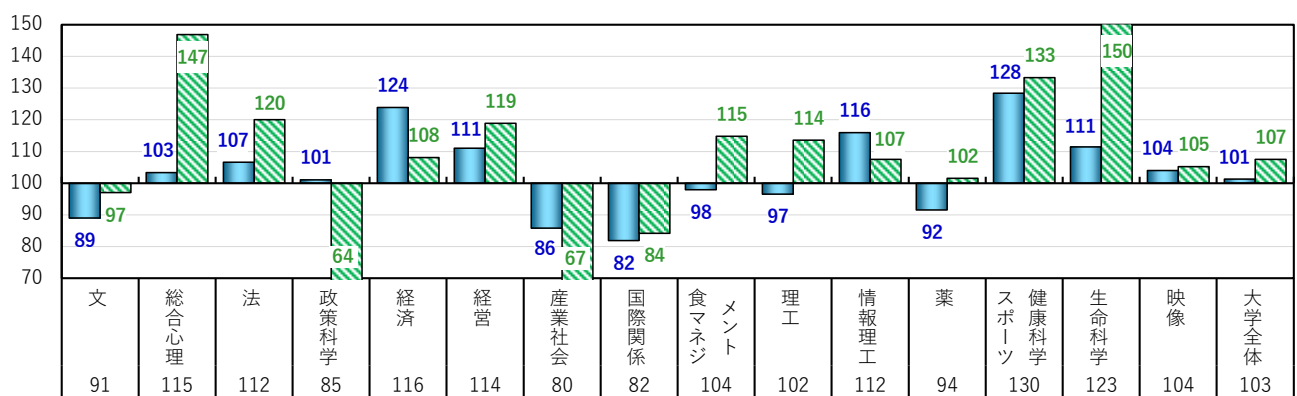
- <一般方式>
- 文(101)は、前年度並。学科別では、(文化史)(129)は大幅増加で志願者数は5年ぶりに1,000人を上回った。(英文)(105)はやや増加で2年連続増加。一方で、(国文)(74)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。(哲)(95)、(美学芸術)(95)はいずれも前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。
  - 文化情報(134)は、大幅増加で5年ぶりに増加。方式別では、<学部理系>(138)、<全学文系>(135)、<学部文系>(135)、<全学理系>(127)と全方式で大幅増加。
  - 心理(107)は、やや増加で5年ぶりに増加。方式別では、<全学理系>(126)は大幅増加、<学部個別>(106)、<全学文系>(105)はいずれもやや増加。
  - グローバル地域文化(117)は、コロナ禍の影響による系統への低い人気から2年連続減少した反動で大幅増加。コース別では、(グローバル地域文化/ヨーロッパ)(136)、(グローバル地域文化/アジア・太平洋)(122)はいずれも大幅増加。一方で、(グローバル地域文化/アメリカ)(81)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
  - 法(91)は、前年度大幅増加の反動で減少。学科別では、2学科でとも減少で、(法律)(91)は前年度大幅増加の反動で減少、(政治)(91)は2年連続増加の反動で減少。
  - 政策(87)は、減少で3年連続減少。
  - 経済(103)は、やや増加で2年連続増加。方式別では、<全学文系>(107)はやや増加で志願者数は4年ぶりに2,000人を上回った。<学部個別>(101)は微増だが2年連続増加。

- 商(128)は、前年度減少に反動で大幅増加。コース別では、(商/フレックス複合)(180)は5年連続減少の反動で激増、(商/商学総合)(122)は前年度減少の反動で大幅増加。
- 社会(111)は、2年連続増加。学科別では、(産業関係)(140)、(教育文化)(132)はいずれも大幅増加で2年連続増加、(社会)(126)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(社会福祉)(63)は前年度70%以上の激増の反動で大幅減少。
- グローバル・コミュニケーション(107)は、コロナ禍の影響による系統への低い人気から2年連続減少した反動は小さくやや増加に留まった。コース別では、(グローバル・コミュニケーション/中国語)(153)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(グローバル・コミュニケーション/英語)(96)はやや減少で5年連続減少。
- 理工(107)は、2年連続やや増加。学科別では、(電子工)(122)、(機械理工)(119)はいずれも大幅増加、(機能分子・生命化)(114)、(機械システム工)(113)、(情報システムデザイン)(110)はいずれも増加。一方で、(インテリジェント情報工)(88)は減少。
- 生命医科学(111)は、3年連続減少の反動で増加。学科別では、(医生命システム)(122)は2年連続減少の反動で大幅増加、(医情報)(118)は大幅増加で2年連続増加。一方で、(医工)(94)はやや減少で2年連続減少。
- スポーツ健康科学(113)は、2年連続増加。方式別では、<学部文系>(100)の志願者数が前年度と同数だったのを除き、他の3方式はいずれも増加。特に、<学部理系>(145)、<全学理系>はいずれも大幅増加。

- <共通テスト利用方式>**
- 文(93)は、前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。学科別では、5学科中増加したのは(文化史)(110)1学科のみで2年連続増加。一方で、(哲)(74)、(国文)(83)はいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少。
  - 文化情報(214)は、2年連続大幅減少の反動で2倍以上の激増。
  - 心理(118)は、2年連続大幅減少の反動で大幅増加。
  - グローバル地域文化(117)は、コロナ禍の影響による系統への低い人気から3年連続減少した反動で大幅増加。コース別では、(グローバル地域文化/ヨーロッパ)(138)は3年連続減少の反動で大幅増加、(グローバル地域文化/アメリカ)(118)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(グローバル地域文化/アジア・太平洋)(93)はやや減少で2年連続減少。
  - 法(129)は、2年連続大幅増加。学科別では、2学科でとも大幅増加で、(政治)(178)は大幅増加で2年連続増加、(法律)(120)は2年連続大幅増加で志願者数は4年ぶりに1,000人を上回った。
  - 政策(74)は、大幅減少で志願者数は6年ぶりに400人を下回った。
  - 経済(108)は、3年連続増加。
  - 商(111)は、2年連続増加。
  - 社会(90)は、前年度大幅増加の反動で減少。学科別では、大幅な増減に分かれた。(産業関係)(343)は3年連続大幅減少の反動で3倍以上の激増となり志願者数が3年ぶりに20人を上回った。(社会)(222)は2年連続大幅減少の反動で倍以上、(メディア)(119)は3年連続減少の反動で大幅増加だが、志願者数は4年連続30人台。一方で、(教育文化)(47)は前年度倍以上の反動で半減以下、(社会福祉)(85)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
  - 理工(151)は、3年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、10学科全てが増加で、7学科が大幅増加。特に(電子工)(255)は2.5倍以上の激増で6年ぶりに増加。(機械システム工)(177)、(機械理工)(175)、(機能分子・生命化)(172)、(情報システムデザイン)(166)、(化学システム創生工)(136)、(環境システム)(115)はいずれも大幅増加。
  - 生命医科学(133)は、3年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、(医生命システム)(155)は3年連続減少の反動で大幅増加、(医工)(150)は4年連続減少の反動で大幅増加。一方で、(医情報)(90)は前年度の大幅増加の反動で減少し、志願者数も100人を下回った。
  - スポーツ健康科学(143)は、3年連続減少の反動で大幅増加。

**立命館大：大学全体では2年連続増加、15学部中10学部で増加 一般：+732人 共テ：+2,315人**

※前年度の志願者数を100とする指数  
 ※学部名の下の数値は学部全体の指数



**主な入試変更点**

選抜方法：総合心理…<理系型3教科>、<共テ・3教科型>新規実施  
 <学部個別・理科1科目型>廃止

募集人員：法…<全学統一・文系>185人→200人、<学部個別・文系型>65人→70人、  
 <共テ併用>65人→40人、<後期分割>22人→20人  
 <共テ・7科目型、5教科型、3教科型>合わせて113人→合わせて120人

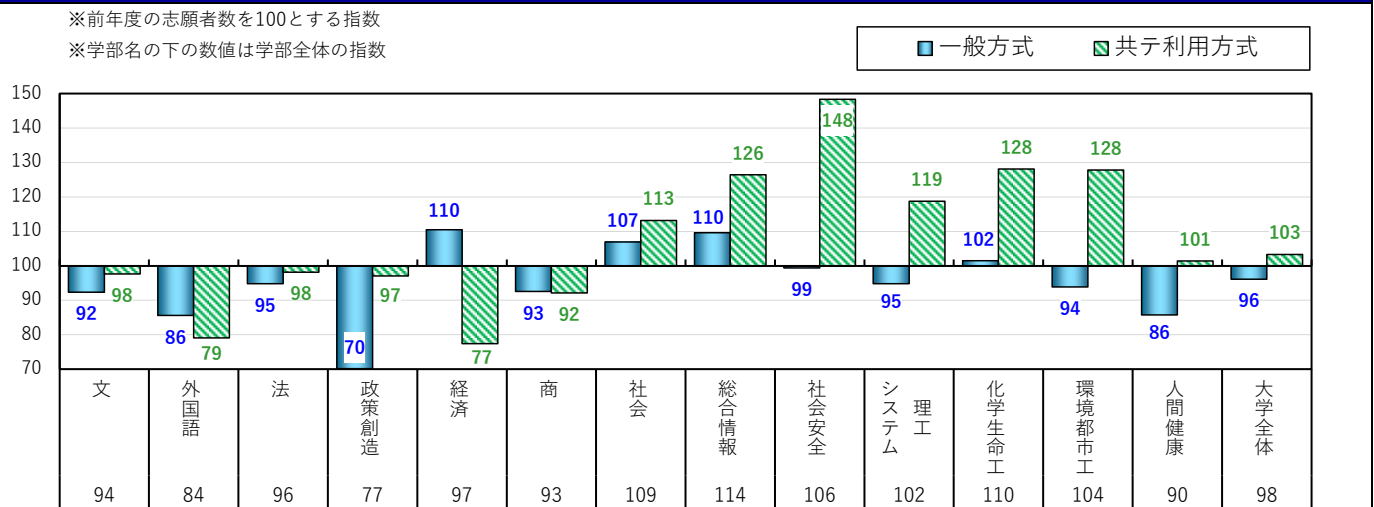
配点変更：産業社会(現代社会)<学部個別・文系型>…国<100>+外<100>+(歴公 or 数)<200>=総点<400>  
 →国<150>+外<150>+(歴公 or 数)<200>=総点<500>

	<p>入試科目：産業社会(現代社会)&lt;共テ併用・3教科型&gt;…&lt;共テ&gt;(歴公 or 数) ※高得点1科目採用          &lt;個&gt;国+外          →&lt;共テ&gt;国+(歴公 or 数) ※選択は高得点1科目採用          &lt;個&gt;国+外          &lt;共テ・3教科型&gt;…外+(国 or 歴公 or 数 or 理・理基2)→2          ※選択は高得点2科目採用          ※公、数はそれぞれ高得点1科目採用          →国+外+(歴公 or 数 or 理・理基2)          ※選択は高得点1科目採用</p>
<p><b>COMMENT</b> ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数</p>	
<p>大学全体では、2021 年度大幅減少の反動で前年度増加に続き 3,047 人(103)のやや増加。方式別では、一般方式は 732 人(101)の微増、共通テスト利用方式は 2,315 人(107)のやや増加。学部別では、15 学部中 10 学部が増加で、スポーツ健康科学(130)、生命科学(123)、経済(116)、総合心理(115)が大幅増加。一方で、産業社会(80)、国際関係(82)、政策科学(85)が大幅減少。</p>	
<p>&lt;一般方式&gt;          ○<b>文(89)</b>は、減少。学域別では、(人文/地域研究)(143)は2年連続減少の反動で大幅増加、(人文/国際コミュニケーション)(109)は増加。一方で、(人文/国際文化)(74)は系統への低い人気もあって大幅減少で3年連続減少。志願者数も1,000人を下回った。(人文/人間研究)(78)、(人文/東アジア研究)(79)、(人文/言語コミュニケーション)(80)、(人文/日本文学研究)(80)はいずれも大幅減少。          ○<b>総合心理(103)</b>は、やや増加で2年連続増加。新規実施の&lt;理系型3教科&gt;を除くと(98)の微減。方式別では、&lt;全学統一・文系&gt;(111)は増加。一方で、&lt;後期分割&gt;(80)、&lt;学部個別・文系型&gt;(85)はいずれも大幅減少。          ○<b>法(107)</b>は、やや増加で2年連続増加。方式別では、&lt;全学統一・文系&gt;(109)は増加で2年連続増加。一方で、&lt;学部個別・文系型&gt;(95)はやや減少で2年連続減少。          ○<b>政策科学(101)</b>は、4年連続減少の反動はなく微増。方式別では、&lt;学部個別・文系型&gt;(136)は大幅増加、&lt;全学統一・文系&gt;(114)は増加。一方で、&lt;後期分割&gt;(50)は半減。          ○<b>経済(124)</b>は、大幅増加で2年連続増加。専攻別では、(経済/経済)(125)、(経済/国際)(119)はいずれも大幅増加。          ○<b>経営(111)</b>は、2年連続減少の反動で増加。学科別では、(経営)(112)、(国際経営)(108)はいずれも増加。          ○<b>産業社会(86)</b>は、前年度増加の反動で減少。専攻別では、5専攻とも減少で、(現代社会/人間福祉)(79)は大幅減少で志願者数が2012年度以降最少の620人だった。(現代社会/子ども社会)(83)、(現代社会/現代社会)(83)、(現代社会/スポーツ社会)(84)はいずれも大幅減少、(現代社会/メディア社会)(99)は唯一微減に留まった。          ○<b>国際関係(82)</b>は、大幅減少で前年度の反動による増減が継続。専攻別では、2専攻とも大幅減少で、(国際関係/グローバル・スタディーズ)(65)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(国際関係/国際関係)(85)も大幅減少。          ○<b>食マネジメント(98)</b>は、前年度2018年度の新設以降で初めて増加したが微減に戻った。方式別では、&lt;学部個別・文系型&gt;(111)は増加で3年連続増加、&lt;全学統一・文系&gt;(105)はやや増加で2018年度新設以降初めての増加。一方で、&lt;後期分割&gt;(65)は大幅減少、&lt;理系型3教科&gt;(97)はやや減少。          ○<b>理工(97)</b>は、やや減少。2020年度以降前年度の反動での増減が継続。学科・コース別では、(数理学/データサイエンス)(145)は系統への高い人気もあり、2020年度の新設以降で初めての増加で大幅増加、(ロボティクス)(118)は大幅増加。一方で、(電子情報工)(84)は大幅減少、(環境都市工)(86)、(建築都市デザイン)(88)、(電気電子工)(89)はいずれも前年度大幅増加の反動で減少。          ○<b>情報理工(116)</b>は、系統の高い人気もあり2年連続大幅増加。          ○<b>薬(92)</b>は、前年度激増の反動で減少。2019年度以降前年度の反動での増減が継続。学科別では、(創薬科学)(88)は前年度2.6倍の反動で減少、(薬)(94)は前年度大幅増加の反動は小さくやや減少に留まった。          ○<b>スポーツ健康科学(128)</b>は、大幅増加で2年連続増加。方式別では、全ての方式で増加し、&lt;学部個別・文系型&gt;(141)、&lt;全学統一・文系&gt;(129)はいずれも大幅増加。          ○<b>生命科学(111)</b>は、2年連続増加。学科別では、4学科とも増加で、(応用化)(112)、(生物工)(112)、(生命医科学)(111)、(生命情報)(110)はいずれも増加。          ○<b>映像(104)</b>は、やや増加で4年ぶりに増加。方式別では、&lt;学部個別・文系型&gt;(121)は大幅増加、&lt;全学統一・文系&gt;(108)は増加。一方で、&lt;後期分割&gt;(72)は2年連続大幅減少、&lt;学部個別・理科1科目型&gt;(87)は減少。</p>	
<p>&lt;共通テスト利用方式&gt;          ○<b>文(97)</b>は、前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。学域別では、(人文/地域研究)(139)は大幅増加で2年連続増加、(人文/国際コミュニケーション)(126)は2年連続大幅増加。一方で、(人文/言語コミュニケーション)(78)は前年度倍以上の反動で大幅減少、(人文/国際文化)(81)は大幅減少で、志願者数は500人を下回った。(人文/人間研究)(85)も大幅減少。          ○<b>総合心理(147)</b>は、2年連続大幅増加で、志願者数は6年ぶりに1,000人を上回った。          ○<b>法(120)</b>は、大幅増加で4年ぶりに増加。          ○<b>政策科学(64)</b>は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。          ○<b>経済(108)</b>は、増加。専攻別では、(経済/経済)(105)はやや増加だが、(経済/国際)(184)は前年度半減以上の反動で激増。          ○<b>経営(119)</b>は、2年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、(経営)(119)、(国際経営)(119)はいずれも大幅増加。(経営)は3年ぶりの増加だが、(国際経営)は2年連続増加。          ○<b>産業社会(67)</b>は、&lt;共テ併用・3教科型&gt;、&lt;共テ・3教科型&gt;でいずれも国が選択から必須になったこともあり、大幅減少で3年連続減少。専攻別では、5専攻全てが大幅減少。特に(現代社会/人間福祉)(60)は3年連続大幅減少で、志願者数は220人を下回った。(現代社会/現代社会)(65)も大幅減少で、志願者数は1,000人を下回った。          ○<b>国際関係(84)</b>は、(国際関係)のみの募集。系統への低い人気も影響して、大幅減少で6年連続減少。志願者数は500人を下回った。</p>	



- 食マネジメント(115)**は、大幅増加で、志願者数は4年ぶりに900人を上回った。
- 理工(114)**は、2年連続増加。学科別・コース別では、(数理科学/データサイエンス)(325)は系統への高い人気もあり3.2倍以上、(ロボティクス)(158)、(機械工)(133)はいずれも大幅増加。一方で、(電子情報工)(76)は大幅減少で8年ぶりに600人を下回った。
- 情報理工(107)**は、やや増加で前年度の微増に引き続き2年連続増加。
- 薬(102)**は、前年度並。学科別では、(薬)(111)は増加で2年連続増加。一方で、(創薬科学)(85)は前年度激増の反動で大幅減少。
- スポーツ健康科学(133)**は、2年連続大幅増加。方式別では、<後期型>(71)以外は全ての方式で増加。特に、<共テ併用>(169)は大幅増加で、志願者数は5年ぶりに300人を上回った。
- 生命科学(150)**は、2年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、4学科とも大幅増加で、(生物工)(188)は3年連続減少の反動で激増、(生命情報)(161)は激増で2年連続増加。(応用化)(139)、(生命医科学)(124)はいずれも2年連続減少の反動で大幅増加。
- 映像(105)**は、やや増加。方式別では、<共テ・5教科型>(128)は大幅増加で2年連続増加。一方で、<共テ・後期型>(82)は2年連続大幅減少

**関西大：大学全体では4年連続減少、13学部中7学部で減少 一般：-2,209人 共テ：+724人**



**主な入試変更点** 選抜方法：経済…<共テ併用・2科目型(小論文)>、<共テ・前期3科目型>新規実施  
 <共テ・前期3科目型(ベスト3科目傾斜配点方式)>廃止  
 総合情報…<全学2教科選択型>→<全学(2教科型・英国方式)>、<全学(2教科型・英数方式)>、<全学(2教科型・国数方式)>  
 システム理工、化学生命工、環境都市工…<全学・理科設問選択方式(理数重視)>新規実施  
 <全学・理数設問選択方式(2科目型・理数重視)>廃止  
 化学生命工…<共テ・後期4科目型>、<共テ併用・数理重視方式4科目型>新規実施  
 <共テ・後期5科目型>、<共テ併用・数理重視方式5科目型>廃止  
 環境都市工…<共テ併用・数理重視方式4科目型>新規実施  
 <共テ併用・数理重視方式5科目型>廃止  
 試験日程：法<共テ併用・2科目型>…3日間実施→6日間実施  
 総合情報<全学(2教科型・英数方式)>…1日間実施→3日間実施  
 人間健康<共テ併用・2科目型(英語)>…1日間実施→2日間実施

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では1,485人(98)の微減だが4年連続減少。学部別では、増加6学部、減少7学部とほぼ拮抗。方式別では、一般方式は2,209人(96)のやや減少。学部別では、経済(110)、総合情報(110)はいずれも増加、社会(107)はやや増加、化学生命工(102)は微増だった。その他の9学部は減少で、政策創造(70)の大幅減少が目立った。共通テスト利用方式は724人(103)のやや増加。学部別では、社会安全(148)、化学生命工(128)、環境都市工(128)、総合情報(126)、システム理工(119)はいずれも大幅増加。一方で、経済(77)、外国語(79)はいずれも大幅減少だった。

- <一般方式>
- 文(92)**は、減少。志願者数は7年ぶりに7,000人を下回った。
  - 外国語(86)**は、系統への低い人気も影響して5年連続減少。その結果、志願倍率は連続減少前の2018年度の27.2倍→16.0倍に大幅ダウン。
  - 法(95)**は、前年度大幅増加の反動は小さくやや減少に留まった。前年度の反動による増減が継続。
  - 政策創造(70)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率も19.8倍→13.9倍にダウン。
  - 経済(110)**は、2年連続減少の反動で増加。志願者数は6,000人を上回った。
  - 商(93)**は、やや減少で6年連続減少。その結果、志願倍率は連続減少前の2017年度の24.0倍→16.7倍にダウン。
  - 社会(107)**は、やや増加で5年ぶりに増加。
  - 総合情報(110)**は、増加で4年ぶりに増加したが、志願者数は4,000人に届かなかった。
  - 社会安全(99)**は、前年度大幅増加の反動はなく微減。



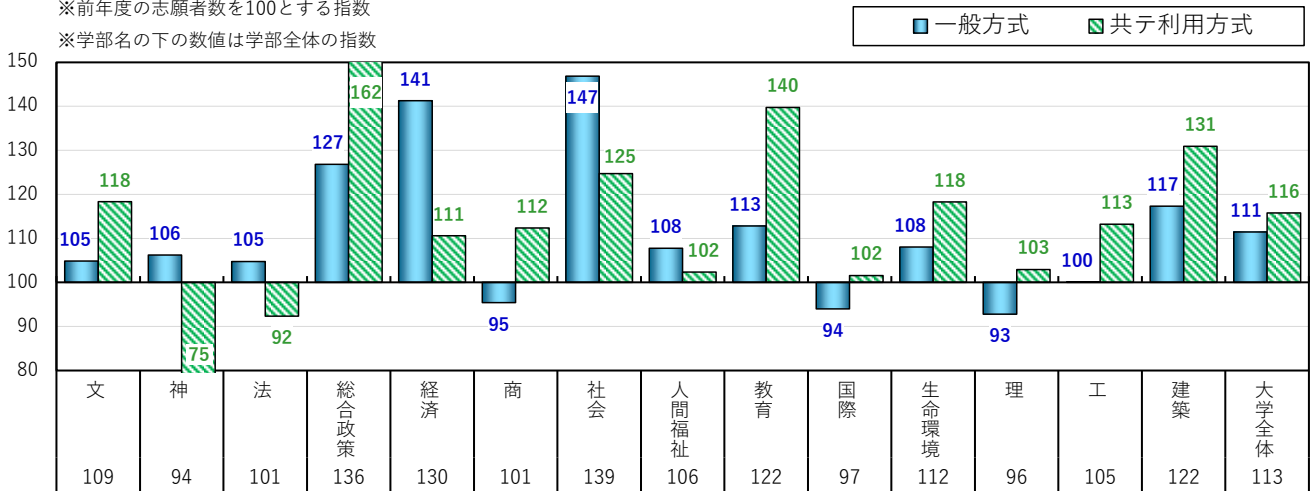
- システム理工(95)は、やや減少。志願者数はこの3年間5,500人前後。
- 化学生命工(102)は、微増だが2年連続増加。
- 環境都市工(94)は、やや減少で、志願者数は再び2021年度と同じく3,000人を下回った。
- 人間健康(86)は、前年度大幅増加の反動で減少。2015年度以降前年度の反動による増減が継続。

<共通テスト利用方式>

- 文(98)は、2年連続前年度並、志願者数は3年連続で2,800人前後。
- 外国語(79)は、系統への低い人気も影響して大幅減少で、4年連続減少。志願者数は400人を下回った。
- 法(98)は、前年度の大幅増加の反動はなく微減。
- 政策創造(97)は、やや減少で4年連続減少。
- 経済(77)は、大幅減少で2年連続減少。志願者数は3,300人を下回った。
- 商(92)は、減少で2年連続減少。
- 社会(113)は、5年ぶりに増加。志願者数も2年ぶりに2,000人を上回った。
- 総合情報(126)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。2019年度以降前年度の反動による増減が継続。
- 社会安全(148)は、3年連続大幅減少の反動で大幅増加。志願者数は500人を上回った。
- システム理工(119)は、前年度減少の反動で大幅増加。志願者数は2,800人を上回った。
- 化学生命工(128)は、大幅増加で、6年連続増加。
- 環境都市工(128)は、大幅増加で、志願者数は1,600人を上回った。
- 人間健康(101)は、前年度大幅減少の反動はなく微増。

関西学院大：大学全体では3年連続増加、5年ぶりに4万人上回る 一般：+2,955人 共テ：+2,045人

※前年度の志願者数を100とする指数  
※学部名の下の数値は学部全体の指数



主な入試変更点

試験会場：全学部<一般・学部個別>、<一般・英語・数学科型>、<共テ併用>…小倉廃止、大阪追加  
 全学部<一般・全学部>…宮崎廃止  
 学費改定：全学部…(1年次入学金含む、諸会費除く、4年総額)一律180,000円値上げ  
 ※詳細は「入試変更点一覧」([https://www2.sundai.ac.jp/news/2023news/s\\_4.pdf](https://www2.sundai.ac.jp/news/2023news/s_4.pdf))参照  
 選抜方法：文、神、法、総合政策、経済、商、社会、人間福祉、教育、国際  
 …方式名変更：<共テ・1月英語資格・検定試験活用型>→<共テ・1月3科目型(英語資格・検定試験利用)>  
 文、神、法、総合政策、経済、商、社会、人間福祉、教育、国際<共テ・1月3科目型(英語資格・検定試験利用)>、  
 生命環境、理、工、建築<共テ・1月5科目型(英語資格・検定試験利用)>  
 …利用方法：出願要件 ※対象試験：ケンブリッジ英検 160点以上、英検 準1級以上または2,300点以上、  
 GTEC 1,190点以上、IELTS 5.5以上、TEAP 309点以上、  
 TEAP CBT 600点以上、TOEFL iBT 72点以上、TOEIC LR+SW 1,560点以上  
 →利用方法：出願要件 ※対象試験：ケンブリッジ英検 140点以上、英検 2級以上または1,950点以上、  
 GTEC 960点以上、IELTS 4.0以上、TEAP 225点以上、  
 TEAP CBT 420点以上、TOEFL iBT 42点以上、TOEIC LR+SW 1,150点以上  
 社会(社会)<一般・英語・数学科型>…廃止  
 教育(教育/初等教育)<一般・学部個別主体性評価方式(文系型)、一般・全学部主体性評価方式(理系型)>…廃止  
 生命環境、理、工、建築…方式名変更：<共テ・1月英語資格・検定試験活用型>→<共テ・1月5科目型(英語資格・検定試験利用)>  
 入試科目：文<共テ併用・英語型>…<共テ>(国 or 外)+(歴公 or 数① or 数② or 理・理基2) ※高得点2科目採用  
 →<共テ>(国 or 歴公 or 数① or 数② or 理・理基2 or 外)→2 ※高得点2科目採用 ※共テの国、外が必須から選択へ  
 文、法、総合政策、経済、商、社会、人間社会、教育、国際<共テ・1月3科目型(英語資格・検定試験利用)>  
 …国+(歴公 or 数 or 理・理基2)→国+外+(歴公 or 数 or 理・理基2) ※必須に外追加  
 神<共テ・1月3科目型(英語資格・検定試験利用)>…国+(歴公 or 数)→国+外+(歴公 or 数) ※必須に外追加  
 神、法、総合政策、商、社会、人間福祉、教育、国際<共テ併用・英語型>

	<p>…&lt;共テ&gt;国+(歴公 or 数①or 数②or 理・理基2) ※選択は高得点1科目採用          →&lt;共テ&gt;(国 or 歴公 or 数①or 数②or 理・理基2 or 外)→2 ※高得点2科目採用          ※共テの国が必須から選択へ、選択に外追加          法、総合政策、商、社会&lt;共テ併用・数数学型&gt;          …&lt;共テ&gt;外+(国 or 歴公 or 数①or 数②or 理・理基2) ※選択は高得点1科目採用          →&lt;共テ&gt;(国 or 歴公 or 数①or 数②or 理・理基2 or 外)→2 ※高得点2科目採用          ※共テの外が必須から選択へ          生命環境、理(化除く)&lt;共テ・1月5科目型(英語資格・検定試験利用)&gt;          …数2+理2→数2+理2+外 ※必須に外追加          理(化)&lt;共テ・1月5科目型(英語資格・検定試験利用)&gt;          …数2+理2 ※理(必須):化 ※理(選択):物 or 生 or 地学          →数2+理2+外 ※理:物+化          ※必須に外追加、物が選択から必須へ          工、建築&lt;共テ・1月5科目型(英語資格・検定試験利用)&gt;          …数2+理→数2+理2+外 ※必須に外追加、理が2科目選択へ</p>
--	---

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、学費値上げの影響はなく、5,000人(113)の増加で3年連続増加。志願者数は5年ぶりに4万人を上回った。学部別では、14学部中で神(94)、理(96)、国際(97)の3学部を除く11学部が増加。方式別では、一般方式は2,955人(111)の増加で、3年連続増加。共通テスト利用方式は2,045人(116)の大幅増加で、3年連続増加。志願者数は15,000人を上回った。特に、共通テストの必須科目を廃止した<共テ・英語併用>(170)は全募集単位で増加し、激増、前年度新規実施の<1月7科目型>(126)は大幅増加。

**<一般方式>**

- 文(105)**は、前年度大幅増加に引き続き、やや増加で2年連続増加。専修別では、11専修中5専修で増加。特に、(文化歴史/地理学地域文化学)(182)、(文学言語/ドイツ文学ドイツ語学)(118)は2年連続大幅増加。(文化歴史/日本史学)(163)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(文学言語/フランス文学フランス語学)(82)は大幅減少。
- 法(105)**は、前年度大幅増加に引き続き、やや増加で2年連続増加。学科別では、2学科とも増加。特に、(政治)(121)は2年連続大幅増加。
- 総合政策(127)**は、2年連続大幅増加。志願者数は2,500人を上回った。方式別では、4方式全て増加。特に、<英語・数数学型>(182)は激増で2年連続大幅増加。
- 経済(141)**は、前年度やや増加に引き続き、大幅増加で2年連続増加。志願者数は5年ぶりに3,000人を上回った。方式別では、全方式で大幅増加。
- 商(95)**は、前年度大幅増加の反動は小さく、やや減少。
- 社会(147)**は、大幅増加で6年ぶりの増加。方式別では、廃止の<英語・数数学型>を除いた2方式はいずれも大幅増加。
- 人間福祉(108)**は、前年度大幅増加に引き続き、増加。学科別では、(社会起業)(136)は2年連続大幅増加、(人間科学)(110)も2年連続増加。一方で、(社会福祉)(83)は大幅減少で5年連続減少。
- 教育(131)**は、2年連続増加。学科・コース別では、3学科・コースとも増加。特に、(教育/教育科学)(131)は2年連続減少の反動で大幅増加。
- 国際(94)**は、系統への人気は低い影響で、やや減少で3年連続減少。方式別では、<一般・英語1科目型>(68)は2年連続大幅減少。
- 生命環境(108)**は、改組3年目で2年連続増加。学科・専攻別では、5学科・専攻中で(生物科学)(95)を除く4学科・専攻で増加。特に、(生命医科学/医工学)(217)は倍増以上、(生命医科学/生命医科学)(128)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- 理(93)**は、改組3年目でやや減少。学科別では、(化)(119)は大幅増加で2年連続増加。一方で、(数理科学)(79)、(物理・宇宙)(85)は大幅減少でいずれも前年度大幅増加の反動。
- 工(100)**は、改組3年目だが前年度増加の反動はなく前年度並。課程別では、増減が2課程ずつで、(物質工学)(112)は増加、(電気電子応用工学)(107)はやや増加、いずれも前年度大幅増加に引き続き2年連続増加。一方で、(情報工学)(94)、(知能・機械工学)(96)はいずれもやや減少。
- 建築(117)**は、改組3年目だが大幅増加で2年連続増加。

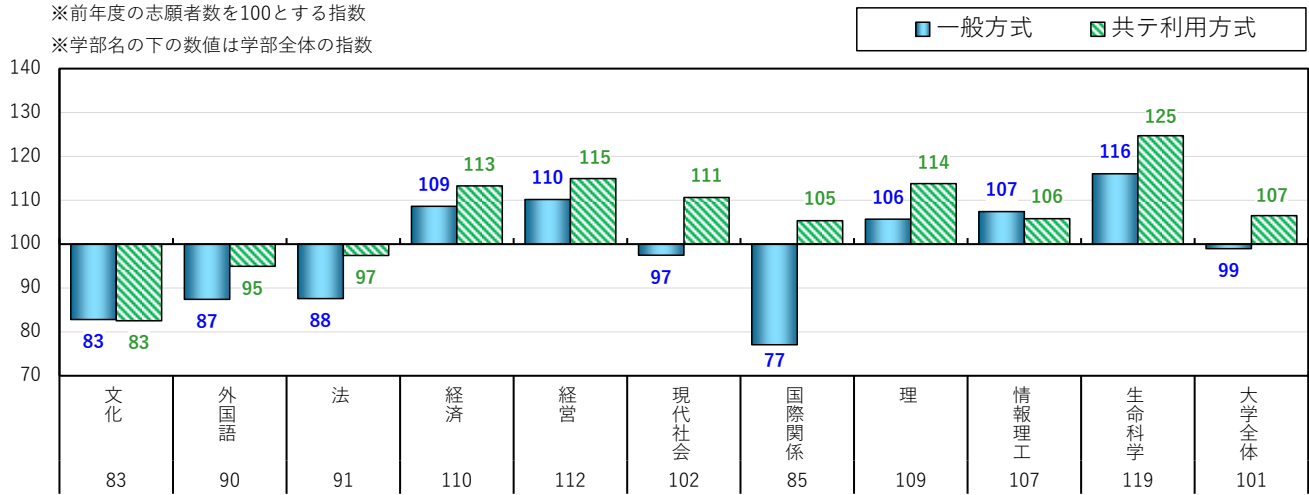
**<共通テスト利用方式>**

- 文(118)**は、大幅増加で2年連続増加。専修別では、11専修中8専修で増加。(文学言語/英米文学英語学)(171)は激増、(文化歴史/西洋史学)(156)、(文化歴史/日本史学)(155)、(文化歴史/地理学地域文化学)(131)は大幅増加。一方で、(文学言語/フランス文学フランス語学)(82)、(文化歴史/哲学倫理学)(84)、(文化歴史/アジア史学)(85)といずれも大幅減少。
- 法(92)**は、前年度大幅増加の反動で減少。学科別では、(政治)(103)は前年度大幅増加に引き続きやや増加で2年連続増加。一方で(法)(90)は前年度大幅増加の反動で減少。
- 総合政策(162)**は、激増で2年連続増加。方式別では、共通テストの必須科目を廃止し、選択科目から高得点2科目採用に変更の<共テ併用・英語併用型>(271)、<共テ併用・数数学併用型>(171)はいずれも激増。
- 経済(111)**は、2年連続増加。方式別では、共通テストの必須科目を廃止し、選択科目から高得点2科目採用に変更の<共テ併用・英語併用型>(142)、<共テ併用・数数学併用型>(141)はいずれも大幅増加。一方で、<共テ・3月4科目>(72)は大幅減少。
- 商(112)**は、前年度大幅増加に引き続き、2年連続増加。方式別では、共通テストの必須科目を廃止し、選択科目から高得点2科目採用に変更の<共テ併用・英語併用型>(154)、<共テ併用・数数学併用型>(144)はいずれも大幅増加。
- 社会(125)**は、2年連続大幅増加。

- 人間福祉(102)**は、微増だが前年度大幅増加に引き続き増加。学科別では、(人間科学)(129)は大幅増加、(社会起業)(106)はやや増加で2年連続増加。一方で、(社会福祉)(78)は大幅減少。
- 教育(140)**は、大幅増加。学科・コース別では、3学科・コースのいずれも大幅増加。
- 国際(102)**は、6年ぶりの増加だが、系統への人気は低い影響もあり、微増に留まった。
- 生命環境(118)**は、改組3年目だが大幅増加で2年連続増加。学科・専攻別では5学科・専攻中4学科・専攻で増加。特に、(生命医科学/医工学)(207)は倍増以上、(生命医科学/生命医科学)(177)は激増。
- 理(103)**は、改組3年目で2年連続やや増加。学科別では、(物理・宇宙)(116)は大幅増加で2年連続増加、(化)(111)は増加。一方で、(数理科学)(78)は大幅減少。
- 工(113)**は、改組3年目で2年連続増加。課程別では、4課程とも増加。特に、(物質工学)(128)は2年連続大幅増加、(知能・機械工学)(115)も大幅増加。
- 建築(131)**は、改組3年目だが大幅増加で初めて増加。

**京都産業大：大学全体では3年ぶり増加、10学部中6学部が増加 一般：-260人 共テ：+800人**

※前年度の志願者数を100とする指数  
 ※学部名の下の数値は学部全体の指数



**主な入試変更点** 選抜方法：共通テスト利用方式…英語の配点比率変更  
 リーディング：リスニング=1：1→リーディング：リスニング=4：1

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、540人(101)の微増で3年ぶり増加。方式別では、一般方式は260人(99)の微減だが3年連続減少、共通テスト利用方式は800人(107)のやや増加で、3年ぶりの増加。学部別では、生命科学(119)は大幅増加、経営(112)、経済(110)、理(109)は増加、情報理工(107)はやや増加、現代社会(102)は前年度並。一方で、文化(83)、国際関係(85)は大幅減少、外国語(90)、法(91)はいずれも減少。

**<一般方式>**

- 文化(83)**は、前年度増加の反動で大幅減少。学科別では、2学科とも大幅減少で、(国際文化)(83)は前年度の反動による増減が継続、(京都文化)(83)は2年連続増加の反動。
- 外国語(87)**は、コロナ禍による系統への低い人気に影響し、減少で3年連続減少。学科別では、3学科いずれも3年連続減少で、(アジア言語)(75)は大幅減少、(ヨーロッパ言語)(93)、(英語)(96)はやや減少。
- 法(88)**は、減少。学科別では、(法政策)(85)は大幅減少で3年連続減少、(法律)(89)は減少で志願者数は2,500人を下回った。
- 経済(109)**は、3年連続減少の反動で増加。方式別では、<後期>(131)は大幅増加、<前期>(110)は3年連続減少の反動で増加、<中期>(97)はやや減少で3年連続減少。
- 経営(110)**は、増加で3年ぶりの増加。方式別では、<前期>(113)は2年連続大幅減少の反動で増加、<後期>(108)も増加で4年ぶりの増加、<中期>(99)は微減だが3年連続減少。
- 現代社会(97)**は、やや減少。学科別では、(健康スポーツ社会)(108)は3年連続減少の反動で増加、(現代社会)(91)は減少で前年度の反動による増減が継続。
- 国際関係(77)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。方式別では、<後期>(67)、<前期>(76)はいずれも大幅減少、<中期>(87)は減少。
- 理(106)**は、2年連続やや増加。学科別では、(宇宙物理・気象)(110)、(数理科学)(110)はいずれも増加。一方で、(物理学)(90)は減少で3年連続減少。
- 情報理工(107)**は、2年連続減少の反動は小さくやや増加。方式別では、<前期>(116)は2年連続減少の反動で大幅増加、<中期>(88)は減少、<後期>(68)は大幅減少。
- 生命科学(116)**は、大幅増加で2019年度の改組以降初めての増加。学科別では、(先端生命科学)(128)は大幅増加で2019年度の改組以降初めての増加、(産業生命科学)(90)は前年度大幅増加の反動で減少。

**<共通テスト利用方式>**

- 文化(83)**は、大幅減少。志願者数は6年ぶりに1,000人を下回った。学科別では、(国際文化)(79)は大幅減少、(京都文化)(87)は減少。
- 外国語(95)**は、コロナ禍による系統への低い人気に影響し、やや減少で3年連続減少。志願者数は1,000人を下回った。学



科別では、(英語)(110)は2年連続大幅減少の反動で増加。一方で、(ヨーロッパ言語)(88)、(アジア言語)(89)は減少でいずれも3年連続減少。

○**法(97)**は、やや減少で4年連続減少。学科別では、(法政策)(96)はやや減少で3年連続減少、(法律)(98)は微減だが4年連続減少。

○**経済(113)**は、2年連続減少の反動で増加。方式別では、<後期>(138)は5年ぶりの大幅増加、<前期>(116)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加、<前期プラス>(112)は増加、<中期プラス>(103)は2年連続やや増加。

○**経営(115)**は、2年連続大幅減少の反動で大幅増加。方式別では、<後期>(137)は4年ぶりの大幅増加、<前期>(116)、<前期プラス>(115)はいずれも2年連続大幅減少の反動で大幅増加、<中期プラス>(108)は増加。

○**現代社会(111)**は、増加。学科別では、(健康スポーツ社会)(117)は大幅増加、(現代社会)(107)はやや増加で、いずれも2年連続増加。

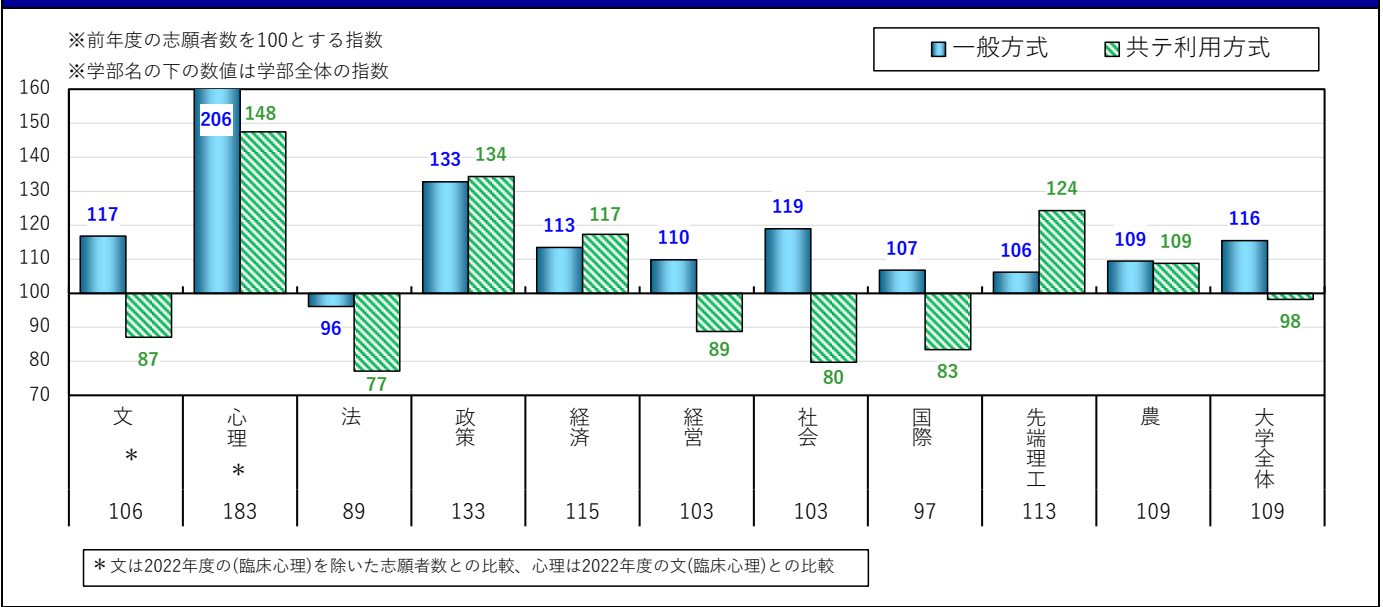
○**国際関係(105)**は、やや増加で2019年度の新設以降初めての増加。方式別では、<前期>(122)は大幅増加、一方で、<後期>(81)は大幅減少。

○**理(114)**は、2年連続減少の反動で増加。学科別では、3学科いずれも増加。(数理科学)(132)は大幅増加、(物理科学)(110)は増加でいずれも2年連続大幅減少の反動。(宇宙物理・気象)(107)は2年連続やや増加で、志願者数は3年ぶりに500人を上回った。

○**情報理工(106)**は、2年連続減少の反動は小さくやや増加。方式別では、<前期プラス>(113)は2年連続減少の反動で増加、<前期>(107)はやや増加、<中期プラス>(90)は減少、<後期>(58)は40%以上の大幅減少。

○**生命科学(125)**は、大幅増加で2019年度の改組以降初めての増加。学科別では、(先端生命科学)(137)は大幅増加で2019年度の改組以降初めての増加。(産業生命科学)(100)は前年度大幅増加の反動はなく前年度並。

**龍谷大：大学全体では増加、志願者数は6万人を上回った 一般：+5,567人 共テ：-364人**



**主な入試変更点**

学部改組：文(臨床心理)→心理(心理)  
 学科名称変更：農(植物生命科学)→(生命科学)、(資源生物科学)→(農)  
 出願方法：1日最大4併願可(※先端理工学部のみ最大6併願可)→1日最大6併願可  
 選抜方法：全学部…<共テ併用(英語外部試験利用)>を新規実施 利用方法：得点換算  
 心理(心理)…<前期・共テ併用数学方式>、<共テ・中期数学1教科方式>を新規実施  
 農(農)…<一般・前期文系(スタンダード方式、高得点科目重視方式)>廃止、  
 <共テ併用・文系2科目方式>廃止  
 入試科目：心理(心理)<共テ・前期3科目方式>、<共テ・中期3科目方式>…国+外+(歴公 or 数① or 数② or 理・理基2)  
 →外+(国 or 歴公 or 数① or 数② or 理・理基2)→2

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、1日の最大併願数が6併願まで可能になったことも影響し5,203人(109)の増加。学部別では、新設の心理の旧文(臨床心理)との比較を含めて、10学部中8学部が増加。政策(133)、経済(115)は大幅増加。法(89)は減少。方式別では、一般方式は5,567人(116)の大幅増加で4年ぶりの増加。一方で、共通テスト利用方式は新規方式を実施したものの、364人(98)の微減。

**<一般方式>**

○**文(117)**は、学部改組の旧(臨床心理)を除いた比較で大幅増加。学科・専攻別では、10学科・専攻中8学科・専攻が増加。特に、(歴史/仏教史学)(189)は3年連続減少の反動で激増、(歴史/東洋史学)(179)は前年度40%の大幅減少の反動で大幅増加、(英語英米文)(145)も大幅増加で2年連続増加。一方で、(日本語日本文)(94)はやや減少で4年連続減少、(歴史/日本史学)(94)もやや減少で2年連続減少。

○**心理(206)**は、旧文(臨床心理)との比較で倍増。ただし、学科から学部の改組で募集人員が2.5倍となり志願者数増加率を上回ったことで、志願倍率は29.6倍→24.4倍へダウン。



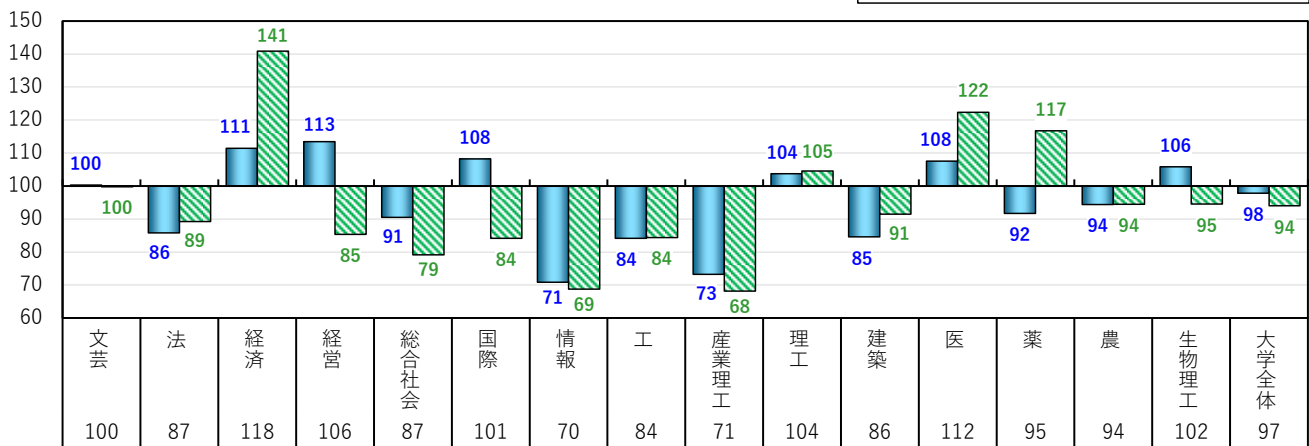
- 法(96)は、やや減少で2年連続減少。方式別では、<前期高得点>(109)は増加だが、その他の方式はいずれも減少。
- 政策(133)は、4年ぶりの大幅増加。方式別では、全ての方式で増加、特に<前期高得点>(155)、<後期高得点>(146)、<前期スタンダード>(134)、<中期高得点>(129)は大幅増加。
- 経済(113)は、2年連続減少の反動で増加。方式別では、<前期高得点>(132)、<前期スタンダード>(117)、<中期高得点>(116)は大幅増加、<中期スタンダード>(108)は増加。一方で、<後期高得点>(64)、<後期スタンダード>(67)は大幅減少。
- 経営(110)は、前年度大幅減少の反動で増加だが、志願者数は2年連続5,000人を下回った。方式別では、<後期高得点>(176)は激増、<後期スタンダード>(153)、<前期高得点>(128)は大幅増加、<前期スタンダード>(112)は増加。一方で、<中期スタンダード>(84)は大幅減少、<中期高得点>(91)は減少。
- 社会(119)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、(社会)(131)は大幅増加で前年度の反動による増減が継続、(コミュニティマネジメント)(130)も大幅増加で前年度大幅減少の反動。一方で、(現代福祉)(92)は減少。
- 国際(107)は、やや増加で5年ぶりの増加。学科別では、2022年度前期から海外留学を再開した(グローバルスタディーズ)(108)は、前年度大幅増加に引き続き増加。(国際文化)(106)はやや増加だが、志願者数は2年連続2,000人を下回った。
- 先端理工(106)は、やや増加で2020年度の改組以降初めての増加。課程別では、(応用化学)(121)、(数理・情報科学)(120)は大幅増加、(機械工学・ロボティクス)(108)は増加。一方で、(環境生態工学)(97)、(知能情報メディア)(97)はやや減少、(電子情報通信)(99)は微減。
- 農(109)は、3年ぶりの増加。学科別では、(食料農業システム)(135)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加、(植物生命科学)から名称変更した(生命科学)(123)は2年連続大幅増加。一方で、(資源生物科学)から名称変更した(農)(91)は減少、(食品栄養)(93)もやや減少でいずれも3年連続減少。

#### <共通テスト利用方式>

- 文(87)は、学部改組の旧(臨床心理)を除いた比較で減少。学科・専攻別では、(仏教)(108)は増加で7年連続増加、志願者数は200人を上回った。(英語英米文)(103)はやや増加、(歴史/日本史学)(102)は微増でいずれも3年連続増加。その他の7学科・専攻はいずれも減少で、特に(歴史/文化遺産学)(69)は30%以上の大幅減少。
- 心理(148)は、旧文(臨床心理)との比較で3年連続大幅増加。学科から学部の改組で募集人員は70%増加となり志願者数増加率を上回ったため、志願倍率は33.3倍→29.0倍へダウン。
- 法(77)は、2年連続大幅増加の反動で大幅減少。方式別では、<共テ併用・中期3科目>(105)はやや増加で2年連続増加、<共テ・前期4科目>(100)は前年度並。その他の方式はいずれも減少で、特に<共テ併用・後期>(35)は激減。
- 政策(134)は、2年連続大幅増加。志願者数は1,400人を上回った。方式別では、<共テ・前期2科目>(212)、<共テ併用・中期3科目>(207)は倍以上。一方で、<共テ併用・後期>(65)、<共テ・後期>(80)は大幅減少。
- 経済(117)は、大幅増加で3年連続増加。志願者数は2,000人を上回った。方式別では、特に<共テ併用・前期数学>(256)、<共テ・中期数学1教科>(246)は倍以上で目立った。
- 経営(89)は、2年連続増加の反動で減少。方式別では、<共テ・後期>(171)は激増、<共テ・前期4科目>(150)は大幅増加、<共テ併用・中期3科目>(113)は増加、その他の方式はいずれも減少。
- 社会(80)は、前年度倍増の反動で大幅減少。学科別では、(コミュニティマネジメント)(74)、(社会)(75)は大幅減少、(現代福祉)(92)は減少でいずれも前年度激増の反動。
- 国際(83)は、2年連続大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、(国際文化)(82)は大幅減少、(グローバルスタディーズ)(86)は減少で、いずれも前年度大幅増加の反動。
- 先端理工(124)は、大幅増加で旧理工から引き続き6年連続増加。課程別では、6課程全てで増加。(環境生態工学)(103)のみやや増加だが、その他の5課程はいずれも大幅増加。
- 農(109)は、増加で5年連続増加。学科別では、(植物生命科学)から名称変更した(生命科学)(136)は5年連続大幅増加。(食料農業システム)(107)は前年度激増の反動はなくやや増加で5年連続増加。一方で、(食品栄養)(97)はやや減少、(資源生物科学)から名称変更した(農)(98)は前年度並。

近畿大：大学全体ではやや減少だが、志願者数は 10 年連続全国最多 一般：-2,495 人 共テ：-2,508 人

※前年度の志願者数を100とする指数  
 ※学部名の下の数値は学部全体の指数



**主な入試変更点**

選抜方法：経済…<共テ・前期5教科7科目型>新規実施  
 国際…<一般(英語外部試験利用)>対象試験にケンブリッジ英検追加  
 対象試験：英検、GTEC、IELTS、TEAP、TOEFL iBT、TOEIC LR+SW  
 →対象試験：ケンブリッジ英検、英検、GTEC、IELTS、TEAP、TOEFL iBT、TOEIC LR+SW  
 国際(国際/東アジア)…専攻単位で募集→コース別で募集  
 理工<共テ・中期>…4科目型から3科目型へ  
 国+数+理+外 ※数：数①or数②→(国or数①or数②or理or外)→3  
 生物理工…<一般・前期B日程(生物理工学部独自方式)>新規実施  
 入試科目：工<共テ・中期>…(国or歴or数①or数②or理or外)<100>→4=総点<400>  
 →理<200>+(数①or数②)<200>+(国or歴or外)<100>→2=総点<600>  
 工(化学生命工)<一般・前期>…数+理+外→理+外+(国or数)

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、5,003 人(97)のやや減少だが、志願者数は 152,191 人で 10 年連続全国最多。文理別では、文系 6 学部合計(102)は微増で 2 年連続増加。前年度、情報の新設で大幅増加した理系 9 学部合計(91)は減少。方式別では、一般方式 2,507 人(98)は微減だが、志願者数は 2 年連続 10 万人を超えた。共通テスト利用方式 2,508 人(94)はやや減少で、志願者数は 4 万人をわずかに下回った。

<一般方式>

- 文芸(100)**は、4 年連続減少の反動はなく前年度並で、志願者数は 3 年連続 7,000 人台。学科・専攻別では、(芸術/舞台芸術)(127)、(芸術/造形芸術)(122)はいずれも 3 年ぶりの大幅増加、(文/英語英米文学)(121)も大幅増加で前年度の反動による増減が継続。一方で、(文/日本文学)(94)はやや減少で 5 年連続減少。
- 法(86)**は、前年度大幅増加の反動で減少。方式別では、<前期 B 日程>(82)、<前期 A 日程>(85)はいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少、<後期>(100)は前年度並。
- 経済(111)**は、系統への高い人気もあって、前年度大幅増加に引き続き増加。志願者数は 6 年ぶりに 14,000 人を超えた。学科別では、(国際経済)(153)は 2 年連続大幅増加、(総合経済政策)(117)も大幅増加で 3 年連続増加。一方で、(経済)(96)はやや減少。
- 経営(113)**は、系統への高い人気もあって、2 年連続増加。志願者数は 3 年ぶりに 20,000 人を超えた。学科別では、(キャリア・マネジメント)(125)、(会計)(121)は大幅増加、(商)(114)は増加、(経営)(104)はやや増加でいずれも 2 年連続増加。
- 総合社会(91)**は、2 年連続増加の反動で減少。学科・専攻別では、(総合社会/社会・マスメディア系)(87)、(総合社会/環境・まちづくり系)(90)は減少で、いずれも 2 年連続増加の反動、(総合社会/心理系)(97)はやや減少で 4 年連続減少。
- 国際(108)**は、コロナ禍の影響を強く受け系統への人気も低い系統だが、5 年連続減少の反動で増加。学科・専攻別では、(国際/グローバル)(115)は、大幅増加。募集区分が専攻単位からコース単位での募集に変更となった(国際/東アジア-中国語)と(国際/東アジア-韓国語)の合計と旧(国際/東アジア)との比較では、(87)の減少で 3 年連続減少。
- 新設 2 年目の**情報(71)**は、前年度の志願倍率 67.8 倍の高倍率を敬遠されて大幅減少。志願倍率は 48.0 倍へ大幅ダウン。方式別では、いずれも減少。特に、<後期独自>(57)、<後期>(58)はいずれも 40%以上の大幅減少。
- 工(84)**は、広島キャンパス設置だが、前年度増加の反動で大幅減少。学科別では、6 学科中入試科目変更があった(化学生命工)(101)のみ微増で 2 年連続増加。これを除く 5 学科は、いずれも前年度増加の反動で減少、特に、(情報)(73)の大幅減少が目立った。
- 産業理工(73)**は、福岡キャンパス設置だが、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、5 学科全てが大幅減少。特に、(電気電子工)(59)、(生物環境化)(61)は 40%前後の大幅減少。
- 理工(104)**は、やや増加。学科・コース別では、9 学科・コース中 5 学科・コースが増加。特に、改組 2 年目の(エネルギー物質)(155)は周知も進み 50%以上の大幅増加が目立った。
- 建築(85)**は、前年度増加の反動で大幅減少。志願者数は 5,000 人を下回った。方式別では、<前期 B 日程>(83)、<前期 A 日程>(85)は前年度増加の反動で大幅減少、<後期>(91)は前年度大幅減少に引き続き減少。

- 医(108)**は、前年度減少の反動で増加。方式別では、<前期A日程>(100)は前年度並、<後期>(128)は大幅増加。
- 薬(92)**は、前年度大幅増加の反動で減少。過去6年間で5回減少。学科別では、4年制の(創薬科学)(90)、6年制の(医療薬)(92)のいずれも減少。方式別では、<後期>(107)はやや増加で2年連続増加だが、その他の方式はいずれも減少。
- 農(94)**は、前年度増加の反動でやや減少。学科別では、6学科中で(水産)(110)のみ増加、その他の5学科はいずれも減少で前年度と逆の増減。
- 生物理工(106)**は、2年連続やや増加だが、志願者数は3年連続3,000人を下回った。学科別では、(医用工)(128)、(人間環境デザイン工)(119)、(食品安全工)(117)、(遺伝子工)(115)は大幅増加。一方で、(生物工)(78)は大幅減少。

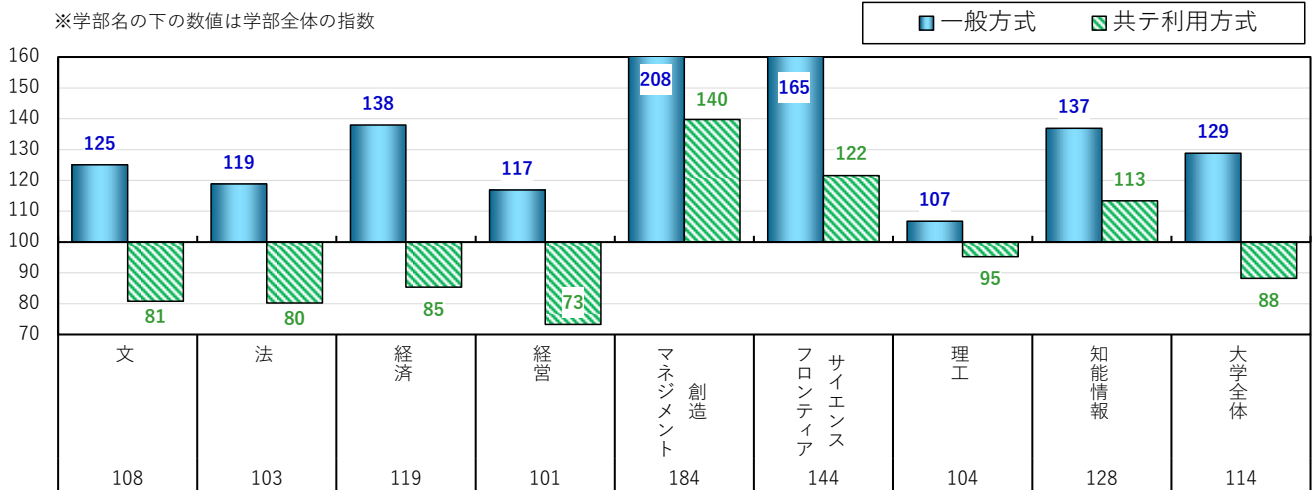
#### <共通テスト利用方式>

- 文芸(100)**は、4人の微減だが2年連続減少。志願者数は2年連続2,000人を下回った。学科・専攻別では、(文/英語英米文学)(149)は前年度40%以上の大幅減少の反動で大幅増加。(芸術/舞台芸術)(114)は2年連続減少の反動で増加。一方で、(芸術/造形芸術)(74)は2年連続増加の反動で大幅減少、(文/日本文学)(85)は2年連続大幅減少。
- 法(89)**は、3年ぶりに減少。方式別では、共通テストの平均点アップの影響で<共テ併用・後期>(117)は大幅増加。<共テ・後期>(110)も増加で2年連続増加。一方で、<共テ・前期>(81)、<共テ・中期>(83)は大幅減少。
- 経済(141)**は、系統への高い人気もあって、大幅増加で3年連続増加、志願者数は5,000人を超えた。新規実施の<共テ・前期5教科7科目型>を除いても(125)の大幅増加。学科別では、3学科全て大幅増加で、特に、(国際経済)(196)は4年連続減少の反動でほぼ倍増。方式別では、共通テストの平均点アップの影響で<共テ・後期>(269)、<共テ併用・後期>(262)はいずれも倍増以上。
- 経営(85)**は、2年連続大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、4学科全てで減少。(商)(83)は前年度激増の反動で大幅減少、(経営)(85)は2年連続大幅増加の反動で大幅減少。
- 総合社会(79)**は、2年連続大幅増加の反動で大幅減少。学科・専攻別では、(総合社会/社会・マスメディア系)(73)、(総合社会/心理系)(80)は大幅減少、(総合社会/環境・まちづくり系)(88)は減少で、いずれも2年連続増加の反動。
- 国際(84)**は、コロナ禍の影響を強く受け系統への人気は低い系統であることに加えて、前年度増加の反動で大幅減少。学科・専攻別では、募集区分が専攻単位からコース単位での募集に変更となった(国際/東アジア-中国語)、(国際/東アジア-韓国語)の合計と旧(国際/東アジア)との比較では(58)の大幅減少、(国際/グローバル)(91)は減少。
- 新設2年目の情報(69)**は、前年度の志願倍率59.3倍の高倍率を敬遠されて大幅減少。志願倍率は40.8倍へ大幅ダウン。方式別では、全ての方式で減少、特に、<共テ・後期>(44)、<共テ・中期>(47)は半減以下。
- 工(84)**は、5年連続増加の反動で大幅減少。学科別では、(化学生命工)(100)の1人の微減を含めて、全ての学科で減少。特に、(情報)(76)、(電子情報工)(76)の大幅減少が目立った。
- 産業理工(68)**は、大幅減少で2019年度以降前年度の反動による増減が継続。学科別では、全ての学科で大幅減少、特に、(生物環境化)(48)は半減以下。
- 理工(105)**は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。過去7年間で6回増加。学科・コース別では、9学科・コース中7学科・コースが増加で、特に(エネルギー物質)(148)は50%近い大幅増加。方式別では、<共テ・中期>(148)は必須4科目型から選択3科目型へ変更という受験生の負担軽減と共通テストの平均点アップが影響して大幅増加。
- 建築(91)**は、減少で2年連続減少。方式別では、<共テ併用・A日程>(101)は微増だが、その他の方式はいずれも減少。特に、<共テ・中期>(66)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、<共テ・後期>(85)は2年連続大幅減少。
- 医(122)**は、大幅増加で2年連続増加、志願者数は3年ぶりに900人を上回った。方式別では、<後期>(152)、<前期>(124)は大幅増加、<中期>(106)はやや増加。
- 薬(117)**は、大幅増加。学科別では、6年制の(医療薬)(128)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、4年制の(創薬科学)(94)はやや減少で2年連続減少。
- 農(94)**は、2年連続増加の反動は小さくやや減少。学科別では、(水産)(113)は増加で前年度の反動による増減が継続。その他の5学科はいずれも減少で、特に(環境管理)(77)、(生物機能科学)(84)は大幅減少。
- 生物理工(95)**は、やや減少。志願者数は3年ぶりに1,500人を下回った。学科別では、(医用工)(137)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(生物工)(76)は2年連続増加の反動で大幅減少。

甲南大：大学全体では<中期>をはじめとする新方式導入で4年ぶりに増加

一般：+2,647人 共テ：-642人

※前年度の志願者数を100とする指数  
 ※学部名の下の数値は学部全体の指数



主な入試変更点

学費改定：文…4年間総額：4,289,000円 ※入学金 300,000円含む、諸経費除く  
 →4年間総額：4,639,000円 ※入学金 250,000円含む、諸経費除く  
 法、経済、経営…4年間総額：4,289,000円 ※入学金 300,000円含む、諸経費除く  
 →4年間総額：4,519,000円 ※入学金 250,000円含む、諸経費除く  
 マネジメント創造…4年間総額：4,852,000円 ※入学金 300,000円含む、諸経費除く  
 →4年間総額：4,885,000円 ※入学金 250,000円含む、諸経費除く  
 理工、知能情報工…4年間総額：5,871,000円 ※入学金 300,000円含む、諸経費除く  
 →4年間総額：6,281,000円 ※入学金 250,000円含む、諸経費除く  
 選抜方法：全学部…<一般・前期(外部英語試験活用型)>、<一般・中期(外部英語試験活用型)>新規実施  
 使用方法：出願要件、得点換算  
 <一般・中期>新規実施  
 <共テ・前期(外部英語試験活用型)>対象試験変更、基準スコア変更  
 対象試験：ケンブリッジ英検 140点以上、英検 2級以上または 1,980点以上、GTEC 920点以上、  
 IELTS 4.0以上、TEAP 235点以上、TEAP CBT 420点以上、TOEFL iBT 45点以上、  
 TOEIC LR+SW 820点以上  
 →対象試験：ケンブリッジ英検 120点以上、英検 1,660点以上、GTEC 620点以上、IELTS 3.0以上、  
 TEAP 155点以上、TEAP CBT 220点以上、TOEFL iBT 25点以上  
 経済(経済)…<共テ・後期>5科目型から4科目型へ  
 国+外+(歴公 or 数① or 数② or 理・理基 2)→3 ※選択は高得点科目採用  
 →国+外+(歴公 or 数① or 数② or 理・理基 2)→2 ※選択は高得点科目採用  
 フロントサイエンス…<一般・中期 2教科判定方式>新規実施  
 理工…<一般・中期 2教科判定方式>新規実施  
 配点変更：知能情報(知能情報)<一般・前期 2教科型(一般型)>…数<100>+外<100>=総点<200>  
 →数<200>+外<100>=総点<300>  
 <共テ併用・前期 2教科型>…<共テ>外<100>、<個別>数<100>  
 →<共テ>外<100>、<個別>数<200>

COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、<中期>など新規方式の実施により 2,005人(114)の増加。ただし、既存の方式のみでは(80)の大幅減少。学部別では、全ての学部で増加。マネジメント創造(184)は前年度の大幅増加に引き続き激増、フロントサイエンス(144)は大幅増加で2年連続増加、経済(119)は4年連続減少の反動で大幅増加。方式別では、一般方式は3年連続減少の反動と<中期>の新規実施で2,647人(129)の大幅増加、共通テスト利用方式は642人(88)の減少で志願者数は5,000人を下回った。

<一般方式>

- 文(125)は、新規方式の実施による大幅増加だが、既存方式のみだと(74)の大幅減少。方式別では、新規実施の<前期(外部英語試験活用型)>、<中期(外部英語試験活用型)>、<中期>の志願者数合計は1,171人だった。学科別では、(英語英米文)(174)は激増、(人間科学)(131)は大幅増加でいずれも4年ぶりの増加。(社会)(126)、(日本語日本文)(116)も大幅増加。一方で、(歴史文化)(92)は前年度大幅増加の反動が大きく減少。
- 法(119)は、新規方式の実施による大幅増加だが、既存方式のみだと(80)の大幅減少。方式別では、新規実施の<前期(外部英語試験活用型)>、<中期(外部英語試験活用型)>、<中期>の志願者数合計は515人だった。
- 経済(138)は、新規方式の実施による大幅増加だが、既存方式のみだと(90)の減少。志願者数は3年連続2,000人を下回った。方式別では、新規実施の<前期(外部英語試験活用型)>、<中期(外部英語試験活用型)>、<中期>の志願者数合計は674人だった。
- 経営(117)は、新規方式の実施による大幅増加で2年連続増加だが、既存方式のみだと(71)の大幅減少。方式別では、新規実施の<前期(外部英語試験活用型)>、<中期(外部英語試験活用型)>、<中期>の志願者数合計は725人だった。
- マネジメント創造(208)は、新規方式の実施によって倍増以上で2年連続大幅増加。志願者数は4年ぶりに1,000人を上回った。



た。既存方式のみの比較でも(113)の増加。方式別では、全ての方式で増加、特に<後期>(170)の激増が目立った。新規実施の<前期(外部英語試験活用型)>、<中期(外部英語試験活用型)>、<中期>の志願者数合計は 514 人だった。

○**フロンティアサイエンス(165)**は、新規方式の実施によって激増で 5 年ぶりの増加だが、既存方式のみだと(98)の微減。方式別では、<前期・3 教科型>(102)は微増だが 2 年連続増加、<前期・2 教科型>(93)はやや減少で 5 年連続減少。新規実施の<前期(外部英語試験活用型)>、<中期(外部英語試験活用型)>、<中期>は志願者数合計が 121 人に達した。

○**理工(107)**は、新規方式の実施によってやや増加で 2 年連続増加だが、既存方式のみだと(70)の大幅減少。学科別では、(生物)(159)は大幅増加で 2 年連続増加。一方で、(物理)(74)は大幅減少、(機能分子化)(95)はやや減少。方式別では、新規実施の<前期(外部英語試験活用型)>、<中期(外部英語試験活用型)>、<中期>の志願者数合計は 457 人だった。

○**知能情報(137)**は、新規方式の実施で大幅増加だが、既存方式のみだと(86)の減少。方式別では、<前期・2 教科型>(85)は大幅減少、<前期・3 教科型>(87)は 4 年連続減少。新規実施の<前期(外部英語試験活用型)>、<中期(外部英語試験活用型)>、<中期>の志願者数合計が 338 人だった。

**<共通テスト利用方式>**

○**文(81)**は、大幅減少で 4 年連続減少。学科別では、前年度大幅減少の(日本語日本文)(114)のみ増加、その他の 4 学科はいずれも減少。特に、(歴史文化)(59)は前年度大幅増加の反動で 40%以上の大幅減少。方式別では、<共テ・前期(外部英語試験活用型)>(77)は基準スコアを下げた影響はなく大幅減少。

○**法(80)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願者数は 3 年連続 1,000 人を下回った。方式別では、<後期・3 教科型>(128)は大幅増加。一方で<共テ併用・前期 3 教科型>(56)は大幅減少。

○**経済(85)**は、大幅減少で 5 年連続減少。志願者数は 3 年連続 1,000 人を下回った。方式別では、科目数の負担が軽くなった<共テ・後期>(129)は大幅増加、基準スコアが下げた<共テ・前期(外部英語試験活用型)>(103)はやや増加。

○**経営(73)**は、大幅減少。志願者数は 700 人を下回った。方式別では、<共テ・後期>(105)はやや増加で 5 年ぶりの増加。その他の方式はいずれも大幅減少。

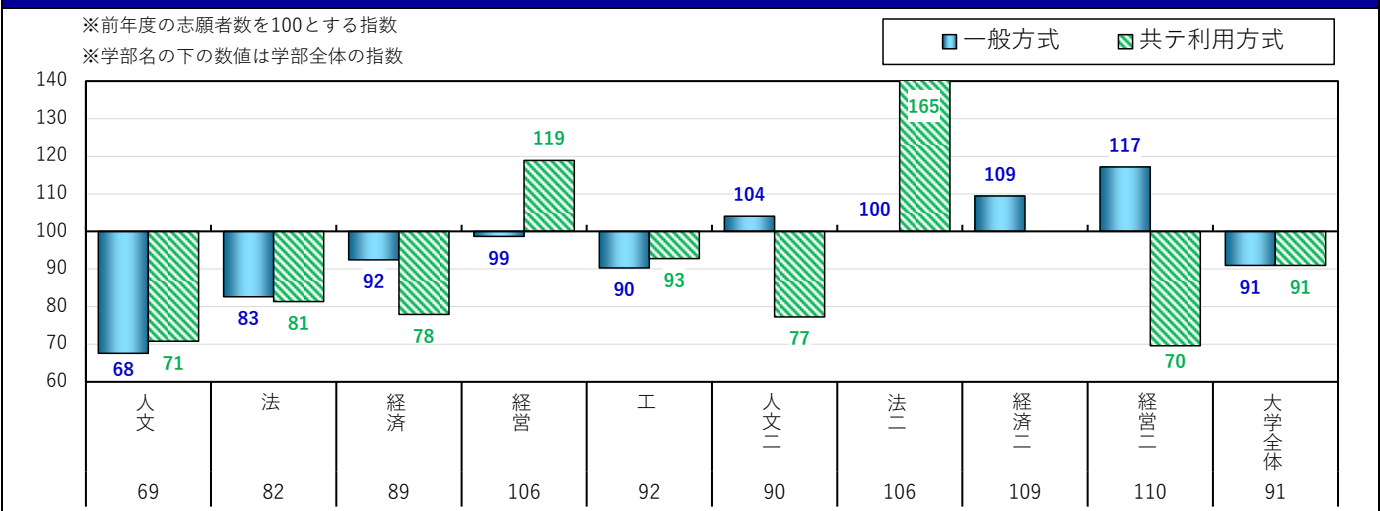
○**マネジメント創造(140)**は、前年度の激増に引き続き大幅増加。方式別では、全ての方式で増加、特に、<共テ併用・前期 3 教科型>(172)は前年度の大幅増加に引き続き激増。

○**フロンティアサイエンス(122)**は、大幅増加で 2 年連続増加。方式別では、<共テ・前期(外部英語試験活用型)>(140)は基準スコアを下げたことも影響して 2 年連続大幅増加。<共テ・後期>(140)も大幅増加。

○**理工(95)**は、やや減少。学科別では、(物理)(87)は減少で 3 年連続減少、(機能分子化)(99)は前年度大幅増加の反動はなく微減、(生物)(100)は前年度と同じ志願者数。

○**知能情報(113)**は、増加で 4 年ぶりの増加。方式別では、<共テ・前期>(167)は 3 年連続減少の反動で激増、<共テ・前期(外部英語試験活用型)>(124)は基準スコアを下げたことも影響し 2 年連続大幅増加。

**北海学園大：大学全体では減少、昼間部 5 学部は経営を除き減少 一般：-425 人 共テ：-225 人**



**主な入試変更点** 選抜方法：人文、経営<一般>…英語外部試験利用廃止

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前年度やや増加の反動で 650 人(91)の減少、志願者数は前年度 2 年ぶりに 7,000 人台だったが、再び 6,000 人台となった。昼間部 5 学部のみでは 684 人(89)の減少で、大学全体の減少率を下回った。学部別では、昼間部 5 学部は(経営)(106)を除き減少。特に、(人文)(69)、(法)(82)は大幅減少。一方で、夜間部 4 学部は(人文)(90)を除き増加。方式別では、一般方式は 425 人(91)の減少で、昼間部のみでは 471 人(88)の減少。共通テスト利用方式は 225 人(91)の減少で、昼間部のみでも 213 人(91)の減少。

**<一般方式>**

○**人文(68)**は、前年度増加の反動で大幅減少。学科別では、(日本文化)(59)は大幅減少で 7 年ぶりの減少、(英米文化)(77)は 2 年ぶりの大幅減少。

○**法(83)**は前年度大幅増加の反動で大幅減少。2018 年度以降前年度の反動による増減が継続。

○**経済(92)**は、3 年連続減少。

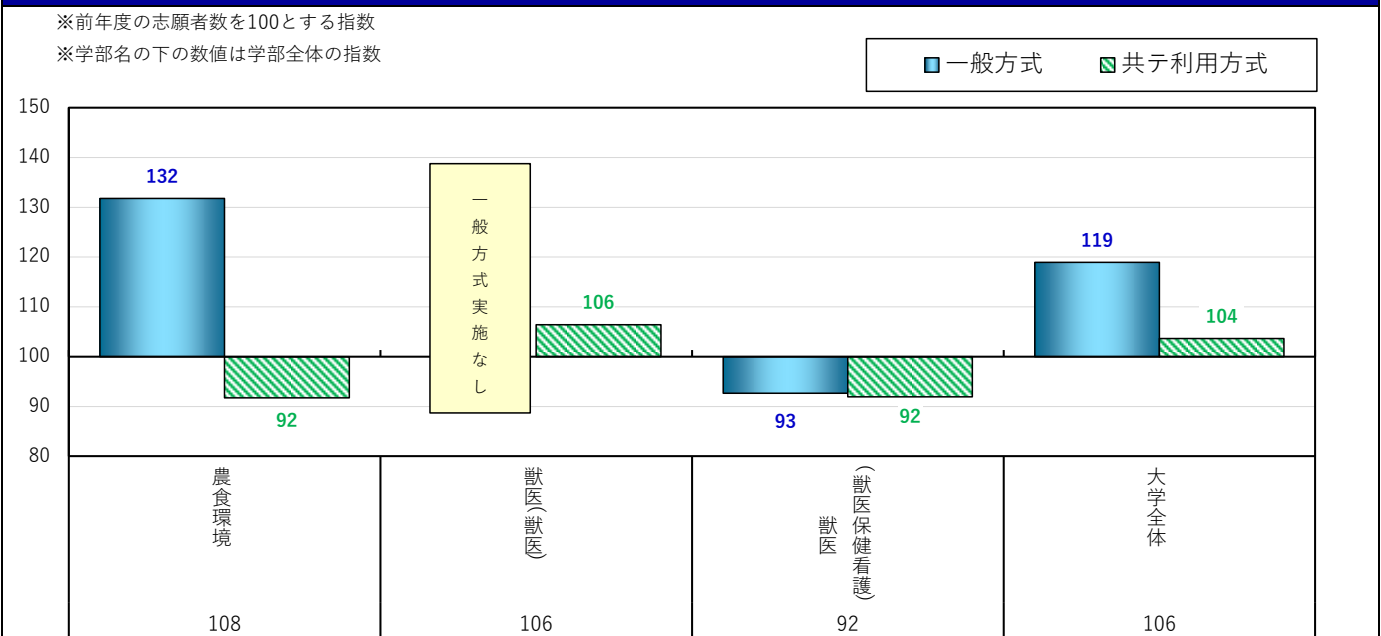
○**経営(99)**は、前年度大幅増加の反動はなく微減。学科別では、(経営情報)(98)、(経営)(99)のいずれも微減。

○**工(90)**は、前年度大幅増加の反動で減少。学科別では、前年度の5学科・コース全て増加が全て減少に転じた。(社会環境工／環境情報)(77)は大幅減少で5年ぶり減少、(建築)(90)は前年度大幅増加の反動は小さく減少、(電子情報工)(91)は5年ぶりの減少。(生命工)(95)、(社会環境工／社会環境)(97)はいずれも前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。

<共通テスト利用方式>

○**人文(71)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別でも、(日本文化)(63)、(英米文化)(78)のいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少。  
 ○**法(81)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。方式別では、<共テ・II期>(69)、<共テ・I期B>(70)は大幅減少、<共テ・I期A>(87)は減少。  
 ○**経済(78)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。方式別では、<共テ・II期>(39)は激減で2年連続減少、<共テ・I期>(81)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。  
 ○**経営(119)**は、3年連続減少の反動で大幅増加。志願者数は4年ぶりに650人を上回った。学科別では、(経営情報)(179)は3年連続大幅減少の反動で激増。一方で、(経営)(88)は2年連続増加の反動で減少。  
 ○**工(93)**は、やや減少で2年連続減少。学科・コース別では、5学科・コース中で増加は(社会環境工／社会環境)(115)の大幅増加のみ。他の4学科・コースは減少で(社会環境工／環境情報)(85)は2年連続大幅減少、(建築)(87)は前年度増加の反動で減少、(電子情報工)(89)は2年連続増加の反動で減少、(生命工)(99)は微減だが3年連続減少。

**酪農学園大：大学全体では2年連続増加、一般<第2期>が激増 一般：+55人 共テ：+72人**



**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、系統への高い人気もあって127人(106)のやや増加で2年連続増加。学群別(獣医は学類別)では、農食環境(108)は増加、獣医(獣医)(106)はやや増加。一方で、獣医(獣医保健看護)(92)は減少。方式別では、一般方式は55人(119)の大幅増加。入試区分別では、2/4・5入試日の<第1期>(110)は増加、3/3入試日の<第2期>(179)は激増、人気の高い系統であることから他大学を含めて2月入試で失敗した層が3月入試の<第2期>に集中した。共通テスト利用方式は72人(104)のやや増加で獣医(獣医)が共通テスト利用方式のみとなった2021年度の翌年から2年連続増加。志願者数は2,000人を上回った。

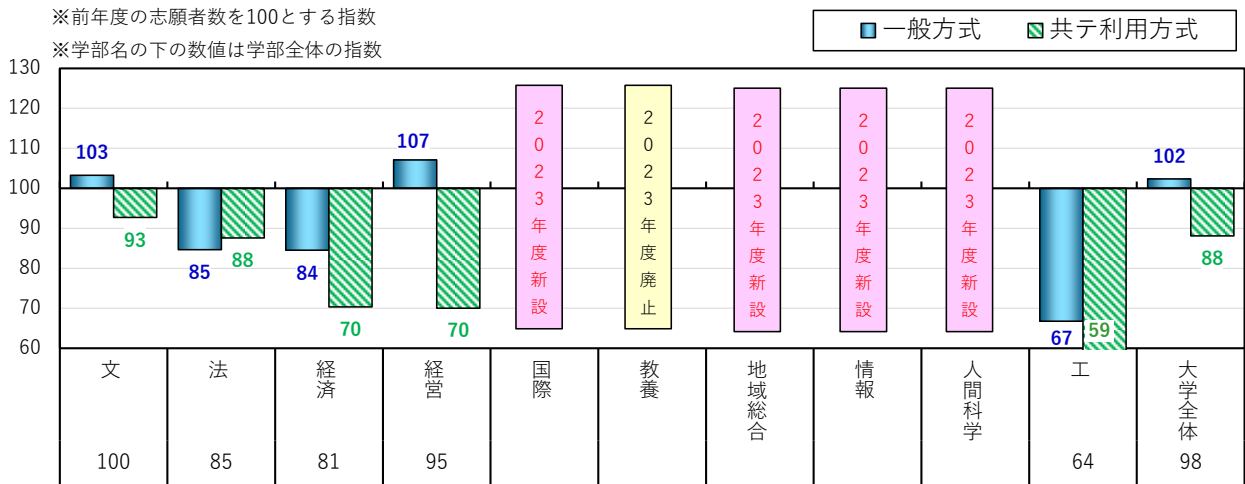
<一般方式>

○**農食環境(132)**は、2年連続減少の反動で大幅増加。募集単位別では、増減が2募集単位ずつに分かれた。(循環農)(210)は4年連続大幅減少の反動で倍以上、(食と健康)(167)は2年連続大幅減少の反動で激増。一方で、(食と健康／管理栄養士)(74)は前年度6年ぶりに増加したが、再び大幅減少。(環境共生)(91)は前年度4年ぶりに増加したが、再び減少。  
 ○**獣医(獣医保健看護)(93)**は、前年度増加の反動でやや減少。入試区分別では、<第1期>(88)は前年度増加の反動で減少。<第2期>(121)は指数では大幅増加だが、実人数では3人の増加。

<共通テスト利用方式>

○**農食環境(92)**は、3年連続減少。募集単位別では、(食と健康)(117)のみが増加で、3年連続減少の反動で大幅増加。他の3募集単位はいずれも減少、(食と健康／管理栄養士)(79)は3年連続大幅減少、(環境共生)(87)は減少で6年ぶりに志願者数は110人台、(循環農)(95)はやや減少で志願者数は3年連続80人台。  
 ○**獣医(獣医)(106)**は、やや増加、共通テスト利用方式のみとなった2021年度の翌年から2年連続増加。入試区分別では、新設2年目の<共テ併用・第1期理科重点>(120)の大幅増加が目立った。  
 ○**獣医(獣医保健看護)(92)**は、減少で3年ぶり減少。入試区分別では、<前期>(93)は2年連続増加の反動でやや減少、<後期>(80)は大幅減少。

東北学院大：4 学部新設だが、大学全体では微減、特に共テ利用が減少 一般：+206 人 共テ：-88 人



**主な入試変更点**

キャンパス移転：文、法、経済、経営、教養…(1・2年次)泉キャンパス、(3・4年次)土樋キャンパス、五橋キャンパス  
→(1～4年度)土樋キャンパス、五橋キャンパス  
工…(1・2年次)多賀城キャンパス、(3・4年次)土樋キャンパス、五橋キャンパス  
→(1～4年次)土樋キャンパス、五橋キャンパス  
※五橋キャンパスは2023年4月新設

学部新設：国際(国際教養)…教養(言語文化)をもとに新設  
地域総合(政策デザイン、地域コミュニティ)…教養(地域構想)、経済(共生社会経済)をもとに新設  
情報(データサイエンス)…教養(情報科学)、工(情報基盤工)をもとに新設  
人間科学(心理行動科学)…教養(人間科学)をもとに新設

学部募集停止：教養  
学科募集停止：経済(共生社会経済)、工(情報基盤工)

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前年度大幅増加の反動なく283人(98)の微減。学部別では、既存の5学部全てが減少。ただし、募集停止学科を除くと経済(109)は増加、工(96)はやや減少。方式別では、一般方式は前年度大幅増加に引き続き、206人(102)の微増。ただし、募集人員が3%増加なので、志願倍率は7.7倍→7.6倍にダウン。なお、新設4学部の志願者数合計は2,623人で、志願倍率は大学全体とほぼ同じ7.4倍。共通テスト利用方式は489人(88)の減少で3年ぶりに減少。ただし、募集人員が1%増加なので、志願倍率は14.0倍→12.2倍にダウン。なお、新設4学部の志願者数合計は1,090人で、志願倍率は大学全体とほぼ同じ12.8倍。

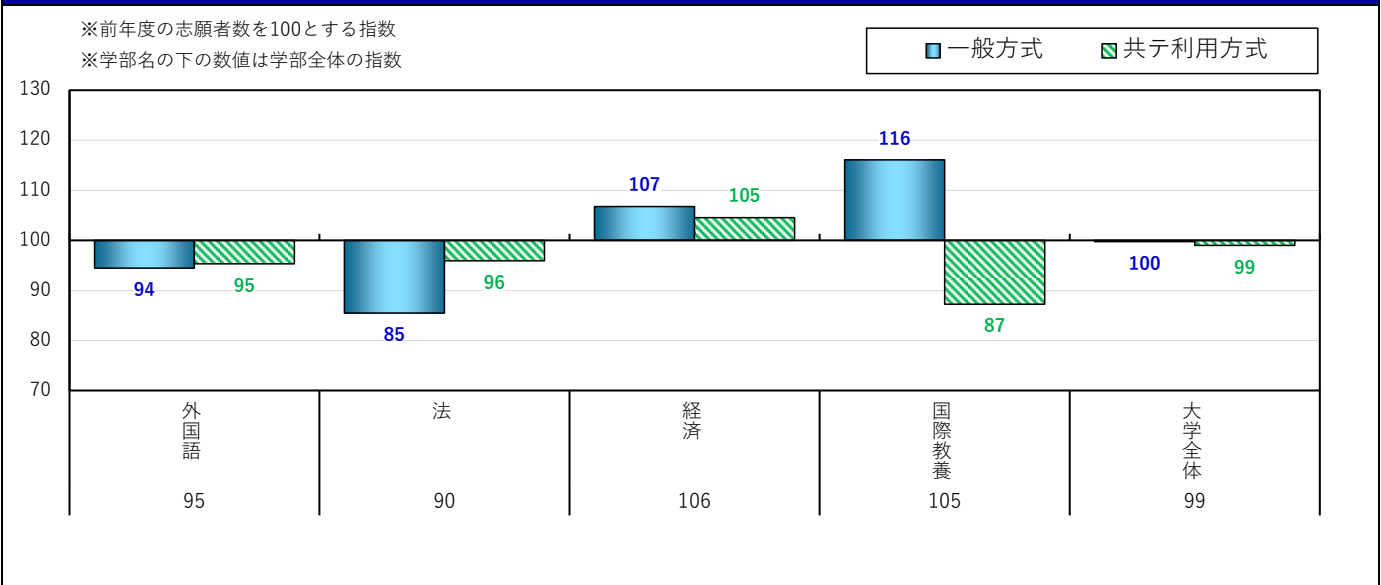
- <一般方式>
- 文(103)**は、前年度大幅増加に引き続きやや増加。学科別では、4学科中3学科が増加。(教育)(127)は2年連続減少の反動で大幅増加。(総合人文)(104)、(英文)(103)はいずれも前年度大幅増加の反動に引き続きやや増加。
  - 法(85)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。方式別では、2月入試の<前期>(87)は前年度激増の反動で減少だが、志願者数は900人台を維持。3月入試の<後期>(65)は大幅減少、志願者数は8年ぶりに100人を下回った。
  - 経済(84)**は、(共生社会経済)の募集停止により大幅減少。存続する(経済)(116)は系統への高い人気もあって、2年連続大幅増加で志願者数は1,800人を上回った。
  - 経営(107)**は、系統への高い人気もあって、前年度70%以上の激増の反動はなくやや増加で4年連続増加。志願者数は2年連続で1,000人を上回った。
  - 新設の**国際**は、一般方式の募集人員合計66人に対し、志願者数は338人、志願倍率は5.1倍で、一般方式全体の志願倍率7.6倍を下回った。新設のもととなった旧教養(言語文化)との比較では、募集人員増加もあって、志願倍率は5.9倍→5.1倍にダウン。
  - 新設の**地域総合**は、一般方式の募集人員合計132人に対し、志願者数は1,008人、志願倍率は7.6倍。新設のもととなった旧教養(地域構想)と旧経済(共生社会経済)の合計との比較では、募集人員増加もあって、志願倍率は7.8倍→7.6倍にダウン。
  - 新設の**情報**は、一般方式の募集人員合計85人に対し、志願者数は788人、志願倍率は9.3倍で、一般方式全体の志願倍率7.6倍を上回った。新設のもととなった旧教養(情報科学)と旧工(情報基盤工)の合計との比較では、募集人員減少もあって、志願倍率は9.2倍→9.3倍にアップ。
  - 新設の**人間科学**は、一般方式の募集人員合計72人に対し、志願者数は489人、志願倍率は6.8倍で、一般方式全体の志願倍率7.6倍を下回った。新設のもととなった旧教養(人間科学)との比較では、募集人員増加もあって、志願倍率は8.7倍→6.8倍にダウン。
  - 工(67)**は、(情報基盤工)の廃止により大幅減少。(情報基盤工)を除く3学科合計(98)では前年度70%以上の激増の反動はなく前年度並。学科別では、(電気電子工)(105)は前年度大幅増加に引き続きやや増加で2年連続増加、(機械知能工)(102)は前年度倍増以上の反動はなく前年度並。一方で、(環境建設工)(85)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。

- <共通テスト利用方式>
- 文(93)**は、前年度やや増加の反動でやや減少。学科別では、4学科中3学科が減少で前年度と逆の増減。(歴史)(82)、(英文)(83)はいずれも大幅減少、(総合人文)(94)はやや減少。一方で、(教育)(138)は2年連続減少の反動で大幅増加。



- 法(88)**は、前年度大幅増加の反動で減少。方式別では、1月出願の<共テ・前期>(90)は前年度大幅増加の反動で減少。2月出願の<共テ・後期>(66)は大幅減少で志願者数は40人を下回った。
- 経済(70)**は、(共生社会経済)の募集停止により大幅減少。存続する(経済)(91)は前年度大幅増加の反動は小さく減少。方式別では、1月出願の<共テ・前期>(93)は前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。2月出願の<共テ・後期>(75)は大幅減少。
- 経営(70)**は、大幅減少で4年ぶりに減少。方式別では、<共テ・後期>(45)は大幅減少、<共テ・前期>(73)は3年連続増加の反動で大幅減少。
- 新設の**国際**は、共通テスト利用方式の募集人員合計16人に対し、志願者数は174人、志願倍率は10.9倍で、共通テスト利用方式全体の志願倍率12.2倍を下回った。新設のもととなった旧教養(言語文化)との比較では、募集人員増加にも拘わらず、外国語系から国際関係系への系統移行の効果もあって、志願倍率は10.5倍→10.9倍にアップ。
- 新設の**地域総合**は、共通テスト利用方式の募集人員合計35人に対し、志願者数は381人、志願倍率は10.9倍で、共通テスト利用方式全体の志願倍率12.2倍を下回った。新設のもととなった旧教養(地域構想)と旧経済(共生社会経済)の合計との比較では、募集人員増加もあって、志願倍率は13.4倍→10.9倍にダウン。
- 新設の**情報**は、共通テスト利用方式の募集人員合計19人に対し、志願者数は346人、志願倍率は18.2倍で、共通テスト利用方式全体の志願倍率12.2倍を上回った。新設のもととなった旧教養(情報科学)と旧工(情報基盤工)の合計との比較では、募集人員減少にも拘わらず、志願倍率は20.2倍→18.2倍にダウン。
- 新設の**人間科学**は、共通テスト利用方式の募集人員合計15人に対し、志願者数は189人、志願倍率は12.6倍で、共通テスト利用方式全体の志願倍率12.2倍を上回った。新設のもととなった旧教養(人間科学)との比較では、募集人員増加もあって、志願倍率は14.6倍→12.6倍にダウン。
- 工(59)**は、(情報基盤工)の廃止により大幅減少。(情報基盤工)を除く3学科合計(90)では減少。学科別では、3学科中2学科が減少。(環境建設工)(70)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(機械知能工)(96)はやや減少。一方で、(電気電子工)(107)は2年連続減少の反動でやや増加。

**獨協大：前年度大幅増加の反動は小さく前年度並、共テ方式検定料値下げ影響なし 一般：-27人 共テ：-82人**



**主な入試変更点** 選抜方法：外国語(フランス語)<一般・2・3科目学科別・外検+、共テ・英語資格>…英語外部試験(英検、GTEC)のスコア変更  
 経済(国際環境経済)<一般・2・3科目学科別・外検+、共テ・英語資格>…英語外部試験(英検、GTEC)のスコア変更  
 入学検定料変更：<共テ>：3出願以降1出願につき8,500円→3出願以降1出願につき5,000円  
 試験会場：全学部<一般・前期2・3科目学科別/外検+、前期2科目全学統一>：新宿会場追加

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前年度大幅増加の反動は小さく109人(99)の微減で前年度並。学部別では、増減が2学部ずつ。経済(106)、国際教養(105)はやや増加。一方で、法(90)は減少、外国語(95)はやや減少。方式別では、一般方式は27人(100)の微減で前年度並。共通テスト利用方式は3出願以降の入学検定料を値下げしたが、82人(99)の微減。

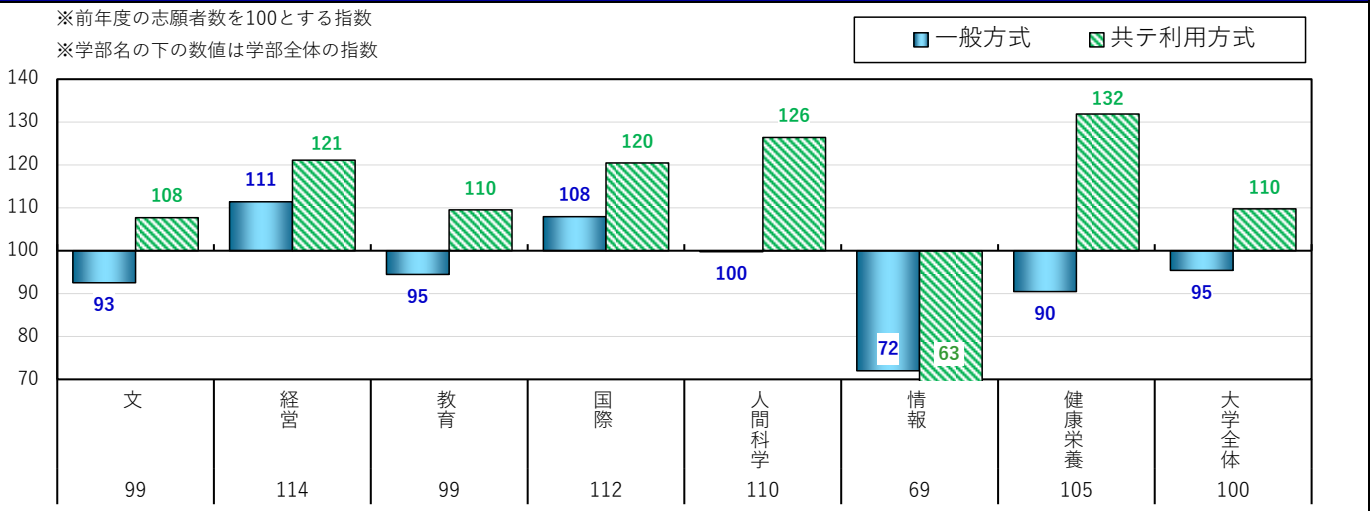
**<一般方式>**  
 ○**外国語(94)**は、前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。学科別では、4学科中3学科が減少。(英語)(88)は減少、(フランス語)(89)は前年度ほぼ倍増の反動で減少、(ドイツ語)(97)はやや減少。一方で、(交流文化)(117)は2年連続大幅増加。  
 ○**法(85)**は、前年度増加の反動で大幅減少。学科別では、3学科全て減少。特に、(国際関係法)(68)は前年度激増の反動で大幅減少。(法律)(91)は減少、(総合政策)(95)はやや減少で3年連続減少。  
 ○**経済(107)**は、やや増加で2年連続増加。学科別では、3学科全て増加。特に、(国際環境経済)(121)は2年連続大幅増加で、3年ぶりに志願者数は600人を上回った。(経済)(108)は増加で、志願者数は5年ぶりに2,000人を上回った。  
 ○**国際教養(116)**は、大幅増加で2年連続増加。志願者数は3年ぶりに1,000人を上回った。

**<共通テスト利用方式>**  
 ○**外国語(95)**は、前年度増加の反動は小さくやや減少。学科別では、増減が2学部ずつ。(ドイツ語)(120)は2年連続大幅増加、(交流文化)(114)は2年連続増加。一方で、(英語)(82)は大幅減少で4年連続減少。志願者数は800人を下回った。(フランス語)(89)は前年度激増の反動で減少。



- 法(96)は、前年度増加の反動は小さくやや減少。学科別では、3 学科中 2 学科が減少。特に、(国際関係法)(80)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。一方で、(法律)(102)は 3 年連続減少の反動はなく微増。
- 経済(105)は、やや増加で 2 年連続増加。学科別では、3 学科中 2 学科が増加。(国際環境経済)(119)は大幅増加、志願者数は 4 年ぶりに 700 人を上回った。(経営)(104)はやや増加で 2 年連続増加。一方で、(経済)(99)は前年度大幅増加の反動はなく微減。
- 国際教養(87)は、コロナ禍による系統への低い人気もあって、4 年連続減少。方式別では、共通テスト受験前に出願締切となる<前期>(87)は 4 年連続減少。共通テスト受験後に出願可能な<中期>(83)は 3 年連続大幅減少。3 月募集の<後期>(62)は大幅減少。

**文教大：大学全体で志願者数は 18 人増だが 4 年ぶりに増加 一般：-389 人 共テ：+407 人**



**主な入試変更点** 選抜方法：健康栄養(管理栄養)…<共テ・2期>新規実施

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、18 人(100)の微増で 4 年ぶりに増加だが、連続減少前の 2019 年度対比では(62)の大幅減少。学部別では、経営(114)、国際(112)、人間科学(110)は増加、健康栄養(105)はやや増加。一方で、情報(69)は大幅減少、文(99)、教育(99)は微減。方式別では、一般方式(95)はやや減少で 3 年連続減少、共通テスト利用方式(110)は増加で、情報(63)を除く 6 学部はいずれも増加。

**<一般方式>**

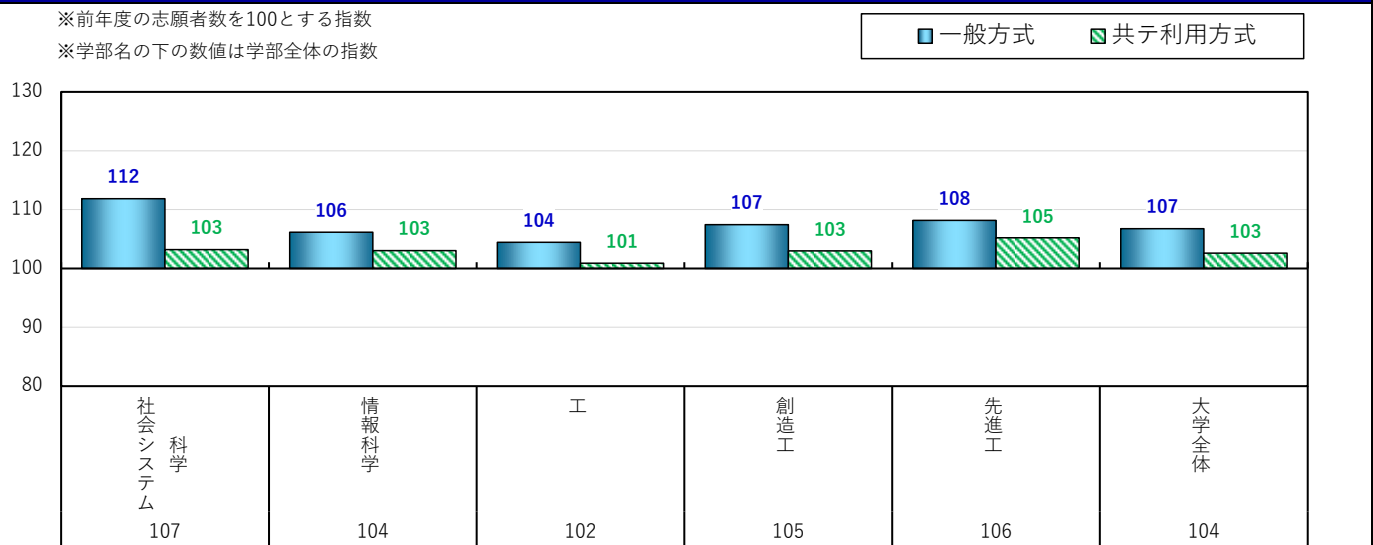
- 文(93)は、やや減少で 4 年連続減少。学科別では、(日本語日本文)(100)を除く 3 学科が減少で、(中国語中国文)(70)、(外国語)(82)はいずれも大幅減少、(英米語英米文)(93)はやや減少だが 4 年連続減少。
- 経営(111)は、前年度半減以下の反動で増加だが、志願者数は 2 年連続 500 人を下回った。
- 教育(95)は、系統への低い人気もあって、やや減少で 4 年連続減少。課程・専修別では、(発達教育/特別支援教育)(169)、(学校教育/美術)(164)、(学校教育/理科)(120)は大幅増加。一方で、(学校教育/音楽)(69)、(発達教育/初等連携)(78)、(発達教育/児童心理教育)(80)、(学校教育/家庭)(84)、(学校教育/社会)(85)は大幅減少。
- 国際(108)は、系統への低い人気もあって、前年度半減以下の反動は小さく 8% の増加に留まった。学科別では、2 学科ともに前年度はほぼ半減だったが反動は小さく、(国際観光)(115)は大幅増加、(国際理解)(104)はやや増加に留まった。
- 人間科学(100)は、2 年連続減少の反動はなく、前年度並。学科別では、(臨床心理)(105)、(心理)(104)はいずれもやや増加。一方で、(人間科学)(92)は減少で 3 年連続減少。
- 情報(72)は、3 年連続大幅減少で、志願者数は 500 人を下回った。学科別では、3 学科全てが大幅減少で 3 年連続減少。
- 健康栄養(90)は、減少で 7 年連続減少、連続減少前の 2016 年度対比では(46)の半減以下。

**<共通テスト利用方式>**

- 文(108)は、2 年連続増加。学科別では、(中国語中国文)(141)は 3 年連続大幅減少の反動で大幅増加だが、連続減少前の 2019 年度対比では(26)とほぼ 4 分の 1 の志願者数、(日本語日本文)(123)は大幅増加で 2 年連続増加。一方で、(外国語)(80)は大幅減少、(英米語英米文)(94)はやや減少。
- 経営(121)は、3 年連続大幅減少の反動で大幅増加だが、連続減少前の 2019 年度対比では(32)とほぼ 3 分の 1 の志願者数。方式別では、<共テ・1期>(149)は大幅増加。一方で<共テ・3期>(74)、<共テ・2期>(76)はいずれも大幅減少。
- 教育(110)は、増加で 4 年ぶりに増加だが、系統への低い人気もあって、連続減少前の 2019 年度対比では(73)と大幅減少。課程・専修別では、13 課程・専修別 8 課程・専修で増加。(学校/美術)(148)、(学校/理科)(131)、(学校/社会)(122)、(学校/数学)(116)は大幅増加。一方で、(学校/家庭)(74)は大幅減少。
- 国際(120)は、3 年連続減少の反動で大幅増加だが、系統への低い人気もあって、連続減少前の 2019 年度対比では(43)と半減以下。学科別では、(国際観光)(145)は 3 年連続大幅減少の反動で大幅増加、(国際理解)(104)はやや増加。しかし、連続減少前の 2019 年度対比ではそれぞれ(45)、(41)と半減以下。
- 人間科学(126)は、3 年連続減少の反動で大幅増加、志願者数は 3 年ぶりに 1,000 人を上回った。学科別では、(人間科学)(127)、(心理)(127)、(臨床心理)(125)はいずれも大幅増加。
- 情報(63)は、大幅減少で 4 年連続減少、志願者数は 300 人を下回った。学科別では、(情報社会)(55)、(情報システム)(62)、

(メディア表現)(74)はいずれも大幅減少。特に、(メディア表現)は4年連続大幅減少、(情報システム)は4年連続減少  
 ○健康栄養(132)は、<共テ・2期>新規実施により大幅増加。ただし、これを除くと(95)のやや減少で、4年連続減少。

千葉工業大：大学全体ではやや増加で6年連続増加、志願者数は初の14万人超え 一般：+3,940人 共テ：+2,114人



**主な入試変更点**

選抜方法：全5学部…<一般・SB日程>新規実施  
 <共テ・後期(タイプI(2教科方式))>新規実施  
 <共テ・後期(タイプII(数理3科目方式))>新規実施  
 <共テ・後期(タイプIII(4教科方式))>新規実施  
 <共テ・後期(2科目方式)>廃止

入試科目：全5学部<共テ・中期タイプII>…(国 or 歴公 or 数① or 数② or 理 or 外)→4  
 ※高得点4科目採用 ※国・歴・公・外の組合せ不可  
 →数+理+外+(国 or 歴公)  
 ※数：数① or 数② ※選択は高得点1科目採用

社会システム科学<共テ・前期タイプI>…(国 or 歴公 or 数① or 数② or 理 or 外)→2  
 ※高得点2科目採用  
 →(国 or 歴公 or 数① or 数② or 理 or 外)→3  
 ※高得点3科目採用

<共テ・前期タイプII>…(国 or 歴公 or 外)+(数① or 数② or 理)  
 ※選択はそれぞれ高得点科目を採用  
 →(数① or 数② or 理)+(国 or 歴公 or 外)→2  
 ※選択はそれぞれ高得点科目を採用

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、6,054人(104)のやや増加で6年連続増加となり、志願者数は初めて14万人を超えた。方式別では、一般方式は<SB日程>の新規実施もあり、3,940人(107)のやや増加。新規の<SB日程>を除くと(97)のやや減少。共通テスト利用方式は、コロナ禍対策として引き続き共通テスト検定料を無料または減免して、6年連続増加で2,114人(103)のやや増加。

**<一般方式>**

- 社会システム科学(112)は、増加で2年連続増加。学科別では、3学科全てが増加。方式別では、新規実施の<SB日程>を除くと5人減(100)で前年度並。
- 情報科学(106)は、やや増加で2年連続増加。学科別では、2学科ともやや増加。方式別では、新規実施の<SB日程>を除くと(96)のやや減少。
- 工(104)は、2年連続やや増加。学科別では、6学科全てが増加で、(先端材料工)(110)は増加、(応用化)(107)、(機械電子創成工)(106)、(電気電子工)(104)はいずれもやや増加、他の2学科はいずれも微増。方式別では、新規実施の<SB日程>を除くと(95)のやや減少。
- 創造工(107)は、2年連続やや増加。学科別では、(デザイン科学)(108)は増加、他の2学科はいずれもやや増加。方式別では、新規実施の<SB日程>を除くと(97)のやや減少。
- 先進工(108)は、増加で2年連続増加。学科別では、(生命科学)(110)、(未来ロボティクス)(108)はいずれも増加、(知能メディア工)(107)はやや増加。方式別では、新規実施の<SB日程>を除くと(98)の微減。

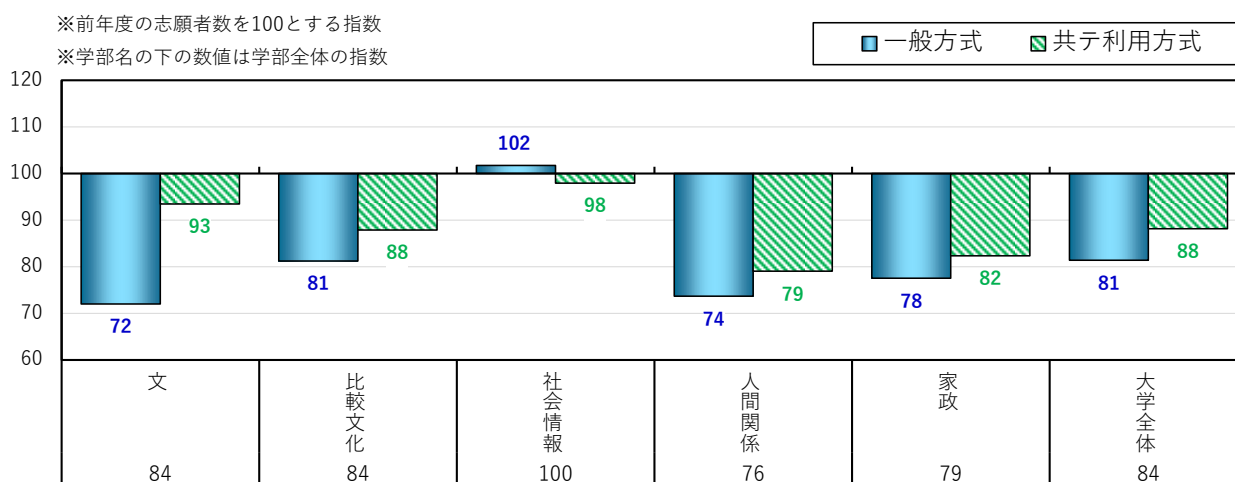
**<共通テスト利用方式>**

- 社会システム科学(103)は、やや増加で6年連続増加。学科別では、(経営情報科学)(104)、(金融・経営)(103)はいずれもやや増加、(プロジェクトマネジメント)(102)は微増。
- 情報科学(103)は、やや増加で6年連続増加。学科別では、(情報ネットワーク)(104)はやや増加、(情報工)(102)は微増。
- 工(101)は、微増だが6年連続増加。学科別では、(機械電子創成工)(102)、(先端材料工)(102)、(電気電子工)(101)、(機械工)(101)はいずれも微増、(応用化)(100)は前年度並。一方で、(情報通信システム工)(99)のみ微減。
- 創造工(103)はやや増加で6年連続増加。学科別では、(都市環境工)(104)、(デザイン科学)(103)はいずれもやや増加、(建

築)(102)は微増。

○**先進工(105)**は、やや増加で6年連続増加。学科別では、(生命科学)(107)、(知能メディア工)(105)、(未来ロボティクス)(104)はいずれもやや増加。

## 大妻女子大：大学全体では、前年度大幅増加の反動もあって大幅減少 一般：-528人 共テ：-279人



**主な入試変更点** 選抜方法：文(日本文)、(英語英文) 家政(児童/児童教育)、(被服)…<共テ・B方式I期(3科目型)>を新規実施

### COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前年度大幅増加の反動もあって、807人(84)の大幅減少。学部別では、5学部中4学部が減少。(人間関係)(76)、(家政)(79)、(文)(84)、(比較文化)(84)の4学部はいずれも大幅減少。(社会情報)(100)は前年度並。方式別では、一般方式は528人(81)の大幅減少。2月入試の<一般・A方式I期>(81)は大幅減少、3月入試の<一般・A方式II期>(86)は4年連続減少。共通テスト利用方式は279人(88)の減少だが、新規実施の募集単位を除くと、(79)の大幅減少。2月入試の<共テ・B方式I期>(89)は減少だが、新規実施の募集単位を除くと(78)の大幅減少、3月入試の<共テ・B方式II期>(82)は大幅減少。

#### <一般方式>

- 文(72)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、(日本文)(102)は3年連続減少の反動はなく前年度並。一方で、(コミュニケーション文化)(56)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、志願倍率も10.5倍→5.9倍にダウン。(英語英文)(74)も前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 比較文化(81)**は、大幅減少。方式別では、2月入試の<A方式I期>(76)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。一方で、3月入試の<A方式II期>(109)は4年ぶりの増加だが、2019年度対比では(18)で5分の1以下。
- 社会情報(102)**は、3年連続減少の反動はなく微増。学科・専攻別では、(社会情報/環境情報学)(105)は3年連続減少の反動は小さくやや増加だが、(社会情報/社会生活情報学)(101)、(社会情報/情報デザイン)(101)はいずれも3年連続減少の反動はなく前年度並。
- 人間関係(74)**は、前年度増加の反動もあって大幅減少。学科・専攻別では、(人間関係/社会学)(65)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(人間福祉)(79)は4年連続大幅減少、(人間関係/社会・臨床心理学)(81)も大幅減少で前年度の反動による増減が継続。
- 家政(78)**は、系統への低い人気に加えて、前年度大幅増加の反動で大幅減少。6学科・専攻全てで減少。(ライフデザイン)(67)は大幅減少で、2019年度以降前年度の反動による極端な増減が継続、(児童/児童学)(76)は大幅減少で5年連続減少、(被服)(77)、(食物/管理栄養士)(81)はいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少、(食物/食物学)(88)は前年度増加の反動で減少。(児童/児童教育)(96)はやや減少で6年連続増加なし。

#### <共通テスト利用方式>

- 文(93)**は、やや減少だが、新規導入の募集単位を除くと(72)の大幅減少、前年度の倍増以上の反動。学科別では、(日本文)(141)は大幅増加だが、新規の<B方式I期(3科目型)>を除くと(88)の減少、(英語英文)(102)も前年度並だが、新規の<B方式I期(3科目型)>を除くと(75)の減少。いずれも前年度の反動。一方で、新規導入の方式がなかった(コミュニケーション文化)(60)は前年度倍増以上の反動で大幅減少。
- 比較文化(88)**は、2年連続減少。方式別では、2月入試の<B方式I期>(91)は2年連続減少、3月入試の<B方式II期>(55)は大幅減少。
- 社会情報(98)**は、微減だが4年連続減少。学科・専攻別では、(社会情報/情報デザイン)(103)は3年連続減少の反動は小さくやや増加。一方で、(社会情報/環境情報学)(94)はやや減少で4年連続減少、(社会情報/社会生活情報学)(96)は2年連続やや減少。
- 人間関係(79)**は、前年度激増の反動で大幅減少。学科・専攻別では、前年度とは逆に3学科・専攻全てで減少。(人間福祉)(63)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(人間関係/社会学)(71)も前年度倍増以上の反動で大幅減少。(人間関係/社会・臨床心理学)(96)は前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。
- 家政(82)**は、系統への低い人気に加えて、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科・専攻別では、6学科・専攻中4学科・専攻が減少。(食物/管理栄養士)(58)、(食物/食物学)(81)はいずれも2年連続大幅増加の反動で大幅減少、(児童/児童学)(67)、(ライフデザイン)(83)はいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少。新規に<B方式I期(3科目型)>を導入した学科・専攻では、(被服)(117)は2年連続大幅増加だが、新規の募集単位を除くと(76)の大幅減少。(児童/児童教育)(104)も

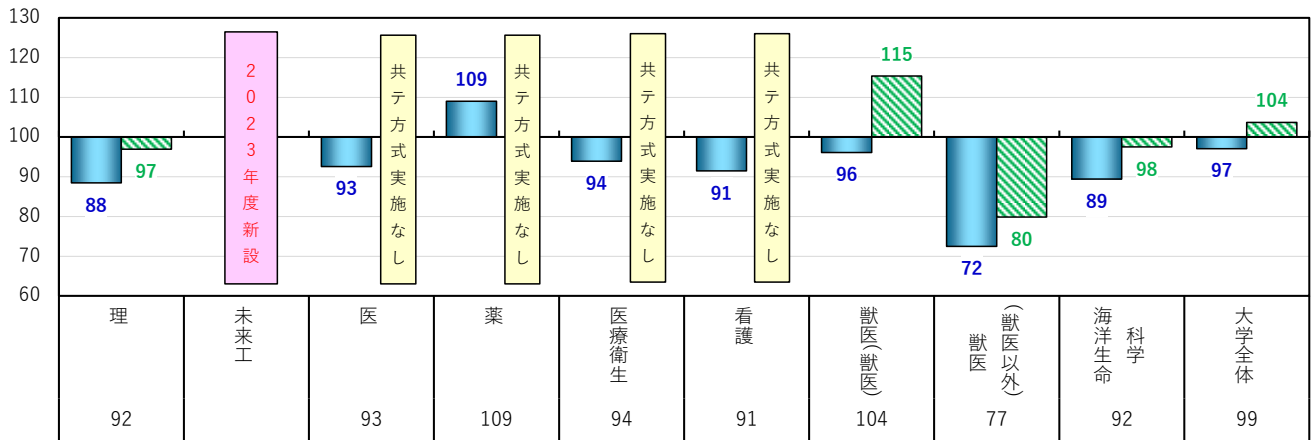


やや増加だが、新規の募集単位を除くと(76)の大幅減少。

北里大：未来工を新設したが、一般はやや減少、共テはやや増加 一般：-286人 共テ：+105人

※前年度の志願者数を100とする指数  
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■ 一般方式 ■ 共テ利用方式



**主な入試変更点** 学部新設：未来工(データサイエンス) 募集人員：100人  
 選抜方法：獣医(獣医)…<共テ・後期>新規実施  
 薬 試験時間変更…数<70分>+理<70分>+外<70分>→数<80分>+理<80分>+外<80分>  
 試験会場：医 第1次試験会場に東京追加…<第1次>相模原→<第1次>相模原、東京  
 獣医(動物資源科学、生物環境科学)<一般・中期> 試験会場から大阪、福岡除外  
 …相模原、仙台、大阪、福岡→相模原、仙台

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、181人(99)の微減。新設の未来工は人気の高いデータサイエンスの1学科だが、志願者数442人、志願倍率8.0倍で大学全体の志願倍率10.7倍には及ばなかった。これを除くと623人(95)のやや減少。学部・学科別では薬(109)と獣医(獣医)(104)のみ増加で、その他の学部・学科はいずれも減少。方式別では、一般方式は286人(97)のやや減少だが、新設の未来工を除くと563人(94)のやや減少。共通テスト利用方式は2020年度からの理、獣医、海洋生命科学の3学部と今年度から新設の未来工の4学部での募集で105人(104)のやや増加だが、新設の未来工と新規実施の獣医(獣医)<共テ・後期>を除くと98人(97)のやや減少。

<一般方式>

- 理(88)は、減少で、志願者数は1,000人を下回った。学科別では、3学科全てが減少で、(物理)(79)は大幅減少、(化)(88)は減少、(生物科学)(95)はやや減少。
- 新設の未来工は、募集人員50人、志願者数277人で、志願倍率は5.5倍だった。
- 医(93)は、前年度増加の反動は小さくやや減少に留まった。
- 薬(109)は、2年連続増加。志願者数が1,800人を上回るのは7年ぶり。学科別では、2学科とも増加。(生命創薬科学)(111)は3年連続増加。(薬)(109)も2年連続増加で、志願者数が1,500人を上回るのは5年ぶり。
- 医療衛生(94)は、募集人員の2年連続減少もあり、やや減少で3年連続減少。募集単位別では、8募集単位中5募集単位で減少。(リハビリテーション/言語聴覚療法学)(148)は前年度激減の反動で大幅増加、(リハビリテーション/理学療法学)(109)は増加、(リハビリテーション/作業療法学)(105)はやや増加。一方で、(リハビリテーション/視覚機能療法学)(62)は大幅減少で3年連続減少、(医療工/臨床工学)(73)は大幅減少で5年連続減少、(医療検査)(87)、(保健衛生)(88)はいずれも減少。
- 看護(91)は、前年度増加の反動で減少。
- 獣医(獣医)(96)は、やや減少。方式別では、<前期>(101)は微増だが9年ぶりの増加、<後期>(84)は大幅減少。
- 獣医(獣医以外)(72)は、大幅減少で、志願者数は330人を下回った。学科別では、2学科とも大幅減少で、(動物資源科学)(69)は大幅減少で7年連続減少、(生物環境科学)(78)は前年度増加の反動で大幅減少。
- 海洋生命科学(89)は、前年度大幅増加の反動で減少。

<共通テスト利用方式>

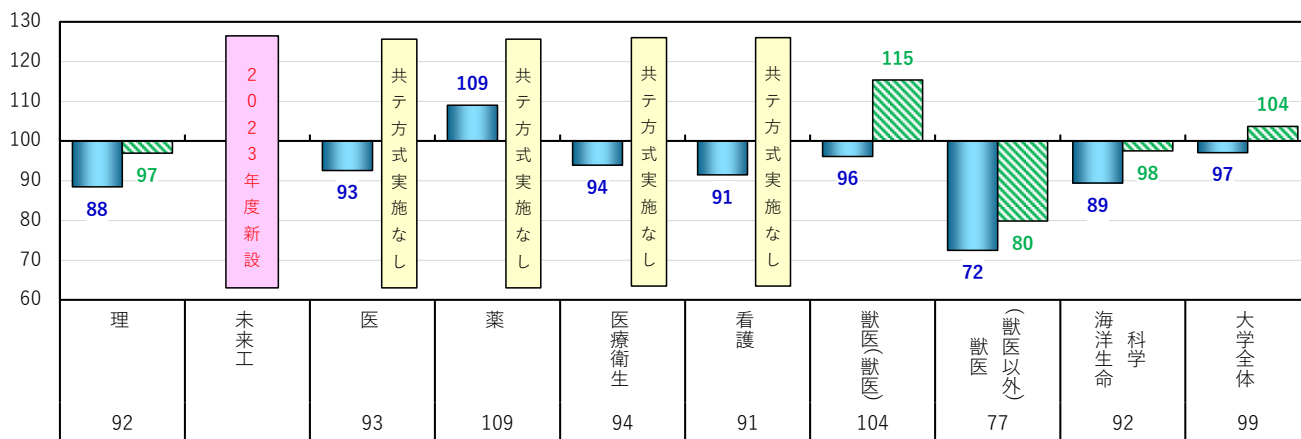
- 理(97)は、やや減少で志願者数は3年連続1,000人を下回った。学科別では、(生物科学)(117)は前年度減少の反動で大幅増加。一方で、(物理)(73)は大幅減少、(化)(93)はやや減少。
- 新設の未来工は、募集人員5人、志願者数165人で、志願倍率は33.0倍だった。
- 獣医(獣医)(115)は、大幅増加で2年連続増加。実施の<後期>を除いても(110)の増加。方式別では、<5教科>(121)が大幅増加、<3教科>(104)はやや増加。新規実施の<後期>は志願者数38人で志願倍率は12.7倍だった。
- 獣医(獣医以外)(80)は、大幅減少で志願者数は6年ぶりの500人台。学科別では、(生物環境科学)(78)、(動物資源科学)(81)はいずれも大幅減少。
- 海洋生命科学(98)は、微減だが4年連続減少で志願者数は2年連続500人を下回った。



北里大：未来工を新設したが、一般はやや減少、共テはやや増加 一般：-286人 共テ：+105人

※前年度の志願者数を100とする指数  
 ※学部名の下の数値は学部全体の指数

■ 一般方式 ■ 共テ利用方式



**主な入試変更点** 学部新設：未来工(データサイエンス) 募集人員：100人  
 選抜方法：獣医(獣医)…<共テ・後期>新規実施  
 薬 試験時間変更…数<70分>+理<70分>+外<70分>→数<80分>+理<80分>+外<80分>  
 試験会場：医 第1次試験会場に東京追加…<第1次>相模原→<第1次>相模原、東京  
 獣医(動物資源科学、生物環境科学)<一般・中期> 試験会場から大阪、福岡除外  
 …相模原、仙台、大阪、福岡→相模原、仙台

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、181人(99)の微減。新設の未来工は人気の高いデータサイエンスの1学科だが、志願者数442人、志願倍率8.0倍で大学全体の志願倍率10.7倍には及ばなかった。これを除くと623人(95)のやや減少。学部・学科別では薬(109)と獣医(獣医)(104)のみ増加で、その他の学部・学科はいずれも減少。方式別では、一般方式は286人(97)のやや減少だが、新設の未来工を除くと563人(94)のやや減少。共通テスト利用方式は2020年度からの理、獣医、海洋生命科学の3学部と今年度から新設の未来工の4学部での募集で105人(104)のやや増加だが、新設の未来工と新規実施の獣医(獣医)<共テ・後期>を除くと98人(97)のやや減少。

<一般方式>

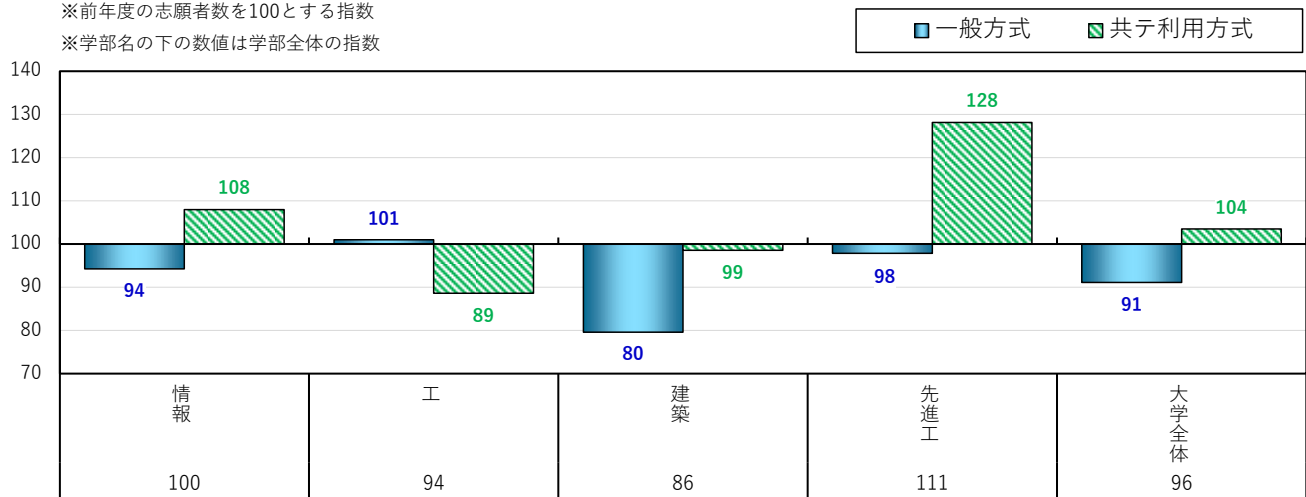
- 理(88)は、減少で、志願者数は1,000人を下回った。学科別では、3学科全てが減少で、(物理)(79)は大幅減少、(化)(88)は減少、(生物科学)(95)はやや減少。
- 新設の未来工は、募集人員50人、志願者数277人で、志願倍率は5.5倍だった。
- 医(93)は、前年度増加の反動は小さくやや減少に留まった。
- 薬(109)は、2年連続増加。志願者数が1,800人を上回るのは7年ぶり。学科別では、2学科とも増加。(生命創薬科学)(111)は3年連続増加。(薬)(109)も2年連続増加で、志願者数が1,500人を上回るのは5年ぶり。
- 医療衛生(94)は、募集人員の2年連続減少もあり、やや減少で3年連続減少。募集単位別では、8募集単位中5募集単位で減少。(リハビリテーション/言語聴覚療法学)(148)は前年度激減の反動で大幅増加、(リハビリテーション/理学療法学)(109)は増加、(リハビリテーション/作業療法学)(105)はやや増加。一方で、(リハビリテーション/視覚機能療法学)(62)は大幅減少で3年連続減少、(医療工/臨床工学)(73)は大幅減少で5年連続減少、(医療検査)(87)、(保健衛生)(88)はいずれも減少。
- 看護(91)は、前年度増加の反動で減少。
- 獣医(獣医)(96)は、やや減少。方式別では、<前期>(101)は微増だが9年ぶりの増加、<後期>(84)は大幅減少。
- 獣医(獣医以外)(72)は、大幅減少で、志願者数は330人を下回った。学科別では、2学科とも大幅減少で、(動物資源科学)(69)は大幅減少で7年連続減少、(生物環境科学)(78)は前年度増加の反動で大幅減少。
- 海洋生命科学(89)は、前年度大幅増加の反動で減少。

<共通テスト利用方式>

- 理(97)は、やや減少で志願者数は3年連続1,000人を下回った。学科別では、(生物科学)(117)は前年度減少の反動で大幅増加。一方で、(物理)(73)は大幅減少、(化)(93)はやや減少。
- 新設の未来工は、募集人員5人、志願者数165人で、志願倍率は33.0倍だった。
- 獣医(獣医)(115)は、大幅増加で2年連続増加。実施の<後期>を除いても(110)の増加。方式別では、<5教科>(121)が大幅増加、<3教科>(104)はやや増加。新規実施の<後期>は志願者数38人で志願倍率は12.7倍だった。
- 獣医(獣医以外)(80)は、大幅減少で志願者数は6年ぶりの500人台。学科別では、(生物環境科学)(78)、(動物資源科学)(81)はいずれも大幅減少。
- 海洋生命科学(98)は、微減だが4年連続減少で志願者数は2年連続500人を下回った。

## 工学院大：志願者数はやや減少だが2年連続2万人を上回った 一般：-1,087人 共テ：+104人

※前年度の志願者数を100とする指数  
 ※学部名の下の数値は学部全体の指数



**主な入試変更点** 学科名称変更：情報(システム数理)→情報(情報科学)  
 選抜方法：建築<一般・B日程>…学科単位募集→学部単位募集  
 情報、工、建築、先進工(機械理工/航空理工除く)<一般・英語外部試験利用>  
 …英語外部試験の対象試験にケンブリッジ英検追加

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、771人(96)のやや減少だが、志願者数は2年連続2万人を上回った。学部別では、先進工(111)のみ増加。建築(86)は減少、工(94)はやや減少。方式別では、一般方式は1,087人(91)の減少、共通テスト利用方式は316人(104)のやや増加。共通テスト利用方式の方式別では、共通テスト受験前に出願締め切りとなる<共テ前期>(103)はやや増加で、前年度大幅増加に引き続き2年連続増加。共通テスト受験後に出願可能な<共テ後期>(147)は大幅増加で、共通テストの平均点アップの影響もあり、志願倍率は8.1倍→11.8倍にアップ。

## &lt;一般方式&gt;

- 情報(94)**は、やや減少。学科および学部総合の5募集単位別では、名称変更した(情報科学)(139)は旧(システム数理)との比較では2年連続大幅増加、(学部総合)(123)は3年連続減少の反動で大幅増加。一方で、(情報通信工)(72)は大幅減少で3年連続減少、志願者数は5年ぶりに1,000人を下回った。(情報デザイン)(88)は前年度大幅増加の反動で減少、(コンピュータ科学)(90)は2年連続増加の反動で減少。
- 工(101)**は、3年連続減少の反動は小さく微増。学科別では、(機械工)(103)はやや増加。一方で、(電気電子工)(99)は微減だが4年連続減少、(機械システム工)(99)も微減だが3年連続減少。
- 建築(80)**は、大幅減少で志願者数は9年ぶりに4,000人を下回った。学科および学部総合の4募集単位別では、全て減少。(学部総合)(65)は大幅減少で4年連続減少。(建築)(79)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(建築デザイン)(84)は大幅減少で5年連続減少、(まちづくり)(89)は2年連続減少で、志願者数は10年ぶりに500人を下回った。
- 先進工(98)**は、微減だが4年連続減少。学科・専攻別および大学院接続型コースの7募集単位別では、(生命化)(113)は2年連続減少の反動で増加、(応用化)(101)は微増だが2年連続増加。一方で、(機械理工/航空理工学)(68)は2年連続大幅減少、(大学院接続型)(71)は2020年度新設以降翌年から3年連続大幅減少、(環境化)(89)、(応用物理)(92)はいずれも減少、(機械理工/機械理工学)(94)はやや減少で3年連続減少。

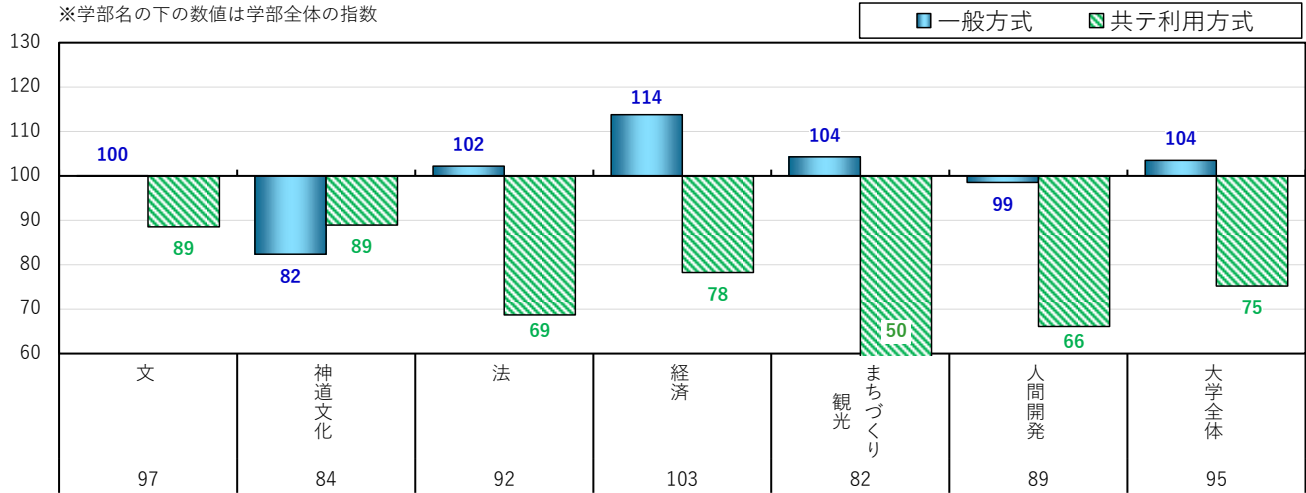
## &lt;共通テスト利用方式&gt;

- 情報(108)**は、増加で前年度大幅増加に引き続き増加。学科および学部総合の5募集単位別では、名称変更した(情報科学)(142)は旧(システム数理)との比較では2年連続大幅増加。(学部総合)(128)は2年連続大幅増加、(コンピュータ科学)(106)はやや増加で2年連続増加。一方で、(情報通信工)(89)は前年度大幅増加の反動で減少。
- 工(89)**は、前年度大幅増加の反動で減少。学科別では、3学科全てが減少。特に、(電気電子工)(71)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 建築(99)**は、前年度大幅増加の反動はなく微減。学科および学部総合の4募集単位別では、(建築デザイン)(116)は2年連続大幅増加、(まちづくり)(103)はやや増加で3年連続増加。一方で、(学部総合)(74)は前年度激増の反動で大幅減少、(建築)(98)は前年度大幅増加の反動は小さく微減と分かれた。
- 先進工(128)**は、大幅増加で2年連続増加。学科・専攻別および大学院接続型コースの7募集単位別では、6募集単位が増加。(大学院接続型)(158)は2年連続大幅増加、(生命化)(148)、(応用化)(130)はいずれも2年連続大幅増加、(環境化)(147)は2年連続減少の反動で大幅増加。一方で、唯一減少した募集単位の(機械理工/航空理工学)(46)は2年連続ほぼ半減で、2019年度新設以降最少の志願者数。

國學院大：一般はやや増加だが、共テは大幅減少

一般：+522 人 共テ：-1,654 人

※前年度の志願者数を100とする指数  
 ※学部名の下の数値は学部全体の指数



主な入試変更点

選抜方法：観光まちづくり<共テ・V方式>3・5科目…歴公、理は第1解答科目の成績を利用→歴公、理は2科目受験した場合、高得点の科目を採用  
 人間開発<共テ・V方式>…歴公、理は第1解答科目の成績を利用→歴公、理は2科目受験した場合、高得点の科目を採用  
 配点変更：観光まちづくり<一般・A日程(学部学科特色型)>…外<100>+(国 or 理)<100>+(歴公 or 数)<100>=総点<300>→外<100>+(国 or 理)<100>+(歴公 or 数)<200>=総点<400>  
 入試科目：人間開発<一般・A日程(学部学科特色型)>：国<100>+外<100>+(歴公 or 数)<100>=総点<300> ※数：数Ⅰ・A  
 →{外<100>or(国 or 理)<100>or(歴公 or 数)<100>}=総点<500>  
 ※数：数Ⅰ・A or 数Ⅰ・Ⅱ・A・B  
 ※出願時に国、理の事前登録必須  
 ※成績上位2科目の得点を2倍する  
 募集人員：観光まちづくり<共テ・V方式>50人→33人

COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、1,132(95)のやや減少だが、志願者数は2年連続2万人を上回った。方式別では、一般方式は、522人(104)のやや増加で2年連続増加。共通テスト利用方式は、1,654人(75)の大幅減少で、2019年度対比では約60%の減少率。志願者数は5,011人と10年ぶりに6,000人を下回った。私立大専願者の共通テスト敬遠傾向の影響を大きく受けた。

<一般方式>

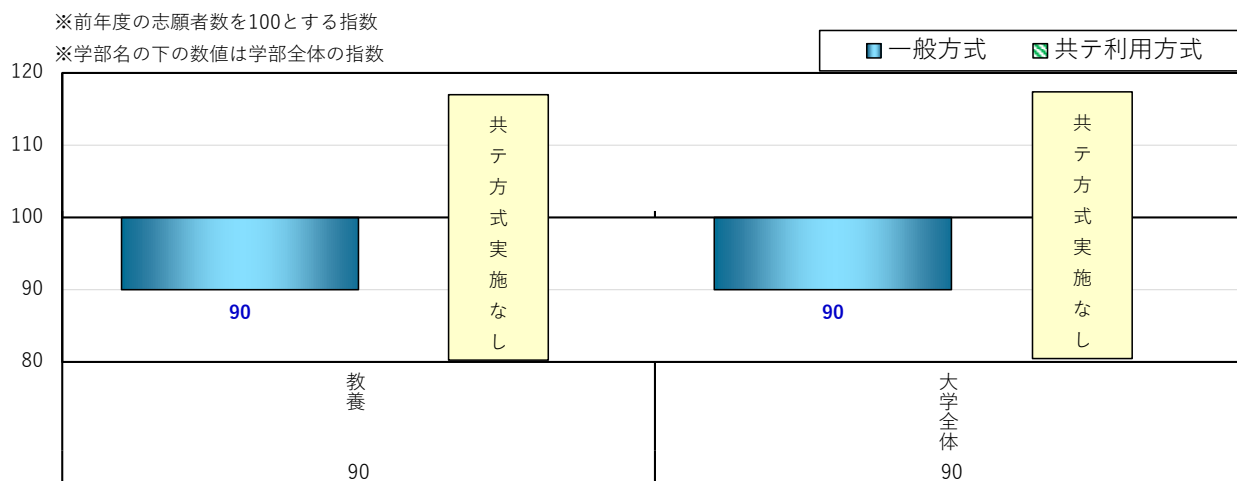
- 文(100)は、前年度並。学科別では、5学科中3学科が減少。特に、(中国文)(77)は大幅減少で3年連続減少。(史)(92)は前年度3年ぶりにやや増加から再び減少。(日本文)(96)はやや減少で3年連続減少。一方で、(哲)(124)、(外国語文化)(121)はいずれも2年連続減少の反動で大幅増加。
- 神道文化(82)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少、志願者数は2年ぶりに500人を下回った。
- 法(102)は、微増だが2年連続増加。専攻別では、3専攻中2専攻が増加。(法律/政治)(130)は大幅増加で2年連続増加、(法律/法律)(101)は微増だが2年連続増加。一方で、(法律/法律専門職)(78)は大幅減少で2年連続減少。志願者数は5年ぶりに300人を下回った。
- 経済(114)は、2年連続増加。学科別では、2学科とも増加。(経営)(129)は大幅増加で3年ぶりに増加、(経済)(101)は微増だが2年連続増加、志願者数は3年ぶりに2,000人を上回った。
- 観光まちづくり(104)は、新設2年目で、コロナ禍の影響を受けた系統だがやや増加。
- 人間開発(99)は、微減だが3年連続減少。学科別でも、3学科のいずれも変化は小さかった。(子ども支援)(100)は1人増加のみの前年度並、(初等教育)(100)は前年度と同数、(健康体育)(96)はやや減少。

<共通テスト利用方式>

- 文(89)は、4年連続減少。志願者数は2,000人を下回り、2019年度対比では60%近い減少率。学科別では、5学科中3学科が減少でいずれも4年連続減少。特に、(史)(70)は大幅減少。(日本文)(87)、(中国文)(88)はいずれも減少。一方で、(哲)(139)は3年連続減少の反動で大幅増加。(外国語文化)(110)は4年ぶりに増加。
- 神道文化(89)は、3年連続減少。志願者数は200人を下回り、2020年度対比では半減以下。
- 法(69)は、前年度増加の反動で大幅減少。志願者数は900人を下回った。専攻別では、3専攻全てが減少。特に、(法律/法律専門職)(49)は半減以下で2年連続大幅減少、(法律/法律)(71)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(法律/政治)(74)は大幅減少。
- 経済(78)は、大幅減少で4年連続減少、2019年度対比では70%近い減少率。学科別では、2学科とも大幅減少で、(経営)(77)は大幅減少で4年連続減少、(経済)(80)は大幅減少。
- 観光まちづくり(50)は、新設2年目だが、コロナ禍の影響を受けた系統であることが影響し半減。募集人員が34%減少だが、志願倍率は17.9倍→13.5倍にダウン。
- 人間開発(66)は、3年連続大幅減少で4年連続減少、2019年度対比では60%を超える減少率。学科別では、(健康体育)(60)、(子ども支援)(66)、(初等教育)(72)のいずれも大幅減少。

## 国際基督教大：志願者数は3年連続減少

一般：-103人



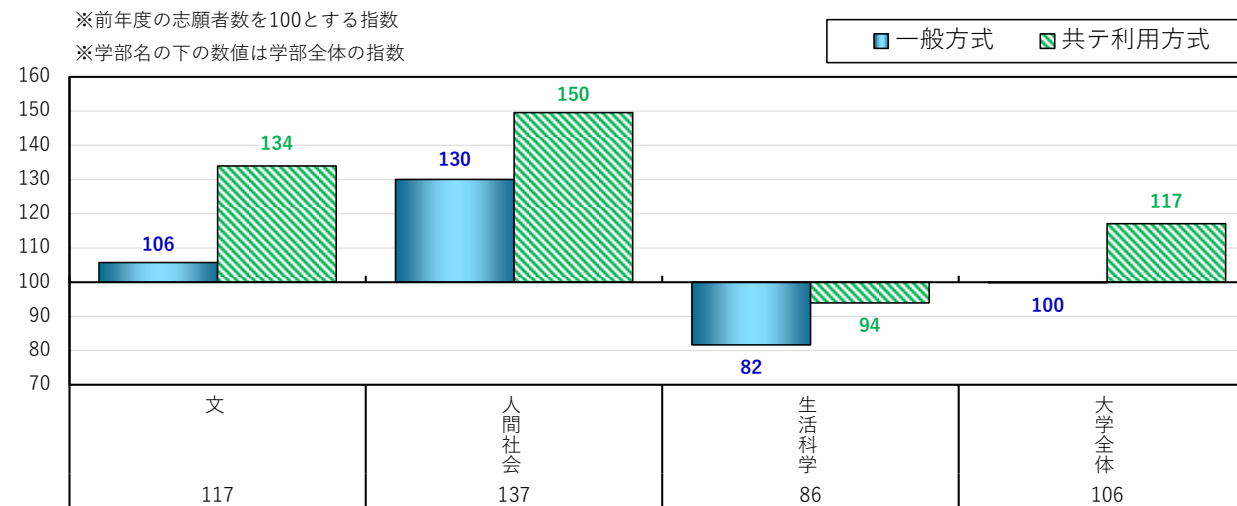
## COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、103人(90)の減少で募集人員が300人→250人に変更になった2021年度から3年連続減少。志願者数は1,000人を下回り、2014年度に旧センター試験利用方式を廃止後最少。

## &lt;一般方式&gt;

○教養(90)は、減少で3年連続減少。方式別では、入試で「人文・社会科学」または「自然科学」、「総合教養」、「英語」の3科目を課す<A方式>(90)は募集人員が290人→240人に変更になった2021年度から3年連続減少で、志願倍率は4.4倍→4.0倍→3.6倍とダウン。第一次選考で「総合教養」および「英語外部試験」、第二次選考で「個人面接」を課す<B方式>(88)は募集人員10人と少ないが、前年度大幅減少に引き続き減少。志願倍率は9.1倍→6.9倍→6.1倍とダウン。

## 実践女子大：大学全体では4年ぶりに増加だが、4年前の半減以下 一般：-3人 共テ：+203人



## 主な入試変更点

選抜方法：全学部…<共テ・I期3科目型(英語外部試験利用方式)>を新規実施

利用方法：得点換算

対象試験：ケンブリッジ英検、英検、GTEC、IELTS、TEAP、TEAP CBT、TOEFL iBT、TOEIC LR&SW

※外を受験した場合は、高得点の方を外の得点として利用

※共テ・I期3科目型にも出願した場合は、外を受験必須

文(国文)…<共テ・III期>を新規実施

## COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、3年連続大幅減少の反動は極小で200人(106)のやや増加で、2019年度比では半減以下。女子大を取り巻く厳しい環境も影響。学部別では、3学部中2学部が増加。人間社会(137)、文(117)はいずれも大幅増加。一方で、生活科学(86)は減少。方式別では、一般方式は、3年連続減少の反動はなく、わずか3人(100)の微減だが4年連続減少。2月上旬入試の<一般・I期>(98)は2年連続大幅減少に引き続きやや減少で3年連続減少。2月中旬入試の<一般・II期>(107)はやや増加で4年ぶりに増加。共テ利用方式は203人(117)の大幅増加で5年ぶりに増加だが、2018年度比では約60%減少。<共テ・I期>(129)は大幅増加だが、2018年度比では約60%減少。なお、新設の<共テ・I期3科目型(英語外部試験利用方式)>を除くと(86)の減少で、2018年度比では約70%減少。



<一般方式>

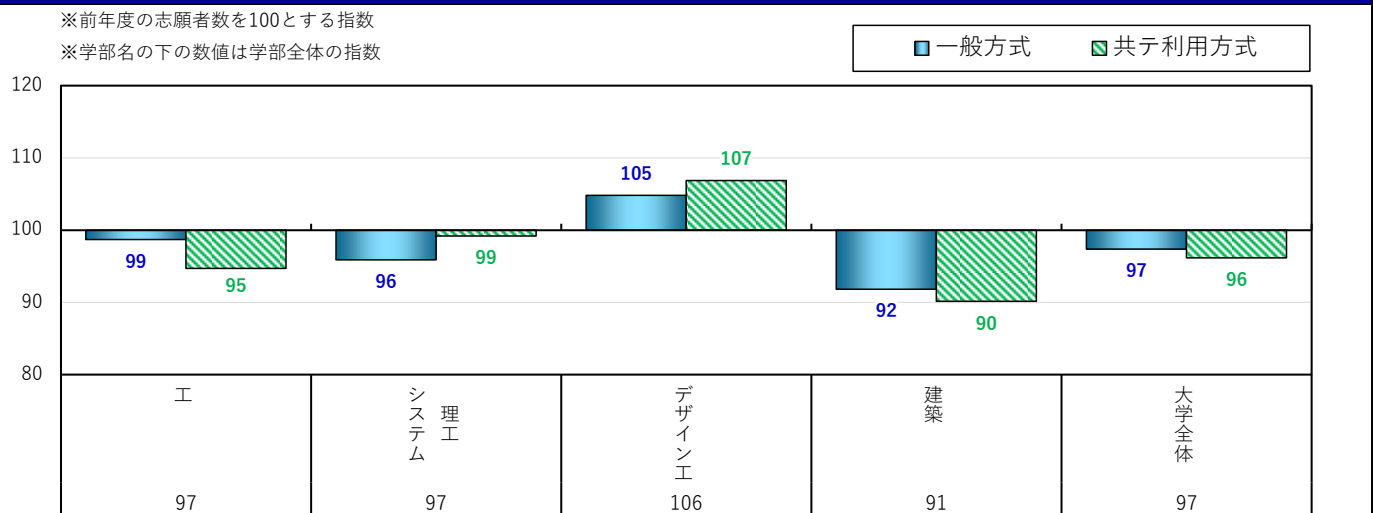
- 文(106)**は、3年連続大幅減少の反動は極小でやや増加だが、2019年度比では半減以下。学科別では3学科中2学科が増加。(国文)(123)は大幅増加、(英文)(107)はやや増加。いずれも3年連続減少の反動。一方で、(美学美術史)(91)は3年連続減少。
- 人間社会(130)**は、3年連続減少の反動で大幅増加だが、2019年度対比では約40%減少。方式別では、<一般・I期>(135)は4年連続減少の反動で大幅増加。<一般・II期>(114)は4年ぶりに増加。
- 生活科学(82)**は、4年連続減少、しかも2021年度以降は3年連続大幅減少。学科・専攻別では7学科・専攻中6学科・専攻が減少。特に、(食生活科学/食物科学)(62)、(生活文化/生活心理)(64)、(生活文化/幼児保育)(64)、(食生活科学/健康栄養)(76)はいずれも大幅増加。一方で、(現代生活)(110)は2年連続大幅減少の反動で増加。しかし、2020年度対比では半減以下。

<共通テスト利用方式>

- 文(134)**は、3年連続大幅減少の反動で大幅増加だが、2019年度対比では半減以下。なお、新規実施の<共テ・I期3科目型(英語外部試験利用方式)>除くと(93)のやや減少だが、2019年度対比では約70%減少。学科別では、3学科全てが増加。(国文)(179)は激増だが3年連続大幅減少だった反動は小さく、2019年度対比では約64%減少。(英文)(132)は大幅増加だが4年連続減少の反動は小さく、2018年度対比では約60%減少。(美学美術史)(112)は増加だが、3年連続減少の反動は小さく、2019年度対比では半減以下。
- 人間社会(150)**は、大幅増加。しかし、新規実施の<共テ・I期3科目型(英語外部試験利用方式)>を除くと前年度の大幅減少に引き続き(95)のやや減少。
- 生活科学(94)**は、やや減少で5年連続減少。新規実施の<共テ・I期3科目型(英語外部試験利用方式)>を除くと(71)とさらに大幅減少。学科専攻別では、7学科・専攻中5学科・専攻が減少。特に、(生活文化/幼児保育)(38)が激減、(食生活科学/食物科学)(62)、(食生活科学/管理栄養士)(77)、(食生活科学/健康栄養)(77)が大幅減少。一方で、(現代生活)(169)は激増、新規実施の<共テ・I期3科目型(英語外部試験利用方式)>を除いても(120)の大幅増加。ただし、4年連続減少の反動は小さく、2018年度対比では新規実施の<共テ・I期3科目型(英語外部試験利用方式)>を含めても約40%近い減少。

芝浦工業大：大学全体ではやや減少、4年連続減少

一般：-582人 共テ：-600人



**主な入試変更点**  
 選抜方法：<全学統一>…外の出題形式が全問マークセンス方式へ  
 <一般・後期>…外の独自試験を廃止し、共テの外または英語外部試験(英検)を活用  
 試験会場：<一般・前期>、<全学統一>、<英語資格・検定試験利用方式>…金沢会場、岡山会場追加  
 試験日程：<英語資格・検定試験利用方式>…3日間で実施→4日間で実施

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、1,182人(97)のやや減少で4年連続減少。方式別では、一般方式は582人(97)のやや減少。学部別では、デザイン工(105)のみやや増加で、建築(92)は減少、システム理工(96)はやや減少、工(99)は微減。一般方式の方式別では、外の出題形式が全問マークセンス方式に変更したが、<全学統一>(94)はやや減少で4年連続減少。試験日程を1日増加した<英語資格・検定試験利用方式>(116)は大幅増加で4年連続増加。外の独自試験を廃止し、共テの外または英語外部試験(英検)を活用に変更した<後期>(69)は大幅減少。共通テスト利用方式は600人(96)のやや減少で4年連続減少。学部別では、デザイン工(107)のみやや増加で、建築(90)は減少、工(95)はやや減少、システム理工(99)は微減。共通テスト利用方式の方式別では、共通テスト受験前に出願締め切りの<共テ・前期>(96)はやや減少で3年連続減少、共通テスト受験後に可能なる<共テ・後期>(102)は微増で2020年度方式設置から3年連続増加。

<一般方式>

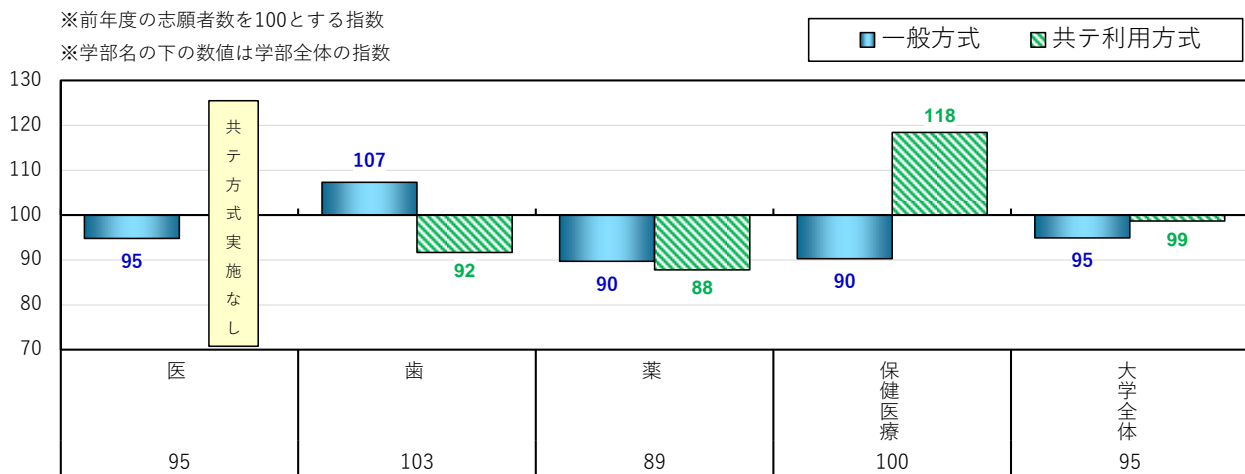
- 工(99)**は、微減で、志願者数は12,000人を下回った。学科別では、(土木工)(111)、(機械工)(111)、(電気工)(111)と3学科とも同指数の増加。(土木工)は2019年度に学科一括募集に変更して初めての増加、(機械工)は4年ぶりの増加、(電気工)は2年連続増加。一方で、(電子工)(89)は2年連続減少で志願者数は1,000人を下回った。(応用化)(90)は前年度大幅増加の反動で減少、情報通信工(93)はやや減少で3年連続減少。
- システム理工(96)**は、やや減少。学科・コース別では、(環境システム)(123)は3年連続減少の反動で大幅増加、(生命科学/生命科学)(110)は増加で2年連続増加。一方で、(機械制御システム)(80)は前年度増加の反動で大幅減少、(電子情報システム)(82)は大幅減少で2年連続減少。

- デザイン工(105)**は、やや増加。学科・系別では、(デザイン工/ロボティクス・情報デザイン)(114)は、前年度やや減少の反動で増加、2020 年度以降前年度の反動による増減が継続。一方で、(デザイン工/生産・プロダクトデザイン)(95)はやや減少で2年ぶりに志願者数は800人を下回った。
- 建築(92)**は、減少。学科・コース別では、(建築/都市・建築デザイン)(106)は2年連続やや増加。一方で、(建築/先進的プロジェクトデザイン)(60)は前年度激増の反動で大幅減少、(建築/空間・建築デザイン)(91)は減少。

<共通テスト利用方式>

- 工(95)**は、やや減少で4年連続減少。志願者数は6年ぶりに8,000人を下回った。学科別では、(土木工)(119)は大幅増加で2019年度に学科一括募集に変更して以降で初めての増加。(情報通信工)(113)は前年度大幅減少の反動で増加、材料工(113)、電気工(109)はいずれも4年ぶりに増加。一方で、(電子工)(78)は大幅減少で3年ぶりに減少、(機械機能工)(81)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(情報工)(82)は2年連続大幅減少。
- システム理工(99)**は、微減だが4年連続減少。学科・コース別では、(環境システム)(118)は大幅増加で4年ぶりに増加、(生命科学/生命科学)(114)は増加で3年連続増加となり、志願者数は700人を上回った。一方で、(電子情報システム)(82)は大幅減少で2年連続減少、志願者数も900人を下回った。
- デザイン工(107)**は、やや増加で前年度の反動による増減が継続。学科・系別では、(デザイン工/ロボティクス・情報デザイン)(125)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(デザイン工/生産・プロダクトデザイン)(92)は2年連続減少。
- 建築(90)**は、減少で4年連続減少。学科・コース別では、(建築/都市・建築デザイン)(109)のみ増加で4年ぶりに増加。一方で、(建築/先進的プロジェクトデザイン)(80)は前年度増加の反動で大幅減少、(建築/空間・建築デザイン)(80)は大幅減少で4年連続減少。志願者数は800人を下回った。

昭和大学：大学全体ではやや減少で2年連続減少、学部別では歯のみやや増加 一般：-295人 共テ：-9人



<b>主な入試変更点</b>	出願方法：医(医)<地域枠>…一般・I期との併願制度廃止 選抜方法：歯(歯)<医学部一般(I期)利用歯学部併願入試>…廃止 入試科目、配点：医(医)<一般・II期>…<一次>理2<200>+外<100>+(国 or 数)<100>=総点<400> <二次>論<30>+面<70>=総点<100> →<一次>理2<100>+外<50>+(国 or 数)<50>=総点<200> <二次>面<200>
----------------	---

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、304人(95)のやや減少で2年連続減少。学部別では、歯(103)はやや増加、薬(89)は減少、医(95)はやや減少。(保健医療)(100)は前年度並。方式別では、一般方式は、295人(95)で2年連続やや減少。共通テスト利用方式は、9人(99)の微減だが5年連続減少。

<一般方式>

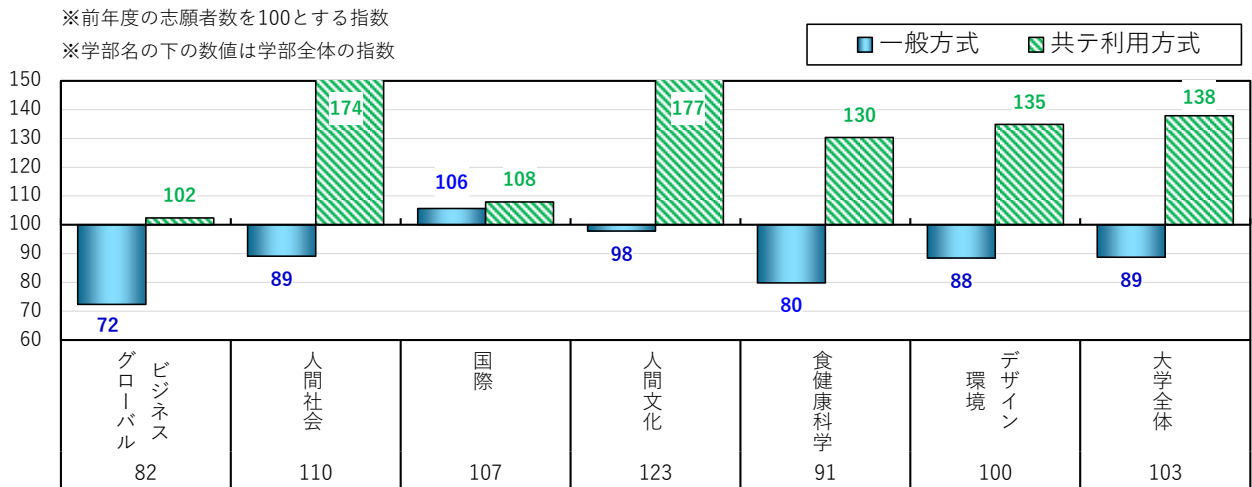
- 医(95)**は、2年連続やや減少。方式別では、<I期>(108)は<地域枠>および歯(歯)との併願制度廃止だが増加。3つの<地域枠>合計(105)はやや増加。3月募集の<II期>(70)は募集人員の2人(10%)減少もあり、大幅減少で2年連続減少。
- 歯(107)**は、2年連続減やや増加で、志願者数は3年ぶりに500人を上回った。方式別では、<I期>(107)は<医学部一般(I期)利用歯学部併願入試>を廃止したが、やや増加で2年連続増加。<II期>(108)は増加で6年ぶりに増加。
- 薬(90)**は、前年度大幅増加の反動で減少。方式別では、<I期>(89)は前年度大幅増加の反動で減少。<II期>(92)は前年度6年ぶりの増加から再び減少。
- 保健医療(90)**は、前年度大幅減少に引き続き減少、志願者数は400人を下回った。学科別では、3学科中2学科が減少。(作業療法)(150)は前年度70%近い激減の反動で大幅増加。(理学療法)(121)は前年度半減の反動で大幅増加。一方で、(看護)(84)は2年連続大幅減少で志願者数は300人を下回った。

<共通テスト利用方式>

- 歯(92)**は、<共テ・B方式(地域別選抜)>を廃止して2年目だが減少。
- 薬(88)**は、<共テ・B方式(地域別選抜)>を廃止して2年目だが減少。
- 保健医療(118)**は、<共テ・B方式(地域別選抜)>を廃止して2年目だが大幅増加。学科別では、3学科全て増加。(作業療法)(156)、(理学療法)(131)はいずれも大幅増加。(看護)(112)は増加、募集人数が3人(30%)減少で志願倍率は16.5倍→26.4

倍に増加。

昭和女子大：大学全体では4年ぶりの増加、私立女子大一般選抜では最多志願者数 一般：-770人 共テ：+1,052人



主な入試変更点

選抜方法：グローバルビジネス(ビジネスデザイン)、国際を除く学部・学科  
 …<共テ・I期英語4技能試験活用>、<共テ・II期英語4技能試験活用>新規実施  
 利用方法：出願要件 対象試験：ケンブリッジ英検 140点以上、英検 1,950以上、GTEC 960点以上、IELTS 4.0以上、TEAP225点以上、TEAP CBT 420点以上、TOEFL iBT 42点以上

COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、共通テスト利用方式の新方式の実施と3年連続減少の反動から282人(103)のやや増加、志願者数9,890人は私立女子大一般選抜では最多。学部別では、6学部中4学部が増加。人間文化(123)は大幅増加、人間社会(110)は増加、国際(107)はやや増加。一方で、グローバルビジネス(82)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。一般方式は、2018年度から4年連続減少後、前年度は微増だったが、再び(89)の減少。学部別では6学科中5学科が減少。(グローバルビジネス)(72)、(食健康科学)(80)は大幅減少。一方で、共通テスト利用方式は、グローバルビジネス(ビジネスデザイン)、国際を除く学部・学科で新規実施の<共テ・英語4技能試験活用>の志願者数が846人で、これを加えて1,052人(138)の大幅増加。既存の募集単位のみでも、3年連続減少の反動で(115)の大幅増加。

<一般方式>

- グローバルビジネス(72)**は、大幅減少。2019年度以降前年度の反動による増減が継続。学科別では、(会計ファイナンス)(102)は7人の微増だが2年連続増加、志願者数は3年ぶりに300人を上回った。一方で、(ビジネスデザイン)(58)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、8年ぶりに志願者数は400人を下回った。
- 人間社会(89)**は、前年度やや増加の反動で減少。学科別では、4学科中3学科が減少。(現代教養)(69)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(福祉社会)(94)は前年度大幅減少に引き続きやや減少、(初等教育)(99)は微減だが4年連続減少。一方で、(心理)(106)はやや増加で2年連続増加。
- 国際(106)**は、系統への低い人気もあって2年連続大幅減少の反動は小さくやや増加に留まり、志願者数は2年連続1,100人を下回った。学科別では、(国際)(114)は2年連続減少の反動で増加。一方で、(英語コミュニケーション)(99)は微減だが4年連続減少で、志願者数は2017年度に人間文化の学科から学部に変更されて以降で最少。
- 人間文化(98)**は、前年度大幅減少に引き続き18人の微減で、志願者数は現在の2学科体制になった2017年度以降で最少。学科別では、(日本語日本文)(104)はやや増加。一方で、(歴史文化)(91)は2年連続減少。
- 食健康科学(80)**は、旧生活科学を改称後2回目の募集だが、大幅減少。現在の3学科合計では旧生活科学時代から6年連続で増加がない。学科別では、(健康デザイン)(66)、(管理栄養)(83)はいずれも大幅減少、(食安全マネジメント)(89)は旧生活科学時代から2年連続減少。
- 環境デザイン(88)**は、減少。旧生活科学(環境デザイン)から学部に変更された2020年度の翌年から前年度の反動による増減が継続。

<共通テスト利用方式>

- グローバルビジネス(102)**は、前年度大幅増加に引き続き微増で2年連続増加。ただし、新規実施の<共テ・英語4技能試験活用>を除いた比較では(99)の前年度並。学科別では、<共テ・英語4技能試験活用>を新規実施した、(会計ファイナンス)(209)は前年度大幅増加に引き続き倍以上、既存の方式のみでも(141)の大幅増加。一方で、既に<共テ・英語4技能試験活用>を実施していた(ビジネスデザイン)(70)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 人間社会(174)**は、3年連続減少の反動で激増。新規実施の<共テ・英語4技能試験活用>を除いても(116)の大幅増加。学科別では、(福祉社会)(211)、(初等教育)(206)、(心理)(172)はいずれも激増、(現代教養)(146)は大幅増加。既存方式のみでは、(初等教育)(151)、(福祉社会)(140)は大幅増加、(心理)(114)は増加。一方で、(現代教養)(90)は減少。既存の方式別では、共通テストの実施前が出願締切日の<共テ・I期>(120)は3年連続減少の反動で大幅増加、共通テスト実施後が出願締切日の<共テ・II期>(84)は大幅減少。
- 国際(108)**は、4年ぶりに増加だが、系統への低い人気もあって2019年度対比では約45%の減少。学科別では、(英語コミュニケーション)(111)は増加、(国際)(105)はやや増加。方式別では、共通テスト実施前が出願締切日の<共テ・I期>(156)は大幅増加。一方で、<共テ・I期英語4技能試験活用>(85)、共通テスト実施後が出願締切日の<共テ・II期>(82)はいずれも



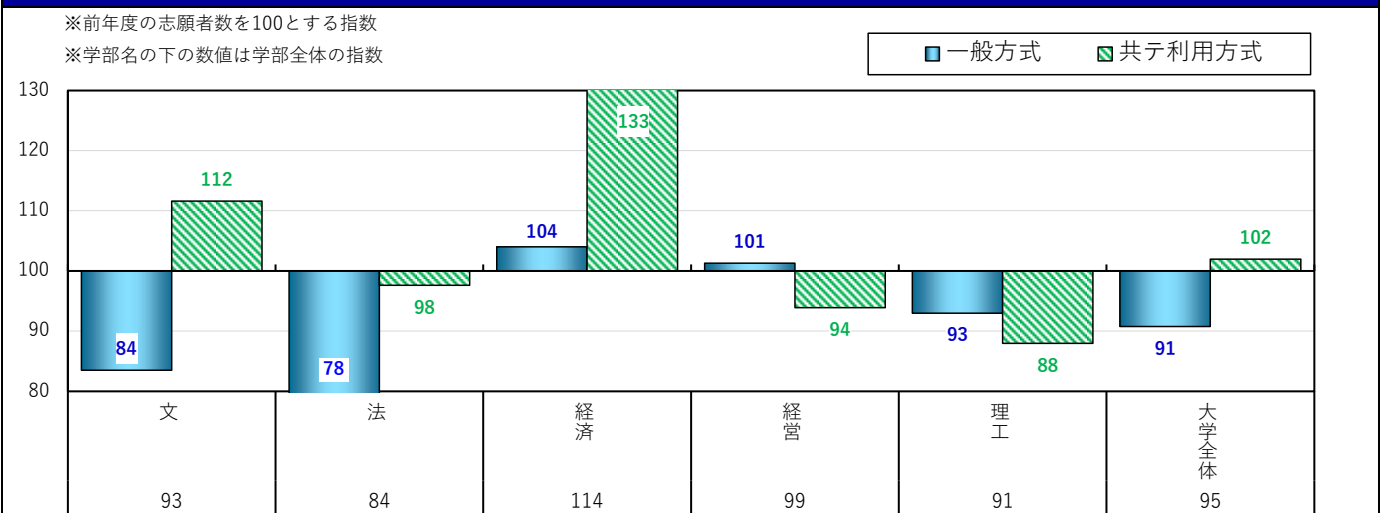
大幅減少、<共テ・II期英語4技能試験活用>(41)は半減以下。

○**人間文化(177)**は、激増。新規実施の<共テ・英語4技能試験活用>を除いても前年度大幅減少の反動で(126)の大幅増加。学科別では、(歴史文化)(191)、(日本語日本文)(164)はいずれも激増。既存の方式のみでも(歴史文化)(132)、(日本語日本文)(121)のいずれも前年度大幅減少の反動で大幅増加。既存の方式別では、共通テスト実施前が出願締切日の<共テ・I期>(131)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、共通テスト実施後が出願締切日の<共テ・II期>(80)は大幅減少。

○**食健康科学(130)**は、旧生活科学を改称後2回目の募集だが、大幅増加。ただし、新規実施の<共テ・英語4技能試験活用>を除くと(99)で前年度並、前年度大幅減少の反動はなかった。学科別では、(食安全マネジメント)(156)、(健康デザイン)(122)、(管理栄養)(119)はいずれも大幅増加。ただし、既存の方式のみでは、(健康デザイン)(104)、(食安全マネジメント)(103)はいずれもやや増加だが、(管理栄養)(95)はやや減少。既存の方式別では、共通テスト実施前が出願締切日の<共テ・I期>(100)は前年度並、共通テスト実施後が出願締切日の<共テ・II期>(96)はやや減少。

○**環境デザイン(135)**は、大幅増加で2年連続増加。新規実施の<共テ・英語4技能試験活用>を除いても(103)の2年連続やや増加。既存の方式別では、共通テスト実施前が出願締切日の<共テ・I期>(106)はやや増加で2年連続増加。一方で、共通テスト実施後が出願締切日の<共テ・II期>(63)は大幅減少。

**成蹊大：大学全体ではやや減少、共テは微増だが4年ぶりに増加 一般：-1,173人 共テ：+133人**



**COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数**

大学全体では、1,040人(95)のやや減少。学部別では、経済(114)のみ増加。一方で、法(84)は大幅減少、理工(91)は減少、文(93)はやや減少。方式別では、一般方式は1,173人(91)の減少で志願者数は2年ぶりに再び12,000人を下回った。一方で、共通テスト利用方式は、133人(102)の微増だが4年ぶりに増加。

**<一般方式>**

○**文(84)**は、大幅減少で志願者数は2,000人を下回った。学科別では、4学科全て減少。特に、(国際文化)(73)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(現代社会)(80)は大幅減少で3年連続減少、(日本文)(86)は前年度大幅増加の反動で減少。

○**法(78)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、2学科がともに減少。特に、(法律)(72)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。

○**経済(104)**は、2020年度の学部・学科改組後の2年連続大幅減少の反動は小さく、やや増加。学科別では、2学科ともに(104)のやや増加と同じ動向。

○**経営(101)**は、2020年度の学部・学科改組後の2年連続減少の反動は小さく、微増。方式別では、教科試験2教科に英語外部検定試験と活動報告書を評価する<G方式>(131)は、大幅増加で2年連続増加。一方で、2教科型入試の<E方式>(90)は減少。

○**理工(93)**は、学科改組2年目だが、前年度改組効果もあって大幅増加した反動は小さくやや減少。学科・専攻別では、(理工/機械システム)(130)、(理工/電気電子)(129)はいずれも大幅増加。一方で、(理工/コンピュータ科学)(60)は大幅減少、(理工/応用化学)(94)は減少と増減が分かれた。

**<共通テスト利用方式>**

○**文(112)**は、増加で前年度の反動による増減が継続。学科別では、(国際文化)(87)は減少だが、これを除く3学科は増加。(英語英米文)(125)、(現代社会)(121)はいずれも大幅増加、(日本文)(110)は増加。

○**法(98)**は、前年度の大幅減少に引き続き微減。学科別では、(政治)(124)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、前年度の反動による増減も継続。一方で、(法律)(84)は大幅減少で2年連続減少。

○**経済(133)**は、2020年度の学部・学科改組後の2年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、2学科とも大幅増加で、特に、(経済数理)(167)は前年度大幅減少の反動で激増。

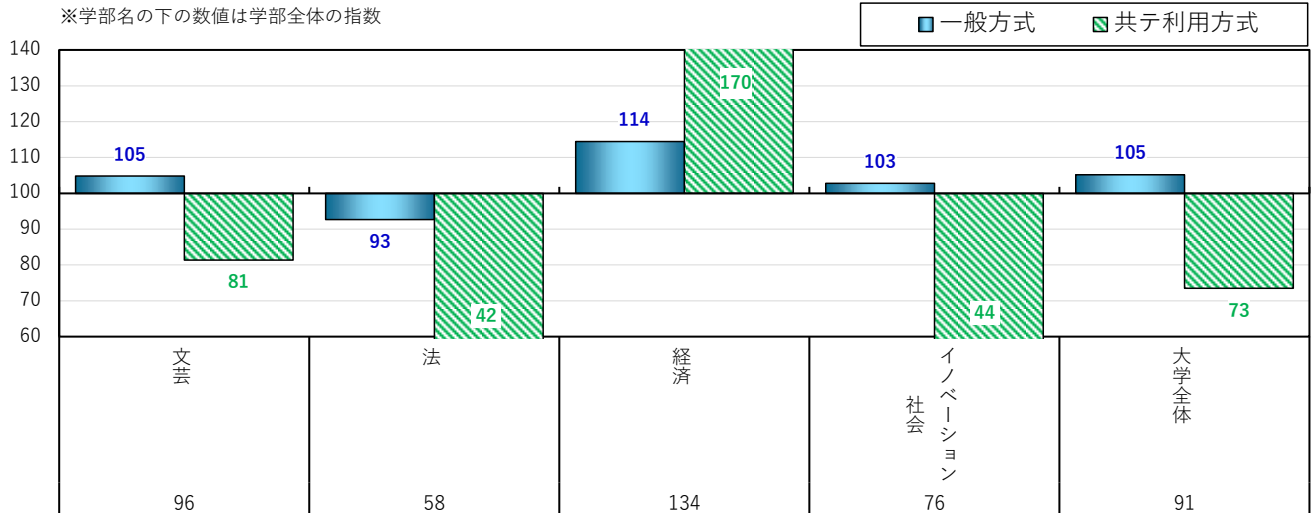
○**経営(94)**は、2020年度の学部・学科改組後は3年連続減少。方式別では、共通テストと合わせて3月の面接結果で総合評価する<共テ・M方式>(73)は大幅減少で改組後3年連続減少、志願者数は100人を下回った。

○**理工(88)**は、学科改組2年目だが、前年度は改組効果もあって増加した反動で減少。学科・専攻別では、(理工/機械システム)(117)、(理工/電気電子)(115)は大幅増加。一方で、(理工/コンピュータ科学)(56)、(理工/データ数理)(82)は大幅減少と増減が分かれた。



**成城大：大学全体では減少、一般はやや増加、共テは反動で大幅減少 一般：+439人 共テ：-1,927人**

※前年度の志願者数を100とする指数  
 ※学部名の下の数値は学部全体の指数



**主な入試変更点** 選抜方法：試験日自由選択制<一般・A方式>…1学部1学科につき試験日は1日のみ→試験日を複数日設定

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前年度大幅増加の反動で1,488人(91)の減少。学部別では、経済(134)を除く3学部はいずれも減少。方式別では、一般方式は439人(105)のやや増加で5年ぶりに増加。共通テスト利用方式は前年度大幅増加の反動で、1,927人(73)の大幅減少。

**<一般方式>**

- 文芸(105)**は、やや増加で2年連続増加。学科別では、6学科中4学科が増加。特に、(国文)(119)は大幅増加で2年連続増加し、志願者数は3年ぶりに500人を上回った。(マスコミュニケーション)(113)、(芸術)(110)はいずれも増加で2年連続増加。一方で、(英文)(91)は前年度大幅増加の反動で減少、(文化史)(94)は前年度大幅増加の反動は小さく、やや減少に留まった。
- 法(93)**は、やや減少で2年連続減少。志願者数は11年ぶりに1,000人を下回った。方式別では、全学部統一の<S方式>(86)は前年度大幅増加の反動で減少、学部別の<A方式>(95)は試験日自由選択制となったが効果は小さく、2年連続減少。
- 経済(114)**は、前年度の微増に引き続き増加。学科別では、2学科とも増加で、特に、(経済)(122)は大幅増加で2年連続増加、志願者数は3年ぶりに1,000人を上回った。
- 社会イノベーション(103)**は、やや増加。学科別では、(心理社会)(116)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(政策イノベーション)(93)は、前年度増加の反動は小さく、やや減少に留まった。

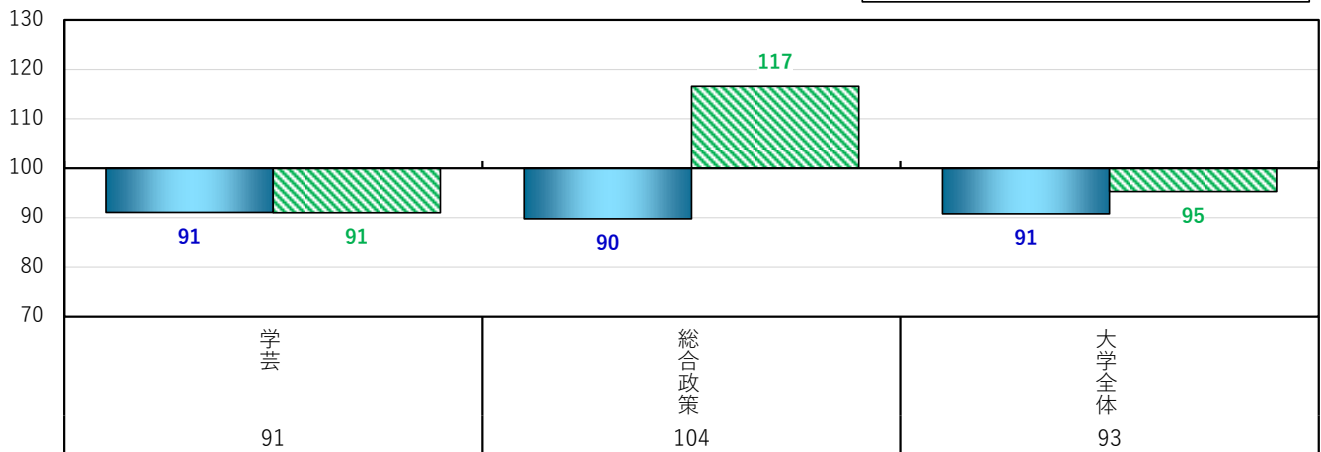
**<共通テスト利用方式>**

- 文芸(81)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、6学科中5学科が減少で、(マスコミュニケーション)(143)は2年連続大幅増加。一方で、(英文)(50)は2年連続増加の反動で半減。志願者数も200人を下回った。(ヨーロッパ文化)(56)、(国文)(58)、(芸術)(79)はいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少。(文化史)(88)は前年度大幅増加の反動で減少。
- 法(42)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願者数は9年ぶりに1,000人を下回った。方式別では、全ての方式で大幅減少。特に、<共テ・前期B方式3教科型>(40)は前年度激増の反動で激減。
- 経済(170)**は、2年連続減少の反動で激増。学科別では、(経済)(315)は2年連続減少の反動で3倍以上の激増。志願者数も5年ぶりに1,000人を上回った。特に方式別で、<共テ・前期B方式3教科型>(353)が3.5倍増。一方で、(経営)(92)は減少で、9年ぶりに700人を下回った。
- 社会イノベーション(44)**は、2年連続増加の反動で大幅減少。学科別では、2学科とも大幅減少で、(心理社会)(40)は2年連続大幅増加の反動で激減。(政策イノベーション)(49)は前年度激増の反動で半減以下。

津田塾大：大学全体ではやや減少、特に一般は4年連続減少 一般：-160人 共テ：-114人

※前年度の志願者数を100とする指数  
 ※学部名の右、学科名の下の数値は全体の指数

■ 一般方式 ■ 共テ利用方式



**主な入試変更点** 入試科目：学芸(数)<共テ・C方式(前期)>…国+数2+外+(歴公 or 理)→数2+外+(国 or 歴公 or 理)  
 <共テ併用・B方式>…<共テ>数2+外+(国 or 歴公 or 理)、<個>数  
 →<共テ>数2+外、<個>数

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、274人(93)のやや減少。志願者数は、4,000人を下回った。方式別では、一般方式は、160人(91)の減少で4年連続減少。共通テスト利用方式は114人(95)のやや減少で前年度やや増加の反動。学部別では、(総合政策)(104)は5年連続減少の反動はなくやや増加、(学芸)(91)は減少。

<一般方式>

○学芸(91)は、減少で4年連続減少。学科別では、5学科中4学科が減少。特に(数)(63)は大幅減少で、2019年度以降前年度の反動による増減が継続。(国際関係)(83)もコロナ禍の影響による系統の人気低下で大幅減少、2019年度に募集人員が115人になった以降で最少の志願者数。一方で、(多文化・国際協力)(127)は、コロナ禍の影響による系統への低い人気も継続にもかかわらず、前年度減少の反動で大幅増加。志願者数は4年ぶりに300人を上回った。

○総合政策(90)は、減少で3年連続減少。2017年度の新設以降最少の志願者数。

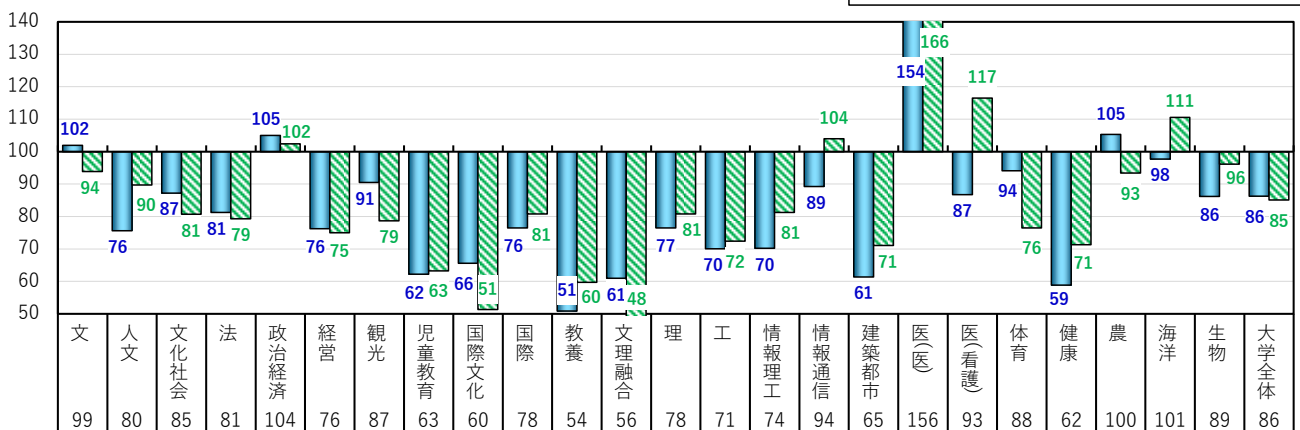
<共通テスト利用方式>

○学芸(91)は、前年度増加の反動で減少。学科別では、5学科中3学科が減少。特に、(英語英文)(66)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(多文化・国際協力)(79)はコロナ禍の影響による系統への低い人気もあって、2019年の新設以降4年連続大幅減少。志願者数も100人を下回り過去最少。一方で、(国際関係)(126)はコロナ禍の影響による系統への低い人気は継続しているが、大幅増加で前年度の反動による増減が継続。募集単位別では、(数)<共テ併用・B方式>(94)は入試科目削減による負担軽減にもかかわらず、前年度大幅増加の反動でやや減少。

○総合政策(117)は、大幅増加だが志願者数は3年連続400人台で、2017年度新設時の志願者数と比較するとおよそ3分の1。方式別では、<C方式(前期)>(134)は大幅増加。

東海大：大学全体では減少、志願者数は4万人を下回る 一般：-4,222人 共テ：-2,243人

■ 一般方式 ■ 共テ利用方式



**主な入試変更点** キャンパス移転：農(農、動物科学、食生命科学)…熊本キャンパス→九州キャンパス/臨空校舎

試験日程：教養(芸術・専門試験型)、医、体育を除く<一般> …6日間のうち、各学部3日間ずつで実施→全学部同一日の4日間で実施 医(看護)<一般>…3日間で実施→2日間で実施 出願方法：教養(芸術・専門試験型)、医、体育を除く<一般> …6日間で最大18学科併願可 ※1日3学科併願可→4日間で最大12併願可 ※1日3学科併願可 文<一般> …学部内でのみ1日3学科まで併願可→文、人文、文化社会、法、政治経済、経営、観光、国際文化、国際、 文理融合(経営、地域社会)の10学部内で1日3学科まで併願可 入試科目：文<一般>…国+歴+外→国+外+(歴公 or 数) ※歴が必須から選択へ、選択に公、数追加 医(医)<一般>…<一次>数+理+外 ※数：数Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B→<一次>数+理+外 ※数：数Ⅰ・Ⅱ・A・B ※一次の数の出題範囲から数Ⅲ除外
--

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、6,465人(86)の減少で2年ぶりの減少。志願者数は40,000人を下回った。私立大志願者の1人あたりの併願校数減少が影響した。学部(医は学科)別では、24学部(医は学科)中で増加は4学部(医は学科)のみ。系統への人気が高い医(医)(156)が大幅増加、(政治経済)(104)がやや増加。あとは、(海洋)(101)と(農)(100)が微増。一方で、これらを除く20学部(医は学科)は減少、その中の14学部は大幅減少。方式別では、一般方式は4,222人(86)の減少。前年度は学部新設もあって30,000人を上回ったが、再び下回った。私立大専願者の共通テスト出題形式への敬遠もあって、共通テスト利用方式は2,243人(85)の大幅減少で4年連続減少。日程別では<前期>(82)は大幅減少で4年連続減少、<後期>(77)も4年連続大幅減少。

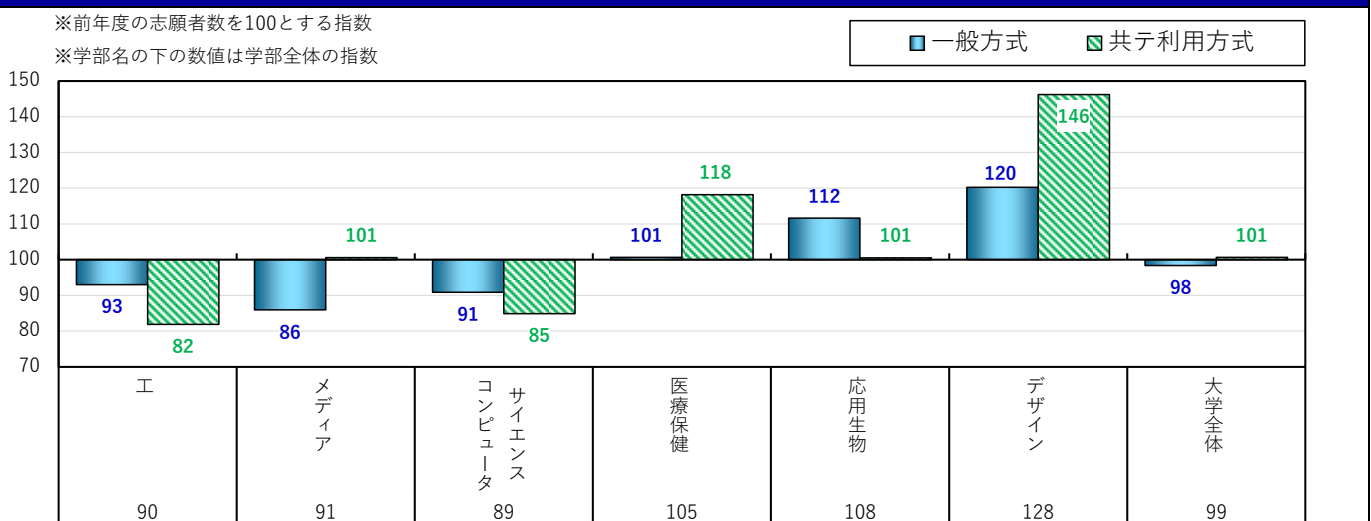
<一般方式>  
○**文(102)**は、2年連続微増。学科・専攻別では、増減が3学科・専攻ずつに分かれた。特に、(歴史/日本史)(121)、(文明)(120)は大幅増加。一方で、(歴史/西洋史)(84)は大幅減少。  
○**人文(76)**は、清水校舎に新設されて2年目だが、大幅減少。  
○**文化社会(87)**は、前年度増加の反動で減少。学科別では、6学科4学科で減少、特に(ヨーロッパ・アメリカ)(67)、(心理・社会)(70)は大幅減少。一方で、(文芸創作)(133)は大幅増加、(広報メディア)(112)は増加。  
○**法(81)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。  
○**政治経済(105)**は、学科改組で2学科となって2年目だが、やや増加。学科別では、(政治)(119)は大幅増加で2年連続増加。(経済)(97)は前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。  
○**経営(76)**は、旧政治経済(経営)の改組で湘南・高輪校舎に新設2年目だが、大幅減少。方式別でも3方式全てが大幅減少。  
○**観光(91)**は、4年連続減少。志願者数は700人を下回った。  
○**児童教育(62)**は、湘南校舎に新設2年目だが、大幅減少。方式別でも3方式全てが大幅減少。  
○**国際文化(66)**は、学科改組で2学科となって2年目だが、現在の2学科のみの合計で前年度大幅増加だった反動で大幅減少。  
○**国際(76)**は、湘南・高輪校舎に旧教養(国際)の改組による新設2年目だが、大幅減少。方式別では、3方式全てが大幅減少、特に<文系学部統一(前期)>(39)は激減。  
○**教養(51)**は、学科改組で2学科となって2年目だが、現在の2学科のみの合計で前年度大幅増加の反動でほぼ半減。学科別では、(人間環境)(45)は半減以下、(芸術)(78)は大幅減少。  
○**文理融合(61)**は、熊本校舎に旧経営と旧基盤工の改組による新設2年目だが、大幅減少。学科別では、3学科全てが大幅減少。特に、(人間情報工)(41)は半減以下。  
○**理(77)**は、前年度増加の反動で大幅減少。学科別では、4学科全てが減少。特に、(情報数理)(65)、(数)(67)、(物理)(85)は大幅減少。  
○**工(70)**は、前年度に建築都市に改組された旧工(建築)、(土木工)を除いた比較では前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、7学科全てが減少。さらに(医工)(99)を除いた6学科は大幅減少。  
○**情報理工(70)**は、前年度は(情報メディア)の新設もあり約2.4倍増だった反動で大幅減少。学科別では、(情報科学)(65)、(コンピュータ応用工)(66)、(情報メディア)(78)と3学科全てが大幅減少。  
○**情報通信(89)**は、学科改組で(情報通信)の1学科となって2年目だが、減少。志願者数は1,000人を下回った。  
○**建築都市(61)**は、湘南校舎に旧工(建築)、(土木工)の改組による新設2年目だが、改組前の2学科合計との比較で前年度大幅増加だった反動で大幅減少。学科別では、(土木工)(48)は半減以下、(建築)(66)は大幅減少。  
○**医(医)(154)**は、3年連続減少の反動と、1次試験の数の出題範囲から数Ⅲを除外したことで大幅増加。志願倍率は39.0倍→60.0倍に大幅アップ。  
○**医(看護)(87)**は、減少。志願倍率は旧健康科学(看護)だった2015年度以来の9倍を下回った。  
○**体育(94)**は、前年度大幅増加の反動は小さく、やや減少。学科別では、5学科中3学科が減少。特に(武道)(60)、(体育)(84)は大幅減少。一方で、(スポーツ・レジャーマネジメント)(103)はやや増加、(競技スポーツ)(102)は微増。  
○**健康(59)**は、大幅減少で3年連続減少。志願者数は260人を下回り、2018年度の改組以降で最少。  
○**農(105)**は、系統への高い人気もあって、前年度大幅増加に引き続きやや増加。学科別では、学科名称変更後2年目だが、(動物科学)(118)は大幅増加、(食生命科学)(105)はやや増加。一方で、(農)(95)はやや減少で3学科中唯一の減少。  
○**海洋(98)**は、学科改組で3学科となって2年目だが、微減。学科・専攻別では、4学科・専攻中で2学科が減少で、(水産)(92)は減少、(海洋理工/航海学)(94)はやや減少。一方で、(海洋生物)(101)は微増。(海洋理工/海洋理工学)(100)は、前年度と同じ志願者数。  
○**生物(86)**は、前年度激増の反動で減少。学科別では2学科のいずれも減少で、(生物)(80)は前年度ほぼ倍増の反動で大幅減少、(海洋生物科学)(92)も前年度大幅増加の反動で減少。

<共通テスト利用方式>  
○**文(94)**は、やや減少。学科・専攻別では、増減が3学科・専攻ずつ。増加では、(英語文化コミュニケーション)(120)が大幅増加。一方で、減少では(文明)(66)、(歴史/西洋史)(74)、(歴史/考古学)(84)がいずれも大幅減少。



- 人文(90)は、清水校舎に新設されて2年目だが、減少。
- 文化社会(81)は、大幅減少で4年連続減少。志願者数は1,000人を下回った。学科別では、6学科中4学科が減少でいずれも減少率20%以上の大幅減少。一方で、(文芸創作)(134)は大幅増加、(広報メディア)(105)はやや増加。
- 法(79)は、大幅減少で4年連続減少。
- 政治経済(102)は、学科改組で2学科となって2年目だが、微増。学科別では、(政治)(109)は前年度大幅減少の反動で増加。一方で、(経済)(97)はやや減少で4年連続減少。
- 経営(75)は、旧政治経済(経営)の改組で湘南・高輪校舎に新設2年目だが、大幅減少。
- 観光(79)は、4年連続大幅減少。志願者数は300人を下回った。
- 児童教育(63)は、湘南校舎に新設2年目だが、大幅減少。
- 国際文化(51)は、学科改組で2学科となって2年目だが、ほぼ半減。志願者数は100人を下回った。学科別では、(地域創造)(42)は半減以下、(国際コミュニケーション)(56)は大幅減少。
- 国際(81)は、湘南・高輪校舎に旧教養(国際)の改組によって新設されて2年目だが、大幅減少。方式別では、<後期>(250)は2.5倍増だが、<前期>(76)は大幅減少。
- 教養(60)は、学科改組で2学科となって2年目だが、大幅減少。学科別では、(芸術)(104)はやや増加。一方で、(人間環境)(50)は半減。
- 文理融合(48)は、熊本校舎に旧経営と旧基盤工の改組による新設2年目だが、半減以下。学科別では、(地域社会)(43)、(経営)(48)は半減以下、(人間情報)(54)もほぼ半減。
- 理(81)は、大幅減少で4年連続減少。学科別では、4学科とも減少で(物理)(71)、(化)(77)は大幅減少、(数)(90)、(情報数理)(92)は減少。
- 工(72)は、前年度に建築都市に改組された旧工(建築)、(土木工)を除いた比較では3年連続大幅減少。学科別では、8学科全てが減少。さらに(航空宇宙/航空操縦学)(93)を除いた7学科は大幅減少。
- 情報理工(81)は、大幅減少。学科別では、3学科とも減少。(コンピュータ応用工)(75)、(情報科学)(77)は大幅減少、前年度新設の(情報メディア)(92)は減少。
- 情報通信(104)は、学科改組で4学科から(情報通信)の1学科のみとなって2年目だが、やや増加。
- 建築都市(71)は、湘南校舎に旧工(建築)、(土木工)の改組による新設2年目だが、改組前の2学科合計との比較で前年度増加の反動で大幅減少。学科別では、2学科とも25%以上の大幅減少。
- 医(医)(166)は、3年連続大幅減少の反動で激増だが、志願者数は1,000人には届かなかった。方式別では、3方式とも大幅増加だが、特に<静岡県地域枠>(302)は3倍以上、<神奈川県地域枠>(170)は激増で地域枠の増加が顕著。
- 医(看護)(117)は、2年連続大幅減少の反動で大幅増加。志願倍率も2年ぶりに23倍を上回った。
- 体育(76)は、前年度増加の反動で大幅減少。学科別では、増加は(競技スポーツ)(108)のみ。他の3学科はいずれも減少で、(スポーツ・レジャーマネジメント)(86)は減少、(体育)(56)、(武道)(72)は大幅減少。
- 健康(71)は、4年連続大幅減少。志願者数は120人を下回り、2018年度の改組以降で最少。
- 農(93)は、やや減少で4年連続減少。志願者数は400人を下回った。学科別では学科名称変更後2年目だが3学科全てが減少で、特に(バイオサイエンス)(87)は改称前の(食生命科学)を含めると4年連続減少。他の2学科は、(農)(95)はやや減少、(動物科学)(98)は微減。
- 海洋(111)は、学科改組で3学科となって2年目だが、増加。学科・専攻別では、4学科・専攻中3学科・専攻が増加。(水産)(118)は大幅増加、(海洋生物)(113)は増加、(海洋理工/海洋理工学)(103)はやや増加。一方で、(海洋理工/航海学)(94)はやや減少。
- 生物(96)は、やや減少で4年連続減少。学科別では、(海洋生物科学)(102)は前年度大幅減少の反動は小さく微増、(生物)(91)は減少。

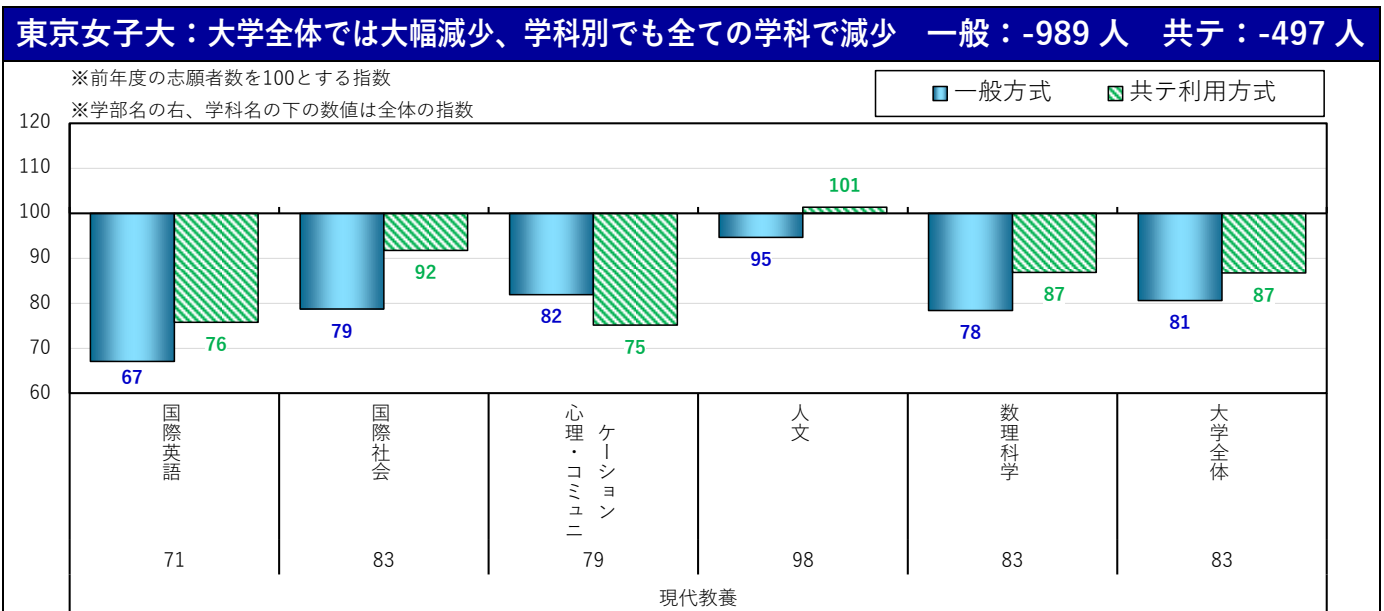
東京工科大：大学全体では前年度並だが、増減が3学部ごとに分かれた 一般：-166人 共テ：+27人



**主な入試変更点** 試験会場：全学部<一般・奨学生>…水戸、千葉、松本、福岡追加  
 選抜方法：医療保健、応用生物、デザイン…<共テ・前期2科目>新規実施  
 応用生物、デザイン…<共テ・後期2科目>新規実施



COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数
<p>大学全体では、139人(99)の微減だが、3年連続減少。学部別では、6学部中で増減が3学部ずつに分かれた。方式別では、一般方式は166人(98)の微減だが3年連続減少。試験会場を追加した&lt;一般・奨学生&gt;(129)の大幅増加が目立った。共通テスト利用方式は2科目型方式の新規実施の効果や2年連続減少の反動はなく、27人(101)の微増。</p>
<p><b>&lt;一般方式&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○<b>工(93)</b>は、やや減少。学科別では、3学科中2学科が減少で、(機械工)(86)、(電気電子工)(92)は減少。一方で、(応用化)(106)はやや増加で3年ぶりの増加。</li> <li>○<b>メディア(86)</b>は、減少。方式別では、&lt;B日程&gt;(79)、&lt;A日程&gt;(84)はいずれも大幅減少。</li> <li>○<b>コンピュータサイエンス(91)</b>は、前年度大幅増加の反動で減少、志願者数は2年ぶりに2,000人を下回った。専攻別では、(コンピュータサイエンス/人工知能)(88)は前年度増加の反動で減少、(コンピュータサイエンス/先進情報)(93)は前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。</li> <li>○<b>医療保健(101)</b>は、2年連続大幅減少の反動は小さく、微増。学科・専攻別では、前年度6学科・専攻全てで大幅減少だったが、増加が3学科・専攻、減少が3学科・専攻と均等に分かれた。(看護)(89)は、(リハビリテーション/作業療法学)(89)はいずれも3年連続減少。一方で、(臨床検査)(109)は5年ぶりに増加。</li> <li>○<b>応用生物(112)</b>は、2年連続減少の反動で増加。専攻別では、(応用生物/食品・化粧品)(117)は大幅増加、(応用生物/生命科学・医薬品)(106)はやや増加で2専攻もいずれも増加。</li> <li>○<b>デザイン(120)</b>は、2年連続減少の反動で大幅増加。専攻別では、(デザイン/視覚デザイン)(121)、(デザイン/工業デザイン)(120)の2専攻のいずれも大幅増加。</li> </ul>
<p><b>&lt;共通テスト利用方式&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○<b>工(82)</b>は、大幅減少、志願倍率は11.1倍→9.1倍にダウン。学科別では、3学科とも減少。(電気電子工)(73)、(機械工)(85)は大幅減少、(応用化)(90)は減少。</li> <li>○<b>メディア(101)</b>は、2年連続減少の反動はなく、前年度並。方式別では、&lt;前期&gt;(101)は前年度並だが、&lt;後期&gt;(92)は減少。</li> <li>○<b>コンピュータサイエンス(85)</b>は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。2019年度以降、前年度の反動による大幅な増減が継続。専攻別では、(コンピュータサイエンス/人工知能)(77)は前年度増加の反動で大幅減少、(コンピュータサイエンス/先進情報)(90)も前年度大幅増加の反動で減少。</li> <li>○<b>医療保健(118)</b>は、2年連続大幅減少の反動に加えて、&lt;前期2科目&gt;の新規実施もあり、大幅増加。学科・専攻別では、6学科・専攻中4学科・専攻が増加。(リハビリテーション/理学療法学)(139)、(臨床検査)(128)、(看護)(119)は大幅増加。一方で、(臨床工)(77)は3年連続大幅減少、(リハビリテーション/言語聴覚学)(81)は大幅減少だが、志願者実人数は4人減少のみ。</li> <li>○<b>応用生物(101)</b>は、&lt;前期2科目&gt;、&lt;後期2科目&gt;を新規実施したが、前年度並。専攻別では、2020年度の改組以降を見ると(応用生物/生命科学・医薬品)(85)は3年連続減少。一方で、(応用生物/食品・化粧品)(114)は初めての増加。</li> <li>○<b>デザイン(146)</b>は、2年連続減少の反動と&lt;前期2科目&gt;、&lt;後期2科目&gt;の新規実施もあり大幅増加。専攻別では、2020年度の改組以降を見ると(デザイン/工業デザイン)(150)は大幅増加で初めての増加、(デザイン/視覚デザイン)(143)は大幅増加で2年連続増加。</li> </ul>



COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数
<p>大学全体では、前年度大幅増加の反動で1,486人(83)の大幅減少。学科別では、前年度全ての学科が増加だったが、一転して全ての学科で減少。方式別では、一般方式は989人(81)の大幅減少。&lt;英語外部試験利用&gt;(77)、&lt;個別学力試験型&gt;(83)のいずれも大幅減少。共通テスト利用方式は497人(87)の減少で、全ての方式が減少。</p>

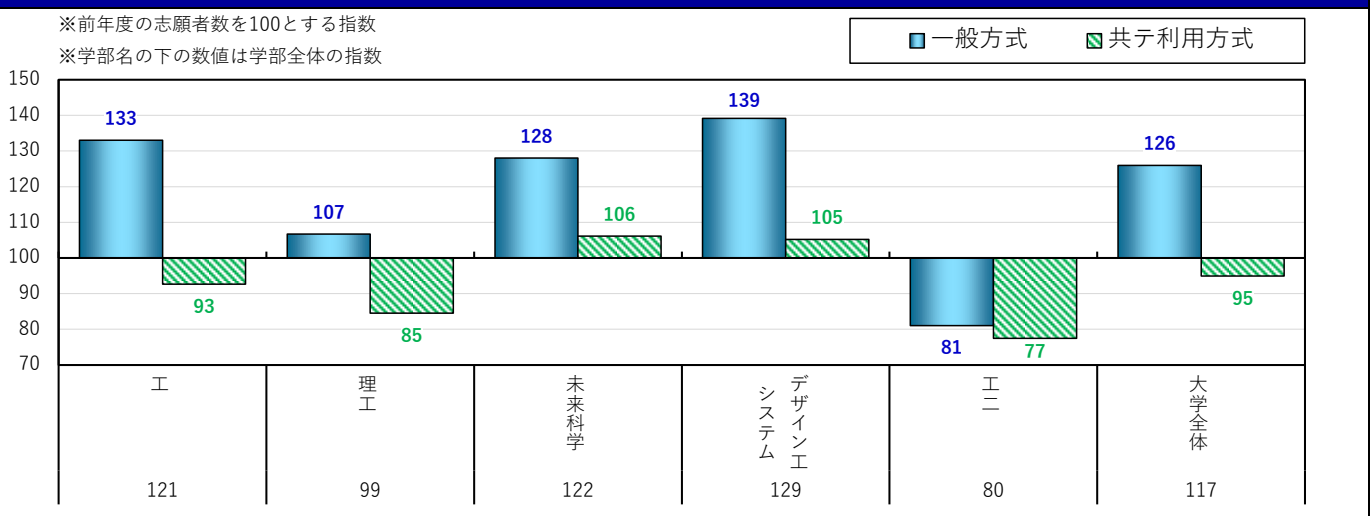
<一般方式>

- 現代教養(国際英語)(67)は、前年度激増の反動で大幅減少。方式別では、全ての方式で大幅減少。
- 現代教養(国際社会)(79)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。専攻別では、前年度全ての専攻で増加だったが、一転して全ての専攻で大幅減少。
- 現代教養(心理・コミュニケーション)(82)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願者数は1,000人を下回った。専攻別では、(心理・コミュニケーション/コミュニケーション)(79)は2年連続増加の反動で大幅減少、(心理・コミュニケーション/心理学)(86)は減少で、旧(人間科学/心理学)時代から前年度の反動による増減が継続。
- 現代教養(人文)(95)は、やや減少で2年ぶりの減少。専攻別では、3専攻中2専攻で減少。(人文/哲学)(75)は前年度激増の反動で大幅減少。(人文/歴史文化)(99)は2018年度の改組の翌年から前年度の反動による増減が継続。唯一増加の(人文/日本文学)(103)は3年ぶりの増加だが、やや増加に留まった。
- 現代教養(数理科学)(78)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。専攻別では、(数理科学/数学)(72)、(数理科学/情報理学)(84)と、2専攻とも大幅減少。

<共通テスト利用方式>

- 現代教養(国際英語)(76)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。方式別では、全ての方式で大幅減少。
- 現代教養(国際社会)(92)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。専攻別では、(国際社会/コミュニティ構想)(127)は大幅増加で4専攻中唯一の増加。他の3専攻はいずれも減少で、特に(国際社会/国際関係)(78)、(国際社会/社会学)(82)は大幅減少。
- 現代教養(心理・コミュニケーション)(75)は、2年連続増加の反動で大幅減少。専攻別では、(心理・コミュニケーション/コミュニケーション)(64)は2年連続大幅増加の反動で大幅減少、(心理・コミュニケーション/心理学)(92)は5年連続減少。
- 現代教養(人文)(101)は、2018年度の改組以降で初めての増加だが、微増。専攻別では、(人文/日本文学)(124)は大幅増加で3専攻中唯一の増加。他の2専攻はいずれも減少で、(人文/哲学)(79)は大幅減少で5年連続減少、志願者数は100人を下回った。(人文/歴史文化)(91)は減少で、2018年度の改組の翌年から前年度の反動による増減が継続。
- 現代教養(数理科学)(87)は、前年度増加の反動で減少。専攻別では、(数理科学/数学)(72)は大幅減少で2020年度以降前年度の反動による増減が継続。一方で、(数理科学/情報理学)(104)は系統への高い人気もあり、やや増加で4年連続増加。

東京電機大：大学全体では大幅増加、新規方式と併願学科・学系の拡大が影響 一般：+5,159人 共テ：-430人



**主な入試変更点**

試験会場：全学部<一般・前期、前期英語外部試験利用(2/1・5)>…津田沼廃止、千葉追加  
 <一般・前期、前期英語外部試験利用(2/2・3)>…長野廃止、上田追加  
 <一般・前期、前期英語外部試験利用(2/4)>…津田沼、長野廃止、千葉、上田追加

出願方法：全学部<一般・前期>…併願不可→1日につき最大4学科・学系まで併願可  
 <一般・前期英語外部利用>…一般・前期に出願した場合、1日で2学科・学系の併願可  
 ※一般・前期と同一学科・学系の受験も可  
 →1日につき最大4学科・学系まで併願可

選抜方法：全学部<一般・後期英語外部試験利用…新規実施

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、<一般・後期英語外部試験利用>の新規実施と、<一般・前期>、<一般・前期英語外部利用>で併願可能な学科・学系の数の増加により、4,729人(117)の大幅増加で2年ぶりの増加。志願者数は3万人を上回った。工二を除いても(118)の大幅増加。学部別では、昼間部においては理工(99)を除いた3学部が増加、いずれも20%以上の大幅増加だった。方式別では、一般方式は5,159人(126)の大幅増加。新規実施の<一般・後期英語外部試験利用>を除いても(120)の大幅増加。併願可能な学科・学系の数の増加があった<一般・前期英語外部利用>(135)、<一般・前期>(128)はいずれも大幅増加。特に<一般・前期英語外部利用>は2019年度の新規実施以降、4年連続増加。共通テスト利用方式は430人(95)のやや減少で2年連続減少。

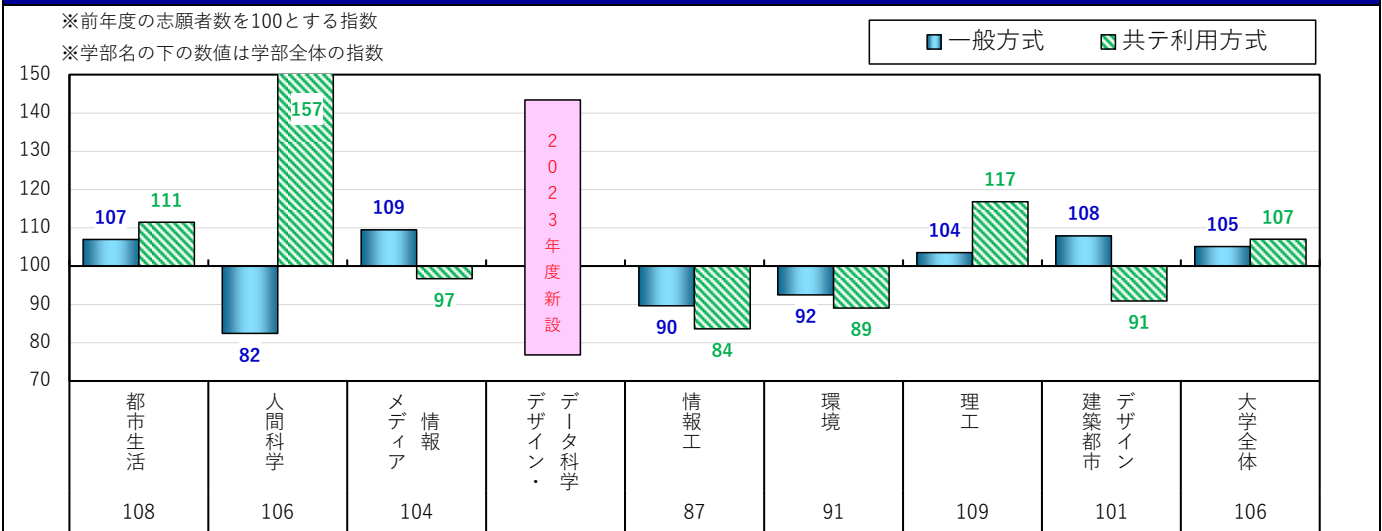
<一般方式>

- 工(133)**は、大幅増加で3年ぶりの増加。志願者数は9,400人を上回った。新規実施の<一般・後期英語外部試験利用>を除いても(126)の大幅増加。学科別では、全学科で増加。特に、(先端機械工)(164)、(情報通信工)(162)は激増。
- 理工(107)**は、やや増加。新規実施の<一般・後期英語外部試験利用>を除くと(101)の微増。学系別では、6学系中で増加が3学系、減少が3学系と均等に分かれた。(理工/電子工)(161)は前年度大幅減少の反動もあり激増、(理工/建築・都市環境)(133)は2年連続大幅増加。一方で、(理工/理)(77)は大幅減少で3年連続減少。
- 未来科学(128)**は、2年連続大幅増加。志願者数は6,000人を上回った。新規実施の<一般・後期英語外部試験利用>を除いても(121)の大幅増加。学科別では、3学科とも大幅増加。
- システムデザイン工(139)**は、大幅増加。志願者数は4,600人を上回った。新規実施の<一般・後期英語外部試験利用>を除いても(132)の大幅増加。学科別では、2学科とも大幅増加。特に(デザイン工)(121)は2017年度の学部新設翌年から、6年連続増加で志願者数は1,500人を上回った。

<共通テスト利用方式>

- 工(93)**は、やや減少で2年連続減少。学科別では、6学科中で増加は(情報通信工)(111)のみ。他の5学科はいずれも減少で、特に(電子システム工)(73)、(先端機械工)(75)は大幅減少。
- 理工(85)**は、2年連続大幅減少。学系別では、6学系中、大幅増加の(理工/電子工)(126)、やや増加の(理工/建築・都市環境)(106)を除いた4学系が減少で、いずれも大幅減少。特に(理工/機械工)(54)はほぼ半減。
- 未来科学(106)**は、3年ぶりの増加だが、やや増加。学科別では、3学科中2学科で増加。特に(情報メディア)(121)は大幅増加で2年連続増加。一方で、(ロボット・メカトロニクス)(86)は2年連続減少。
- システムデザイン工(105)**は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。学科別では、(情報システム工)(112)は増加。一方で、(デザイン工)(91)は前年度大幅減少に引き続き、2年連続減少。

東京都市大：大学全体で志願者数は学部新設によりやや増加 一般：+735人 共テ：+633人



主な入試変更点

学部新設：デザイン・データ科学(デザイン・データ科学) 入学定員：100人 ※横浜キャンパス  
 学科名称変更：人間科学(児童)→人間科学(人間科学)  
 入学検定料変更：一般方式…<前期+中期割引>2学科目以降：1学科増えるごとに18,000円 ※最大12学科併願可、  
 <後期割引>2学科併願した場合、割引 ※最大2学科併願可  
 →<前期+中期+後期割引>2学科目以降：1学科増えるごとに18,000円 ※最大14学科併願可  
 ※後期が前期、中期との併願割引可能に  
 選抜方法：理工(自然科学除く)<共テ併用・前期理工系探究型>新規実施  
 …<共テ>数2+(国 or 歴公 or 理 or 外) ※選択は高得点1科目採用、  
 <個>探究総合問題 ※特定の教科・科目に限定されず「思考力・判断力・表現力」を評価する  
 (記述式を含む)  
 人間科学(人間科学)、メディア情報(社会メディア)、環境、理工、建築都市デザイン(都市工)<共テ・前期5教科基準点型>  
 …合格基準点：560点→550点  
 メディア情報(情報システム)、情報工<共テ・前期5教科基準点型>…合格基準点：590点→580点  
 建築都市デザイン(建築)<共テ・前期5教科基準点型>…合格基準点：590点→570点

COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、1,368人(106)のやや増加で3年ぶりの増加。新設のデザイン・データ科学を除くと(102)の微増。学部別では、既存の7学部中で減少は情報工(87)、環境(91)のみで、他の5学部は増加。方式別では、一般方式は735人(105)のやや増加で3年連続増加。デザイン・データ科学を除くと183人(101)の微増。共通テスト利用方式は633人(107)のやや増加。デザイン・データ科学と新設の<共テ併用・前期理工系探究型>を除くと118人(99)の微減。共通テスト利用方式の入試制度別では、<共テ・前期5教科基準点型>(80)は3年連続大幅減少で、合格基準点の引き下げを行ったが、出願締切日が共通テスト実施日前のため今年度の易化の予想は難しく、前年度の難化による共通テスト平均点大幅ダウンの影響から慎重な出願動向となった。



<一般方式>

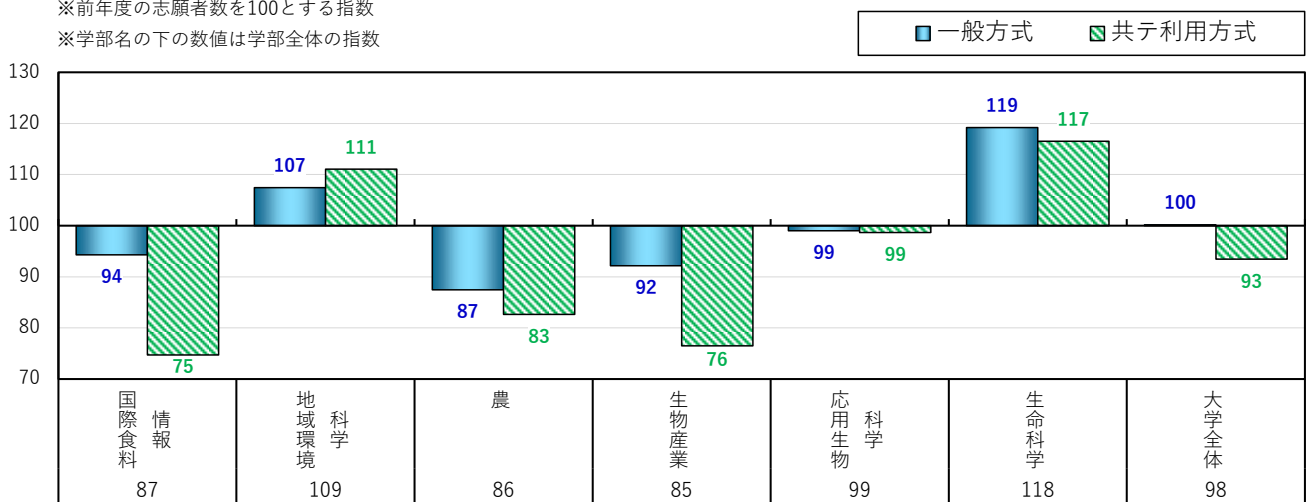
- 都市生活(107)は、2年連続やや増加。志願者数は1,000人に迫った。
- 人間科学(82)は、学科名を(児童)から(人間科学)に改称したが、2年連続大幅増加の反動で大幅減少。
- メディア情報(109)は、前年度大幅減少の反動は小さく増加だが増加率は10%に届かなかった。2020年度以降前年度の反動による増減が継続。学科別では、前年度2学科とも大幅減少だったが、(社会メディア)(123)は反動で大幅増加、一方で(情報システム)(102)は微増に留まった。
- 新設のデザイン・データ科学は、募集人員47人、志願者数552人で、志願倍率は11.7倍。大学全体の一般方式の志願倍率15.0倍を下回った。
- 情報工(90)は、2020年度の改組後2年連続増加の反動で減少。学科別では、(知能情報工)(77)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。(情報科学)(99)は2年連続前年度並。
- 環境(92)は、4年連続減少。志願者数は1,000人を下回った。学科別では、(環境経営システム)(121)は2年連続減少の反動で大幅増加。一方で、(環境創生)(74)は大幅減少で4年連続減少。
- 理工(104)は、やや増加で2020年度の改組後3年連続増加。学科別では、7学科中3学科で増加。(原子力安全工)(142)は2年連続大幅増加、(機械工)(113)は2年連続増加、(機械システム工)(106)はやや増加で3年連続増加といずれも連続増加。他の4学科はいずれもやや減少。(医用工)(93)は3年連続減少、一方で(応用化)(94)、(自然科学)(94)、(電気電子通信工)(96)はいずれも2年連続増加の反動は小さかった。
- 建築都市デザイン(108)は、2年ぶりの増加。学科別では、(都市工)(109)は増加、(建築)(107)はやや増加で、いずれも2年ぶりの増加。

<共通テスト利用方式>

- 都市生活(111)は、3年連続減少の反動で増加。
- 人間科学(157)は、学科名を(児童)から(人間科学)に改称したが、2年連続大幅減少の反動で大幅増加。
- メディア情報(97)は、やや減少で3年連続減少。学科別では、(社会メディア)(115)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(情報システム)(87)は3年連続減少。
- 新設のデザイン・データ科学は、募集人員13人、志願者数409人で、志願倍率は31.5倍。大学全体の共通テスト利用方式の志願倍率32.5倍をわずかに下回った。
- 情報工(84)は、2020年度の改組後、3年連続大幅減少。学科別では、2学科とも減少で、(知能情報工)(74)は3年連続大幅減少、(情報科学)(90)も3年連続減少。
- 環境(89)は、減少で3年連続減少。学科別では、(環境創生)(82)は3年連続大幅減少、(環境経営システム)(99)も微減だが3年連続減少。
- 理工(117)は、2年連続大幅減少の反動と、<共テ併用・前期理工系探究型>の新設により大幅増加。<共テ併用・前期理工系探究型>を除いても(108)の増加。学科別では、前年度は7学科全てが大幅減少だったが、全学科で増加。特に、(原子力安全工)(193)はほぼ倍増、(電気電子通信工)(127)、(応用化)(117)は大幅増加。いずれも2年連続大幅減少の反動。
- 建築都市デザイン(91)は、2年連続大幅減少に引き続き減少。学科別では、(建築)(87)は減少、(都市工)(98)は微減でいずれも3年連続減少。

東京農業大：大学全体では微減、共テはやや減少、一般は微増 一般：+24人 共テ：-495人

※前年度の志願者数を100とする指数  
 ※学部名の下の数値は学部全体の指数



**主な入試変更点** 学科名称変更：国際食糧情報(国際バイオビジネス)→国際食糧情報(アグリビジネス)  
 入試科目：生命科学(分子微生物)<共テ・2科目型>…理が必須から選択へ、選択に国、数、外追加、理の選択に物追加  
 理2 ※理：化+生→{(国or数①or数②or理or外)→2} ※理：物or化or生

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、471人(98)の微減だが6年連続減少。学部別では、増加は6学部中2学部のみ、生命科学(118)は大幅増加、地域環境科学(109)は増加。他の4学部はいずれも減少で、特に生物産業(85)は大幅減少。方式別では、一般方式は24人(100)の微増。<一般・B日程>(125)の大幅増加が目立った。共通テスト利用方式は495人(93)のやや減少。前年度新設の<共テ・前期2科目型>(79)、<共テ・前期4科目型>(80)はいずれも大幅減少。



<一般方式>

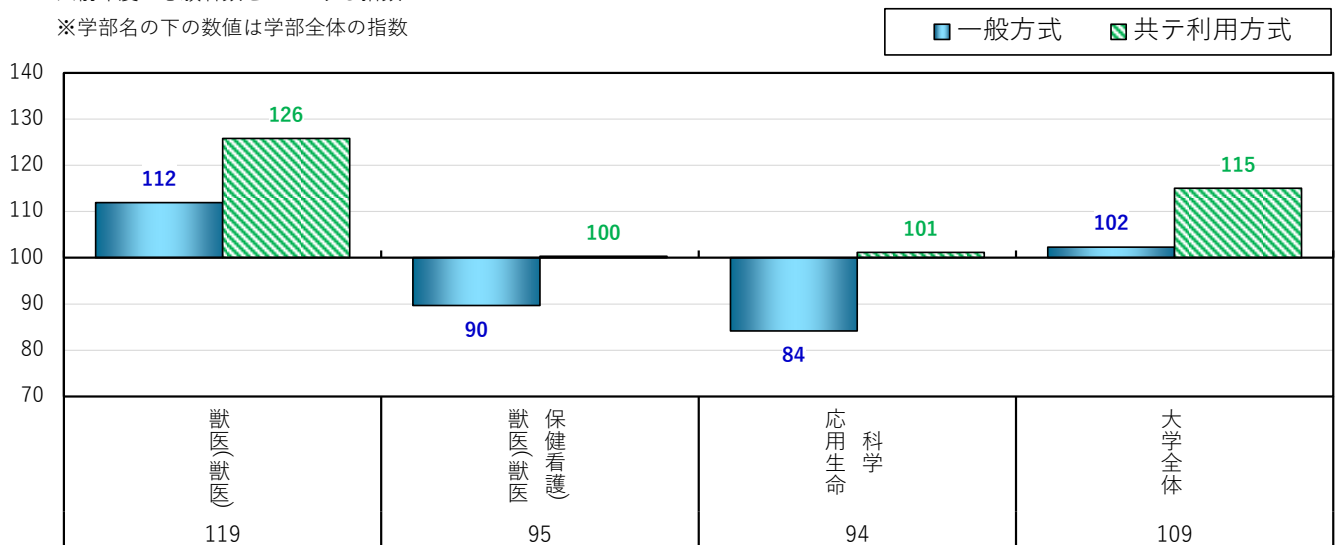
- 国際食糧情報(94)は、やや減少で3年連続減少。志願者数は2,000人を下回った。学科別では、4学科中で増加は(国際バイオビジネス)から改称した(アグリビジネス)(137)のみで3年連続減少の反動による大幅増加。減少3学科では、(国際農業開発)(70)は大幅減少で2019年度以降反動による大幅な増減が継続。(国際食農科学)(90)、(食料環境経済)(91)はいずれも3年連続減少。
- 地域環境科学(107)は、やや増加だが4年ぶりの増加。学科別では、増減が2学科ずつに分かれた。増加2学科は(森林総合科学)(119)は大幅増加で6年ぶりの増加、(地域創成科学)(118)は大幅増加で2017年度の改組後初の増加。一方で、(造園科学)(91)は6年連続減少、(生産環境工)(98)は微減だが4年連続減少。
- 農(87)は、2年ぶりに減少。学科別では、4学科全てが減少。(デザイン農)(70)は大幅減少で2年連続減少。(生物資源開発)(87)は前年度増加の反動で減少、(動物科学)(93)、(農)(97)はいずれもやや減少。
- 生物産業(92)は、2018年度の改組以降5年連続減少。学科別では、(自然資源経営)(148)が3年連続減少の反動により大幅増加で唯一の増加。他の3学科はいずれも減少で、(海洋水産)(81)は大幅減少で、2018年度の改組以降5年連続減少、(北方圏農)(86)は3年連続減少、(食香粧化)(91)は減少だが前年度大幅増加の反動は小さかった。
- 応用生物科学(99)は、微減だが現在の4学科となった2018年度以降5年連続減少。学科別では、増減が2学科ずつに分かれた。(農芸化)(111)は2年連続減少の反動で増加、(食品安全健康)(101)は3年連続減少の反動はなく微増。一方で、(栄養科学)(84)は前年度増加の反動で大幅減少、(醸造科学)(97)は前年度やや増加の反動でやや減少。
- 生命科学(119)は、2年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、3学科とも増加。(分子微生物)(131)、(分子生命化)(125)はいずれも2年連続減少の反動で大幅増加、(バイオサイエンス)(109)は2年連続増加。

<共通テスト利用方式>

- 国際食糧情報(75)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、4学科中で増加は(国際バイオビジネス)から改称した(アグリビジネス)(108)のみで2年連続増加。他の3学科は(国際農業開発)(48)は前年度2.4倍増の反動で半減以下、(食料環境経済)(72)は前年度増加の反動で大幅減少、(国際食農科学)(83)は3年連続大幅減少。
- 地域環境科学(111)は、3年連続減少の反動で増加。学科別では、4学科全てが増加。(地域創成科学)(121)は2年連続減少の反動で大幅増加、(生産環境工)(114)は前年度大幅減少の反動で増加、(造園科学)(106)は2年連続大幅減少の反動は小さくやや増加、(森林総合科学)(105)は前年度大幅増加に引き続きやや増加。
- 農(83)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、4学科全てが減少。(動物科学)(68)は前年度激増の反動で大幅減少、(デザイン農)(86)は2年連続増加の反動で減少、(農)(87)は前年度大幅増加の反動で減少、(生物資源開発)(96)は前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。
- 生物産業(76)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、4学科中で増加は(自然資源経営)(106)のみで、前年度大幅増加に引き続きやや増加。他の3学科は(海洋水産)(63)、(食香粧化)(74)、(北方圏農)(81)といずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 応用生物科学(99)は、微減だが3年連続減少。学科別では、増加は(農芸化)(123)のみで2年連続大幅減少の反動で大幅増加。他の3学科はいずれも減少で、(栄養科学)(78)は大幅減少で志願者数は300人を下回った。(醸造科学)(89)は6年連続減少、(食品安全健康)(95)はやや減少で3年連続減少。
- 生命科学(117)は、2年連続大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、3学科中2学科が増加。(分子微生物)(166)は2年連続大幅減少の反動と理科を必須から選択としたことで激増、(バイオサイエンス)(114)も2年連続大幅減少の反動で増加。一方で、(分子生命化)(95)はやや減少だが4年連続減少。

日本獣医生命科学大：獣医(獣医)の大幅増加で大学全体では4年ぶりの増加 一般：+33人 共テ：+226人

※前年度の志願者数を100とする指数  
 ※学部名の下の数値は学部全体の指数



主な入試変更点	選抜方法：全学部<一般>…出願時の志望理由書等を合格ラインで同点の場合の合否判定に利用する <一般・第1回(独自試験)>、<一般・第2回(共テ併用)>…特待生制度の導入 ※入学年次の授業料免除 入試科目：応用生命科学<共テ>…理、外が必須から選択へ、選択科目の組合せ変更
---------	---

	理・理基2+外+(国 or 数①) ※理：化 or 生→(国 or 外)+(数① or 理・理基2) ※理：化 or 生 <共テ併用・第2回>…<共テ>外+(国 or 数① or 数②)、<個>理 ※理：化 or 生 →<共テ>(国 or 数① or 数② or 外)、<個>理 ※理：化 or 生 応用生命科学(食品科学)<一般>…数、外が選択からどちらか選択必須へ (数 or 理 or 外)→2 ※理：化 or 生 ※理2での受験可 →(数 or 理 or 外)→2 ※理：化 or 生 ※理2での受験不可、数または外選択必須
--	---

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、獣医(獣医)(119)の大幅増加により、259人(109)の増加で4年ぶりの増加。方式別では、一般方式は33人(102)の微増だが、募集人員は13%減少だったので、志願倍率は9.1倍→10.7倍にアップ、4年ぶりに10倍を上回った。共通テスト利用方式は226人(115)の大幅増加で、4年ぶりの増加で、志願倍率も32.0倍→36.8倍にアップ。

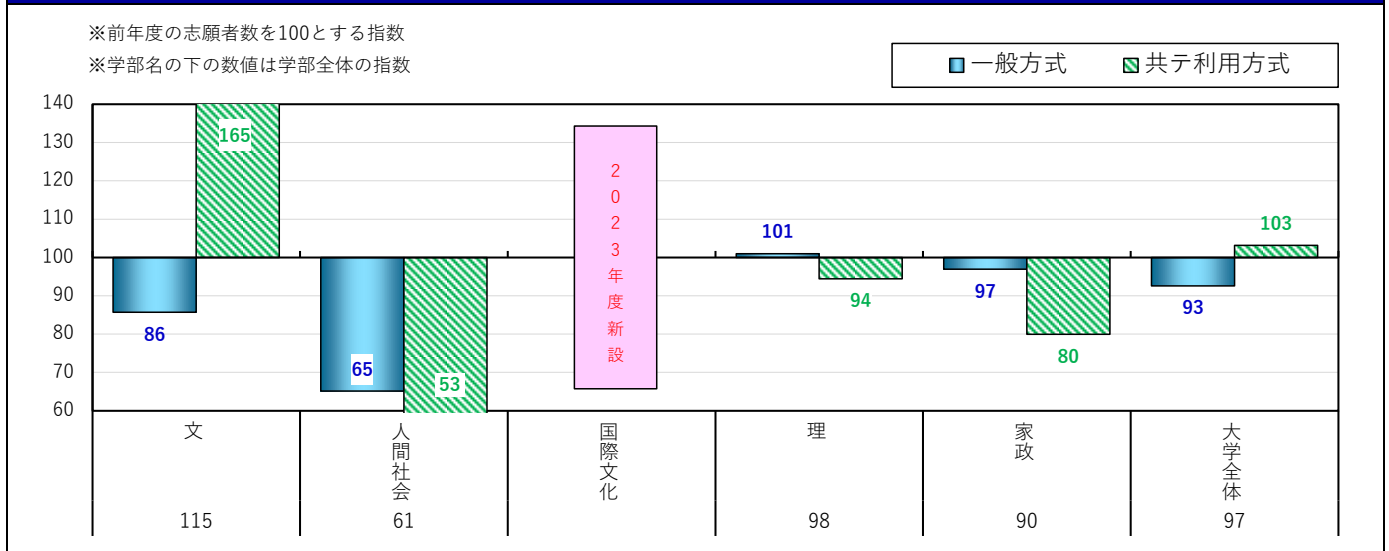
**<一般方式>**

- 獣医(獣医)(112)は、3年連続減少の反動で増加。募集単位別では、<一般・第1回>(116)は大幅増加、<一般・第3回>(101)は微増。
- 獣医(獣医保健看護)(90)は、2年連続減少。志願者数は300人を下回った。募集単位別では、<一般・第3回>(60)は大幅減少、<一般・第1回>(98)は微減、
- 応用生命科学(84)は、募集人員が29%減少だが、志願者数減少率がこれを下回ったため、志願倍率は逆に3.8倍→4.5倍にアップ。学科別では、(動物科学)(83)は大幅減少で7年連続減少。しかし、募集人員が25%減少だが、志願者数減少率がこれを下回ったため、志願倍率は4.5倍→4.9倍にアップ。(食品科学)(87)も減少で7年連続減少。しかし、募集人員が35%減少だが、志願者数減少率がこれを下回ったため、志願倍率は2.7倍→3.6倍にアップ。

**<共通テスト利用方式>**

- 獣医(獣医)(126)は、5年連続減少の反動で大幅増加。募集単位別では、全ての募集単位が増加、特に<共テ・第1回5科目>(137)、<共テ・第1回3科目>(133)は大幅増加。
- 獣医(獣医保健看護)(100)は、前年度増加の反動はなく前年度並。募集単位別では、<共テ・第1回>(102)は微増、<共テ併用・第2回>(98)は微減。
- 応用生命科学(101)は、微増だが前年度までの3年連続減少が止まった。学科別では、(食品科学)(95)はやや減少で4年連続減少。一方で、(動物科学)(104)はやや増加で4年ぶりの増加。

**日本女子大：大学全体ではやや減少、文のみ大幅増加** 一般：-465人 共テ：+119人



<b>主な入試変更点</b>	学部新設：国際文化(国際文化) ※目白キャンパス 学科募集停止：人間社会(文化) 選抜方法：家政(住居)<一般・英語外部試験利用>…基準スコアにより5点または10点を加点 →基準スコアにより10点または20点を加点 入試科目：家政(児童)<一般・個別3教科型>…国+数+外→国+外+(数 or 理) 配点変更：理(数物情報科学)<共テ・前期>…数2<200>+外<200>+(国 or 理・理基2)<100>=総点<500> →数2<200>+外<100>+(国 or 理・理基2)<100>=総点<400>
----------------	--

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、346人(97)のやや減少。旧人間社会(文化)を募集停止にして新設した国際文化は941人の志願者数で旧人間社会(文化)より281人(143)の大幅増加となったが、大学全体の志願者数は1万人に達しなかった。学部別では、文(115)は大幅増加だが、その他の3学部はいずれも減少で、特に旧人間社会(文化)を募集停止にした人間社会(61)は大幅減少、旧人間社会(文化)を除いても(74)の大幅減少。方式別では、一般方式は465人(93)のやや減少、共通テスト利用方式は119人(103)のやや増加で2年連続増加だが志願者数は4,000人には達しなかった。

<一般方式>

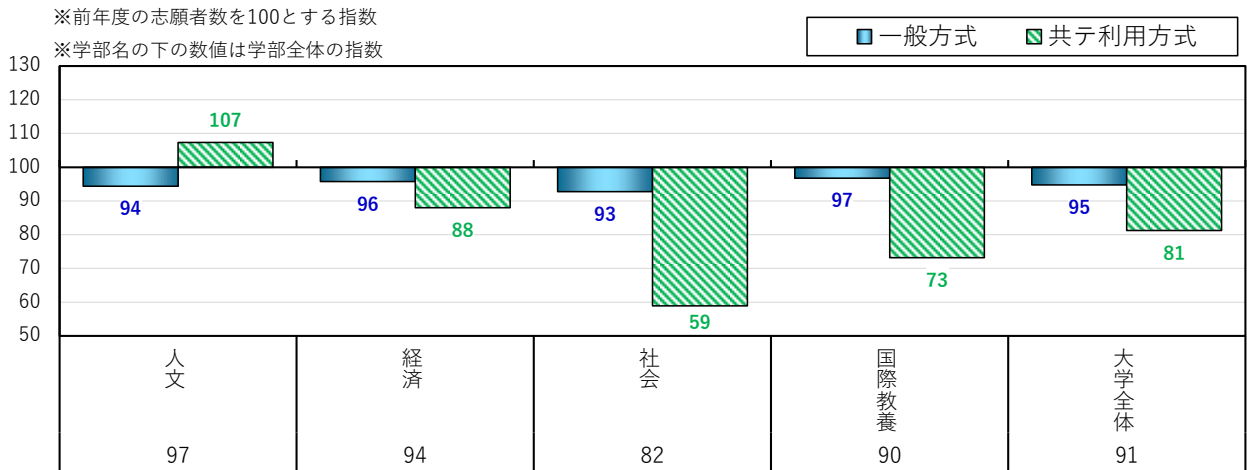
- 文(86)**は、前年度増加の反動で減少。学科別では、3 学科いずれも減少。(日本文)(83)、(英文)(84)は大幅減少、(史)(92)は減少で前年度の反動による増減が継続。
- 人間社会(65)**は、大幅減少で4 年連続減少。募集停止の(文化)を除いた比較でも(80)の大幅減少。学科別では、(社会福祉)(113)は増加だがその他の3 学科は減少。特に、(現代社会)(55)は2 年連続増加の反動で大幅減少、志願者数は2017 年度入試以来6 年ぶりに500 人を下回った。
- 新設の**国際文化**は、募集人員50 人に対して志願者数は655 人、志願倍率は13.1 倍。募集停止となった旧人間社会(文化)との比較では(145)の大幅増加、募集人員は20%以上の減少なので、志願倍率は6.9 倍→13.1 倍にアップ。
- 理(101)**は、微増だが2 年連続増加。学科別では、2022 年度の学科名改称前を含めて見ると、(化学生命科学)(114)は前年度大幅増加に引き続き増加、(数物情報科学)(87)は前年度大幅増加の反動で減少。
- 家政(97)**は、やや減少。学科・専攻別では、7 学科・専攻中3 学科・専攻が増加で、(住居/居住環境デザイン)(134)は2 年連続大幅増加。一方で、(住居/建築デザイン)(68)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(児童)(79)は入試科目が数必須から数または理の選択と負担減にもかかわらず大幅減少で7 年連続減少。

<共通テスト利用方式>

- 文(165)**は、激増で2 年連続増加。学科別では、3 学科全て大幅増加で(史)(207)は倍増、(英文)(153)、(日本文)(129)はいずれも2 年連続大幅増加。
- 人間社会(53)**は、半減に近く4 年連続減少。募集停止の(文化)を除いた比較でも(63)の大幅減少。志願者数は700 人を下回った。学科別では、(心理)(95)はやや減少だがその他の3 学科はいずれも大幅減少。(教育)(41)は前年度激増の反動、(社会福祉)(63)は2 年連続大幅減少、(現代社会)(68)は3 年連続大幅減少。
- 新設の**国際文化**は、募集人員8 人に対して志願者数は286 人、志願倍率は35.8 倍。募集停止となった旧人間社会(文化)との比較では(137)の大幅増加、志願倍率は26.1 倍→35.8 倍にアップ。
- 理(94)**は、やや減少で前年度の反動による増減が継続。学科別では、2022 年度の学科改称前を含めて見ると、(数物情報科学)(126)は前年度増加に引き続き大幅増加、(化学生命科学)(75)は大幅減少で前年度の反動による大幅な増減が継続。
- 家政(80)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科・専攻別では、(食物/管理栄養士)(114)、(食物/食物学)(111)は増加だがその他の5 学科・専攻はいずれも減少。(児童)(68)は前年度激増の反動で大幅減少、(家政経済)(69)も大幅減少で志願者数は100 人を下回った。(住居/居住環境デザイン)(71)、(住居/建築デザイン)(82)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(被服)(90)は減少。

武蔵大：4 学部全てが減少、特に共テ利用が大幅減少

一般：-667 人 共テ：-907 人



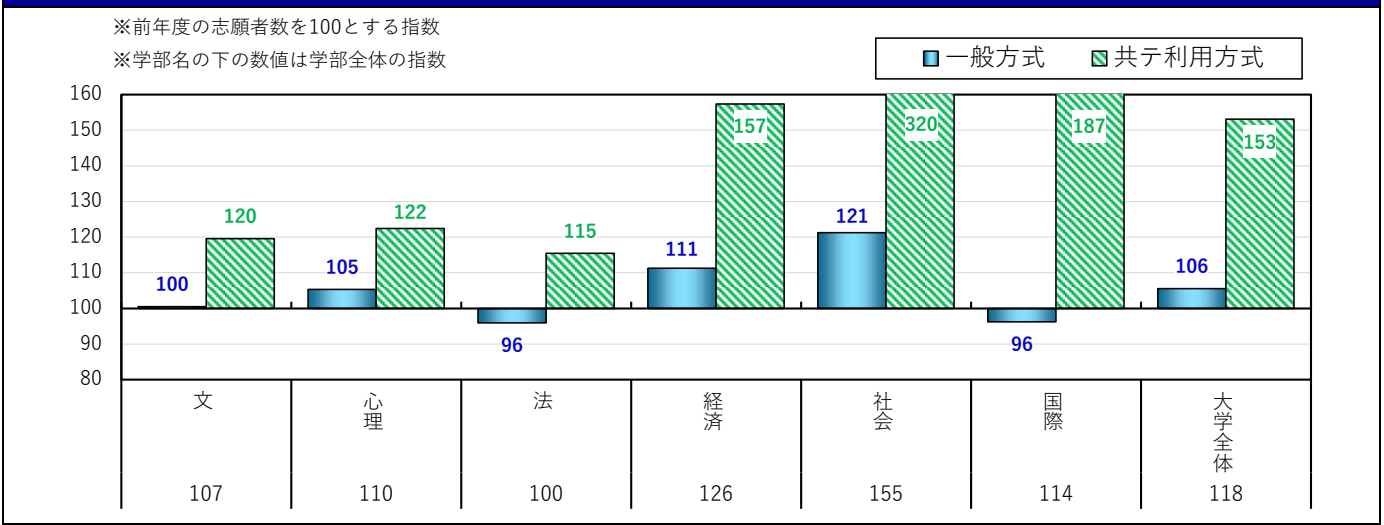
主な入試変更点

入学検定料変更：共通テスト利用方式…1 学科・専攻につき 10,000 円→1 学科・専攻につき 15,000 円  
入試科目：国際教養(国際教養/経済経営学)  
<一般・個別学部併願型>  
…国<100>+数<50>+外<200>+(歴公 or 数)<100>=総点<450> → 数<100>+外<200>+(国 or(歴公 or 数))<100>=総点<400>  
※国を必須から選択へ、4 教科→3 教科へ教科数削減  
<共テ・前期>…国+数①+外+(歴公 or 数② or 理・理基 2) → 数①+外+(国 or 歴公 or 数② or 理・理基 2)  
※国を必須から選択へ、4 教科→3 教科へ教科数削減  
<共テ・後期>…数①+外+(国 or 歴公 or 数② or 理・理基 2) → 数①+外  
※(国 or 歴公 or 数② or 理・理基 2)を課さない、3 教科→2 教科へ教科数削減  
配点変更：国際教養(国際教養/経済経営学)  
<一般・全学部統一型>…数<50>+外<100>+(国 or(歴公 or 数))<100>=総点<250> → 数<100>+外<100>+(国 or(歴公 or 数))<100>=総点<300>  
※数の配点アップ  
<一般・全学部統一グローバル型>…数<50>+外<150>+(国 or(歴公 or 数))<100>=総点<300> → 数<100>+外<150>+(国 or(歴公 or 数))<100>=総点<350>  
※数の配点アップ



<b>COMMENT</b> ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数
<p>大学全体では、前年度大幅増加の反動で1,574人(91)の減少。学部別では、4学部全てが減少。方式別では、一般方式は667人(95)のやや減少。共通テスト利用方式は入学検定料値上げの影響もあって、907人(81)の大幅減少。いずれも前年度大幅増加の反動も影響。共通テスト受験前に出願締め切りの&lt;共テ・前期&gt;(94)は前年度大幅増加の反動でやや減少。共通テスト受験後に出願可能な&lt;共テ・後期&gt;(38)は減少率60%以上の激減。</p> <p>&lt;一般方式&gt;</p> <p>○<b>人文(94)</b>は、前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。学科別では、3学科中2学科が減少。(ヨーロッパ文化)(86)は前年度大幅増加の反動で減少、(日本・東アジア文化)(95)は前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。一方で、(英語英米文化)(103)は前年度大幅増加に引き続きやや増加。方式別では、&lt;全学部統一グローバル型&gt;(120)は前年度の増加に引き続き大幅増加。一方で、&lt;個別学部併願型&gt;(79)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。&lt;全学部統一型&gt;(99)は前年度並。</p> <p>○<b>経済(96)</b>は、やや減少で前年度の微減を含めて3年連続減少。学科別では、3学科中2学科が減少。(金融)(88)は減少、志願者数は5年ぶりに1,500人を下回った。(経営)(95)はやや減少で3年連続減少。一方で、(経済)(105)は3年連続減少の反動は小さくやや増加。方式別では、&lt;個別学部併願型&gt;(88)は減少で3年連続減少、&lt;全学部統一グローバル型&gt;(103)は前年度大幅増加に引き続き2年連続増加。&lt;全学部統一型&gt;(100)は微減だが4年連続減少。</p> <p>○<b>社会(93)</b>は、前年度3年連続減少から微増だったが再びやや減少。学科別では、(メディア社会)(83)は大幅減少で志願者数は1,500人を下回った。一方で、(社会)(104)はやや増加で2年連続増加。方式別では、&lt;個別学部併願型&gt;(77)は大幅減少。&lt;全学部統一型&gt;(97)はやや減少。一方で、&lt;全学部統一グローバル型&gt;(158)は2年連続大幅減少の反動で60%近い大幅増加。</p> <p>○<b>国際教養(97)</b>は、学部新設2年目だがやや減少。学科・専攻別では、(国際教養/グローバルスタディーズ)(90)は減少。一方で、(国際教養/経済経営学)(116)は大幅増加と対照的。方式別では、&lt;全学部統一型&gt;(114)は増加、&lt;全学部統一グローバル型&gt;(97)はやや減少。&lt;個別学部併願型&gt;(90)は減少。</p> <p>&lt;共通テスト利用方式&gt;</p> <p>○<b>人文(107)</b>は、3年連続減少の反動は小さくやや増加。志願者数は3年連続1,000人を下回った。学科別では、3学科中2学科が増加。(英語英米文化)(123)は2年連続大幅増加。(日本・東アジア文化)(118)は7年連続減少の反動で大幅増加。一方で、(ヨーロッパ文化)(82)は大幅減少で5年連続減少。方式別では、&lt;共テ・前期&gt;(125)は大幅増加、&lt;共テ・後期&gt;(54)は大幅減少で2年連続減少。</p> <p>○<b>経済(88)</b>は、減少で2020年度以降前年度の反動による増減が継続。学科別では、3学科中2学科が増加。(経営)(126)は大幅増加で2018年度以降前年度の反動による増減が継続。(経済)(107)は前年度大幅増加に引き続きやや増加。一方で、(金融)(34)は前年度2.5倍以上の反動で増減率70%近い激減。方式別では、&lt;共テ・前期&gt;(111)は増加で2年連続増加。&lt;共テ・後期&gt;(31)は減少率約70%の激減。</p> <p>○<b>社会(59)</b>は、大幅減少で3年ぶりに減少で、志願者数は900人を下回った。学科別では、(メディア社会)(39)は前年度大幅増加の反動で60%以上の激減で、志願者数は300人台となった。(社会)(85)は2年連続大幅減少で、志願者数は8年ぶりに600人を下回った。方式別では、&lt;共テ・前期&gt;(62)は大幅減少、&lt;共テ・後期&gt;(38)は激減。</p> <p>○<b>国際教養(73)</b>は、新設2年目だが大幅減少。学科・専攻別では、(国際教養/グローバルスタディーズ)(53)はほぼ半減。一方で、(国際教養/経済経営学)(152)は大幅増加と対照的。入試教科数を削減した(国際教養/経済経営学)&lt;前期&gt;(184)は激増。一方で、(国際教養/経済経営学)&lt;共テ・後期&gt;(59)も入試教科数を削減したが大幅減少。(国際教養/グローバルスタディーズ)&lt;共テ・前期&gt;(57)は大幅減少。(国際教養/グローバルスタディーズ)&lt;共テ・後期&gt;(29)は激減。</p>

**明治学院大：大学全体では5年ぶりに増加、特に共テ利用が大幅増加 一般：+797人 共テ：+2,777人**



**主な入試変更点** 選抜方法：心理(教育発達)<一般・A日程英語学部検定試験利用型(得点換算方式)>…新規実施  
法(政治)、(消費情報環境法)<一般・A日程英語学部検定試験利用型>…利用方法：出願要件→得点換算 ※英語の受験は任意

<b>COMMENT</b> ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数
<p>大学全体では、3,574人(118)の大幅増加で5年ぶりに増加。学部別では、6学部全てが増加。特に、社会(155)、経済(126)はいずれも大幅増加、国際(114)、心理(110)はいずれも10%以上の増加。方式別では、一般方式は797人(106)のやや増加で5年ぶりの増加。共通テスト利用方式も2,777人(153)の大幅増加で5年ぶりの増加。共通テスト受験前に出願締め切りとなる&lt;共テ・前期&gt;(159)が大幅増加で5年ぶりの増加。一方で、共通テスト受験後に出願可能な&lt;共テ・後期&gt;(56)は大幅減少とい</p>



いずれも前年度と逆の増減。

<一般方式>

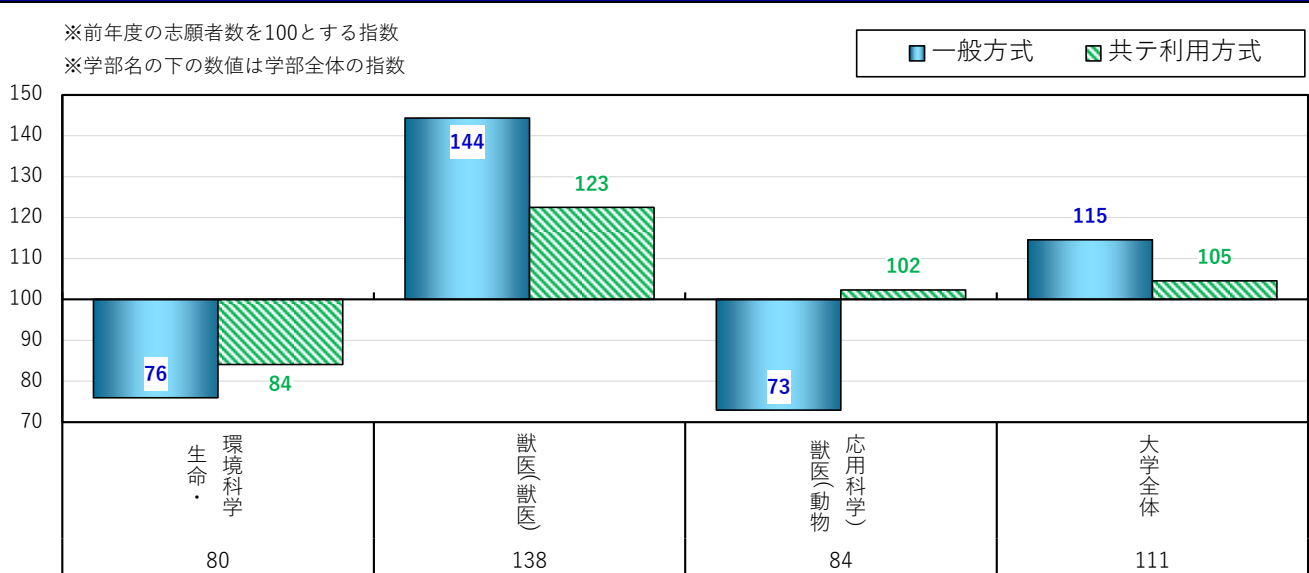
- 文(100)**は、2年連続前年度並。学科別では、(英文)(109)は5年ぶりの増加だが志願者数は2年連続で1,000人を下回った。一方で、(フランス文)(89)は減少で前年度の反動による増減が継続。(芸術)(98)は微減。
- 心理(105)**は、2年連続やや増加で志願者数は4年ぶりに2,000人を上回った。学科別では、(教育発達)(117)は前年度減少の反動で大幅増加。(心理)(99)は前年度大幅増加の反動はなく前年度並。
- 法(96)**は、やや減少で志願者数は3年連続で3,000人を下回った。学科別では、(政治)(114)は3年連続減少の反動で増加、(消費情報環境法)(106)は2年連続減少の反動は小さくやや増加。一方で、(グローバル法)(75)は前年度新規方式の実施もあって約2.5倍増だった反動で大幅減少、(法律)(89)は2年連続減少。
- 経済(111)**は、3年連続増加。学科別では、3学科全てが増加。(国際経営)(118)は4年連続減少の反動で大幅増加、(経営)(114)は前年度やや減少の反動で増加、(経済)(106)は前年度大幅増加に引き続きやや増加。
- 社会(121)**は、大幅増加で2020年度より前年度の反動による大幅増減が継続。学科別では、(社会)(126)は前年度減少の反動で大幅増加、志願倍率も11.3倍→14.3倍にアップ。(社会福祉)(110)は前年度大幅減少の反動で増加。
- 国際(96)**は、2年連続増加の反動は小さくやや減少。学科別では、(国際キャリア)(82)は2年連続大幅減少、志願者数は何とか200人台を維持。(国際)(99)は前年度大幅増加の反動はなく前年度並。

<共通テスト利用方式>

- 文(120)**は、2年連続大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、(芸術)(162)は前年度減少の反動で激増、(英文)(134)は前年度半減近かった反動で大幅増加。一方で、(フランス文)(46)は前年度約2.2倍増の反動で半減以下、2017年度以降は極端な増減が継続。方式別では、<共テ・前期>(121)は大幅増加、<共テ・後期>(80)は大幅減少。
- 心理(122)**は、<共テ・前期>のみの募集だが、3年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、(教育発達)(126)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(心理)(121)も大幅増加で2年連続増加。
- 法(115)**は、<共テ・前期>のみの募集だが、大幅増加で3年ぶりに増加だが、志願者数は1,000に達しなかった。学科別では、(政治)(172)は前年度半減の反動で70%以上の激増。(法律)(171)も4年連続減少の反動で激増だが、2018年度対比では(58)の大幅減少。一方で、(消費情報環境法)(39)は激減で、2018年度以降は前年度の反動による極端な増減が継続。
- 経済(157)**は、大幅増加で志願者数は4年ぶりに2,500人を上回った。学科別では、(経済)(246)は前年度大幅減少の反動でほぼ2.5倍増、(経営)(115)は3年連続大幅増加。一方で、(国際経営)(95)は前年度大幅減少に引き続きやや減少。方式別では、<共テ・前期>(171)は前年度減少の反動で激増、一方で、<共テ・後期>(53)は大幅減少。
- 社会(320)**は、前年度半減近かった反動で3.2倍増、2019年度以降は前年度の反動による極端な増減が継続。学科別では、(社会福祉)(488)は前年度半減以下だった反動で、(社会)(260)は前年度40%以上の大幅減少の反動で、いずれも激増。方式別では、<共テ・前期>(364)は前年度半減以下の反動で約3.6倍増、<共テ・後期>(46)は半減以下で3年ぶりに減少。
- 国際(187)**は<共テ・前期>のみの募集だが、激増で前年度の反動による増減が継続。

麻布大：大学全体では2年連続増加、獣医(獣医)の一般新方式導入の影響

一般：+353人 共テ：+61人



主な入試変更点

試験会場：生命・環境科学、獣医(動物応用科学)  
 …<一般・第I期E日程>相模原、仙台、さいたま、名古屋、大阪、福岡→相模原、さいたま、大阪、福岡 ※仙台、名古屋除外  
 選抜方法：獣医(獣医)…<一般>第2志望制度廃止  
 …<一般・第I期A日程(3科目選択型)>新規実施  
 募集人員：生命・環境科学(食品生命科学)…<一般・第I期>40人→25人  
 (環境科学)…<一般・第I期>40人→25人  
 獣医(獣医)…<一般・第I期D日程>70人→62人  
 募集単位呼称変更：生命・環境科学、獣医(動物応用科学)…<一般・第I期D日程>→<一般・第I期E日程>  
 獣医(獣医)…<一般・第I期3科目型>→<一般・第I期D日程(3科目型)>

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、414 人(111)の増加で 2 年連続増加。志願者数は 3 年ぶりに 4,000 人を上回った。学部別(獣医は学科別)では、獣医(獣医)(138)は 4 年連続減少の反動と一般新方式実施の影響で大幅増加。一方で、(生命・環境科学)(80)は大幅減少、過去 4 年間で 3 回的大幅減少、獣医(動物応用科学)(84)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。方式別では、一般方式は 353 人(115)の大幅増加で 2 年連続増加。獣医(獣医)の新方式実施が影響。ただし、これを除くと(91)の減少。共通テスト利用方式は 61 人(105)のやや増加で 4 年連続減少の反動は小さく、2019 年度対比では約 35%減少。

**<一般方式>**

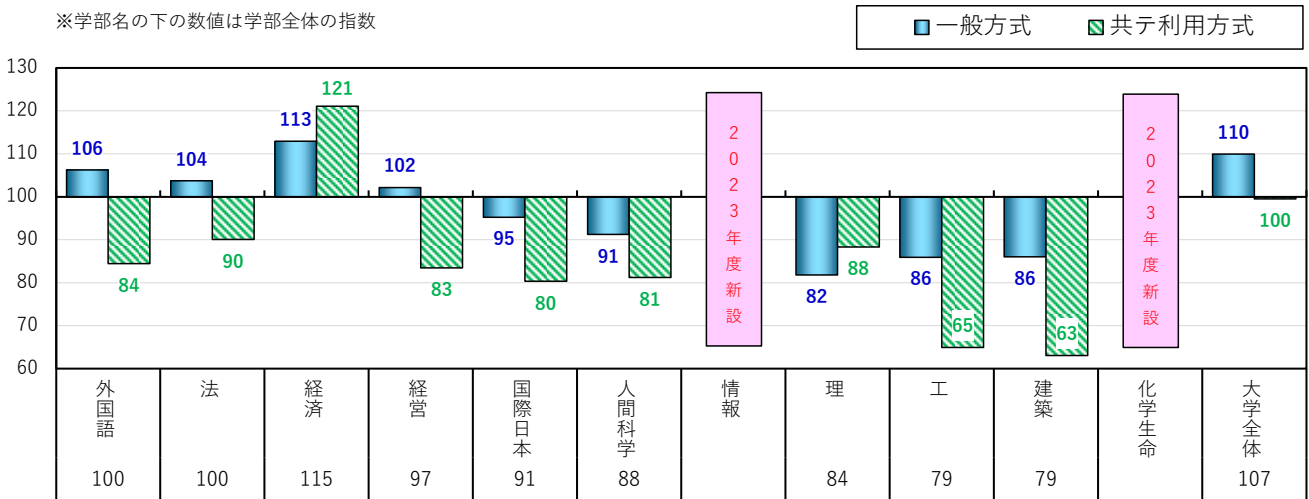
- 生命・環境科学(76)は、大幅減少。募集人員減少率 21%を上回る減少率で、志願倍率も 4.3 倍→4.1 倍にダウン。学科別では、(食品生命科学)(74)、(環境科学)(77)はいずれも募集人員減少率 33%を下回る減少率で、逆に志願倍率はそれぞれ 3.2 倍→3.6 倍、4.5 倍→5.2 倍にアップ。募集人員の変化がない(臨床検査技術)(76)は大幅減少で 3 年連続減少、志願者数は 200 人を下回った。
- 獣医(獣医)(144)は、大幅増加で 2 年連続増加。ただし、新規実施の<第 I 期 A 日程(3 科目選択型)>を除くと(104)のやや増加。
- 獣医(動物応用科学)(73)は、前年度激増の反動で大幅減少。方式別では、<第 II 期>(35)は激減で 5 年連続減少。

**<共通テスト利用方式>**

- 生命・環境科学(84)は、大幅減少で 4 年連続減少。2019 年度対比では、ほぼ半減。学科別では、(食品生命科学)(80)、(環境科学)(84)は大幅減少、(臨床検査技術)(88)は減少。
- 獣医(獣医)(123)は、4 年連続減少の反動で大幅増加。志願者数は 3 年ぶりに 700 人を上回った。方式別では、<第 1 期>、<第 2 期>のいずれも大幅増加。
- 獣医(動物応用科学)(102)は、4 年連続減少の反動はなく微増で、志願者数は 3 年連続 300 人を下回った。

**神奈川大：大学全体では学科を学部への変更やキャンパス移転効果でやや増加 一般：+2,120 人 共テ：-43 人**

※前年度の志願者数を100とする指数  
※学部名の下の数値は学部全体の指数



**主な入試変更点**

キャンパス移転：理…湘南ひらつかキャンパス→横浜キャンパス  
 学部新設：情報(計算機科学、システム数理、先端情報領域プログラム)  
 化学生命(応用化、生命機能/応用化学、生命機能学、環境生活科学)  
 学科改組：理(生物科学、化学、情報科学、数理・物理、総合理学プログラム) ※4 学科 1 プログラム  
 →理(理/生物、化学、総合理学、数学、物理、地球環境科学) ※6 コース  
 工(物質生命化、機械工、情報システム創成、建築、電気電子情報工、経営工、総合工)  
 →工(機械工、電気電子情報工、経営工、応用物理)  
 出願方法：理(生物を除く)<一般・前期 A>…同一試験日に複数の異なる学科、異なる方式の併願不可  
 →同じ学部内に限り、複数学科・コースを同一日程内で併願が可能 ※同一日程併願割引有り  
 工<一般・前期 A 方式>…同一試験日に複数の異なる学科、異なる方式の併願不可  
 →同じ学部内に限り、複数学科・コースを同一日程内で併願が可能 ※同一日程併願割引有り  
 選抜方法：工(機械工、電気電子情報工)<一般・前期 B>…新設  
 入試科目変更：理(生物)<一般・前期 A>…外+数(数 I、II、III、A、B)+理→外+理+ { (国 or 数(数 I、II、A、B))  
 経済(現代ビジネス)<一般・前期 B>…外、国、英(リスニング)→ { (外、国、数、歴公)→2 } ※数、歴公からの 2 科目選択不可  
 経営<一般・前期 B>…(外、国、英(リスニング)、数、歴公)→2 ※数、歴公からの 2 科目選択不可  
 →(外、国、数、歴公)→2 ※数、歴公からの 2 科目選択不可  
 外国語(英語英文/IES)…外、国、英(リスニング)→外、国  
 理(総合理学)<一般・前期 B>…(外 or 国)+(数 or 理) ※数は数 I・II・A or 数 I・II・A・B から選択  
 → { (外、国、数、理)→2 } ※数は数 I・II・III・A・B  
 工(機械工)<共テ併用・前期 C>

	<p>…&lt;共テ&gt;理(物、化、生、地学、物基+化基から選択)→理(物、化、物基+化基から選択)          理(総合理学)&lt;共テ・前期&gt;&lt;共テ・後期&gt;…外+数+(国 or 理)→{(外、国、数、理)→3}          ※数{(数I、A) or (数II、B)}→数(数I、II、A、B)          ※理(物 or 化 or 生 or 地学 or 理基2)→理(物 or 化 or 生 or 地学)          工(機械工、電気電子情報工、経営工)&lt;共テ・前期&gt;&lt;共テ・後期&gt;…外+数+理→数+{(外 or 国 or 理)→2}</p>
--	---

**COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数**

大学全体では、2,077人(107)のやや増加で2年連続増加。なお、新設の情報、化学生命は旧理(情報科学)、旧工(情報システム創成)および旧工(物質生命化)がもとになっている。新設に関係のない7学部では5学部が減少。特に、建築(79)は大幅減少。一方で、経済(115)は大幅増加。方式別では、一般方式は2,120人(110)の増加。新設に関係のない7学部では4学部が増加。増加では経済(113)、減少では建築(86)が増減率10%以上。共通テスト利用方式は43人(100)の微減。新設に関係のない7学部では6学部が減少、その中の5学部が大幅減少、特に建築(63)は減少率が目立った。一方で、唯一増加の経済(121)は大幅増加。

## &lt;一般方式&gt;

- 外国語(106)**は、2年連続やや増加。学科・プログラム別では4募集単位中3募集単位が増加。(スペイン語)(119)は大幅増加で2年連続増加、(英語英文/GEC)(114)は2年連続減少の反動で増加、(英語英文/IES)(111)は2年連続増加。一方で、(中国語)(69)は大幅減少、2019年度以降は前年度の反動による増減が継続。
- 法(104)**は、前年度大幅増加に引き続き、やや増加で2年連続増加。学科別では、(自治行政)(115)は2年連続大幅増加、(法律)(100)は前年度大幅増加の反動はなく前年度並。
- 経済(113)**は、前年度大幅増加に引き続き、増加で2年連続増加。学科・専攻別では3学科・専攻全てが増加。(現代ビジネス)(123)は2年連続大幅増加、(経済/現代経済)(109)は2年連続増加、(経済/経済分析)(105)は前年度大幅増加に引き続きやや増加で2年連続増加。
- 経営(102)**は、微増だが募集人員の増加率6%を下回る増加率で、志願倍率は11.8倍→11.3倍にダウン。方式別では、<給費生>(125)は大幅増加。2月募集の<一般・前期A>(95)はやや減少、<一般・前期B>(62)は2年連続大幅減少。一方で、3月募集の<一般・後期A>(119)は大幅増加。
- 国際日本(95)**は、前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。学科別では、3学科全てが減少。(日本文化)(91)は前年度大幅増加の反動で減少、(国際文化交流)(97)はやや減少で3年連続減少、(歴史民俗)(98)は微減。
- 人間科学(91)**は、前年度大幅増加の反動で減少。方式別では、2月募集の<一般・前期A>(83)が大幅減少。
- 情報**は新設だが、もとになった旧理(情報科学)、旧工(情報システム創成)の合計との比較では、募集人員5人(7%)増加、志願者数は81人(105)のやや増加。志願倍率は21.7倍→21.3倍とほぼ変化なし。
- 理(82)**は、4学科1プログラムから1学科6コースへの改組を行ったが、募集人員の45%減少により大幅減少。ただし、新設の情報のもとになった旧(情報科学)を除くと、(116)で2年連続大幅増加、志願倍率も15.8倍→22.0倍にアップ。湘南ひらつかキャンパスから横浜キャンパスへの移転効果が影響。
- 工(86)**は、学科改組で募集人員が減少率38%の大幅減少だったことにより、大幅減少。ただし、新設の情報のもとになった旧(情報システム創成)、新設の化学生命のもとになった旧(物質生命化)を除くと、(125)の大幅増加、志願倍率も14.5倍→17.6倍にアップ。
- 建築(86)**は、新設2年目だが前年度旧工(建築)から学部への改組で約2.8倍増だった反動で減少。学科・学系別では、(建築/建築)(85)は大幅減少、(建築/都市生活)(88)は減少。
- 化学生命**は新設だが、もとになった旧工(物質生命化)との比較では、募集人員は3人(5%)増加、志願者数は979人(377)の約3.8倍増、志願倍率も5.4倍→19.3倍に大幅アップ。学科を学部とした効果が大きく影響した。

## &lt;共通テスト利用方式&gt;

- 外国語(84)**は、大幅減少で4年連続減少。学科別では、3学科中2学科が減少、(英語英文/IES)(79)は大幅減少、(スペイン語)(83)は大幅減少で3年連続減少。一方で、(中国語)(119)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- 法(90)**は、前年度増加の反動で減少。学科別では、(自治行政)(67)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。(法律)(102)は2年連続微増。
- 経済(121)**は、4年連続減少の反動で大幅増加だが、2018年度対比では減少率40%以上。学科・専攻別では、3学科・専攻全てが増加。特に、(経済/経済分析)(241)は前年度半減以下の反動で約2.4倍増。(現代ビジネス)(112)、(経済/現代経済)(110)はいずれも4年連続減少の反動で増加だが、その反動は小さかった。
- 経営(83)**は、前年度増加の反動で大幅減少。志願者数は6年ぶりに1,000人を下回った。方式別では、2月募集では<共テ併用・前期C>(47)が半減以下、<共テ・前期4教科>(79)が大幅減少。3月募集では<共テ・後期3教科>(60)が大幅減少。一方で<共テ・後期4教科>(167)は激増。
- 国際日本(80)**は、大幅減少で3年連続減少。3学科全てが減少、特に(日本文化)(60)の大幅減少が目立った。
- 人間科学(81)**は、大幅減少で2年連続減少。
- 情報**は新設だが、もとになった旧理(情報科学)、旧工(情報システム創成)の合計との比較では、募集人員は10人(27%)増加、志願者数は60人(110)の増加。志願倍率は16.5倍→14.3倍にダウン。
- 理(88)**は、4学科1プログラムから1学科6コースへの改組を行ったが、募集人員の42%減少により減少。ただし、新設の情報のもとになった旧(情報科学)を除くと、(119)で大幅増加、志願倍率も12.3倍→20.2倍にアップ。湘南ひらつかキャンパスから横浜キャンパスへの移転効果が影響。
- 工(65)**は、学科改組で募集人員が減少率50%の大幅減少だったことにより、大幅減少。ただし、新設の情報のもとになった旧(情報システム創成)、新設の化学生命のもとになった旧(物質生命化)を除くと、(94)のやや減少。しかし、志願倍率は11.6倍→14.1倍にアップ。
- 建築(63)**は、新設2年目だが大幅減少。学科別では、(建築/都市生活)(57)、(建築/建築)(68)のいずれも大幅減少。
- 化学生命**は新設だが、もとになった旧工(物質生命化)との比較では、募集人員は1人(3%)減少、志願者数は439人(325)の約3.3倍増、志願倍率も5.6倍→18.9倍に大幅アップ。学科を学部とした効果が大きく影響した。

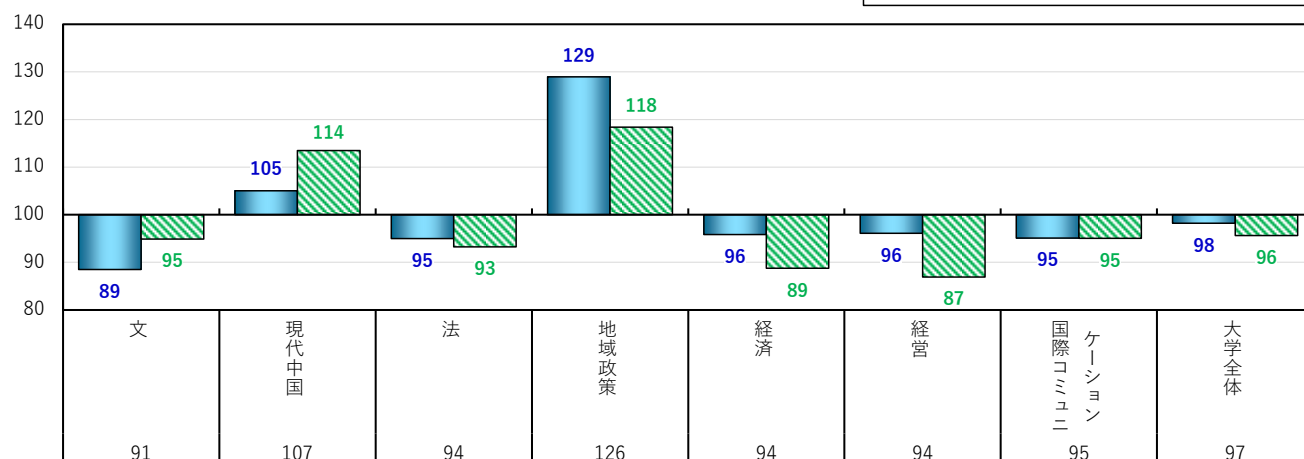


## 愛知大：大学全体ではやや減少、7 学部中 5 学部が減少

一般：-253 人 共テ：-265 人

※前年度の志願者数を100とする指数

※学部名の下の数値は学部全体の指数



## COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、518人(97)のやや減少。志願者数は前年度2万人を上回ったが、再び下回った。学部別では、7学部中5学部が減少。ただし、大幅な増減は(地域政策)(126)の大幅増加のみ。方式別では、一般方式は253人(98)の微減、2019年度から前年度の反動による増減が継続。共通テスト利用方式は265人(96)のやや減少。

## &lt;一般方式&gt;

- 文(89)**は、減少。志願者数は6年ぶりに2,000人を下回った。学科・コース別では、6学科・コース中4学科・コースが減少。(人文社会/社会学)(77)、(歴史地理)(82)、(人文社会/現代文化)(84)、(日本語日本文)(84)のいずれも大幅減少。
- 現代中国(105)**は、2年連続減少の反動は小さく、やや増加。方式別は、<M方式>(121)が前年度のやや増加に引き続き大幅増加。一方で、3月入試の<後期>(74)は大幅減少。
- 法(95)**は、前年度大幅増加の反動は小さく、やや減少。
- 地域政策(129)**は、2年連続減少の反動で大幅増加。コース別では、5コース全てが増加。特に、(地域政策/まちづくり・文化)(110)を除く4コースはいずれも大幅増加。
- 経済(96)**は、前年度増加の反動は小さく、やや減少。方式別では、<数学重視型>(109)が増加、一方で<M方式>(87)は減少。3月募集の<後期>(85)は大幅減少。
- 経営(96)**は、前年度増加の反動は小さく、やや減少。2019年度から前年度の反動による増減が継続。学科別では、(会計ファイナンス)(104)はやや増加。一方で、(経営)(93)はやや減少。
- 国際コミュニケーション(95)**は、前年度増加の反動は小さく、やや減少。学科別では、2学科とも減少。(英語)(90)は3年連続減少。(国際教養)(100)は前年度大幅増加の反動はなく微増。

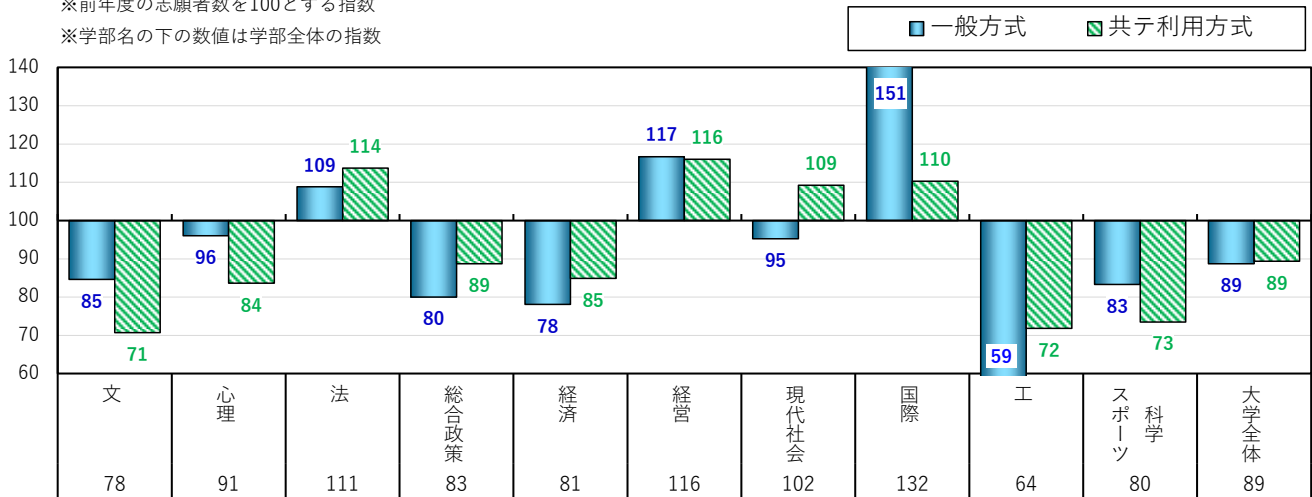
## &lt;共通テスト利用方式&gt;

- 文(95)**は、前年度やや増加の反動でやや減少。学科・コース別では、6学科・コース中5学科・コースが減少。特に(人文社会/欧米言語文化)(79)、(歴史地理)(81)、(人文社会/社会学)(84)は大幅減少。一方で、唯一増加の(心理)(137)は大幅増加。
- 現代中国(114)**は、3年連続大幅減少の反動で増加。方式別では、<共テプラス>(124)が大幅増加、3月募集の<共テ・後期>(124)も大幅増加。一方で、<共テ・前期5教科>(58)は大幅減少。
- 法(93)**は、前年度大幅増加の反動は小さく、やや減少。志願者数は2年ぶりに1,000人を下回った。方式別では2月募集の3方式はいずれも減少。特に、<共テ・前期3教科>(84)は大幅減少。一方で、3月募集の<共テ・後期>(116)も大幅増加。
- 地域政策(118)**は、3年連続減少の反動で大幅増加。コース別では、5コース中4コースが増加。特に(地域政策/健康・スポーツ)(148)、(地域政策/経済産業)(125)、(地域政策/公共政策)(122)が大幅増加。一方で、唯一減少の(地域政策/食農環境)(83)は大幅減少。
- 経済(89)**は、前年度増加の反動で減少。志願者数は2年ぶりに1,000人を下回った。方式別では、2月募集の<共テ・前期5教科>(71)、<共テプラス>(85)が大幅減少。一方で、3月募集の<共テ後期>(115)は大幅増加。
- 経営(87)**は、前年度増加の反動で減少。ただし、2019年度対比では2020年度、2021年度の連続大幅減少の影響で40%超える減少率。学科別では、(経営)(87)、(会計ファイナンス)(87)のいずれも減少。
- 国際コミュニケーション(95)**は、前年度増加の反動は小さく、やや減少。ただし、2019年度対比では2020年度、2021年度の連続大幅減少の影響で25%近い減少率。学科別では、(英語)(89)は減少で4年連続減少、(国際教養)(100)は前年度と同数。



## 中京大：大学全体では3年連続減少、減少6学部中5学部が大幅減少 一般：-1,942人 共テ：-1,337人

※前年度の志願者数を100とする指数  
 ※学部名の下の数値は学部全体の指数



**主な入試変更点** 試験会場：全学部<一般・後期F方式>…富山会場、岡山会場除外

### COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、3,279人(89)の減少で3年連続減少。学部別では、10学部中で6学部が減少。工(64)、文(78)、スポーツ科学(80)、経済(81)、総合政策(83)の5学部が大幅減少、特にスポーツ科学は2年連続大幅減少。一方で、国際(132)、経営(116)はいずれも2年連続減少の反動で大幅増加。方式別では、一般方式は1,942人(89)の減少で3年連続減少。共通テスト利用方式は1,337人(89)の減少。

#### <一般方式>

- 文(85)**は、大幅減少。志願者数は6年ぶりに1,500人を下回った。2019年度以降、前年度の反動による増減が継続。学科別では、3学科全て減少。特に、(日本文)(79)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(歴史文化)(83)は大幅減少で3年連続減少。
- 心理(96)**は、やや減少で3年連続減少。方式別では、3月募集の<後期・F方式>(88)が減少。
- 法(109)**は、6年ぶりに増加したが、2017年度対比では20%以上の減少率。方式別では、2月募集の<前期・M方式>(125)は大幅増加。
- 総合政策(80)**は、2年ぶりに大幅減少。2019年度対比では半減以下。方式別では、2月募集の<前期・A方式>(74)、<前期・M方式>(79)はいずれも大幅減少。
- 経済(78)**は、大幅減少で3年連続減少。2020年度対比では45%以上の減少率。志願者数は8年ぶりに1,500人を下回った。方式別ではいずれも大幅減少だが、3月募集の<後期・F方式>(58)が減少率40%以上。
- 経営(117)**は、2年連続大幅減少の反動で大幅増加。方式別では、2月募集の<前期・M方式>(128)、<前期・A方式>(119)はいずれも大幅増加。一方で、3月募集の<後期・F方式>(89)は3年連続減少。
- 現代社会(95)**は、やや減少で3年連続減少。専攻別では、増減が2専攻ずつ。(現代社会/社会福祉学)(117)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(現代社会/社会学)(82)は3年連続大幅減少。
- 国際(151)**は、大幅増加で2020年度の改組後初めての増加。志願倍率が19倍を上回ったのも3年ぶり。専攻別では、5専攻中4専攻が増加。特に、(言語文化/複言語・複文化学)(189)、(言語文化/英米学)(178)は激増。一方で、唯一減少の(国際/国際人間学)(99)は2人のみの微減。
- 工(59)**は、大幅減少。学科別では、4学科全てが大幅減少。特に、メディア工(51)、情報工(55)、機械システム工(59)は減少率40%を超える大幅減少。電気電子工(72)は3年連続大幅減少。
- スポーツ科学(83)**は、2年連続大幅減少。学科別では、5学科中4学科が減少。減少の4学科は全て大幅減少で、(競技スポーツ科学)(63)、スポーツ健康科学(79)はいずれも減少率20%を超える大幅減少。一方で、(トレーナー)(108)は増加だが前年度半減近い大幅減少の反動は小さかった。

#### <共通テスト利用方式>

- 文(71)**は、前年度増加の反動で大幅減少。志願者数は1,000人を下回り、志願倍率は6年ぶりに20倍を下回った。学科別では、(日本文)(66)、(歴史文化)(73)、(言語表現)(75)と3学科全てが大幅減少。
- 心理(84)**は、前年度増加の反動で大幅減少。方式別では、全ての方式でも減少。特に、3月募集の<共テ・後期>(39)は激減で、志願倍率3.0倍の低倍率。
- 法(114)**は、前年度やや増加に引き続き、2年連続増加。志願者数は4年ぶりに1,200人を上回った。方式別では、<共テ・プラス>(150)が大幅増加。
- 総合政策(89)**は、減少。方式別では、<共テ・前期2・3科目型>(73)は大幅減少。一方で、<共テ・前期4・5科目型>(115)は大幅増加。国公立大併願者に狙われたことと、私立大専願者の共通テストへの敬遠傾向がうかがえる。
- 経済(85)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。2020年度以降前年度の反動による増減が継続。方式別では、<共テ・プラス>(106)のやや増加を除くと、2月募集の<共テ・前期2・3科目型>(73)、<共テ・前期4・5科目型>(85)は大幅減少。3月募集の<共テ・後期>(73)も大幅減少。
- 経営(116)**は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。2020年度以降前年度の反動による増減が継続。方式別では、<共テ・プラス>(122)は大幅増加。2月募集の<共テ・前期4・5科目型>(161)は前年度大幅減少の反動で激増。一方で、<共テ・前期2・3科目型>(95)は2年連続やや減少。3月募集の<共テ・後期>(104)は2年連続やや増加。
- 現代社会(109)**は、前年度やや増加に引き続き、2年連続増加。ただし、2021年度の大幅減少の影響で、2020年度対比では

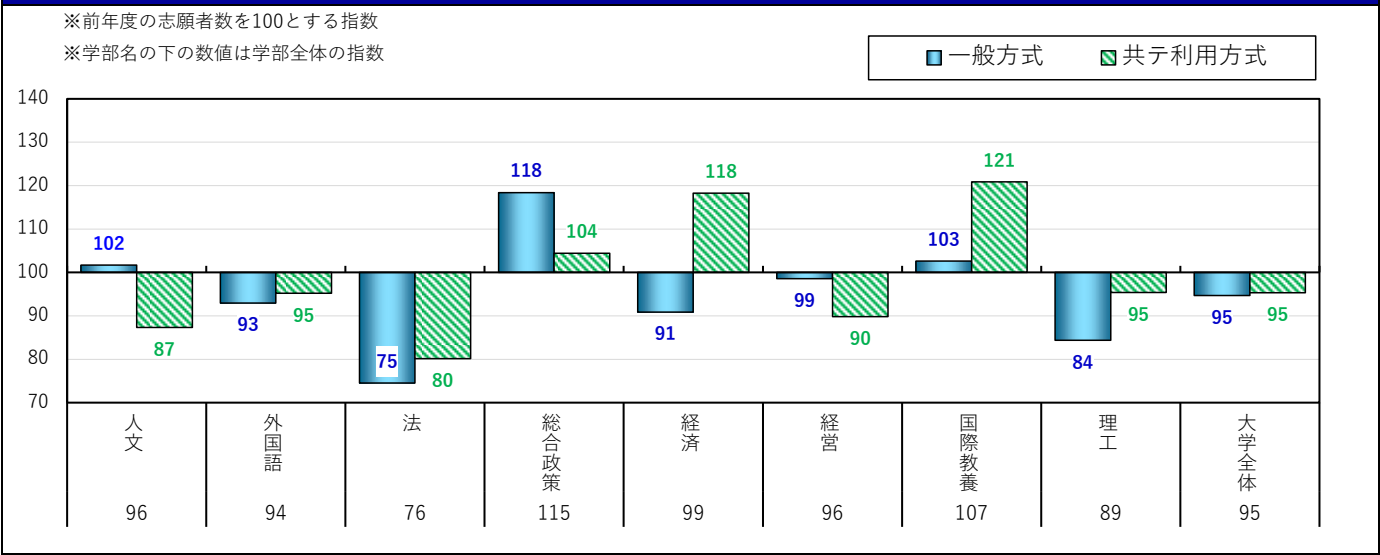
約35%の減少率。専攻別では、増減が2専攻ずつ。(現代社会/コミュニティ学)(158)、(現代社会/国際文化)(128)といずれも大幅増加。一方で、(現代社会/社会学)(80)は大幅減少、(現代社会/社会福祉学)(98)は微減。

○**国際(110)**は、2年連続増加。専攻別では、5専攻中3専攻が増加。(言語文化/複言語・複文化学)(148)、(国際/国際政治学)(146)、(言語文化/英米学)(130)は全て大幅増加。一方で、(国際/国際人間学)(64)、(国際/国際経済学)(84)といずれも大幅減少。

○**工(72)**は、前年度増加の反動で大幅減少。2019年度対比では40%を超える減少率。学科別では、4学科が全て減少。(電気電子工)(99)は微減だが、これを除く3学科はいずれも大幅減少。特に、情報工(59)の減少率が最も大きく、志願者数が7年ぶりの400人台。

○**スポーツ科学(73)**は2年連続大幅減少。学科別では、5学科とも大幅減少。特に、(スポーツ健康科学)(63)の減少率が最も大きく、前年度激増の反動で減少率は35%を上回った。

**南山大：大学全体ではやや減少、8学部中6学部が減少** 一般：-825人 共テ：-371人



**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、1,196人(95)のやや減少。前年度5年ぶりに増加したが、再び減少に転じた。コロナ禍による遠距離移動への極端な敬遠傾向が緩和され、首都圏や関西圏への流出が復活した影響が見られた。学部別では、8学部中で増加は(総合政策)(115)の大幅増加、(国際教養)(107)のやや増加のみで、他の6学部はいずれも減少。方式別では、一般方式は825人(95)のやや減少で2年ぶりの減少。共通テスト利用方式は371人(95)のやや減少で3年ぶり減少。

**<一般方式>**

- 人文(102)**は、微増だが2年連続増加。学科別では、4学科とも増加。(キリスト教)(120)は大幅増加で2年連続増加、他の3学科はいずれも微増だが、2年連続増加。
- 外国語(93)**は、系統への低い人気も影響してやや減少。前年度から募集単位を専攻別から学科別に変更したが、(スペイン・ラテンアメリカ)(106)がやや増加だが、他の4学科はいずれも減少、特に(アジア)(77)、(フランス)(83)はいずれも大幅減少。
- 法(75)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。2021年度以降は前年度の反動による大幅な増減が継続。
- 総合政策(118)**は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。系統別分類で同じ法学系の法とは逆の増減が継続。
- 経済(91)**は、前年度大幅増加の反動で減少。
- 経営(99)**は、前年度大幅増加の反動は小さく、微減。2019年度以降は前年度の反動による増減が継続。
- 国際教養(103)**は、やや増加で3年連続増加。
- 理工(84)**は、学科改組3年目だが、2年連続大幅減少。学科別では、(データサイエンス)(123)の前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、他の3学科はいずれも大幅減少。(電子情報工)(63)は前年度増加の反動、(機械システム工)(78)、(ソフトウェア工)(82)は改組後2年連続減少。

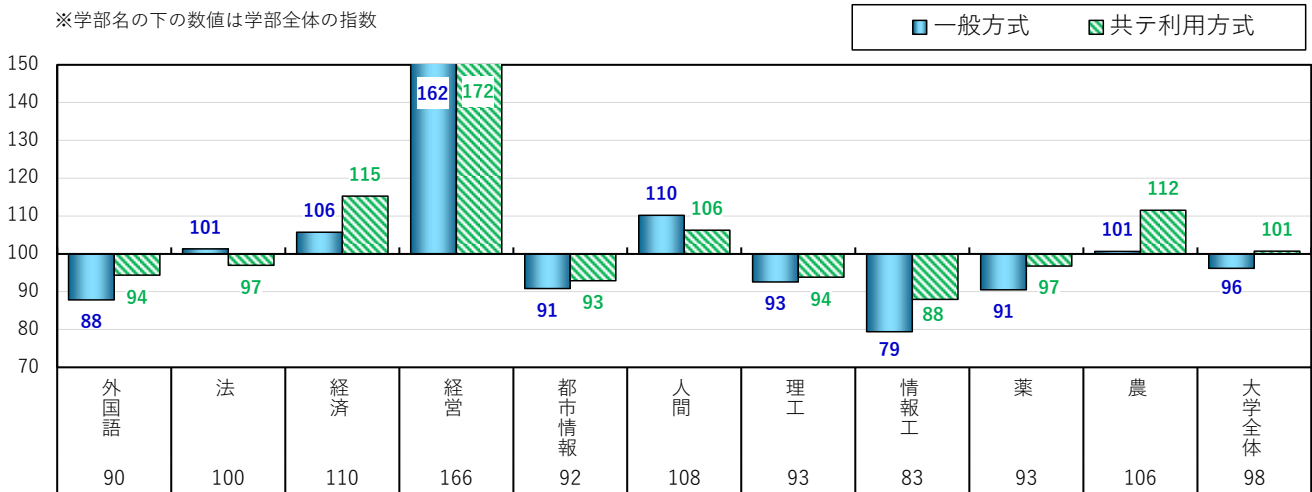
**<共通テスト利用方式>**

- 人文(87)**は、前年度大幅増加の反動で減少。学科別では、(キリスト教)(178)は5年連続減少の反動で激増。一方で、(人類文化)(73)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(日本文化)(84)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(心理人間)(99)は前年度大幅増加の反動はなく微減。
- 外国語(95)**は、やや減少で2年連続減少。学科別では、5学科中2学科で増加。(ドイツ)(105)は前年度減少の反動は小さくやや増加、(スペイン・ラテンアメリカ)(102)も前年度減少の反動は小さく微増。一方で、(アジア)(82)は2年連続増加の反動で大幅減少、(英米)(96)は2年連続やや増加の反動でやや減少、(フランス)(96)は2年連続やや減少。
- 法(80)**は、前年度激増の反動で大幅減少。
- 総合政策(104)**は、前年度大幅減少の反動は小さく、やや増加。2019年度以降は系統別分類で同じ法学系の法と逆の増減。
- 経済(118)**は、2年連続大幅増加。志願者数は5年ぶりに1,000人を上回った。
- 経営(90)**は、前年度大幅増加の反動で減少。
- 国際教養(121)**は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- 理工(95)**は、学科改組3年目だが、2年連続やや減少。学科別では、増加は(データサイエンス)(119)は前年度大幅減少の反動での大幅増加。一方で、他の3学科はいずれも減少。(ソフトウェア工)(82)は前年度の微減に引き続き大幅減少、(機械シ

STEM工)(87)は前年度増加の反動で減少、(電子情報工)(97)は前年度微減に引き続きやや減少。

**名城大：大学全体では微減、学部別では減少が6学部、増加が4学部 一般：-891人 共テ：+114人**

※前年度の志願者数を100とする指数  
 ※学部名の下の数値は学部全体の指数



**主な入試変更点** 入試科目：理工、情報工<共テ・C方式5教科6科目型>  
 ……歴公の出題範囲変更 国+歴公+数2+理・理基2+外 ※歴公：世Bor日Bor現  
 →国+歴公+数2+理・理基2+外 ※歴公：世Aor世Bor日Aor日Bor地理Aor地理Bor現or倫or政経or倫政

**COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数**

大学全体では、777人(98)の微減で2年ぶりに減少。学部別では、10学部中減少が6学部、増加が4学部。減少では新設2年目の情報(83)が大幅減少。一方で、増加では、経営(166)が激増。方式別では、一般方式は前年度大幅増加の反動は小さく、891人(96)のやや減少。外国語、理工、情報工で新設2年目の<傾斜配点型K方式>(74)が大幅減少。共通テスト利用方式は114人(101)の微増だが2年連続増加。

**<一般方式>**

- 外国語(88)**は、前年度大幅増加の反動で減少。系統への低い人気もあって2016年度の新設以降で最少の志願者数。方式別では、<傾斜配点型K方式>(67)が大幅減少。
- 法(101)**は、微増だが、前年度大幅増加に引き続き2年連続増加。
- 経済(106)**は、やや増加で2年連続増加。学科別では、(経済)(109)は2年連続増加。一方で、(産業社会)(73)は5年連続大幅減少で、志願者数は100人を下回った。
- 経営(162)**は、前年度大幅減少の反動で激増。学科別では、(国際経営)(168)、(経営)(162)のいずれも激増。
- 都市情報(91)**は、2年連続増加の反動で減少。
- 人間(110)**は、2年連続増加。志願者数は3年ぶりに1,000人を上回った。
- 理工(93)**は、やや減少で3年連続減少、志願者数は1万人を下回った。ただし、情報工に改組された旧理工(情報工)を除くと、前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。学科別では、10学科中8学科が減少、特に(材料機能工)(80)、(応用化)(82)は大幅減少。一方で、増加は2学部のみで、(環境創造工)(131)は大幅増加、(メカトロニクス工)(106)はやや増加。
- 情報工(79)**は、旧理工(情報工)の改組による新設2年目だが、大幅減少。旧理工(情報工)を含めると2年連続増加の反動で大幅減少、それでも改組前の2021年度は上回った。方式別では、全ての方式で減少、特に<傾斜配点型K方式>(60)が大幅減少。
- 薬(91)**は、3年連続増加の反動で減少。
- 農(101)**は、微増だが前年度大幅増加に引き続き2年連続増加。学科別では、3学科中2学科が増加、(生物資源)(110)は2年連続増加、(生物環境科学)(107)は前年度大幅増加に引き続き、やや増加。一方で、(応用生物化)(91)は前年度大幅増加の反動で減少。

**<共通テスト利用方式>**

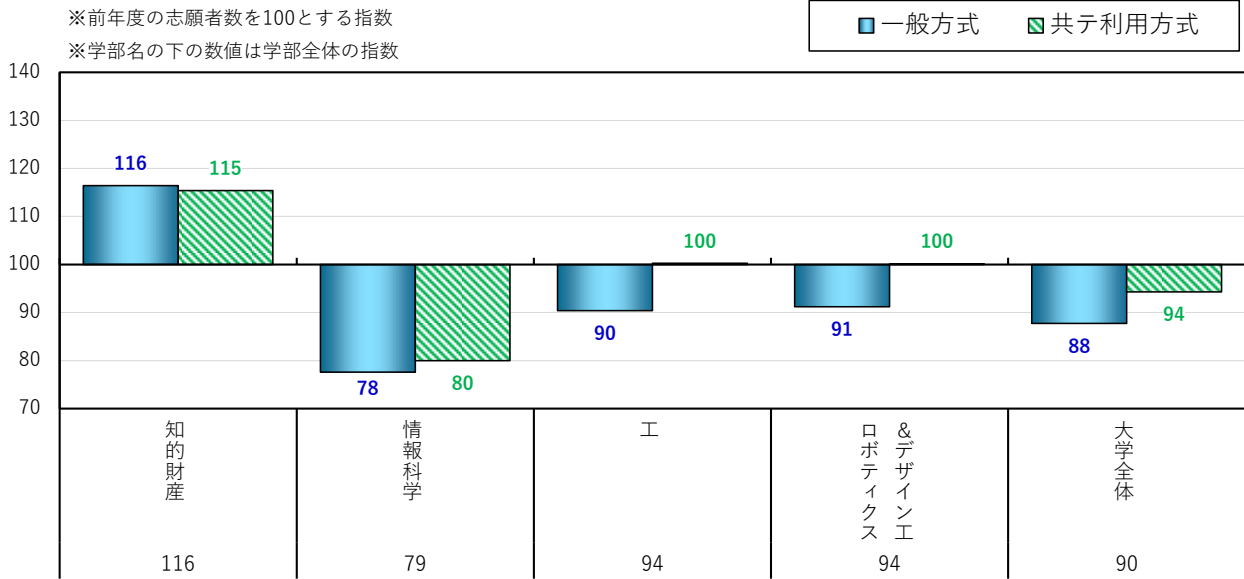
- 外国語(94)**は、やや減少で5年連続減少。系統への低い人気もあって2016年度の新設以降で最少の志願者数。
- 法(97)**は、やや減少で4年連続減少。法学科1学科となった2016年度以降では最少の志願者数。
- 経済(115)**は、系統への高い人気もあって2年連続大幅増加。学科別では、(経済)(117)は2年連続大幅増加、(産業社会)(108)は前年度大幅増加に引き続き2年連続増加。
- 都市情報(93)**は、やや減少で3年ぶりの減少。
- 人間(106)**は、2年連続やや増加だが、志願者数は3年連続700人台。
- 理工(94)**は、やや減少で3年連続減少。ただし、情報工に改組された旧理工(情報工)を除くと、前年度やや増加の反動でやや減少。学科別では、10学科中6学科が減少。(材料機能工)(78)、(電気電子工)(81)、(応用化)(82)、(数)(82)の4学科が大幅減少。一方で、(環境創造工)(151)は大幅増加。
- 情報工(88)**は、旧理工(情報工)の改組による新設2年目だが、減少。旧理工(情報工)を含めると2年連続増加の反動で減少。志願者数は、前年度は改組効果で1,700人近くまで増加したが、改組以前の2021年度とほぼ同数。
- 薬(97)**は、前年度増加の反動は小さく、やや減少。志願者数は2年連続で1,000人を上回った。
- 農(112)**は、系統への高い人気もあって2年連続増加。志願者数は4年ぶりに2,300人を上回った。学科別では、3学科中2



学科が増加。(生物環境科学)(125)、(生物資源)(121)といずれも大幅増加。一方で、減少の(応用化)(99)も2年連続増加の反動はなく微減。

大阪工業大：大学全体では4年連続減少、知的財産学部のみ増加

一般：-1,037人 共テ：-311人



主な入試変更点

試験会場：全学部<一般・前期A日程>…堺、金沢を除外。福井を追加。  
 出願方法：工、ロボティクス&デザイン工、情報科学(データサイエンス学科の文理型・文系型を除く)各学科  
 <一般・前期A日程、B日程><一般・後期D日程>  
 …同一試験日でのプラスワン理系とプラスワン文理の併願不可  
 →理系学科を第1志望とし、プラスワン理系を併願した場合、プラスワン文理で知的財産学科の併願可  
 入試科目：知的財産<一般・前期A日程>…国+外+(歴公 or 数) ※選択は高得点1科目採用→外+(国 or 歴 or 数 or 理) ※選択は高得点1科目採用  
 ※国：必須→選択、教科数：3教科→2教科  
 <一般・前期B日程>…国+外+(歴公 or 数) ※選択は高得点1科目採用→国+外+(歴 or 数 or 理) ※選択は高得点1科目採用  
 <一般・後期D日程>…{国 or 外 or (歴公 or 数)}→2 ※高得点2科目採用→{国 or 外 or (歴 or 数 or 理)}→2 ※高得点2科目採用  
 <共テ併用・前期AC日程>…<共テ>(国 or 歴公 or 数① or 数② or 理・理基2 or 外)→3  
 <個>国+外+(歴公 or 数) ※選択は高得点1科目採用  
 →<共テ>(国 or 歴公 or 数① or 数② or 理・理基2 or 外)→2  
 <個>外+(国 or 歴 or 数 or 理) ※選択は高得点1科目採用  
 ※国：必須→選択、教科数：3教科→2教科  
 <共テ併用・前期BC日程>…<共テ>(国 or 歴公 or 数① or 数② or 理・理基2 or 外)→3  
 <個>国+外+(歴公 or 数) ※選択は高得点1科目採用  
 →<共テ>(国 or 歴公 or 数① or 数② or 理・理基2 or 外)→3  
 <個>外+(国 or 歴 or 数 or 理) ※選択は高得点1科目採用  
 ※国：必須→選択、教科数：3教科→2教科  
 <共テ併用・前期DC日程>…<共テ>(国 or 歴公 or 数① or 数② or 理・理基2 or 外)→2  
 <個>{国 or 外 or (歴公 or 数)}→2 ※高得点2科目採用  
 →<共テ>(国 or 歴公 or 数① or 数② or 理・理基2 or 外)→2  
 <個>{国 or 外 or (歴 or 数 or 理)}→2 ※高得点2科目採用  
 情報科学(データサイエンス)<一般・前期A日程、B日程(文系型)>…数+外+(国 or 歴公) ※選択は高得点1科目採用  
 →数+外+(国 or 歴) ※選択は高得点1科目採用  
 <一般・後期D日程(文系型)>…{数 or 外 or (国 or 歴公)}→2 ※高得点2科目採用  
 →{数 or 外 or (国 or 歴)}→2 ※高得点2科目採用  
 <共テ併用・前期AC日程、BC日程>…<共テ>数②+理+(国 or 外)  
 <個>数+外+(国 or 歴公) ※選択は高得点1科目採用  
 →<共テ>数②+理+(国 or 外)  
 <個>数+外+(国 or 歴) ※選択は高得点1科目採用  
 <共テ併用・前期DC日程>…<共テ>数②+理+(国 or 外)  
 <個>{数 or 外 or (国 or 歴公)}→2 ※高得点2科目採用  
 →<共テ>数②+理+(国 or 外)  
 <個>{数 or 外 or (国 or 歴)}→2 ※高得点2科目採用

COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比数値

大学全体では、1,348人(90)の減少で4年連続減少。志願者数は8年ぶりに13,000人を下回った。学部別では、4学部中3学部が減少。情報科学(79)は大幅減少、工(94)、ロボティクス&デザイン工(94)はいずれもやや減少。一方で、知的財産(116)



は大幅増加。方式別では、一般方式は 1,037 人(88)の減少で 2 年ぶりに減少。共通テスト利用方式は 311 人(94)のやや減少で 4 年連続減少。共通テスト受験前に出願締め切りとなる<共テ・前期 C 日程>(113)は増加で 4 年ぶりに増加。一方で、共通テスト受験後に出願可能な<共テ・後期 C 日程><共テ併用・前期 A C 日程><共テ併用・前期 B C 日程><共テ併用・後期 D C 日程>の合計は(84)の大幅減少で 4 年連続減少。

<一般方式>

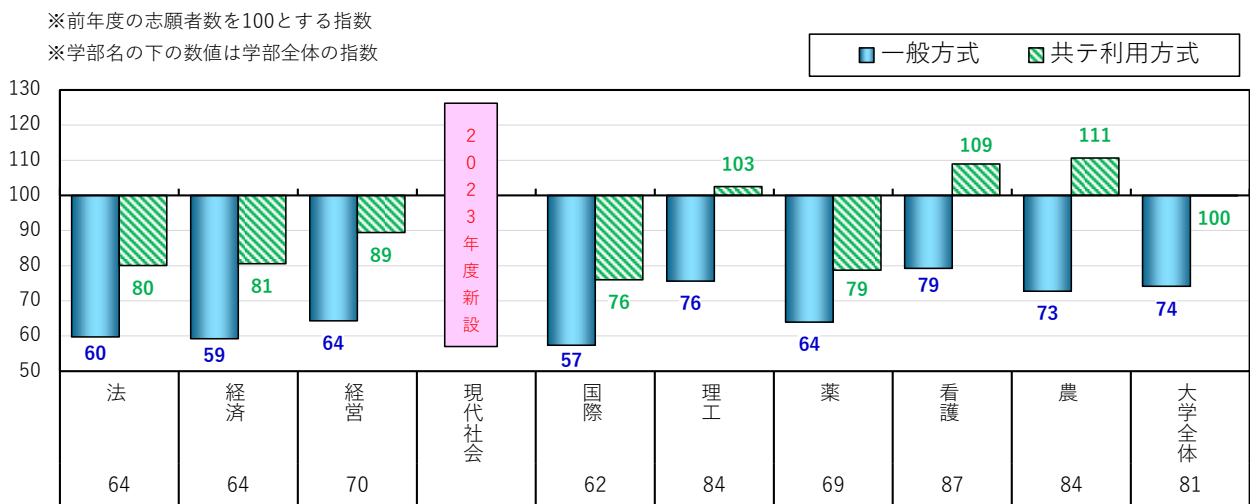
- 知的財産(116)**は、3 年連続大幅減少の反動で大幅増加だが、2019 年度対比では減少率 80%近い減少。
- 情報科学(78)**は、前年度増加の反動で大幅減少。学科別では、5 学科中 4 学科が減少で前年度と逆の増減。学科別では、新設 3 年目の(データサイエンス)(65)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。(情報メディア)(74)は大幅減少で 4 年連続減少、志願者数は 300 人を下回った。(情報システム)(75)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(ネットワークデザイン)(88)は前年度大幅増加の反動で減少。一方で、(情報知能)(105)は 2 年連続やや増加。
- 工(90)**は、前年度増加の反動で減少。学科別では 8 学科中 5 学科が減少。特に、(都市デザイン工)(76)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(電子情報システム工)(76)は前年度増加の反動で大幅減少、(建築)(81)は大幅減少で 2 年ぶりに減少。一方で、(環境工)(128)は大幅増加で志願者数は 3 年ぶりに 300 人を上回った。(生命工)(115)は 2 年連続減少の反動で大幅増加、(応用化)(108)も 2 年連続減少の反動で増加。
- ロボティクス&デザイン工(91)**は、前年度大幅増加の反動で減少。学科別では、3 学科全てが減少。(ロボット工)(87)、(空間デザイン)(92)はいずれも前年度大幅増加の反動で減少、(システムデザイン工)(96)は前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。

<共通テスト利用方式>

- 知的財産(115)**は、3 年連続減少の反動で大幅増加だが、2019 年度対比では減少率 70%近い減少。
- 情報科学(80)**は、大幅減少で 4 年連続減少。学科別では 5 学科中 4 学科で減少。(情報メディア)(65)は 4 年連続大幅減少で志願者数は 200 人を下回った。新設 3 年目の(データサイエンス)(77)は 2 年連続大幅減少、(情報システム)(78)は大幅減少で志願者数は 6 年ぶりに 500 人を下回った。(ネットワークデザイン)(91)は減少、2019 年度の改組の翌年から 4 年連続減少。一方で、(情報知能)(102)は微減だが 2019 年度の改組後初めての増加。
- 工(100)**は、2 年連続大幅減少の反動はなく 8 人の微増で前年度並。学科別では、増減が 4 学科ずつに分かれた。特に、(環境工)(164)は 3 年連続減少の反動で激増。(生命工)(119)、(応用化)(115)はいずれも 2 年連続大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(機械工)(88)、(建築)(92)はいずれも減少で 3 年連続減少。
- ロボティクス&デザイン工(100)**は、3 年連続減少の反動はなく 1 人の微増で前年度並。学科別では、3 学科中 2 学科が増加。(システムデザイン工)(106)は 3 年連続減少の反動は小さくやや増加。(ロボット工)(101)は微増だが 3 年ぶりに増加。一方で、(空間デザイン)(96)はやや減少で 4 年連続減少。

摂南大：大学全体では入試方式の整理の影響から 4 年連続減少

一般：-3,810 人 共テ：-4 人



主な入試変更点

学部新設：現代社会  
 選抜方法：全学部…<一般・前期 3 科目型(高得点科目重視方式)>：廃止  
 ※併願可能だった、(均等配点方式)(高得点科目重視方式)(指定科目重視方式)から(高得点科目重視方式)を廃止  
 <共テ・中期 4 科目型>：廃止  
 <共テ併用・前期 3 科目型+3 プラス C><共テ併用・前期 2 科目型+2 プラス C>  
 …出願にあたって全学部とも、学部・学科の制約なし  
 →<一般・前期 3 科目型><一般・前期 2 科目型>に「出願する学部・学科と同一学部・学科に限る」

COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、3,814 人(81)の大幅減少で 4 年連続減少。方式別では、一般方式(74)は上記の「主な入試変更点」に示したように入試方式を整理したことから 3,810 人の大幅減少で 4 年連続減少。共通テスト利用方式(100)は、前年度「入学検定料」の免除制度を廃止し大幅減少したが、今年度は<共テ・中期 4 科目型>を廃止や<共テ併用・前期>での学部・学科間の併願に制約を設けたことで、反動はなく 4 人の微減で前年度並。学部別では、新設の現代社会を除く既存の 8 学部全てが減少。

<一般方式>

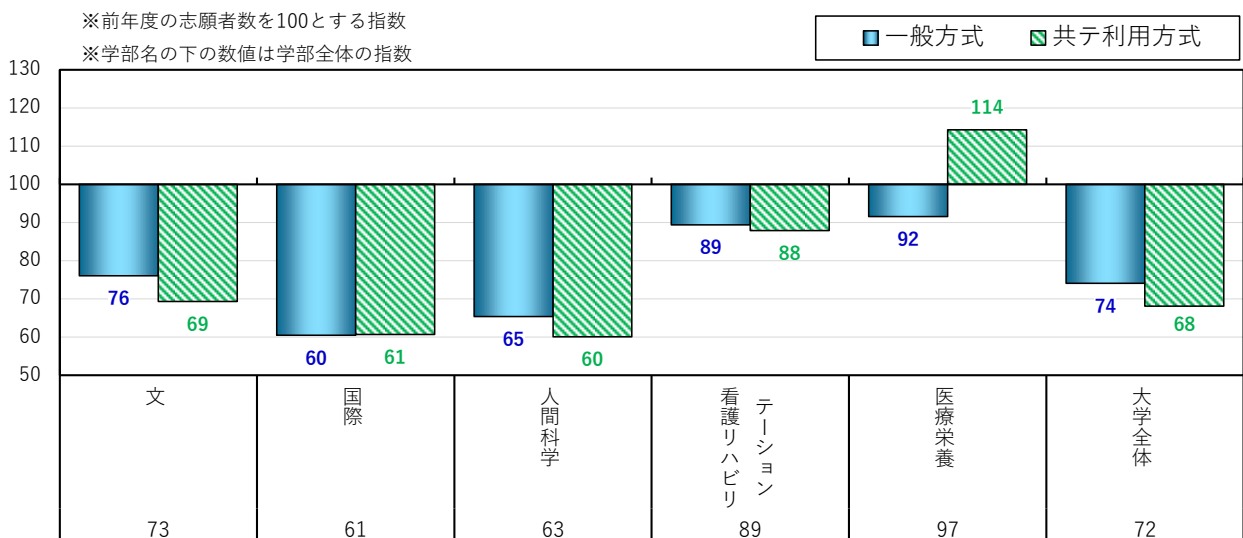
- 法(60)は、大幅減少。方式別では、入試方式の整理の影響で<前期3科目型>(57)は大幅減少。<前期2科目型>(59)も2年連続大幅減少。一方で、<後期>(119)は大幅増加。
- 経済(59)は、大幅減少で2年連続減少。方式別では、入試方式の整理の影響で<前期3科目型>(57)は大幅減少。<前期2科目型>(62)も2年連続大幅減少。<後期>(74)は大幅減少で5年連続減少。
- 経営(64)は、前年度減少に引き続き大幅減少で2年連続減少。方式別では、入試方式整理の影響で<前期3科目型>(59)は大幅減少。<前期2科目型>(67)も2年連続大幅減少。一方で、<後期>(154)は50%以上の大幅増加。
- 新設の現代社会は、募集人員112人に対し、志願者数は1,091人で、志願倍率は9.7倍。
- 国際(57)は、大幅減少。旧外国語の改組による新設2年目だが、旧外国語を含めて4年連続減少。方式別では、<前期2科目型>(54)は大幅減少。入試方式整理の影響がある<前期3科目型>(57)も大幅減少。
- 理工(76)は、大幅減少で4年連続減少。学科別では、6学科全てが減少。(建築)(62)は前年度4年ぶりに増加した反動で大幅減少。(電気電子工)(69)、(機械工)(77)、(住環境デザイン)(85)はいずれも大幅減少で4年連続減少。(都市環境工)(79)は4年連続大幅減少。(生命科学)(93)は減少で4年連続減少。方式別では、入試方式整理の影響がある<前期3科目型>(68)は大幅減少。<前期2科目型>(77)は2年連続大幅減少。<後期>(94)はやや減少。
- 薬(64)は、前年度5年ぶりに微増で減少が止まったが、大幅減少で再び減少に転じた。
- 看護(79)は、大幅減少で2年連続減少。志願者数は600人台に留まった。
- 農(73)は、2020年度新設の翌年以降3年連続大幅減少。学科別では、4学科全てが減少。(応用生物科学)(95)はやや減少だが、他の3学科はいずれも大幅減少。(食品栄養)(48)は半減以下で3年連続減少、(食農ビジネス)(63)は3年連続大幅減少、(農業生産)(78)も大幅減少で3年連続減少。

<共通テスト利用方式>

- 法(80)は、前年度「入学検定料」の免除制度廃止が影響して大幅減少だったが、今年度は<共テ併用・前期>での学部・学科間の併願に制約を設けたことで、反動はなく引き続き大幅減少で4年連続減少。
- 経済(81)は、前年度「入学検定料」の免除制度廃止が影響して大幅減少だったが、今年度は<共テ併用・前期>での学部・学科間の併願に制約を設けたことで、反動はなく引き続き大幅減少。
- 経営(89)は、前年度「入学検定料」の免除制度廃止が影響して大幅減少だったが、今年度は<共テ併用・前期>での学部・学科間の併願に制約を設けたことで、反動はなく引き続き減少。
- 新設の現代社会は、共通テスト利用方式合計の募集人員17人に対し、志願者数は377人で、志願倍率は22.2倍。
- 国際(76)は、旧外国語の改組で新設されて2年目だが、旧外国語を含めて4年連続減少。
- 理工(103)は、前年度「入学検定料」の免除制度廃止が影響して半減だったが、今年度は<共テ・中期4科目型>を廃止や<共テ併用・前期>での学部・学科間の併願に制約を設けたことで、反動は小さくやや増加。学科別では、(住環境デザイン)(149)、(都市環境工)(131)はいずれも前年度激減の反動で大幅増加、(機械工)(107)は3年連続大幅減少の反動は小さくやや増加、(建築)(85)は2年連続大幅減少、(電気電子工)(91)も2年連続減少。
- 薬(79)は、大幅減少で5年連続減少。廃止となった<共テ・中期4科目型>を除いても、今年度は<共テ併用・前期>での学部・学科間の併願に制約を設けたことで、(84)の大幅減少。
- 看護(109)は、前年度「入学検定料」の免除制度廃止が影響して大幅減少だったが、反動で増加。今年度は<共テ併用・前期>での学部・学科間の併願に制約を設けたが、職業直結型の学部なのでその影響はなかった。
- 農(111)は、廃止となった<共テ・中期4科目型>を除くと(115)の大幅増加。前年度「入学検定料」の免除制度廃止が影響して2年連続大幅減少だったが、反動で増加。今年度は<共テ併用・前期>での学部・学科間の併願に制約を設けたが、学部特性上、志望が堅い受験生が多く影響は小さかった。

甲南女子大：大学全体では4年連続減少、全学部減少

一般：-676人 共テ：-432人



COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、女子大を取り巻く厳しい環境や年内入試へのシフトもあって、1,108人(72)の大幅減少で4年連続減少、2019

年度対比では約 70%減少。学部別では、5 学部全てが減少。特に、国際(61)、人間科学(63)、文(73)はいずれも大幅減少。方式別では、一般方式は 676 人(74)の大幅減少で 3 年連続大幅減少。共通テスト利用方式は 432 人(68)の大幅減少で 5 年連続大幅減少。

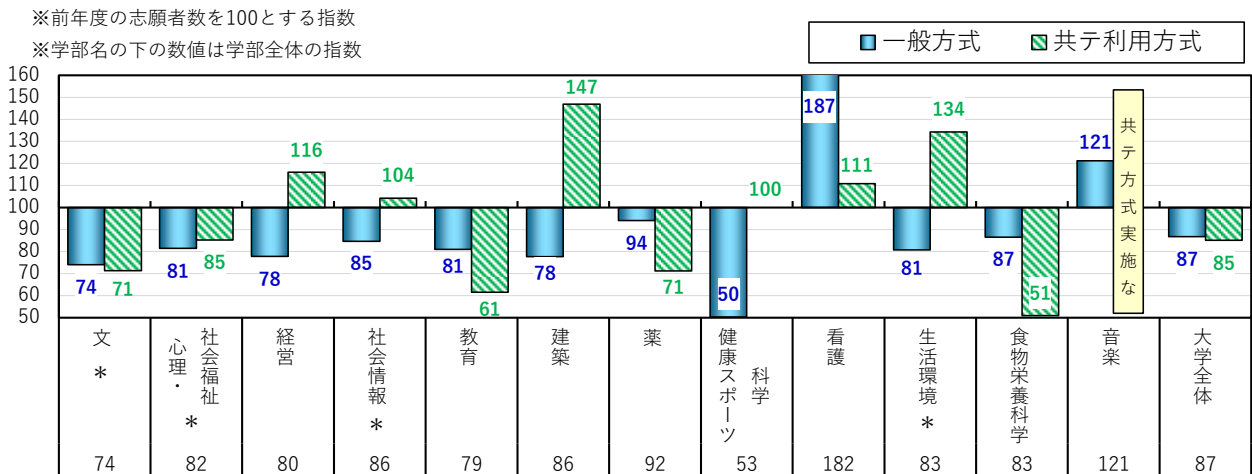
<一般方式>

- 文(76)は、2020 年度の改組翌年から 3 年連続大幅減少。学科別でも、(日本語日本文化)(72)、(メディア表現)(79)の 2 学科はいずれも 3 年連続大幅減少。
- 国際(60)は、コロナ禍による系統への人気低下の影響もあって、2020 年度の改組の翌年から 3 年連続大幅減少。学科別でも、(国際英語)(56)、(多文化コミュニケーション)(65)の 2 学科はいずれも 3 年連続大幅減少。
- 人間科学(65)は、3 年連続大幅減少で 4 年連続減少。学科別でも、4 学科全てが 3 年連続大幅減少。(文化社会)(53)、(総合子ども)(62)、(心理)(74)、(生活環境)(75)はいずれも減少率 25%以上。
- 看護リハビリテーション(89)は、3 年連続減少。学科別では、(看護)(88)は減少で 2020 年度以降前年度の反動による増減が継続。(理学療法)(96)はやや減少で 3 年連続減少。
- 医療栄養(92)は、前年度増加の反動で減少。2020 年度以降前年度の反動による増減が継続。

<共通テスト利用方式>

- 文(69)は、2020 年度の改組翌年から 3 年連続大幅減少。学科別では、(メディア表現)(69)、(日本語日本文化)(70)の 2 学科はいずれも 5 年連続大幅減少。
- 国際(61)は、コロナ禍による系統への人気低下の影響もあって、2020 年度の改組の翌年から 3 年連続大幅減少。学科別でも、(国際英語)(51)、(多文化コミュニケーション)(71)の 2 学科はいずれも 3 年連続大幅減少。
- 人間科学(60)は、4 年連続大幅減少で 5 年連続減少。志願者数は 400 人を下回った。学科別でも、4 学科全てが 5 年連続減少。
- 看護リハビリテーション(88)は、3 年連続減少。学科別では、(看護)(86)は 3 年連続減少、(理学療法)(97)は実人数 1 人のみの減少だが 3 年連続減少。
- 医療栄養(114)は、2 年連続減少の反動で増加したが、志願者数は 2 年連続で 50 人を下回った。

武庫川女子大：大学全体では 3 年連続減少、12 学部中 10 学部が減少 一般：-1,188 人 共テ：-106 人



\* 文は2022年度の(心理・社会福祉)を除いた志願者数との比較。心理・社会福祉は2022年度の文(心理・社会福祉)との比較。  
生活環境は2022年度の(情報メディア)を除いた志願者数との比較。社会情報は2022年度の生活環境(情報メディア)との比較。

主な入試変更点

学部・学科改組：文(心理・社会福祉)→心理・社会福祉(心理、社会福祉)  
生活環境(情報メディア)→社会情報(社会情報/情報メディア、社会情報/情報サイエンス)  
学科新設：健康・スポーツ科学(スポーツマネジメント)  
学科名称変更：文(英語文化)→(英語グローバル)  
選抜方法：全学部(音楽を除く)…<一般・中期 B 2 科目型(傾斜配点型)>を新規実施  
看護(看護)…<一般・前期 A 2 科目型><一般・中期 B 2 科目型(同一配点型)>を新規実施  
音楽(応用音楽)…<一般・中期 B 2 科目型(同一配点型)>を新規実施  
全学部(薬(健康生命薬科学)、音楽(演奏)除く)…<一般・中期 B 3 科目型>を廃止  
教育(教育)、薬(薬)、食物栄養科学(食物栄養)…<共テ・D 5 教科型>を廃止

COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、コロナ禍の中での改組の周知が進まなかったことや女子大を取り巻く厳しい環境もあり 1,294 人(87)の減少で 3 年連続減少。学部別では、改組を考慮した比較では、看護(182)、音楽(121)の 2 学部が大幅増加、これらを除く 10 学部は減少で、薬(94)、社会情報(86)、建築(86)を除く 7 学部が大幅減少。方式別では、一般方式(87)は<一般・中期 B 3 科目型>を廃止し、科目負担の少ない<一般・中期 B 2 科目型>を新設したが、志願者数の増加に繋がらず 3 年連続減少。学部別では、看護(187)、音楽(121)の 2 学部が大幅増加、これらを除く 10 学部が減少で、薬(94)、食物栄養科学(87)を除く 8 学部が大幅減少。共通テスト利用方式(85)は 3 年連続大幅減少。学部別では、募集を行う 11 学部中 5 学部が増加、5 学部が減少、1 学部が前年度と同数と増減の学部数では拮抗したが、減少した 5 学部はすべて大幅減少。

## &lt;一般方式&gt;

- 文(74)**は、改組を考慮して旧文(心理・社会福祉)を除いた比較では、大幅減少で3年連続減少。学科別では、改称した(英語グローバル)(71)は大幅減少で3年連続減少、志願者数は350人を下回った。(日本語日本文)(77)も大幅減少で3年連続減少、志願者数は450人を下回った。
- 心理・社会福祉(81)**は、旧文(心理・社会福祉)の改組での学部新設だが大幅減少。学科別志願倍率は、(心理)が6.7倍、(社会福祉)が5.7倍で、いずれも前年度の旧文(心理・社会福祉)の11.5倍からダウン。
- 経営(78)**は、2020年度新設の翌年から3年連続大幅減少、2020年度対比では(42)と半減以下。
- 社会情報(85)**は、旧生活環境(情報メディア)の改組での学部新設だが大幅減少。専攻別志願倍率は、(社会情報/情報メディア)が8.8倍、(社会情報/情報サイエンス)が5.0倍で、いずれも前年度の旧生活環境(情報メディア)の11.3倍からダウン。
- 教育(81)**は、大幅減少で4年連続減少。2019年度新設の翌年から4年連続減少、2019年度対比では(57)と40%以上減少。
- 建築(78)**は、2020年度新設の翌年から3年連続減少、2020年度対比では(47)と半減以下。学科別では、(景観建築)(54)は大幅減少で、2020年度対比では(34)とほぼ3分の1。(建築)(88)は減少で、2020年度対比では(52)とほぼ半減。
- 薬(94)**は、系統への高い人気から前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。学科別では、4年制の(健康生命薬科学)(112)は2年連続大幅減少の反動で増加。一方で、6年制の(薬)(92)は前年度大幅増加の反動で減少。
- 健康・スポーツ科学(50)**は、(スポーツマネジメント)を新設したが半減。学科別では、既存の(健康・スポーツ科学)(38)は激減で志願倍率は8.1倍→3.1倍にダウン。新設の(スポーツマネジメント)の志願倍率はさらに低く1.7倍。
- 看護(187)**は、2年連続減少の反動と<一般・前期A 2科目型><一般・中期B 2科目型(同一配点型)>の新設で90%近く激増。志願倍率は12.9倍→23.6倍にアップ、志願者数は2015年度新設以降初めて1,000人を上回った。
- 生活環境(81)**は、改組を考慮して(生活環境)のみの比較で2年連続大幅減少。志願倍率は10.6倍→8.3倍にダウン。
- 食物栄養科学(87)**は、前年度増加の反動で減少、2020年度新設以降で最少。学科別では、(食物栄養)(85)は前年度増加の反動で大幅減少、(食物創造科学)(90)は減少で前年度のやや増加から再び減少し、志願者数は200人を下回った。
- 音楽(121)**は、大幅増加で4年ぶりに増加。学科別では、(演奏)(170)は前年度大幅減少の反動で激増。(応用音楽)(100)は前年度大幅増加の反動はなく前年度と同数。

## &lt;共通テスト利用方式&gt;

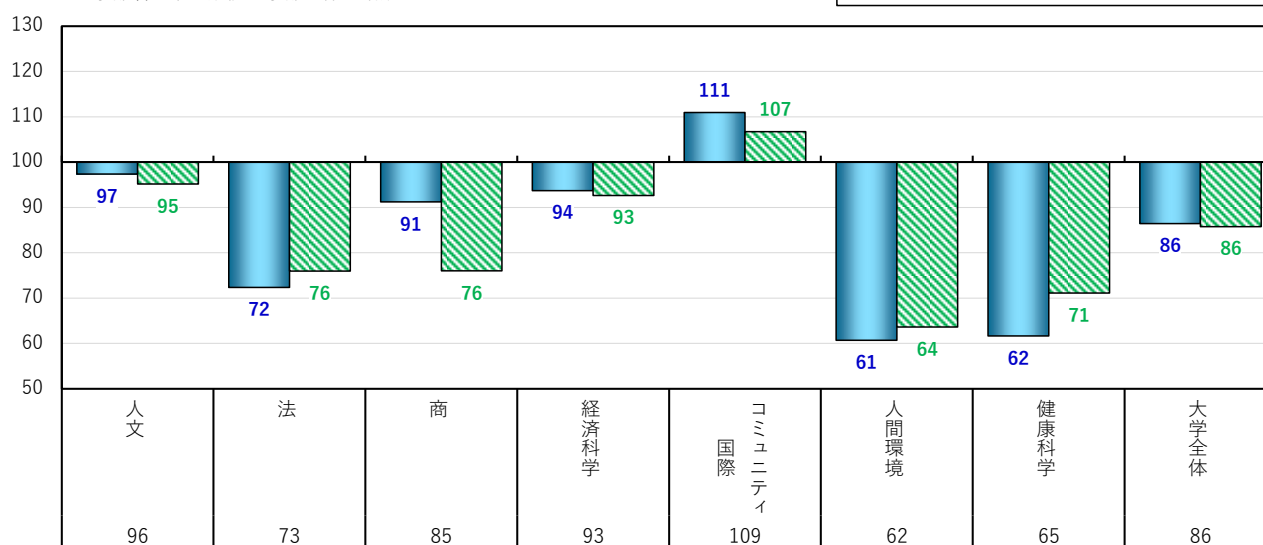
- 文(71)**は、改組を考慮して旧文(心理・社会福祉)を除いた比較では3年連続大幅減少。学科別では、(日本語日本文)(57)は40%以上の大幅減少で3年連続大幅減少、改称した(英語グローバル)(97)はやや減少で4年連続減少。
- 心理・社会福祉(85)**は、旧文(心理・社会福祉)の改組での学部新設だが大幅減少。しかし、学科別志願倍率は、(社会福祉)が10.5倍、(心理)が9.6倍で、募集人員の減少もあっていずれも前年度の旧文(心理・社会福祉)の8.1倍よりアップ。
- 経営(116)**は、前年度半減以下の反動で大幅増加、2020年度新設以降初めて増加。それでも、2020年度対比では(53)とほぼ半減。
- 社会情報(104)**は、旧生活環境(情報メディア)の改組での学部新設だがやや増加。しかし、専攻別志願倍率は、(社会情報/情報サイエンス)が5.5倍、(社会情報/情報メディア)が5.4倍で、前年度の旧生活環境(情報メディア)の5.9倍からいずれもダウン。
- 教育(61)**は、前年度減少に引き続き大幅減少。志願者数は100人を下回り、2019年度新設以降で最少。
- 建築(147)**は、2年連続大幅増加。学科別では、(景観建築)(213)は前年度大幅増加に引き続き倍増以上、(建築)(115)は2年連続大幅増加。
- 薬(71)**は、大幅減少で4年連続減少。学科別では、6年制の(薬)(69)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(健康生命薬科学)(83)は前年度5年連続増加の反動で半減したが、引き続き大幅減少。
- 健康・スポーツ(100)**は、(スポーツマネジメント)を新設したが前年度と同数。学科別では、既存の(健康・スポーツ科学)(60)は大幅減少で5年連続減少、しかし募集人員の減少で志願倍率は6.0倍で変化なし。新設の(スポーツマネジメント)の志願倍率はこれより低く4.0倍。
- 看護(111)**は、2年連続大幅減少の反動で増加。
- 生活環境(134)**は、改組を考慮して(生活環境)のみの比較で3年連続大幅減少の反動で大幅増加。志願倍率は5.0倍→6.7倍にアップ。
- 食物栄養科学(51)**は、前年度大幅増加の反動でほぼ半減。志願者数は60人を下回り、2020年度新設以降で最少。学科別では、(食物栄養)(43)は前年度大幅増加の反動で半減以下、2020年度新設以降で最少。(食物創造科学)(94)はやや減少で前年度大幅減少に引き続き2年連続減少。



## 広島修道大：大学全体では 4 年連続減少

一般：-708 人 共テ：-511 人

※前年度の志願者数を100とする指数  
 ※学部名の下の数値は学部全体の指数



## COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、1,219 人(86)の減少で 4 年連続減少。学部別では、7 学部中 6 学部が減少。特に、(人間環境)(62)、(健康科学)(65)、(法)(73)、(商)(85)はいずれも大幅減少。一方で、(国際コミュニティ)(109)は前年度減少の反動で唯一増加。方式別では、一般方式(86)は減少で 4 年連続減少。共通テスト利用方式(86)は 2 年連続減少。なお、志願者数は大学全体、一般方式、共通テスト利用方式のいずれも 2018 年度に 7 学部体制になって以降では最少。

## &lt;一般方式&gt;

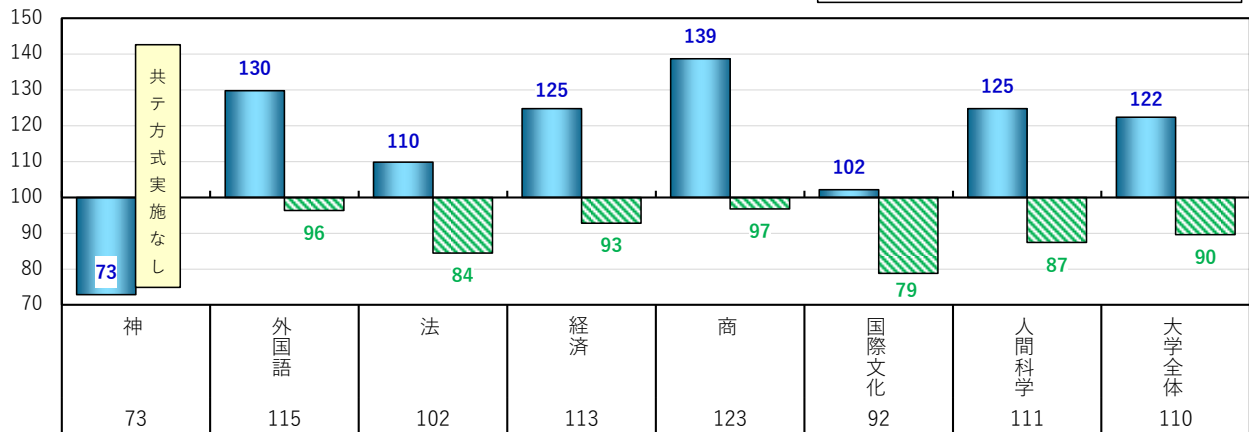
- 人文(97)**は、前年度大幅減少に引き続きやや減少だが、志願倍率は募集人員が 12 人(7%)減少したことで、6.9 倍→7.2 倍にアップ。学科別では、(人間関係)(108)は前年度大幅減少の反動で増加。一方で、(教育)(91)は 4 年連続減少、志願者数は 500 人を下回った。
- 法(72)**は、2 年連続大幅減少。志願者数は 500 人台になり、(法律)のみの 1 学科体制になった 2018 年度以降で最少。
- 商(91)**は、前年度大幅減少に引き続き減少で 4 年連続減少。学科別では、(商)(87)は前年度大幅減少に引き続き減少。(経営)(96)は 2 年連続大幅減少に引き続きやや減少。
- 経済科学(94)**は、やや減少で 2 年連続減少。学科別では、(経済情報)(92)は 4 年連続減少。(現代経済)(95)は前年度減少に引き続きやや減少。
- 国際コミュニティ(111)**は、3 年連続減少の反動で増加。学科別では、(国際政治)(117)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。(地域行政)(106)は前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。
- 人間環境(61)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少、志願者数は 300 人を下回った。方式別では、6 方式全てが減少。<前期 E 日程>(89)を除く 5 方式はいずれも大幅減少。
- 健康科学(62)**は、大幅減少で志願者数は 400 人を下回り、2017 年度の新設以降で最少。学科別では、(健康栄養)(47)は前年度増加の反動で半減以下、(心理)(69)も大幅減少。

## &lt;共通テスト利用方式&gt;

- 人文(95)**は、前年度大幅減少に引き続きやや減少。3 学科すべてが学科別募集となった 2017 年度以降では志願者数は最少で、2017 年度対比で約 3 割減。学科別では、教育(90)は 2 年連続減少。(人間関係)(100)は前年度大幅減少の反動はなく微減、(英語英文)(100)も 5 年連続減少の反動はなく微減、いずれも志願者数は前年度比 1 人の減少。
- 法(76)**は、2 年連続大幅減少、志願者数は 250 人を下回り、(法律)のみの 1 学科体制になった 2018 年度以降で最少。
- 商(76)**は、2 年連続大幅減少、志願者数は 5 年ぶりに 600 人を下回った。学科別では、(経営)(70)は大幅減少で 3 年連続減少。商(82)は 2 年連続大幅減少。
- 経済科学(93)**は、前年度大幅減少に引き続きやや減少。学科別では、(経済情報)(92)は 2 年連続減少、(現代経済)(93)は前年度大幅減少に引き続きやや減少。
- 国際コミュニティ(107)**は、やや増加。学科別では、(国際政治)(111)は 3 年連続減少の反動で増加。(地域行政)(103)はやや増加で新設以降前年度の反動による増減が継続。
- 人間環境(64)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少、2020 年度以降前年度の反動による大幅な増減が継続。
- 健康科学(71)**は、大幅減少で 3 年ぶりに減少、志願者数は 300 人を下回り、2017 年度の新設以降で最少。学科別では、(心理)(70)、(健康栄養)(75)はいずれも大幅減少。

西南学院大：一般は<一般・F 日程>の併願可能で大幅増加、共テは4年連続減少 一般：+2,470人 共テ：-683人

※前年度の志願者数を100とする指数  
 ※学部名の下の数値は学部全体の指数



**主な入試変更点**  
 試験会場：全学部<一般・F 日程>、<英語4技能型>…大阪を追加  
 併願制度の変更：<一般・F 日程>…併願不可→同一試験日内で最大6学科まで併願可  
 選抜方法：国際文化(国際文化)<一般・英語4技能型>…新規実施  
 利用方法：出願要件、得点加算  
 対象試験：ケンブリッジ英検 140点以上、英検 1,950点以上、GTEC 960点以上、IELTS 4.0以上、TEAP225点以上、TEAP CBT 420点以上、TOEFL iBT 42点以上、TOEIC LR+SW 790点以上  
 入試科目：法<共テ>…国+歴公+数2+理・理基2→国+歴公+外+(数①or 数②or 理・理基2)→2  
 ※選択は高得点2科目採用

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、1,787人(110)の増加で2年連続増加。学部別では、7学部中5学科が増加。商(123)、外国語(115)は大幅増加、経済(113)、人間科学(111)は増加。一方で、神(73)は大幅減少、国際文化(92)は減少。方式別では、一般方式は全学部日程である<一般・F 日程>が併願不可から同一試験日内で最大6学科まで併願可能への変更の影響で、2,470人(122)の大幅増加、志願倍率は11.7倍→14.8倍にアップ。共通テスト利用方式は私立大専願者の共通テスト出題形式への敬遠もあって、683人(90)の減少で4年連続減少。

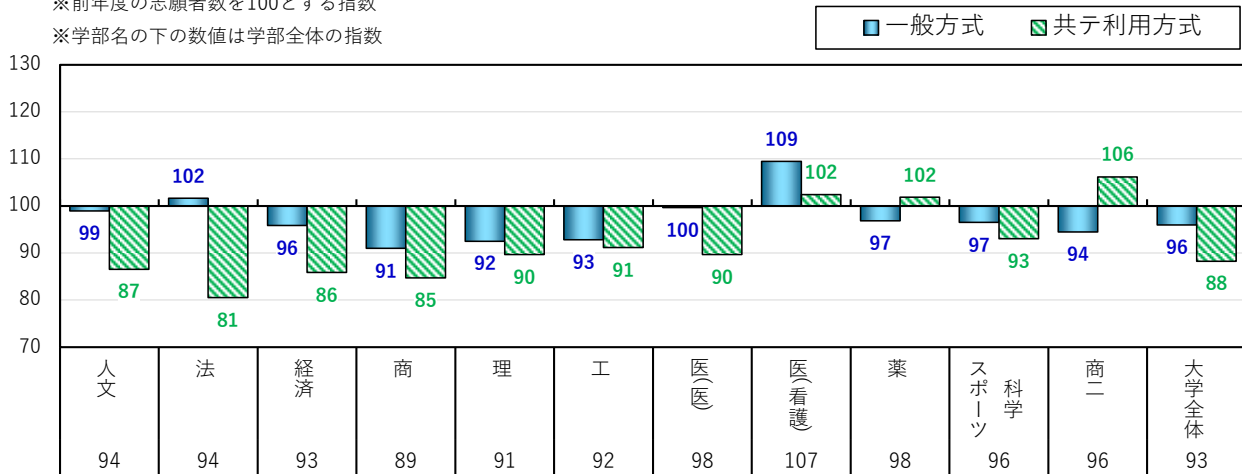
- <一般方式>**
- 外国語(130)**は、大幅増加で、志願者数は2020年度の改組時以来3年ぶりに1,000人を上回った。
  - 法(110)**は、大幅増加。学科別では、(法律)(118)は大幅増加で2年連続増加、志願倍率は募集人員が30人(16%)減少したこともあり8.8倍→12.4倍にアップ。一方で、(国際関係法)(78)は大幅減少で3年連続減少。
  - 経済(125)**は、系統への高い人気もあって、大幅増加で2年連続増加。学科別では、(国際経済)(131)は大幅増加、志願倍率も13.0倍→17.1倍にアップ。(経済)(122)は前年度増加に引続き大幅増加。
  - 商(139)**は、4年連続減少の反動で大幅増加、志願者数は5年ぶりに3,000人を上回った。学科別では、(経営)(152)は3年連続減少の反動で50%以上の大幅増加、志願者数は1,500人を上回った。(商)(129)は大幅増加で2年連続増加。
  - 国際文化(102)**は、微増だが3年連続増加。新規実施の<一般・英語4技能型>を除くと(91)の減少。その<一般・英語4技能型>は募集人員5人に対して志願者数138人、志願倍率27.6倍で、学部全体の志願倍率13.5倍を上回った。
  - 人間科学(125)**は、2年連続減少の反動もあって、大幅増加。学科別では、3学科全てで増加。(児童教育)(139)は大幅増加で2年連続増加、(心理)(134)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加。(社会福祉)(104)は2年連続やや増加。

- <共通テスト利用方式>**
- 外国語(96)**は、やや減少で2020年度の改組後は3年連続減少。方式別では、<共テ・前期>(81)は大幅減少で3年連続減少。<共テ・併用型>(107)は2年連続減少の反動は小さくやや増加。<共テ・後期>(70)は大幅減少。
  - 法(84)**は、大幅減少で4年連続減少。学科別では、(国際関係法)(54)は大幅減少で志願者数は150人を下回った。(法律)(95)はやや減少で4年連続減少。
  - 経済(93)**は、やや減少。学科別では、(国際経済)(82)は前年度増加の反動で大幅減少、志願者数は400人を下回った。(経済)(99)は微減だが4年連続減少。
  - 商(97)**は、やや減少で4年連続減少。学科別では、(経営)(105)は3年連続減少の反動は小さくやや増加。(商)(90)は減少で、志願者数は700人を下回った。
  - 国際文化(79)**は、前年度増加の反動に加えて、募集人員が9人(28%)減少したことで大幅減少。方式別では、3方式全てが大幅減少。<共テ・前期>(81)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、<共テ・併用型>(79)は2年連続増加の反動で大幅減少、<共テ・後期>(65)は2年連続大幅減少。
  - 人間科学(87)**は、2年ぶりに減少。学科別では、(児童教育)(108)は増加で2年連続増加。一方で、(社会福祉)(72)は大幅減少、(心理)(89)は減少。

## 福岡大：大学全体ではやや減少で2年ぶりに減少

一般：-1,212人 共テ：-1,722人

※前年度の志願者数を100とする指数  
 ※学部名の下の数値は学部全体の指数



## COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、2,934人(93)のやや減少、商二を除いても(93)のやや減少。商二を除く学部(医は学科)別では、10学部(医は学科)中9学部(学科)が減少、志願者数は42,000人を下回った。方式別では、一般方式は、1,212人(96)のやや減少で2年ぶりに減少。商二を除いても(96)のやや減少。共通テスト利用方式は、1,722人(88)の減少で2年ぶりに減少。商二を除いても(88)の減少。

## &lt;一般方式&gt;

- 人文(99)**は、微減だが3年連続減少。学科別では、増減が4学科ずつに分かれた。(フランス語)(172)は前年度大幅減少の反動で増加率70%以上の激増、(ドイツ語)(106)は前年度大幅増加に引き続きやや増加、(英語)(104)はやや増加で4年ぶりに増加。一方で、(日本語日本文)(86)は減少で前年度の反動による増減が継続、(文化)(87)は3年連続増加の反動で減少。
- 法(102)**は、微増だが2年連続増加。学科別では、(法律)(106)はやや増加で2年連続増加。一方で、(経営法)(93)はやや減少で、2020年度以降は前年度の反動による増減が継続。
- 経済(96)**は、やや減少。学科別では、(産業経済)(85)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。(経済)(101)は4年連続減少の反動は小さく微増。
- 商(91)**は、3年連続減少。学科・プログラム別では、4募集単位全てが減少。特に、(経営/会計専門職プログラム)(83)は3年連続増加の反動で大幅減少、(商)(84)は大幅減少で前年度の反動による増減が継続。
- 理(92)**は、前年度増加の反動で減少。学科・インスティテュート別では7募集単位中5募集単位が減少。(応用数)(78)、(ナノサイエンス/化学)(83)、(ナノサイエンス/物理科学)(84)はいずれも大幅減少、(化)(87)は減少。一方で、(物理科学)(109)は2年連続減少の反動で増加、(地球圏科学)(105)は前年度大幅増加に引き続きやや増加。
- 工(93)**は、やや減少で3年連続減少。学科別では、6学科全てが減少。特に、(社会デザイン工)(81)は前年度増加の反動で大幅減少、(電気工)(86)は前年度やや増加の反動で減少。
- 医(医)(100)**は、志願者数は8人の微減だが、4年連続減少。
- 医(看護)(109)**は、2年連続増加だが、志願者数は3年連続800人を下回った。方式別では、2月募集の<前期>(113)は2年連続増加、一方で3月募集の<後期>(83)は大幅減少。
- 薬(97)**は、やや減少、前年度9年ぶりに増加したが再び減少に転じた。志願倍率は募集人員が5人(4%)減少したことで、11.0倍→11.1倍とわずかにアップ。方式別では、<系統別>(89)は減少、一方で<前期・理科重視型>(120)は大幅増加。
- スポーツ科学(97)**は、やや減少。学科別では、(健康運動科学)(88)は前年度大幅増加の反動で減少。(スポーツ科学)(102)は2年連続減少の反動はなく前年度並。

## &lt;共通テスト利用方式&gt;

- 人文(87)**は、3年連続減少。学科別では8学科中7学科が減少。特に、(ドイツ語)(64)、(日本語日本文)(80)、(文化)(81)、(東アジア地域言語)(84)、(英語)(84)はいずれも大幅減少。一方で、唯一増加の(フランス語)(125)は大幅増加。
- 法(81)**は、大幅減少で3年連続減少。学科別では、(経営法)(67)は大幅減少で2019年度以降前年度の反動による増減が継続。(法律)(85)も大幅減少で3年連続減少。
- 経済(86)**は、4年連続減少。志願者数は7年ぶりに2,000人を下回った。学科別では、(産業経済)(74)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(経済)(91)は4年連続減少。
- 商(85)**は、大幅減少で3年連続減少。学科・プログラム別では、4募集単位全てが減少。特に、(商)(73)は大幅減少で前年度の反動による増減が継続。(経営/会計専門職プログラム)(77)は前年度50%以上の大幅増加の反動で大幅減少。
- 理(90)**は、前年度大幅増加の反動で減少。学科・インスティテュート別では7募集単位中5募集単位が減少。(ナノサイエンス/物理科学)(68)、(ナノサイエンス/化学)(73)、(応用数)(83)、(化)(83)はいずれも大幅減少。一方で、(物理科学)(111)は2年連続減少の反動で増加。
- 工(91)**は、2年ぶりに減少。学科別では、6学科中5学科が減少。特に、(電気工)(78)は大幅減少で志願者数は7年ぶりに400人を下回った。(社会デザイン工)(84)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(建築)(88)は3年連続減少、(機械工)(92)は減少。一方で、唯一増加の(化学システム工)(108)は2年連続減少の反動で増加。
- 医(医)(90)**は、前年度はコロナ禍対策として2021年度入試で変更した入試日程を元に戻したことで5倍近い激増だったが、この反動は小さく、減少率10%の減少に留まった。ただし、コロナ禍以前の2020年度入試対比では、ほぼ半減。



- 医(看護)(102)**は、前年度やや増加に引き続き微増。方式別では、共通テスト受験前に出願締め切りの<共テ利用・I期>(114)が増加。他の方式は前年度並。
- 薬(102)**は、前年度増加に引き続き微増。方式別では、共通テスト受験前に出願締め切りの<共テ利用・I期>(112)、共通テスト受験後に出願締め切りの<共テ利用・II期>(114)のいずれも増加。一方で、<共テ併用>(92)は減少。
- スポーツ科学(93)**は、やや減少で3年ぶりの減少。学科別では、(健康運動科学)(77)は前年度大幅増加の反動で減少、一方で、(スポーツ科学)(108)は前年度大幅減少の反動は小さく増加。

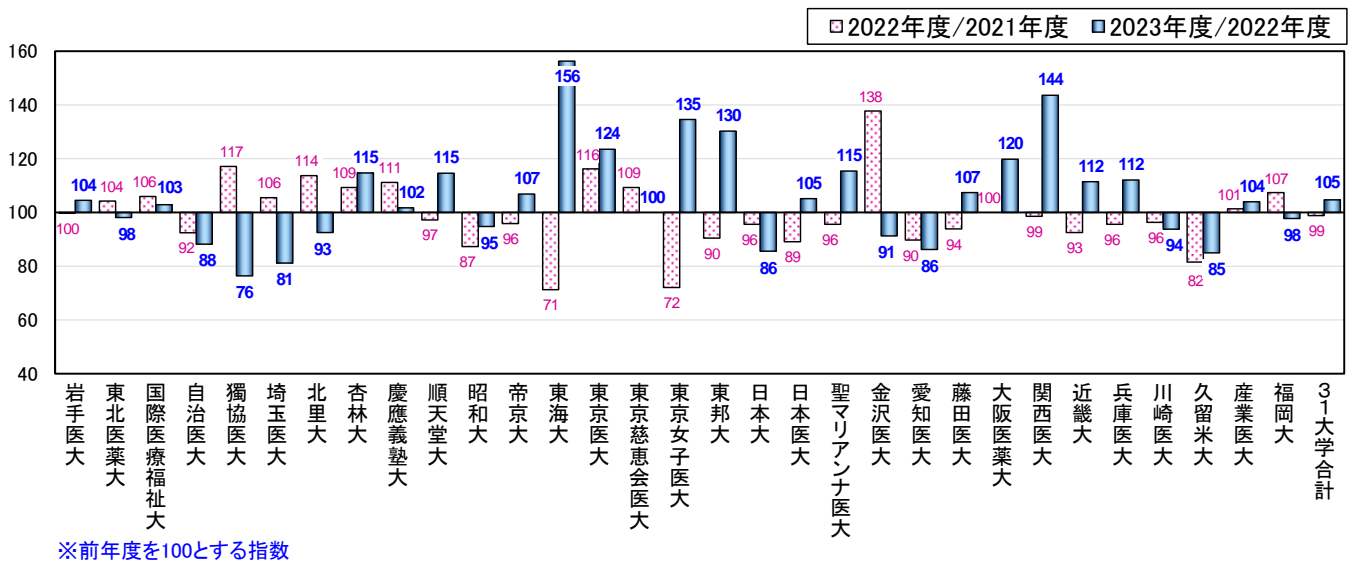
## ⑩医学部医学科志願状況

### □やや増加で5年ぶりに増加

〔志願者数推移〕

	2023年度	増減数	指数	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度
募集人員	2,859	+16	101	2,843	2,871	2,927	2,969	3,037	3,026	2,904	2,796
志願者数	94,272	+4,244	105	90,028	91,074	100,580	102,907	109,165	108,172	105,846	104,555
志願倍率	32.97			31.67	31.72	34.36	34.66	35.95	35.75	36.45	37.39

〔大学別志願状況〕



私立大医学部医学科31大学合計の志願者数は、94,272人(105)のやや増加で5年ぶりに増加に転じました。私立大全体指数は(96)ですから、医(105)は最も志願者増加率が高かった系統でした。コロナ禍の影響が緩和され、地方から首都圏への受験生の移動が復活したり、併願大学の絞込みの緩和の影響がありました。

大学別では、志願者数が増加した大学は31大学中18大学でした。最も増加した大学は一般方式の数学の出題範囲から数IIIを除外する変更をした東海大(156)で、3年連続大幅減少の反動も加わって、志願者数は1,643人の大幅増加となりました。関西医科大(144)は、学費の値下げ(1年次5,700,000円→2,900,000円、2年次以降6年次まで：22,000,000円→18,100,000円、6年間総額：27,700,000円→21,000,000円)の影響で、志願者数は1,480人の大幅増加でした。東邦大(130)は3年ぶりの増加で、試験日が前年度兵庫医科大とバッティングしていましたが、単独実施となり増加しました。その他の大学では、2021年度6年間の学費総額を1,200万円アップした東京女子医大(135)は、3年連続大幅減少の反動で大幅増加となりました。

一方で、志願者数が減少した大学は31大学中12大学で、東京慈恵会医科大は前年度と同数(100)でした。獨協医科大(76)は前年度大幅増加の反動と、試験日が学費を値下げした関西医科大とバッティングしたこともあり大幅減少で、志願者数は932人の減少でした。次いで、埼玉医科大(81)は前年度の反動による増減が続いていることと、試験日が単独実施から金沢医科大とバッティングしたこともあり大幅減少となりました。日本大(86)は5年連続減少で、試験日が前年度と同様の久留米大とのバッティングに加え、東京女子医科大とのバッティング加わったことで減少しました。



## 〔大学別分析〕

※表内の略語・記号は以下を表しています。

「共」…共通テスト利用方式、「論」…小論文、「面」…面接、「調」…調査書

「□」…方式合計の数値

大学	日程・方式	志願者数増減		2023年度		2022年度		2023コメント
		増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	
岩手医科大	大学合計	+99	104	85	2,300	78	2,201	<b>&lt;変更点&gt;&lt;一般・地域枠D&gt;新規実施</b> 大学合計では、99人(104)のやや増加で、6年ぶりに増加で、志願者数は3年ぶりに2,300人台となった。方式別では、<一般>(104)はやや増加、<地域枠>(113)は<地域枠D>の新規実施もあり3年連続増加。ただし、募集人員の増加(24%)で、志願倍率は14.2倍→6.7倍にダウン。
	一般	+89	104	73	2,217	73	2,128	
	地域枠C	+9	113	5	80	5	71	
	地域枠D			7				
	追試験	+1	150		3		2	
東北医科薬科大	大学合計	-34	98	100	1,806	100	1,840	大学合計では、34人(98)の微減だが、3年ぶりに減少。<一般>(97)はやや減少だが、3年ぶりに減少。一方で、実施2年目の<共テ>(149)は大幅増加。
	一般枠	-58	97	40	1,733	40	1,791	
	修学A			35		35		
	修学B			20		20		
	共	+24	149	5	73	5	49	
国際医療福祉大	大学合計	+110	103	120	3,948	120	3,838	大学合計では、110人(103)のやや増加で、2年連続増加。方式別では、<一般>(101)は前年度並、<共テ利用>(111)は2年連続増加。
		+18	101	105	3,027	105	3,009	
	共	+92	111	15	921	15	829	
自治医科大		-256	88	123	1,923	123	2,179	大学合計では、256人(88)の減少で3年連続減少。志願倍率も19.2倍→17.7倍→15.6倍にダウン。
獨協医科大	大学合計	-932	76	72	3,022	72	3,954	大学合計では、前年度大幅増加の反動で932人(76)の大幅減少。方式別では、<一般>(72)は2年連続増加の反動で大幅減少、試験日が学費を値下げした関西医科大とバッティングしたことも影響。<栃木県枠>(69)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。一方で、<共テ利用>(108)は4年連続減少の反動で増加だが、2019年度対比では減少率約55%。
		-875	72	57	2,250	57	3,125	
	共	+42	108	10	553	10	511	
	栃木県枠	-99	69	5	219	5	318	
	共							
埼玉医科大	大学合計	-850	81	90	3,666	90	4,516	大学合計では、850人(81)の大幅減少。方式別では、<前期>(69)は3年連続増加の反動で大幅減少。試験日が単独実施から金沢医科大とバッティングしたことも影響。<後期>(84)も大幅減少で、8年連続減少。<共テ>(143)は2年連続大幅増加。
	前期	-780	69	60	1,764	60	2,544	
	後期	-245	84	20	1,321	20	1,566	
	共	+175	143	10	581	10	406	
北里大	大学合計	-162	93	74	2,016	74	2,178	<b>&lt;変更点&gt;&lt;一般&gt;第1次試験会場に東京追加</b> 大学合計では、162人(93)のやや減少だが、志願者数は2年連続2,000人を上回った。なお、2020年度以降前年度の反動による増減が継続。
						72	2,178	
	相模原枠					2		
杏林大	大学合計	+496	115	117	3,876	115	3,380	<b>&lt;変更点&gt;選抜方法:&lt;共テ利用・後期&gt;廃止</b> <b>募集人員:&lt;一般&gt;88人→89人、</b> <b>&lt;一般・新潟県枠&gt;2人→3人</b> <b>&lt;共テ利用&gt;10人→15人</b> 大学合計では、496人(115)の大幅増加で2年連続増加。志願倍率も27.4倍→29.4倍→33.1倍とアップ。<一般>(111)は前年度大幅増加に引き続き増加。<共テ利用>(旧<共テ利用・前期>)(138)は2年連続減少の反動に加えて、<共テ利用・後期>の廃止による募集人員の5人(50%)増加もあり大幅増加。
		+284	111	89	2,933	88	2,649	
	東京都枠			10		10		
	新潟県枠			3		2		
	(前期) 共	+258	138	15	943	10	685	
	後期 共					5	46	
慶應義塾大		+24	102	66	1,412	66	1,388	大学合計では、24人(102)の微増だが、2年連続増加。志願者数は4年ぶりに1,400人を上回った。

大学	日程・方式		志願者数増減		2023年度		2022年度		2023コメント
			増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	
順天堂大	大学合計		+542	115	129	4,245	127	3,703	<p>&lt;変更点&gt; 入学検定料：6万円→4万円  <b>選抜方法：</b>            &lt;共テ・地域枠&gt;廃止            &lt;一般・地域枠&gt;新規実施            &lt;1次&gt;&lt;共テ&gt;国+歴公+数2+理2+外            &lt;個&gt;数+理2+外+論            &lt;2次&gt;面            →&lt;1次&gt;数+理2+外+論            &lt;2次&gt;面  <b>募集人員：</b>&lt;新潟県枠&gt;2人→1人、            &lt;埼玉県枠&gt;7人→10人</p> <p>大学合計では、542人(115)の大幅増加で6年ぶりに増加。志願倍率は32.9倍で32倍を上回ったのも6年ぶり。方式別では、&lt;A方式&gt;(115)は2年連続減少の反動で大幅増加。&lt;B方式&gt;(100)は前年度並。&lt;共テ利用・前期&gt;(112)は2年連続減少の反動で増加。&lt;共テ併用&gt;(114)は5年連続減少の反動で増加。一方で、&lt;共テ利用・後期&gt;(95)は減少。&lt;地域枠&gt;は&lt;共テ併用・地域枠&gt;を&lt;一般・地域枠&gt;に変更して負担減となったことで、志願者数は184人→311人と127人(169)の大幅増加。</p>
	A方式		+287	115	64	2,180	64	1,893	
	B方式		-1	100	5	238	5	239	
	東京都枠				10	311			
	新潟県枠				1				
	千葉県枠				5				
	埼玉県枠				10				
	静岡県枠				5				
	茨城県枠				2				
	前期	共	+77	112	10	705	10	628	
	併用	共	+66	114	12	541	12	475	
	東京都枠	共					10	184	
	新潟県枠	共					2		
	千葉県枠	共					5		
	埼玉県枠	共					7		
	静岡県枠	共					5		
茨城県枠	共					2			
後期	共	-14	95	5	270	5	284		
昭和大学	大学合計		-216	95	120	3,951	121	4,167	<p>&lt;変更点&gt; <b>募集人員：</b>&lt;一般・I期&gt;82人→83人            &lt;一般・II期&gt;20人→18人  <b>入試科目：</b>&lt;一般・II期&gt;            &lt;一次&gt;理2&lt;200&gt;+外&lt;100&gt;            +(国or数)&lt;100&gt;            =総点&lt;400&gt;            &lt;二次&gt;論&lt;30&gt;+面&lt;70&gt;            =総点&lt;100&gt;            →&lt;一次&gt;理2&lt;100&gt;+外&lt;50&gt;            +(国or数)&lt;50&gt;            =総点&lt;200&gt;            &lt;二次&gt;面&lt;200&gt;</p> <p>大学合計では、216人(95)のやや減少で2年連続減少。方式別では、&lt;I期&gt;(108)は増加。2019年度以降前年度の反動による増減が継続。&lt;II期&gt;(70)は募集人員の2人(10%)減少もあり大幅減少で2年連続減少。志願倍率も72.1倍→56.4倍にダウン。&lt;地域枠&gt;合計(105)はやや増加、募集単位別では、特に&lt;茨城県枠&gt;(126)が大幅増加。</p>
	I期		+199	108	83	2,674	82	2,475	
	新潟県枠		+6	106	7	101	7	95	
	静岡県枠		-5	96	8	108	8	113	
	茨城県枠		+11	126	4	53	4	42	
	II期		-427	70	18	1,015	20	1,442	
帝京大学	大学合計		+497	107	101	7,727	106	7,230	<p>&lt;変更点&gt; <b>募集人員：</b>&lt;一般&gt;89人→86人            &lt;共テ併用&gt;10人→8人</p> <p>大学合計では、募集人員の5人(5%)減少の影響はなく、497人(107)のやや増加で3年ぶりに増加。方式別では、&lt;一般&gt;(108)は増加で3年ぶりに増加。&lt;共テ利用&gt;(108)は増加で、5年ぶりに増加。&lt;地域枠&gt;合計(77)は大幅減少で、志願倍率も30倍を下回った。募集単位別では、&lt;茨城県枠&gt;(129)は大幅増加、&lt;静岡県枠&gt;(105)はやや増加。一方で、&lt;千葉県枠&gt;(54)は2年連続大幅減少、&lt;福島県枠&gt;(68)は2年連続大幅増加の反動で大幅減少。</p>
			+512	108	86	6,902	89	6,390	
	福島県枠		-35	68	2	75	2	110	
	千葉県枠		-33	54	2	38	2	71	
	静岡県枠		+3	105	2	64	2	61	
	茨城県枠		+5	129	1	22	1	17	
前期	共	+45	108	8	626	10	581		

大学	日程・方式		志願者数増減		2023年度		2022年度		2023コメント
			増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	
東海大	大学合計		+1,648	157	78	4,558	78	2,910	<b>&lt;変更点&gt;入試科目：</b> <b>&lt;一次&gt;数+理+外</b> <b>※数：数Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B</b> <b>→&lt;一次&gt;数+理+外</b> <b>※数：数Ⅰ・Ⅱ・A・B</b> 大学合計では、3年連続大幅減少の反動と<一般>の数学で数Ⅲを範囲外にした影響で1,648人(157)の大幅増加。志願者数は4,500人を上回った。方式別でも、<一般>(154)、<共テ利用>(148)のいずれも大幅増加。特に、<地域枠・共テ利用>合計(228)は倍増以上。
			+1,267	154	60	3,600	60	2,333	
		共	+212	148	10	657	10	445	
	神奈川県枠	共	+52	170	5	126	5	74	
	静岡県枠	共	+117	302	3	175	3	58	
東京医科大	大学合計		+630	124	89	3,306	89	2,676	大学合計では、630人(124)の2年連続大幅増加。方式別では、<一般>(117)は2年連続大幅増加で、志願倍率は22.3倍→27.5倍→32.1倍とアップ。<共テ利用>(153)は2年連続減少の反動で大幅増加。
			+364	117	79	2,537	79	2,173	
		共	+266	153	10	769	10	503	
東京慈恵会医科大			±0	100	105	1,860	105	1,860	<b>&lt;変更点&gt;選抜方法：</b> <b>二次試験の小論文の試験時間変更</b> 大学合計では、志願者数は8年連続減少から前年度増加に転じたがそれと同数の1,860人で、2年連続1,800人を上回った。
東京女子医科大			+236	135	67	917	67	681	大学合計では、236人(135)の大幅増加で、4年ぶりに増加した。しかし、2019年度対比では減少率は約45%。
東邦大	大学合計		+698	130	74	3,002	77	2,304	<b>&lt;変更点&gt;募集人員：&lt;千葉県枠&gt;5人→2人</b> 大学合計では、698人(130)の大幅増加で、3年ぶりに増加。方式別では、全ての方式で大幅増加。<一般>(130)は3年ぶりに増加。前年度の兵庫医科大と試験日のバッティングがなくなったことが影響。<千葉県枠>(131)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、募集人員の3人(60%)減少もあり、志願倍率は17.4倍→57.0倍に大幅アップ。実施2年目の<新潟県枠>(142)は大幅増加で、志願倍率は24.0倍→34.0倍に大幅アップ。
	一般		+651	130	70	2,820	70	2,169	
	千葉県枠		+27	131	2	114	5	87	
	新潟県枠		+20	142	2	68	2	48	
日本大	大学合計		-460	86	105	2,731	105	3,191	大学合計では、460人(86)の減少で、5年連続減少。志願者数は3,000人を下回り、2018年度対比で減少率はほぼ40%。方式別では、<N1期>(91)は<A方式>廃止2年目だが減少、試験日が前年度と同様の久留米大とのバッティングに加え、東京女子医科大とのバッティング加わったことも影響。実施2年目の<N2期>(76)は大幅減少で、志願倍率は75.8倍→57.7倍に大幅ダウン。
	N1期		-189	91	90	1,865	90	2,054	
	N2期		-271	76	15	866	15	1,137	

2023年度入試状況分析【私立大】

大学	日程・方式		志願者数増減		2023年度		2022年度		2023コメント
			増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	
日本医科大	大学合計		+179	105	119	3,637	117	3,458	<p><b>&lt;変更点&gt; 選抜方法：&lt;新潟県枠&gt;新規実施</b>  <b>募集人員：&lt;前期&gt;75人→72人</b>  <b>&lt;後期&gt;14人→17人</b></p> <p>大学合計では、179人(105)のやや増加で、4年ぶりに増加。方式別では、地域枠を除く一般方式は86人(103)のやや増加で5年ぶりに増加。2月募集の&lt;一般・前期&gt;(98)は微減だが5年連続減少。3月募集の&lt;一般・後期&gt;(114)は4年ぶりに増加。共通テスト利用方式は3月募集の&lt;共テ併用・後期&gt;のみで、37人(85)の大幅減少。&lt;地域枠&gt;合計は130人(126)の大幅増加。県別では、&lt;埼玉県枠&gt;(127)、&lt;千葉県枠&gt;(126)はいずれも大幅増加。&lt;静岡県枠&gt;(101)は微増。実施2年目の&lt;東京都枠&gt;(77)は前期のみの募集で大幅減少、志願倍率は23.2倍→17.8倍にダウン。新規の&lt;新潟県枠&gt;は志願者数が90人で、志願倍率は45.0倍だった。</p>
	前期		-35	98	72	1,810	75	1,845	
	後期		+121	114	17	991	14	870	
	前期・埼玉県枠		+26	127	1	121	1	95	
	後期・埼玉県枠				1		1		
	前期・千葉県枠		+39	126	4	190	4	151	
	後期・千葉県枠				3		3		
	前期・静岡県枠		+2	101	3	136	3	134	
	後期・静岡県枠				1		1		
	前期・東京都枠		-27	77	5	89	5	116	
	前期・新潟県枠				1	90			
	後期・新潟県枠				1				
	後期併用	共	-37	85	10	210	10	247	
聖マリアンナ医科大	大学合計		+474	115	99	3,538	80	3,064	<p>大学合計では、474人(115)の大幅増加。方式別では、2月募集の&lt;前期&gt;(126)は2年連続減少の反動で大幅増加。一方で、3月募集の&lt;後期&gt;(99)は2年連続微減。</p>
	前期		+487	126	87	2,354	70	1,867	
	後期		-13	99	12	1,184	10	1,197	
金沢医科大	大学合計		-455	91	82	4,785	75	5,240	<p><b>&lt;変更点&gt; 募集人員：&lt;前期&gt;65人→72人</b></p> <p>大学合計では、455人(91)の減少。方式別では、&lt;前期&gt;(89)は前年度大幅増加の反動で減少。募集人員の7人(11%)増加もあり、志願倍率は60.2倍→48.5倍に大幅ダウン。&lt;後期&gt;(98)は微減。</p>
	前期		-424	89	72	3,490	65	3,914	
	後期		-31	98	10	1,295	10	1,326	
愛知医科大	大学合計		-377	86	90	2,364	90	2,741	<p>大学合計では、377人(86)の減少で、4年連続減少。方式別では、&lt;一般&gt;は648人(68)の大幅減少で4年連続減少、2019年度対比では40%以上の減少。志願者数は1,400人を下回った。共通テスト利用方式は、271人(139)の大幅増加で4年ぶりに増加。&lt;共テ利用・前期&gt;(134)は3年連続減少の反動で大幅増加、&lt;共テ利用・愛知県枠&gt;(115)は大幅増加で3年連続増加。&lt;共テ利用・後期&gt;(204)は倍増以上。</p>
			-648	68	65	1,392	65	2,040	
	前期	共	+206	134	15	809	15	603	
	後期	共	+59	204	5	116	5	57	
	愛知県枠	共	+6	115	5	47	5	41	
藤田医科大	大学合計		+216	107	108	3,134	108	2,918	<p><b>&lt;変更点&gt; 入試科目：&lt;共テ・後期&gt;</b>  <b>&lt;二次&gt;総合問題&lt;300&gt;+面&lt;40&gt;</b>  <b>=総点&lt;340&gt;</b>  <b>→総合問題+口頭試問&lt;300&gt;</b>  <b>+面&lt;40&gt;=総点&lt;340&gt;</b>  <b>募集人員：&lt;前期&gt;73人→78人</b>  <b>&lt;後期&gt;10人→5人</b></p> <p>大学合計では、216人(107)のやや増加で、3年ぶりに増加。方式別では、&lt;一般・前期&gt;(100)は前年度並、&lt;一般・後期&gt;(96)はやや減少で3年連続減少。&lt;共テ利用・前期&gt;(140)は大幅増加で4年ぶりに増加。&lt;共テ利用・後期&gt;(155)は大幅増加で3年連続増加。</p>
	前期		+1	100	78	1,747	73	1,746	
	前期				5		5		
	前期	愛知県枠							
	後期		-24	96	5	581	10	605	
	後期				5		5		
	後期	愛知県枠							
前期	共	+202	140	10	702	10	500		
後期	共	+37	155	5	104	5	67		



大学	日程・方式		志願者数増減		2023年度		2022年度		2023コメント
			増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	
大阪医科薬科大	大学合計		+569	120	102	3,437	104	2,868	<p>&lt;変更点&gt;学費改定：  1年次：6,485,000円  2年次以降6年次まで：24,925,000円  6年間総額：31,410,000円 ※諸会費除く  →1年次：5,985,000円  2年次以降6年次まで：22,425,000円  6年間総額：28,410,000円 ※諸会費除く</p> <p>募集人員：&lt;一般・前期&gt;77人→75人  試験会場：&lt;一般・後期&gt;試験会場から名古屋除外</p> <p>大学合計では、学費値下げの影響もあり、569人(120)の大幅増加。方式別では、全ての方式で増加。&lt;一般・前期&gt;(114)は増加。&lt;一般・地域枠&gt;(118)、&lt;共テ利用&gt;(146)、&lt;一般・後期&gt;(115)はいずれも大幅増加。</p>
	前期		+227	114	75	1,802	77	1,575	
	地域枠		+6	118	2	40	2	34	
	後期		+122	115	15	920	15	798	
		共	+214	146	10	675	10	461	
関西医科大	大学合計		+1,480	144	85	4,873	85	3,393	<p>&lt;変更点&gt;学費改定：  1年次：5,700,000円  2年次以降6年次まで：22,000,000円  6年間総額：27,700,000円 ※諸会費除く  →1年次：2,900,000円  2年次以降6年次まで：18,100,000円  6年間総額：21,000,000円 ※諸会費除く</p> <p>入試科目：&lt;一般&gt;  &lt;一次&gt;数+理2+外+論  &lt;二次&gt;面  →&lt;一次&gt;数+理2+外  &lt;二次&gt;面  &lt;共テ併用&gt;  &lt;一次&gt;&lt;共テ&gt;国+歴公  +数2+理2+外  &lt;個&gt;数+理2+外+論  &lt;二次&gt;面  →&lt;一次&gt;&lt;共テ&gt;国+歴公+数2  +理2+外  &lt;個&gt;数+理2+外  &lt;二次&gt;面</p> <p>大学合計では、学費値下げの影響もあり、1,480人(144)の大幅増加で4年ぶりに増加。方式別では、一般方式は451人(120)の大幅増加。&lt;一般・前期&gt;(127)は大幅増加。&lt;一般・後期&gt;(96)はやや減少。共通テスト利用方式は1,029人(189)の激増。&lt;共テ利用・前期&gt;(189)は激増。&lt;共テ併用&gt;(192)はほぼ倍増、&lt;共テ利用・後期&gt;(175)は激増。</p>
	前期		+469	127	55	2,224	55	1,755	
	前期	共	+525	189	12	1,115	12	590	
	後期		-18	96	5	468	5	486	
	後期	共	+58	175		135		77	
	併用	共	+446	192	13	931	13	485	
近畿大	大学合計		+322	112	70	3,122	70	2,800	<p>&lt;変更点&gt;選抜方法：二次試験の面接は段階評価とする</p> <p>大学合計では、322人(112)の増加で、2年ぶりの増加。方式別では、一般方式は155人(108)の増加。&lt;一般・前期A&gt;(100)は3人のみ増加で前年度並。&lt;一般・後期&gt;(128)は大幅増加で3年ぶりの増加。共通テスト利用方式は167人(122)の大幅増加で2年連続増加。&lt;共テ利用・前期&gt;(124)は大幅増加、&lt;共テ利用・中期&gt;(106)はやや増加、&lt;共テ利用・後期&gt;(152)はほぼ1.5倍増。</p>
	前期A		+3	100	55	1,522	55	1,519	
	後期		+152	128	5	686	5	534	
	前期	共	+106	124	5	557	5	451	
	中期	共	+12	106	3	213	3	201	
	後期	共	+49	152	2	144	2	95	

## 2023年度入試状況分析【私立大】

大学	日程・方式		志願者数増減		2023年度		2022年度		2023コメント
			増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	
兵庫医科大	大学合計		+207	112	88	1,917	91	1,710	大学合計では、207人(112)の増加。方式別では、＜一般A＞(113)は3年連続減少の反動で増加、＜一般B＞(109)も増加で3年ぶりに増加。
	A一般枠		+186	113	73	1,664	78	1,478	
	A兵庫県枠				5		3		
	B		+21	109	10	253	10	232	
川崎医科大	大学合計		-95	94	71	1,435	76	1,530	<b>&lt;変更点&gt;募集人員：＜一般＞50人→45人</b> 大学合計では、95人(94)のやや減少で2年連続減少。方式別では、地域枠を除く＜一般＞は募集人員が5人(10%)減少もあり、67人(95)の2年連続やや減少。＜地域枠＞では、＜長崎県枠＞(106)はやや増加で4年連続増加。一方で、＜岡山県枠＞(73)は前年度増加の反動で大幅減少。＜静岡県枠＞(86)は減少。
			-67	95	45	1,284	50	1,351	
	静岡県枠		-10	86	10	60	10	70	
	岡山県枠		-20	73	10	53	10	73	
	長崎県枠		+2	106	6	38	6	36	
久留米大	大学合計		-333	85	80	1,888	80	2,221	大学合計では、333人(85)の大幅減少で、3年連続減少。方式別では、＜前期＞(81)は大幅減少で3年連続減少。＜後期＞(94)もやや減少で3年連続減少。
	前期		-292	81	75	1,279	75	1,571	
	後期		-41	94	5	609	5	650	
産業医科大		共	+50	104	80	1,315	80	1,265	<b>&lt;変更点&gt;出願方法：</b> <b>共テ実施後まで出願可(1/4~1/22)</b> <b>→共テ実施前に出願締切(12/1~1/13)</b> 共通テスト受験前に出願締切日を設定したことも影響して、大学合計では、前年度の微増に引き続き50人(104)のやや増加。志願者数は3年ぶりに1,300人を上回った。
福岡大	大学合計		-58	98	70	2,561	70	2,619	大学合計では、58人(98)の微減。方式別では、＜一般・系統別＞(100)は8人の微減だが、4年連続減少。＜共テ・I期＞(90)は減少。前年度はコロナ禍対策として2021年度入試で変更した入試日程を元に戻したことで5倍近い激増だったが、この反動は小さく、減少率10%に留まった。ただし、コロナ禍以前の2020年度対比では、ほぼ半減。
	系統別		-8	100	65	2,127	65	2,135	
	I期	共	-50	90	5	434	5	484	